北陸自動車道遺跡調査報告

—— 上市町土器・石器編 ——

神田遺跡　　飯坂遺跡
正印新遺跡　　江上A遺跡
下経田遺跡　　江上B遺跡
中小泉遺跡　　東江上遺跡

1982年3月

上市町教育委員会

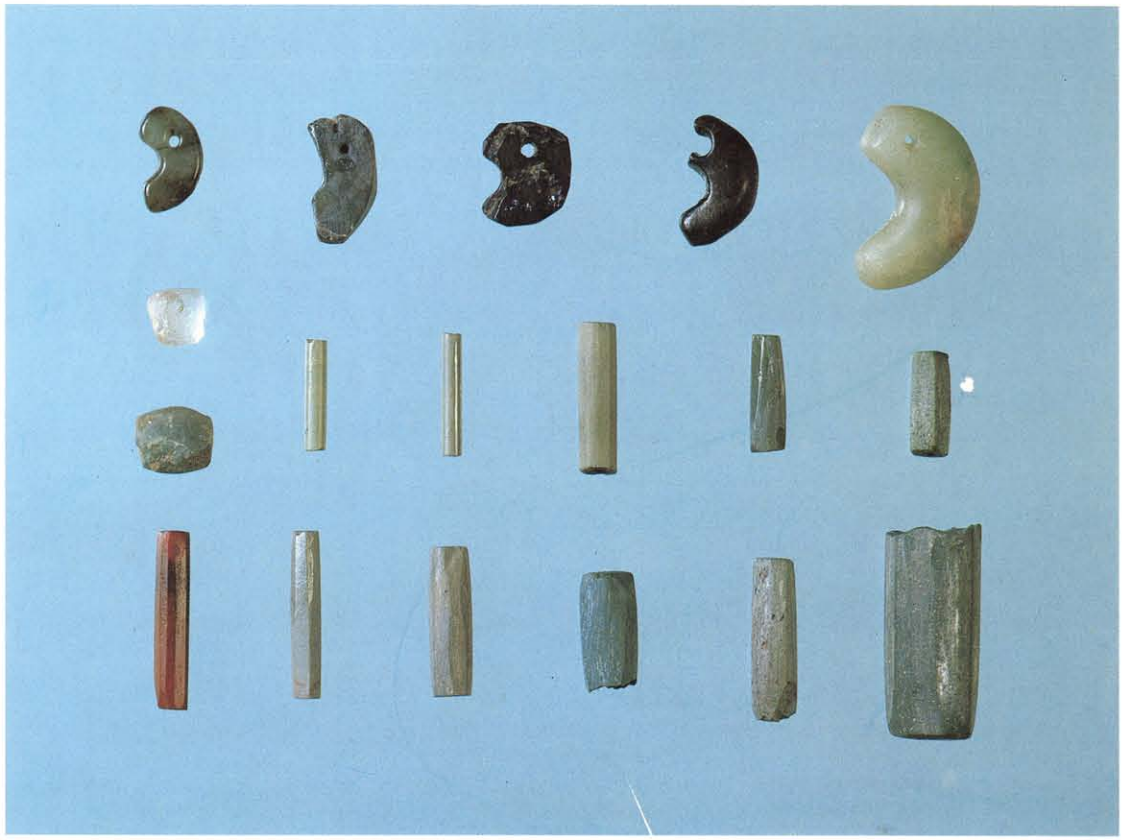
北陸自動車道遺跡調査報告

—— 上市町土器・石器編 ——

神田遺跡　　飯坂遺跡
正印新遺跡　　江上A遺跡
下経田遺跡　　江上B遺跡
中小泉遺跡　　東江上遺跡

1982年3月

上市町教育委員会



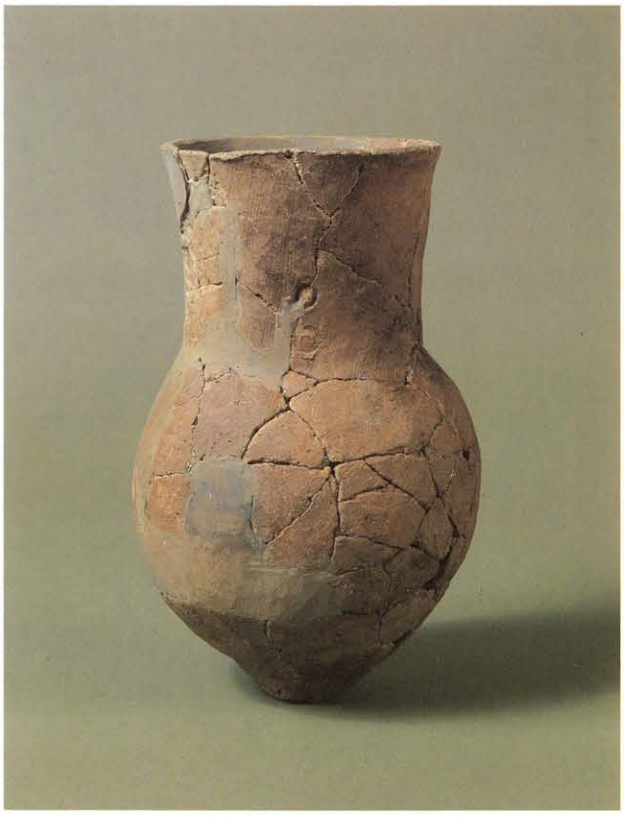
玉　　類

小形仿製鏡

弥生時代中期の土器

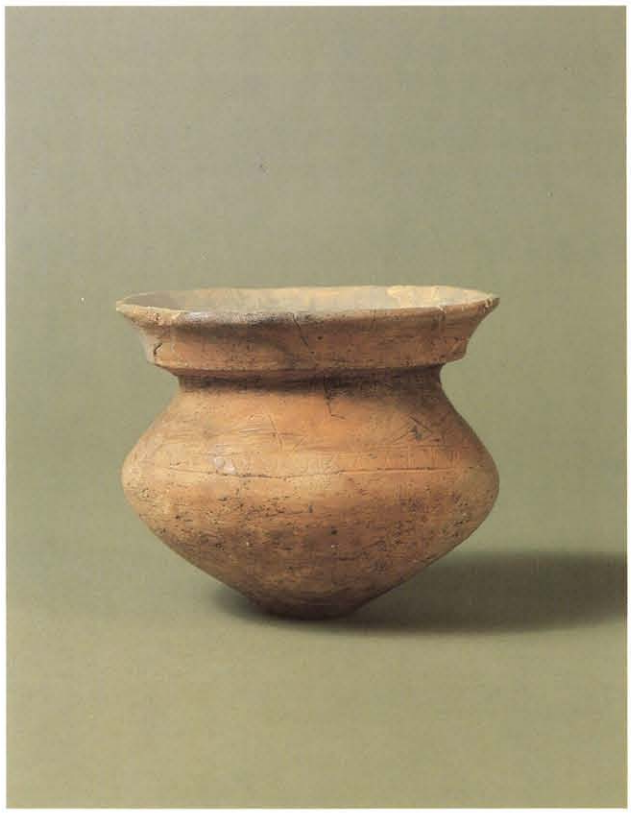
弥生時代後期の土器

弥生時代後期の小形土器

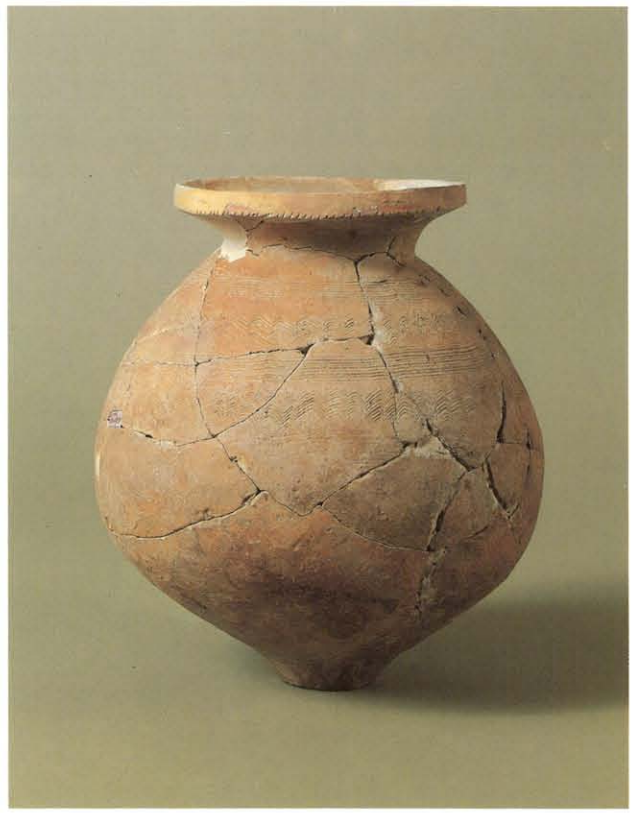


長　頸　壺

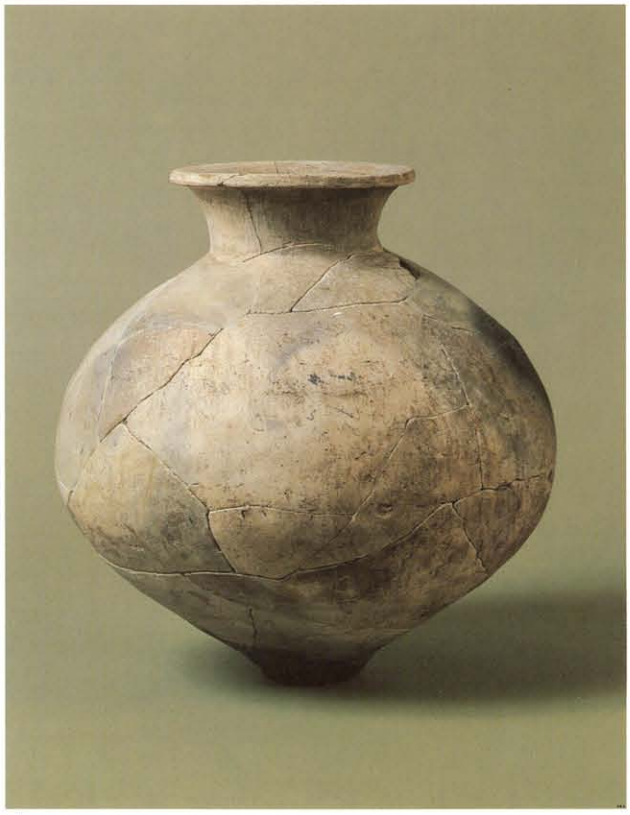
台　付　壺



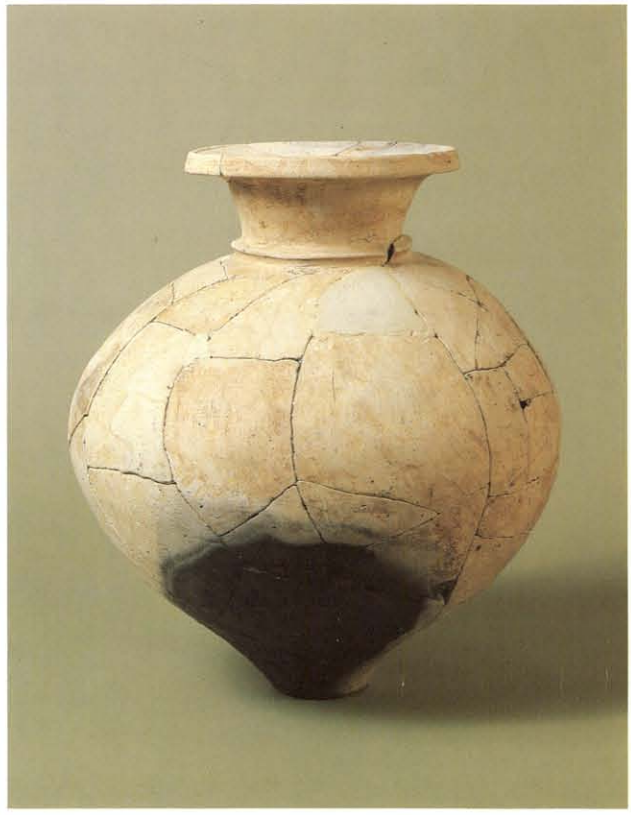
壺



壺



壺



壺

北陸自動車道遺跡調査報告

—— 上市町土器・石器編 ——

神田遺跡　　飯坂遺跡
正印新遺跡　　江上A遺跡
下経田遺跡　　江上B遺跡
中小泉遺跡　　東江上遺跡

例　言

1．本書は，高速自動車国道北陸自動車道（上市工事区）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘調査は，昭和53・54年度に実施し，報告書は，遺構編，土器・石器編，木製品・総括編の三部作として編集する計画であり，56年度に第一分冊遺構編を刊行している。本書は，第二分冊の土器・石器編である。

3．本書に収録したのは，富山県中新川郡上市町に所在する下記の八遺跡である。
神田遺跡・正印新遺跡・下経田遺跡・中小泉遺跡・飯坂遺跡・江上Ａ遺跡・江上Ｂ遺跡・東江上遺跡。

4．本書の刊行は，日本道路公団（新潟建設局）の委託を受けて，上市町教育委員会が行い，出土遺物の整理及び本書の編集は，富山県埋蔵文化財センターが実施した。

5．本書の作成にあたって，遺物整理・実測・製図などの業務は，下記の者が担当した。

富山県埋蔵文化財センター　橋本　正・岸本雅敏・狩野　睦・酒井重洋・宮田進一・神保孝造・久々忠義・橋本正春(以上調査担当者)，上野　章・山本正敏・池野正男・松島吉信。

有馬明吉・大丸久仁・阿部浩一・山村郁明・荒井和樹・栗山周哉・栗山郁也・麻柄幸子・高木場万里・杉崎容子・土田節子・土田ユキ子・坪田和子・坪田信子・矢後知恵子・山口チズコ・清水由美子・須藤順子・中溝治代・小竹富佐子・山口玲子

富山大学学生：贄　元洋・北野博司・楠　正勝・吉田秀則・荒川　史・木原　光・田上浩幸・遠山昌和・中川渉・西田昌功・林　浩明・原田和幸・松田知幸・森　秀典・横山貴広・宮田佐和子・南出そのみ・武藤　秀・吉田由香・坂口美智子・江幡和子。

6．本書は，調査担当者が編集・執筆を行い，執筆分担は下記のとおりである。

Ⅰ　宮田進一，Ⅱ　橋本正春，Ⅲ　酒井重洋，Ⅳ　狩野　睦，Ⅴ　岸本雅敏，Ⅵ　久々忠義，Ⅶ　宮田進一，橋本正春，Ⅷ　岸本雅敏。

7．本書に掲載した写真の撮影は，株式会社チューエツ写真部に委託した。

8．写真図版の縮尺は，原則として三分の一である。それ以外の縮尺のものは，それぞれに別に記した。

9．遺物番号は，遺跡単位で土器・石器・鉄器ごとに一連番号を付した。

10．遺物の出土区・出土遺構については，すでに刊行した『北陸自動車道遺跡調査報告――上市町遺構編――』を参照されたい。

11．遺物の分類は，遺跡ごとに行い，統一をはかっていない。

12．遺物整理，本書の作成にあたって，多くの諸機関・諸氏から指導と助言をうけており，それは今後も続くはずである。したがって，この点に関する記述は，総括編において行うのが適切であると考え，本書では割愛した。

13．本書の標題中の道路名称は，引用の煩雑さを避けるため，略称を用いている。

目　　次

Ⅰ　下経田遺跡…… 1

Ⅱ　神田遺跡…… 2

Ⅲ　正印新遺跡…… 4

Ⅳ　中小泉遺跡…… 7

Ⅴ　飯坂遺跡…… 9

Ⅵ　江上A遺跡……11

Ⅶ　江上B遺跡……16

Ⅷ　東江上遺跡……19

表

表 1　神田遺跡珠洲観察表……26
表 2　神田遺跡土師質小皿観察表……27
表 3　正印新遺跡弥生土器・土師器観察表……28
表 4　中小泉遺跡弥生土器・土師器観察表……33
表 5　中小泉遺跡須恵器観察表……35
表 6　中小泉遺跡珠洲観察表……35
表 7　中小泉遺跡土師質小皿観察表……36
表 8　飯坂遺跡弥生土器観察表……37
表 9　飯坂遺跡須恵器観察表……39
表10　飯坂遺跡珠洲観察表……39
表11　飯坂遺跡土師器杯観察表……39
表12　江上Ａ遺跡弥生土器観察表……40
表13　江上Ｂ遺跡土師器観察表……64
表14　江上Ｂ遺跡珠洲観察表……68
表15　江上Ｂ遺跡土師質小皿観察表……70
表16　江上Ｂ遺跡渡来銭観察表……71
表17　東江上遺跡須恵器観察表……75
表18　東江上遺跡土師器観察表……80
表19　東江上遺跡珠洲観察表……81

図　版

図版 1　下経田遺跡
図版 2　神田遺跡
図版 3　神田遺跡
図版 4　神田遺跡
図版 5　神田遺跡
図版 6　神田遺跡
図版 7　正印新遺跡
図版 8　正印新遺跡
図版 9　正印新遺跡
図版10　正印新遺跡
図版11　正印新遺跡
図版12　正印新遺跡
図版13　正印新遺跡
図版14　正印新遺跡
図版15　正印新遺跡
図版16　正印新遺跡
図版17　正印新遺跡
図版18　正印新遺跡
図版19　中小泉遺跡
図版20　中小泉遺跡
図版21　中小泉遺跡
図版22　中小泉遺跡
図版23　中小泉遺跡
図版24　中小泉遺跡
図版25　飯坂遺跡
図版26　飯坂遺跡
図版27　飯坂遺跡
図版28　飯坂遺跡
図版29　飯坂遺跡
図版30　江上Ａ遺跡
図版31　江上Ａ遺跡
図版32　江上Ａ遺跡
図版33　江上Ａ遺跡
図版34　江上Ａ遺跡
図版35　江上Ａ遺跡
図版36　江上Ａ遺跡
図版37　江上Ａ遺跡
図版38　江上Ａ遺跡
図版39　江上Ａ遺跡
図版40　江上Ａ遺跡

図版41　江上A遺跡
図版42　江上A遺跡
図版43　江上A遺跡
図版44　江上A遺跡
図版45　江上A遺跡
図版46　江上A遺跡
図版47　江上A遺跡
図版48　江上A遺跡
図版49　江上A遺跡
図版50　江上A遺跡
図版51　江上A遺跡
図版52　江上A遺跡
図版53　江上A遺跡
図版54　江上A遺跡
図版55　江上A遺跡
図版56　江上A遺跡
図版57　江上A遺跡
図版58　江上A遺跡
図版59　江上A遺跡
図版60　江上A遺跡
図版61　江上A遺跡
図版62　江上A遺跡
図版63　江上A遺跡
図版64　江上A遺跡
図版65　江上A遺跡
図版66　江上A遺跡
図版67　江上A遺跡
図版68　江上A遺跡
図版69　江上A遺跡
図版70　江上A遺跡
図版71　江上A遺跡
図版72　江上A遺跡
図版73　江上A遺跡
図版74　江上A遺跡
図版75　江上B遺跡
図版76　江上B遺跡
図版77　江上B遺跡
図版78　江上B遺跡
図版79　江上B遺跡
図版80　江上B遺跡
図版81　江上B遺跡
図版82　江上B遺跡
図版83　江上B遺跡
図版84　江上B遺跡
図版85　江上B遺跡
図版86　江上B遺跡
図版87　江上B遺跡
図版88　江上B遺跡
図版89　江上B遺跡
図版90　江上B遺跡
図版91　東江上遺跡
図版92　東江上遺跡
図版93　東江上遺跡
図版94　東江上遺跡
図版95　東江上遺跡
図版96　東江上遺跡

Ⅰ　下経田遺跡

1．出　土　遺　物

遺物はすべて遺構に伴なわない。弥生時代後期末～古墳時代はじめの遺物はX18～26，Y23～26区に集中して出土しているが，他の遺物は散在した出土状況を示す。

A　縄文時代（図版第1の1～12）

1は波状口縁の深鉢で，口縁部に細い2段ＲＬの縄文を施す。2は浅鉢で，口縁部に2条の幅広沈線を引き，屈曲部に連続刻みを施して円形圧痕文をそえる。3は外反する口縁を持つ浅鉢である。4は胴部屈曲する深鉢で，口頸部に3条の幅広沈線を施し，その間を2段ＲＬの縄文をころがす。5は胴屈曲部に1条の幅広沈線を施す深鉢である。6は注口土器の頸部で，平行な沈線をＳ字状沈線で区切り縄文を施す。7は波状口縁の波頂部で，沈線で楕円形を描く。8は2段ＲＬの縄文が縦走する深鉢の口縁部である。9はヘラで内外面を丁寧に仕上げた深鉢の口縁部である。10は沈線で縄文帯と無文帯をつくる深鉢の胴部である。11は胴上半に沈線と磨消し縄文を施し，胴下半に2段ＬＲの縄文を施す壺である。12は接合部が擬口縁状になっている深鉢である。1～7は後期後半に属し，1・4・6は井口第Ⅰ期〔橋本他1980〕，2・3・5は井口第Ⅲ期，7は井口第Ⅳ期にあたる。11は後期前半にあたるか。

B　弥生時代後期後半～古墳時代初頭（13～22）

13は口径16.5cmの鉢で，口縁内外面にヨコナデ，胴部内外面にハケメを施す。口縁は外反し，外底面はヘラで丁寧に仕上げる。14は口径15.8cmの甕で，口縁内外面にヨコナデ，胴部外面にハケメ，内面にナデを施す。15は口径11.5cmの壺で，口縁部にヘラミガキを行う。16は口径13.9cmの壺で，直立する口縁部に6条の凹線文を施す。17は口径14cmの壺で，口縁部は外反し，端部を内に直立さす。18は口径19.6cmの甕で，口縁内外面にヨコナデを，胴部にハケメを施す。19は口唇部を両端に張出して内傾気味になる壺の口縁である。20は壺の口縁で，内外にハケメを施す。22は底部で，外面・外底面にヘラケズリを，内面にハケメを施す。上記の土器群は滑川市魚躬遺跡〔上野1973〕。魚津市佐伯遺跡〔上野1979〕に類例が求められ，当該期に属する。

C　平安時代（23・24）

23は口径10.8cm，器高3.1cmの須恵器杯で，体部は外へ開き，外底面にヘラキリ痕を残す。24は高台端部をやや内にまげ，体部はしっかり立ち上がる須恵器杯である。23・24は立山町法光寺谷1号窯〔藤田1974〕・佐伯遺跡〔山本1979〕に類例があり，9世紀前半に属するものと考えたい。

D　中　　世（25～37）

土師質土器（25～29）　口径により25・26，27・28，29と3つに分かれる。25は口縁部外面にヨコナデを行なうが，段を持たず，端部が丸くなる。26～28は口縁部内外面をヨコナデをする。体部には段をもたない。29はやや内彎ぎみの口縁の端部に面を取る。25～28は16世紀に比定したい。[註1]

珠洲（30～37）　30～33は内面にオロシメを持つ鉢である。31・32は口縁端部に7条の櫛目波状文を施す。34・36は細い条線状のタタキメを持つ甕の胴部である。珠洲編年〔吉岡1981〕では，30・31はⅤ期（15世紀後半）に属す。

2．ま　と　め

遺物は，縄文時代後期，弥生時代後期後半～古墳時代初頭，平安時代はじめ，室町時代，安土桃山時代のものがある。その時代的中心は，弥生時代後期後半～古墳時代初頭にあると考える。本遺跡は縄文時代～近世初めまでの間，遺物散布地としての性格を持ちつづけていたことがわかる。　　（宮田進一）

註1　富山市白鳥城跡では，26～28の類例が16世紀後半に位置づけられている〔藤田1981〕。石川県土師質土器の編年によれば，25～28の類例が16世紀前葉～中葉に比定されている。〔四柳1980〕。

II 神 田 遺 跡

1．出 土 遺 物

遺物の種類では，土器・石器・その他がある。土器は，土師器（古墳時代）・須恵器（奈良～平安時代）・珠洲・土師質小皿・中国製磁器・越前（中世）・陶磁器類（中～近世）があり，石器は砥石（中世）がある。その他では，中世に属する鉄滓・フイゴ羽口などがある。遺物は，できるかぎり遺構ごとにまとめ，実測不可能なものでも写真で示すようにした。遺物量は，他遺跡と比較すると少ない。土師器・須恵器は，表面が摩滅しており，他から流されてきた可能性がある。中世の遺物は，中央建物群を中心に西寄りに集中していた。近世以後の遺物は，１・２層（表土）から出土した。

A 古墳時代（図版２の31～38）

古墳時代に属するものでは，土師器の壺（31）・甕（32・35）・高杯（34・36・37）・蓋（33）・錘（38）などがあり，すべて摩滅した小破片である。31は，壺の底部で，35は「く」の字口縁の甕である。33は，蓋と考えた。これらの土器は，器形などから古墳時代と考えたい。

B 奈良～平安時代（図版２の１～24）

ここで扱うものは，須恵器と土師器であるが，後者は数点で，しかも小破片であるため，図示，説明は略した。

須恵器は，杯身（1～4・６～12）・杯蓋（13・14）・鉢（15）・甕（17～22）・高杯（16）の器種があり，土師器と同じ出土状況である。１～４・11・12は，高台のつく杯身で，６～10は無高台のものである。１は，大型品である。杯蓋は，つまみがつくと思われ，口縁端部内面は丸く終わる。15は，鉢体部破片で，クシ状具による連続波状文を持つ。器肉は，薄く，胎土・焼成は良い。17～23は，甕体部破片で，17は壺かもしれない。これらの須恵器の時期は，７C後半～８C前半と考えている。１は，７C中頃かも知れない。

土師器甕胴部破片24は，古墳時代の土師器と別に扱った。時期は不明であるが，須恵器に伴うと考えている。

５は，高台のつく杯で，図などは須恵器の項で扱っているが，次に述べる特徴から須恵器と断定はしていない[註1]。内底面に釉がみられる。高台は，長く直線的に外方へ伸び，須恵器杯１～４などは異なる。

C 中 世（図版３～５）

遺物の種類では，土器・石器・その他があり，土器は珠洲・土師質小皿・磁器がある。石器は，砥石がある。

珠洲には，甕・壺・鉢の器種があり，法量や器形などから細分できる。甕（44・45・49）は，他の器種に比べて大型である。44・45は，口縁端部が薄く伸び，折り返すように下方へ垂れ下がる。壺は，中型壺（42・46）と小型壺（47・48）の２種がある。中型壺は，体部最大径が上位にあり，頸部が長く上に伸びる器形をとる。41～43は，内面にアテ具痕が残っている。41・43は車輪状で，42は同心円文である。小型壺も同ようの器形となる。47は，肩上部にクシ状具による連続波状文をもち，底部は回転糸切りで，48は頸部下に連続刺突文をめぐらす。鉢は，内面にオロシメをもつ擂鉢（50～54）とそうでないもの（こね鉢）（55～63）に分けれる。擂鉢は，小型品が多く，細かなオロシメの間隔は広く，また，オロシメが交差する。器形は，平坦な底部から斜め上方に伸びる体部がそのまま口縁となり終わる。体部と口縁部が内彎するものと直線的となる２者がある。口縁端部は，垂平で凹むものが多く，口縁部内外面は指によるヨコナデで凹む。底部は，板目でカキ消す。51は，オロシメが密であるが，互に交差する。54は，口縁端部が丸くふくらみ，太いオロシメ間隔は密である。こね鉢は，擂鉢と同じ器形となるが，口縁端部が平坦なものの他に，丸味をもつ（57・61・62・65）がある。口縁端部が大きく内彎するもの，直線的に広がり大型となるものもみられる。50は，口縁端部と体部外面に連続波状文をもつ。56は，回転糸切り底で，他のものは板目でカキ消している。鉢の中で片口がみられるものは，少ないと思われる。66～71は，壺・鉢の底部である。68・71は，回転糸切り底で，67は回転

糸切り底で，鉢底部と考えれる。49は，甕体部破片で，四角の区画の中に「十」字を浮び上がらせる刻印を押す。

これらの特徴をまとめると，甕は口縁が薄く下方へ垂れ下がる。中型壺は，肩が張る器形である。また，内面にアテ具痕を残すものがある。小型壺は，肩部に波状文・刺突文をめぐらす。擂鉢は，小型品が多く，細かいオロシメが広い間隔をもって平行あるいは交差してみられる。こね鉢は，擂鉢と同じく，平坦な底部から直線的に開き口縁となるものと内彎する器形となる。口縁端部は，凹む・丸い・平坦なものがある。底部は，壺・鉢で回転糸切り底と静止糸切り底の両者がみられ，前者が多い。となる。この特徴は，珠洲編年〔吉岡1981〕の第1段階第Ⅰ期にあたる。その中で，41～43の内面にアテ具痕を残すものについて吉岡氏は，Ⅰ期の中でも特に古く初期のものとしている〔吉岡1981〕。鉢50・51・62～65は，Ⅱ期並行のものとし，ここでは珠洲の大半のものをⅠ期としておく。鉢54は，Ⅲ期と考えている。

土師質小皿は，器形・法量から4大別できる。口径が小さく浅い器形で，口縁端部が外開きするもの。丸い体部に平坦な糸切り底がつき，口縁部が直立するもの。浅い器形で，口縁部が直立するもの。口径が大きく，浅い器形となり，端部がさらに細かく分かれるもの。以上である。81・82・131は回転糸切り底である。口縁部は，ヨコナデされ端部を面取りするもの，丸くするものなどがあるが，ここでは細分しなかった。部厚いつくりのものは少ない。

これらの土師質小皿は，珠洲と同時期と考え，第1段階（Ⅰ～Ⅱ期）を想定している。県内では，入善町じょうべのま遺跡〔橋本1974〕に類似するが，しかし，近接し，非常に近い時期に営なまれたと考えられる立山町若宮Ｂ遺跡〔狩野他1982〕とは類似点が少ない。これが，時期差を表わすのかどうかは不明である。

128は，盤状で脚（高台）のつく器形をもち，土師質小皿に似るものである。ここでは同期のものとして扱った。

磁器は，青磁と白磁の2種があり，器種では，椀・杯・皿・合子蓋がある。青磁椀（131～136・137・140）は，口縁端部が屈曲して外開きし，内面に文様をもつものと口縁端部が変化しないものがある。青磁皿（137・138）は，底面が平坦で口縁端部が斜め上方に伸びる器形である。杯は，口縁部が斜め上方に伸びる器形の147と口縁が広く開く148がある。148は断面にウルシが付着しており，色調は黄白色である。合子蓋141は，白磁で，シノギ文が外面にみられ，小型である。その他に次の特徴がある。青磁椀では，外底面にゆをかけない。青磁皿は，クシ状具による列点文・猫掻文・シノギ状の文様がみられる。前者は，龍泉窯系・後者は，同安系青磁とみる。皿は，青磁椀と同ようの文様をもち，同安窯系とみれる。これらの磁器類は，珠洲と同時期に使用され，九州の編年では，Ⅲ期1小期〔横田・森田1978〕にあたる。その他のものとして，砥石・スリ石？・フイゴ羽口・鉄滓があり，いずれも中央建物群近くから出土し，珠洲と同時期と考えられる。

D　その他の時代

越中瀬戸がある。器種では，湯飲み茶椀・茶椀・皿・擂鉢などがあるが，すべて破片である。

中世に属する遺物をまとめると次のようになる。完形品は少ないが，他時代の遺物に比べて量的に一番多く，神田遺跡の中心時期といえる。遺物の種類として，珠洲・土師質小皿・磁器その他があり，これらすべてが同一時期ではない。珠洲では，Ⅰ～Ⅲ期までの資料があり，中心時期はⅠ期である。土師質小皿は，珠洲Ⅰ・Ⅱ期並行とみる。磁器は，九州編年ではⅢ期1小期であるが，珠洲Ⅰ・Ⅱ期にわたり使用されたと考える。内面にアテ具痕を残す初期の珠洲がある。となる。

立山町若宮Ｂ遺跡とは，珠洲の甕の接合資料がある・建物群のあり方・遺跡同志が接近する・珠洲，磁器などが類似する点などから密接な関係にあったと考えられるが，珠洲の中心時期・土師質小皿の器形や特徴がやや異なる。[註2] これらについては，今後の課題としたい。

（橋本正春）

註1　この点に関しては，吉岡康暢氏の教示による。

註2　この点について，狩野　睦・酒井重洋両氏の指摘による。また，神田遺跡と若宮Ｂ遺跡の共通性などについては，橋本　正氏の指摘，教示による。

III　正印新遺跡

1．出土遺物

出土遺物には，縄文時代晩期，弥生時代前・中・後期，古墳時代初頭，平安時代，中・近世のものがある。

遺物は，大きく下層から７・８層に弥生時代前・中期，３・５層に弥生時代後期～古墳時代初頭，その上層から，中・近世の陶磁器の順で出土した。出土遺物は，時代ごとに大別しその特徴を示すこととした。また，土器は，器種ごとの大別とし，種類の細別は，示唆するにとどめた。遺構内の遺物は，遺構ごととせず分類では一括している。出土遺構等は，表を参照していただきたい。

A　縄文時代の遺物

縄文時代の土器　(64)，２～４単位の工字文様を施し胴下半は縄文（ＲＬ）となる。口縁は，５～６単位の突起が付けられ小波状となる。大洞A′式期〔林1965〕かそれ以降のものと思われる。

B　弥生時代の遺物

弥生時代前期の土器（25）壺の口縁部で端部に貝殻腹縁によりＸ状の刻み目，頸部に６条の押圧沈線を施す。遠賀川式土器〔佐原1966〕と思われる。

弥生時代中期の土器（１～24・26～63・63～93）壺・甕・鉢がある。

壺Ａ（６～８・11～23・26・55・56・73～76）　平口縁のものが大半でその特徴から数種みられる。６・19は，大形の壺で胴部がはり口縁が逆「ハ」の字状に広がる。端部は，幅広となり格子目状の刻み目を施す。７・８・11は，中・小形の壺で口縁が大きく外反するもので，口縁内外面，端部には，刻み目・沈線を施す。この壺は，中形の甕口縁部と判別がつきにくく１部甕が含まれるかもしれない。器形は，11にみられ胴下半部にふくらみをもつ。その他に口縁端部の断面が三角形状となる17・18がある。

壺Ｂ（52～54・59～61・91）　細頸壺と思われ，櫛目により格子目・刻み・押し引き・波状文様などを描くもので朱塗りされる59・91がある。

甕は，平口縁のものだけがみられ，器形・口縁部の特徴から７～８種みられる。

甕Ａ（３・28・31・32・36・41～46・50・56・65～72・93）　口縁が，「く」の字状に外反する甕で胴部のはる５がある。３・28・31・32・36・45・93は，胴部のあまりはらないもので口縁部内面に羽状の刻み目を施す３・28・36・41・45などがみられる。28・31・67・72は，胴部下半にヘラケズリをもつ。35・37・40～46は，頸部のくびれが小さく「く」の字状，丸みをおびて外反する口縁をもつ。また，端部に刻みや押圧を施す40・41・44・46がある。56は，胴上部，口縁部内面に櫛目文様を描く甕。50は，把手で中形の甕に付けられる。この例は，戸水Ｂ遺跡〔湯尻1975〕にみられる。

甕Ｂ（２・９・27・29・30）　胴上部に最大径をもち，口縁が短かく外反するもので端部には，刻み目を施す９・30と凹線を２～３条引く９・27がある。また，27・29は，胴上部に右下り・左下りの連続する刻みを施す。

甕Ｃ（１・37・39・47）　胴部があまりはらない胴の長い甕で細かいハケメを施す。

甕Ｄ（33・34）　口縁端部が小さく内曲するもので，押圧により小波状とする33がある。

甕Ｅ（62・63・70）　胴がはり小さく外反する口縁の63と鉢状の広口の62がある。いずれも荒い条痕が施される。63は，口縁端部に刻み目，62は口縁内面に指頭圧痕を施す。

鉢（48・51）　逆「ハ」の字状に外開きとなるもので，口縁が肥厚し格子目状の刻みを施す。また，口縁上部から２個１対の穴があけられる。48は，椀状の小形鉢で内外面ともヘラミガキが行なわれ朱塗りされる。口縁部は，２個１対の穴があけられている。

弥生時代後期から古墳時代の土器（92・94～216） 壺・甕・高杯・器台・台付壺・鉢・蓋がある。

壺A（113・114・127～133・137・138） 球形に近い胴部に複合口縁の付く壺。113・132・138は，頸部が短かく口縁の立つもので三日月状のヘラ記号を施す138がある。127・128・130は，やや長めの頸部で口縁の立つもので，中には，口縁がやや外反する130がある。114・129は，頸部がやや開き口縁が外反する。137は，口縁部が長く直立する。

壺B 139は，わゆるパレス形土器とよばれる東海系の土器〔久永1965〕で，竹管・ヘラ等により押圧・羽状の刻み目を施し，丹念にヘラミガキが行われる。外面は，文様部分をのぞき朱塗りされる。

壺C 131は，ソロバン玉状の胴部に長い頸部と複合口縁の付く壺。

壺D 96・140は，逆「ハ」の字状に外反する口縁をもつ壺。大形の96と中形の140がある。

壺E 134～136 平口縁の長頸壺で頸部の長い134・135と短かい136がある。

壺F 117・209～212 台付壺で，「ハ」の字状の器形に台の付く117・210・212とソロバン玉状の209，ややまるみをもつ211がある。台部は，細めのラッパ状に広く脚部が付くと思われる。

甕は，複合口縁のもの甕Aと平口縁の甕Bがある。

甕A（118・141～164・170・189） 器形・口縁部の特徴から7～9種がみられる。

118・141～149・151・152・154～161は，口縁部が外反するもので，145・152は，口縁が小さく内ぞりとなる。158～161は，口縁が丸みをおびて外開きとなる。118・141～144・151は，口縁がやや長く内ぞりし外反する。また胴部は145・152・160・161の胴中央部に最大径をもちやや胴長な器形となる。

146・149・150・162～164は，口縁が直立し，胴上部に最大径をもつ。149・150・162は，口縁に数条の凹線が施される。163は，口縁が立ちやや内へはいる。最大径は，口縁部となる。154～156は，口縁端部をつまみ上げる。外反する156と直立する155・154がある。147・148・153・170・189は，大形の甕で口縁部が外反する147・148・170と口縁部の断面が三角形で立つ158・189がある。

甕B（167～169・171～173） 167・168は，「く」の字状に外反する口縁部で，胴下半に最大径をもつ。胴部は，球状となる167と，やや胴中央がはる168がある。その他に，小さく「く」の字状に外反する172と口縁部が最大径に近く胴長となる172，台付の甕173がある。

高杯（92・95・97・98・111・112・120・125・127・201・203・205・206・208・213・214・216・217） 全器形を知るものは，2点のみであるが，棒状脚に杯部が付くAと，ラッパ状に開く脚部に杯部が付くBがある。

高杯A 有段棒状脚の97・126・205・206と棒状脚で無段の204がある。また，95・126は，脚部に刻み目を施す。

高杯B ラッパ状に開く脚部に杯部が付く203がある。

杯部（95・111・112・195・200・201）は，体部が長く「U」字状の突手の付く95や杯部がやや内彎しながら開く195がある。**脚部**は，ラッパ状に広がる92・120・208・213・214と棒状脚のものがある。208・214は，台付壺の脚と思われる。

器台（119・121・191～193・207・207） ラッパ状に開く脚部に杯部の付く**器台A**（202・207）と複合口縁で棒状脚となる**器台B**（119・191～193），やや太めの有段脚をもち，明りょうな稜をもつ**器台C**（121）がある。

鉢（194・196～199） 小形のものと，中形のものがある。

鉢A（194・196） 丸みをもち外反する口縁の鉢で，台の付くものがあるかもしれない。

鉢B（197～199） 小形の椀状のもので口縁が小さく外反する197。199とそうでない198がある。

蓋は，つまみ部分が1点出土している（174）。こしきは，底部と思われる177が1点出土している。その他に底部に穿孔される186がある。また，底部は，凹底となるものが多い。

C　その他の土器（250～290）

平安時代と思われる須恵器（251・260～262）・糸切底の土師質土器がある。251は底面にヘラ切り痕を残す。ＳＤ02から出土している。252は，ＳＫ29から炭化物・炭化米とともに出土した。250・264は，土師質小皿でそれぞれＳＤ02とＳＤ01から出土している。また，珠洲（256～259）・鉄さい（253）なども出土している。

近世の遺物としては，越中瀬戸・古伊万里などの陶磁器類（263・265～290）皿・壺・椀・すり鉢・茶入等が出土している。これらの多くは，ＳＫ26・ＳＤ01と２層から出土している。272・275は，外底部にそれぞれ「七」・「十」と墨書されている。263は，ＳＥ35出土の古伊万里染付椀である。出土した遺物の大半は越中瀬戸と思われ，263・272・265・280・286・287・288以外はすべてそうである。

これらの遺物は，いずれも近世と思われ越中瀬戸（九佐衛門窯）〔橋本1979〕に似るところから江戸時代中ごろと思われる。

D　石　　器

剥片・石核・ピエスエスキーユ（１～５）・石庖丁状石器（34～36）・石錐（38）・砥石（40・41）・加工痕のある37・39・42が出土している。６～17・19～24は，安山岩の剥片で５cmほどの平坦な石核（18・25～27）から剥離されたと思われる。また，剥片には，接合関係を示す13～15がある。

石器には，ピエスエスキーユが５点ある。縦長の剥片の両端を敲打する５と剥片の両端を加工し横長にする１～４がある。約１mほどの範囲から集中して８層から出土した。

石庖丁状石器（34～36）　硬砂岩製で偏平な剥片から横長の原材を作り，両端から小さく剥離調整を施し，端部は横方向に磨かれる。端部は，断面「U」字状となり磨り切り工具状となる。35は，製品と未製品・原材，36は原材の接合関係を示す。この石器は，次場遺跡上層からも出土している。また，江上Ｂ遺跡でも同ようの原材がある。ここでは，石庖丁状石器としたが，その特徴から稲の穂つみ具とは，考えがたく石庖丁の未製品もしくは，砥石状の石器と考えておきたい。

37・42は，河原石に剥離を加えたもの。38は，三角形状の剥片端部に加工を行ない石錐としている。砥石は，小形で粘岩質の40と硬砂岩製の41がある。40は表面が風化し使用痕等は観察できない。いずれも３・５層から出土している。

2．ま と め

弥生時代前期に位置づけられる遠賀川式土器〔佐原1966〕は，約500m はなれた中小泉遺跡で２点出土しており，いずれも高杯の脚部で，富山県下では，はじめての出土である。また，条痕文系の土器は，近年県下で天王山式系土器・櫛目文土器などとともに佐伯遺跡〔上野1979〕・頭川遺跡〔上野1974〕などでも発見されており，これらの土器を含めて今後の問題となろう。

弥生時代中期の土器は，石塚遺跡〔上野1972〕・小松遺跡〔橋本1968〕に代表される畿内第３様式併行期により近いと思われる52・53・58・59などもみられる。また，畝田遺跡〔荒木1968〕・戸水Ｂ遺跡〔湯尻1975〕など畿内第Ⅳ様式併行期の凹線文土器に近い９・29などがある。器形については，かなりの器種がみられ，時間的な幅を加味しなければならないだろう。

弥生時代後期の土器群は，いわゆる次場上層〔橋本1968〕・猫橋Ⅱ式〔浜岡1968〕・柳田〔谷内尾1973〕などに代表される弥生時代後期の土器と，月影式〔高堀・吉岡1966〕とされる古墳時代に位置づけられる149・150・162がある。また，壺・甕などの口縁部特徴からもかなりの種類がみられ，時期幅をもつと思われる。また，弥生時代後期の土器を大量に出土した江上Ａ遺跡の土器群，周辺地域との比較が必要となろう。以上のことを加味して今後の検討課題としておきたい。

（酒井重洋）

Ⅳ　中小泉遺跡

1．出　土　遺　物（図版19～24）

出土遺物は，弥生時代・古墳時代・奈良時代・中世・近世に属する。遺物量は全体的に少なく，弥生時代から中世のものが主体を占める。遺構より検出したものは，大半が弥生時代・古墳時代初頭に属し，若干中世のものがある。

A　弥生時代（図版19～21・24）

遺物には，土器・石器・小形仿製鏡がある。

前期（１・２）　ＳＤ33出土の高杯脚部２点がある。器形は破片のため不明だが，２点ともほぼ似た器形になると思われる。文様は２例とも５条の沈線を引くが，手法的に(1)はクシ状工具による押圧，(2)はヘラ描きと，相異点がある。なお，１の高杯の沈線と類似した手法をもつ壺が，正印新遺跡より１点検出されており，遠賀川式〔佐原1966〕に比定されると思われる。

中期（３～40）　器種は壺・甕・鉢・高杯の４種類がある。

壺は，口縁部の破片が大半で，形状により，A・(３・８・９・10・18)「く」の字状で弧状に外反する。B・(７・19)受け口状に伸長するに大別でき，Aはさらに緩く外反（８～10），大きく外反（18）に分類できる。これらの土器のうちには，口唇部に指頭圧痕（３），外面にクシ状工具による刻み（８～10・18）。口縁部外面に鋸歯状の沈線を引く（19），頸部に簾状文を施すものがある（18）。

甕は，口縁の形状によりA・(４・５・11・14～17)「く」の字状に外反する。B・(20～23) 受け口状ないし，受け口状に近いに大別でき，さらにAは緩く弧状に外反（４・５・11・14～17），大きく弧状に外反（13），直線的に外反（12・23・24）に分類できる。これらの甕のうちには，口唇部に指頭圧痕をもつ（５），内面にクシ状工具による刻みをもつ（４・11・13），外面にクシ状工具による刻みをもつ（21）ものがある。調整は，内外面ともハケメであるが，（12）は他よりも粗く条痕状となる。

その他の器種には，逆「ハ」の字状に緩く彎曲する鉢（６）と，脚部が短かく，重量感のある高杯の脚（（25）ある。

これらの土器群の時期は，遺物が量的に少なく，器形全体をうかがえない点より，一概に言えないが，近接した正印新遺跡の土器群とやや似た様相もあり，畿内第Ⅲ・Ⅳ様式に比定できよう。

弥生時代後期から古墳時代初頭（図版21）　中期と同じく遺物は量的に少ない。土器の器種は，壺・甕・鉢・高杯・蓋がある。

壺は，口縁部が逆「ハ」の字状に外反する（44）。ゆるく外反する（49）。直立した頸部に有段状の口縁部がつく（53）。逆「ハ」の字状に緩く外反する長頭壺（41・47）。ほぼ直立する長頸壺（48）がある。（44）は口縁部外面に凝凹線文を施す。

甕は，「く」の字口縁の（45・50・51），複合口縁の（42）がある。（44）は口縁部外面にクシ状工具による刻みが巡る。

鉢54は，丸みをもち，口縁が若干内反する。

蓋は，直線的にひろがる（46）。やや彎曲しながらひろがる（55）がある。つまみの形状は，逆台形状（46・55），円柱状の（52）がみられる。

高杯（56）は，棒状の脚部破片で，器形はうかがえない。

以上この土器群の時期は，弥生中期同よう即断できないが，器形及び調整等より，多少の時期幅をもつと思われるが，一応塚崎Ⅰ～Ⅱ式〔吉岡1976〕に比定できよう。

その他土器以外の遺物として，磨製石斧・小形仿製鏡が各１点出土した。磨製石斧１はＳＤ46より出土した，大形

蛤刃式石斧の半欠品で，丁寧に磨かれており，胴中部の欠損面を敲打により再加工を加えている。石質は片麻岩系の石材で，重量がある。時期は出土状態等より，弥生時代中期に属すると考えたい。

小形仿製鏡（11）は，ＳＤ39の肩部より単独出土した完形品で，遺存状態はよい。鏡面は凸レンズ状を呈し面径7.1cm，縁端の厚さ0.45cmをはかり，幅広の平縁をめぐらす。平縁の内側は，直行化した櫛歯文帯，Ｓ字状の変化した図文，蕨手状の図文等が配され，赤色顔料が付着している。鈕は大きく径 1.7cm，高さ0.85cmをはかる。時期は出土状況より弥生時代後期と考えたい。

Ｂ　古墳時代から奈良時代（図版22・71～76）

須恵器の甕胴部破片（75・76）と杯（71～74）がある。（73・74）は底部内外面の調整より７世紀後半，（71・72）は奈良時代前半に比定されよう。

Ｃ　中　世（図版22・23）

中世に属するものには，珠洲・土師質小皿・青磁（141～144）・白磁（145～146）・瀬戸系陶器（149～151）・染付（147・148）がある。

珠洲には甕・壺・擂鉢の器種が認められる。

甕は，口縁面に階段状圧痕を残す（81）。口縁部が若干外反し，丸みをもつ（82）。丸みをもった口縁部を，「く」の字状に屈折させる（83）。口唇先端を嘴状に拡張し，体部径が器高より大きく，ずんぐりとした器形がある（84）。

壺は，口唇下端部をつまんで肥厚させた（85）。口唇先端を嘴状に拡張した（86）がある。なお，体部には櫛目状文（86），櫛目波状文（87・93）を施したものもみられる。

擂鉢は，Ａ・体部にふくらみをもつ（95～98）と，Ｂ・ほぼ底部から一直線に立ち上がる（99～105）に分類される。さらにＡは，小型で口唇端部内面をかるくつまんだもの（95），細密なオロシ目をもつもの（96～98）がある。Ｂは，全体的に中太ないし太目のオロシ目をもち，口唇部内面に明瞭な稜がつくものが多い。（102・103）—ＳＤ01出土—は口唇基部をつよく押えて，先端を嘴状に拡張したもので，その上に櫛目波状文を施す。

以上これらの珠洲の時期は，口縁部形態ならびに体部の形態等より，珠洲編年〔吉岡1981〕に対比すれば，甕については，（81・84）がⅡ期（13世紀），（82・83）がⅣ期（14世紀）ないしⅤ期（15世紀）に比定される。また壺は，（86）がⅠ期（12世紀）に近いものと思われる。（86）はⅢ（13世紀）～Ⅳ期に比定されよう。擂鉢は（95～98）がⅡ期，（99・100）がⅣ期（101～103）がⅤ期比定できよう。なお（95）は，Ⅱ期よりⅠ期に近いものかもしれない。

土師質小皿は，法量が7.6～15.0cm，器高1.3～2.5cmとバラエティーにとむ。遺構から出土したものは（112・119・124・133）で，ＳＤ01より出土した。器形は全体的に，体部に明瞭な稜をもつものは少ない。口縁はゆるく立ち上がり，さらに外側へ開くものが多く，（120～124）のように，口唇内面をヨコナデにより若干くぼませ，端部をはねあげた例もある。底部は手捏による指頭圧痕を残すものが多い。これら土師質小皿の時期は，ＳＤ01出土の珠洲との出土状況等より，（112・119・124・133）の土師質小皿はⅤ期に比定されよう。また，他の土師質小皿も，器形及び口縁部の形態より大半がⅤ期ないし，それに近い時期のものと思われる。

Ｄ　その他の遺物（図版24）

その他の遺物としては，近世の越中瀬戸（151～157），時期不明な砥石（２～４），煙管（12・13）がある。

２．ま と め

遺物は，弥生時代前期・中期・後期，古墳時代初頭・古墳時代末，奈良時代，中世，近世と多期にわたり，いずれも断片的な資料であるが，県内では初めての，弥生時代前期の遠賀川式土器，弥生時代後期と考えられる，小形仿製鏡の出土は，出土状況とあわせて注目される。また中世に関しては，珠洲及び土師質小皿もⅡ期（13世紀）・Ⅴ期（15世紀）の資料を加えることとなった。　（狩野　睦）

V 飯 坂 遺 跡

1．出 土 遺 物

遺物には，縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・珠洲系陶器がある。列挙したうち，弥生土器が大部分を占める。

A 縄文時代（図版25）

縄文土器が数点ある。1は椀形の浅鉢である。外面に楕円の工字文風の沈線文を施す。2は深鉢である。口縁部外面に沈線による楕円の工字文を施し，口唇部に貝殻腹縁による波状の押しびきをめぐらせる。胴部外面には条痕文を施す。上記の1・2は，晩期末の大洞A式に並行する土器である。3は台付鉢の台部である。外面には連弧文を施す。晩期初頭の八日市新保式の土器である。これらは，遺跡の南東隅の最下層から出土したものである。

B 弥生時代

弥生土器には，天王山式系統の中期の土器と，後期の土器とがある。二者のうち，後期の土器が圧倒的に多い。

天王山式系統の土器（図版25） おもに3号方形周溝墓の周溝内，及び墳丘下層の単純包含層から出土した。

4は壺である。胴部上半は，RLの縄文地に沈線文を施す。5～11は甕と考える。5・8は内傾ぎみに外反する幅広の複合口縁をもつ。5は無節のRの縄文を口縁部と頸部の外面に施す。内外面ともに無文の8は，器形からひとまずこの系統の土器とみなしておく。6・11は複合口縁の外面に弧状の沈線文をもつ。7は外反した口縁の端部を丸く内側に折りまげる。口縁の内外面にRLの縄文を，頸部外面に結節の縄文を施す。9は複合口線の外面にRLの縄文地をつくり，更に沈線文を施す。10は外反する口線の端部を内側に屈折させ，複合口縁となす。口縁部外面にRLの縄文を施す。破片（12～20）は，縄文地に曲線ないし直線の沈線文を施す。上記のうち，3号方形周溝墓下層の単純包含層から出土したものは，4～7・9・11・13・16・17である。

後期の土器（図版26～28） おもに方形周溝墓群とその周辺から出土した。方形周溝墓に伴うものとそうでないものとがある[註1]。器種には，壺・甕・高杯・器台・鉢・蓋がある。そのうち壺が大部分を占める。甕が少いのは，飯坂遺跡が方形周溝墓群を中心とする遺跡であるためと考えられる。

壺 便宜上，器形から壺A～壺Gにわける。壺A：玉ネギ形の胴部に外反する口縁部をもつもの。これには，壺A_1；大形の胴部に外反する大きな口頸部をもち，口縁が複合口縁となるもの（62・67），壺A_2；中形の胴部にやや短い口縁部をもつもの（53・54），壺A_3；小形の胴部に幅広の複合口縁をもつもの（57・58）の3種類ある。壺A_1の62は，頸部に突帯をもち，口縁端に幅をもつ。口唇部の上端は内傾する。67も62とほぼ同じ口頸部をもつが，口唇部の下端が下方にのび，断面は横位のT字状をなす。壺A_2の53は口縁が丸く外反し，端部を直立ぎみにつまみあげる。54は短い口縁部が強く外反し，口唇部の上端が内傾する。壺A_3の58は幅広の口縁部外面に擬凹線を施す。壺Aは，胴部の外面を丁寧にヘラミガキ調整するもの（54・58・62）とハケメ調整するもの（52），内面を全面にわたってハケメ調整するもの（53・62）と上半をヨコナデ，下半をハケメ調整するもの（54・58）など調整に差異がみられる。なお，口頸部の長い壺A_1（61・67）は，頸部の内外面をヘラミガキする。

壺B：球形の胴部と典型的な複合口縁をもつもの（69）。口縁部を欠く68も，胴部の形状は69に近似する。

壺C：口縁部が頸部から直線的にのび，外反するもの（56・66）。口縁部は下記の壺Dほど長くない。また外反度は強くない。口縁端部はわずかに内傾する。66の胴部内面はヘラケズリする。

壺D：球形ないしナツメ玉状の胴部と長い口頸部をもつもの（70・71・75・76・80）。いわゆる長頸壺である。これには，口頸部が直立ぎみのもの（70）とやや外反するもの（その他）とがある。また口縁部の形態には，a種；頸部から直線的にのび，端部が肥厚しないもの（71・76），b種；ゆるく外反する口縁の端部をつまみあげ，口唇部に幅をもつもの（70），c種；口縁端近くで屈曲して直立し，幅のある複合口縁となるもの（75・80）などのバラエティーが

ある。壺Dは，外面ハケメ調整を基調とするが，中には更にヘラミガキするもの（75）もある。胴部内面の調整手法には，ハケメを施すものとヘラケズリするもの（71・75・80）との2種がみられる。

壺E：いわゆる細長頸壺である（77～79）。口頸部の破片がある。外面は縦方向のヘラミガキを丁寧に行う。

壺F：玉ネギ形の胴部と直線的に外反する口頸部をもつもの（83）。胴部は壺Aと同じである。口頸部は壺D・Eに比べて短い。底部は平底であるが，わずかにあげ底となる。

壺G：球形の胴部と「く」の字状に外反する口縁をもつもの（108）。底部は平底であるが，ほとんど丸底に近い。

壺H：「く」の字状に外反する口縁が屈曲して直立するもの（55・93）。口縁端部は幅をもち，複合口縁となる。

壺I：装飾性に富む台付無頸壺である（81）。81は壺の胴下部の破片である。

甕　甕A：外反する幅広の複合口縁をもつもの（94・100）。100は口縁部外面に擬凹線を施すが，94は無文である。胴部外面をヘラケズリする。甕B：「く」の字状に外反した口縁の端部が幅の狭い複合口縁となるもの（99・101）。口唇部の下端がのび，そりかえる甕B_1（99）と，口唇部を直立ぎみにつまみあげた甕B_2の2種がある。甕C：「く」の字状に外反する口縁が複合口縁とならないもの（95）。甕D：頸部から強く外反した口縁が屈折し，短い口縁端部が直立ぎみに立ちあがって受け口状の複合口縁となるもの（52・104～107）。口縁部の外面に斜めのキザミを連続的に施す。

鉢　頸部が丸く屈曲して口縁部が直線的に外反するもの（98），口縁が受け口状に立ちあがるもの（97），小形で丸底の椀形を呈するものの3種ある。97は口縁部外面に擬凹線を施す。

高杯　3種にわける。高杯A：浅い椀形の杯部と「ハ」の字状に開く脚部をもつ（110）。杯部・脚部ともに段をもたない。高杯B：いわゆる棒状有段の高杯である（111）。脚柱は円筒形を呈し，脚台部には段をもち円孔を穿つ。粘土帯を貼りつけた脚端部はわずかに浮きあがる。高杯C：内彎ぎみの杯部をもち，口縁部は屈曲して外く外反する（112）。脚部は，端部を欠くが末広がりとなる。円孔を穿つ。

器台　受部との接点から「ハ」の字状に開く脚台部をもつ（109）。複合口縁の64・65は，器台の受部とみてよい。

B　古代・中世（図版29）

須恵器　151～154は広口壺，155・156は杯蓋である。下記の土師器とともに平安時代前期のものと考えておく。157は6世紀末の杯身である。立ちあがりは短い。外底面をヘラケズリする。161・162は甕の破片である。

土師器　すべて無高台の杯底部である（163～168）。外底面に糸切り痕をとどめる。

珠洲系陶器　155～157は甕の体部，160は甕の口縁部，158・159は擂鉢の口縁部である。室町時代とみておく。

2．ま と め

出土土器の大部を占める弥生土器は，方形周溝墓群が形成される以前の天王山式系統の土器と，方形周溝墓群の形成時期の土器とに分かれる。前者は，3号方形周溝墓の墳丘の下からその単純包含層が確認され，多くはこの層から出土した。方形周溝墓との層位関係から，この土器を弥生時代中期におくことができる。

方形周溝墓群の形成期の土器には，口縁端部が短くかつ口唇部上端が内傾する古い様相のものと，幅広の複合口縁に擬凹線を施す新しい様相のものとが含まれており，一定の時期幅が認められる。塚崎遺跡の土器編年〔吉岡1976〕と対照すれば，塚崎Ⅰ・Ⅱ式にほぼ対応すると考えられ[註2]，弥生時代の後期後半から終末期[註3]と言うことができる。

（岸本雅敏）

註1　方形周溝墓に伴うものは，次のとおりである。1号方形周溝墓；78，2号方形周溝墓；59，3号方形周溝墓；53・62・65・67・84・90・93・97・111・112，5号方形周溝墓；58・102，7号方形周溝墓；75・80，8号方形周溝墓；70。

註2　中には，壺108のような丸底に近いものもみられ，塚崎Ⅲ式以降に下るものも若干含まれている。

註3　筆者は，別稿でもふれた〔岸本1982〕とおり，塚崎Ⅱ・Ⅲ式の段階は，まだ古墳（前方後円墳・前方後方墳）出現以前の弥生時代終末期と基本的には考えている。富山県・石川県地方に古墳が出現するのは，土器編年でいえば，塚崎Ⅲ式の末ないし古府クルビ式の段階に到ってからであろう。古墳発生に関するこの考えは，都出比呂志氏の見解〔都出1979〕と同じ立場に立っている。

Ⅵ 江上A遺跡

1．出土遺物

弥生時代，平安時代，室町時代の土器・石器がある。平安時代の土器は底面が回転糸切りの土師器605（ＳＤ12）と須恵器杯699であり，室町時代の土器は珠洲甕700である。砥石76は凝灰岩質で平安・室町時代いずれかに属する。

弥生時代のものは，図示したものの他に遺物整理箱[註1]約40箱に及び，ＳＤ01を中心とする溝・穴から多くの木製品に混って出土した。弥生土器は一応遺構ごとに配列したが，ＳＤ01とＳＤ02，ＳＤ01とＳＤ03，ＳＤ01とＳＤ03とＳＤ05，ＳＤ02とＳＤ04，ＳＤ02とＳＤ03とＳＤ23，ＳＤ01とＳＫ27，ＳＤ01とＳＫ28は互いに接合するものがある。またＳＤ01内でも，Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ区間，Ｂ・Ｄ・Ｅ区間[註2]で接合するものがあり，上層と下層でも接合する場合が多い。

ＳＤ01Ａ区南端とＦ区では，土器の出土量がＢ・Ｃ・Ｄ区に比べて比較的少なく，多くが発掘区内の遺構に関係するものと考えられる。

石器は，玉類・石庖丁形石器・磨石・擦石・敲石・砥石があり，玉生産に関係するものが多い。

Ａ　弥生時代（図版30～69　表12）

後期に属するものが圧倒的な量を占めるが，中期の土器が若干量混っている。

中期の土器（図版66・69）　上下交互の連続刺突と沈線を施す壺802～803，沈線で平行あるいはジクザク形の文様を描く805～807，縄文を施す804・805・807～811からなる第Ⅰ群と，外反する口縁部の内側に櫛状具による羽状刻みを施す631・632・812・813，口縁部が小波状になる630からなる第Ⅱ群がある。

第Ⅰ群は東北地方天王山式〔坪井1953〕に，後者は石川県の小松式〔橋本1968〕に比定できる。

後期の土器（図版30～68）　壺・甕・鉢・高杯・器台・蓋・小形土器の器種があり，口縁部・胴部の特徴，文様，整形手法の違いなどから，各々は数種にわけられる。色調は黄褐色，灰色，赤灰色などを呈するものがあり，二次的加熱を受けて変色しているものも多い。胎土は赤色酸化砂粒，白色砂粒，金雲母などを含むものが多い。[註3]

壺　Ａ類（１～７・34～41・43～48・59・61・381・403・405・406・417・421～424・426～429・560・573・603・608・624・625）　球形の胴部に外反する口縁部がつくもの。口縁部が角ばり口唇部が斜め上を向く・37～39・560（A_1），口唇部が幅広になり横を向く５・34～36（A_2），口縁部が内側に段をなして短かく立ち幅狭の複合口縁となる２～４・40・43～45・403・406・417・421・422・424・426・427・603・608（A_3），口縁部が細長くのびた幅広の複合口縁となる６・７・41・46～48・59・61・423・428・429・624・625（A_4）がある。

A_1・A_2は胴部の張りが強く胴部外面ヘラミガキ内面ハケ，A_3は胴部が丸味のあるものが多く，胴部内外ハケのものと，外面ヘラミガキ内面ヘラミガキとヘラケズリのものがある。６は胴部外面ハケ内面ヘラケズリとなる。

Ｂ類（８・60・407～410・613）　Ａ類の小形のもの。口縁部がA_2に近い408（B_1），A_3に近い407（B_2），A_4に近い８・60・409・410・613（B_3）がある。口縁部胴部とも内外面ヘラミガキのものが多い。

Ｃ類（９・404）　卵形の胴部に，広い口頸部がつく広口壺。口縁部はA_1に近い。胴部内外面ハケを施す。

Ｄ類（28・30・31・42・415）　大形で球形の胴部にやや直立する頸部と複合口縁がつく。頸部と胴部の境に凸帯をめぐらす。口縁部がA_3に近い28（D_1）A_4に近い30（D_2）がある。D_3は胴部の張りが強く凸帯を刻み，胴部外面ヘラミガキ内面下半ヘラミガキするのに対し，D_2は胴部が丸みがあり凸帯を刻まず，胴部内面下半をヘラケズリする。

Ｅ類（26・27・413・414・416・425）　そろばん玉状に張る胴部にやや内傾ぎみに立つ頸部と複合口縁のつくもの。口縁部がA_3に近い26（E_1）とA_4に近い414・425（F_2）がある。胴部外面ハケ内面ナデのものが多い。

註１　19cm×40cm×63cmの深箱にきっちりつめた場合。
註２　ＳＤ01は６区にわけて，区名で呼んだ。南からＢ・ＳＰまでをＡ区，Ｂ・ＣＳＰ間をＢ区，Ｃ・ＳＰとＳＤ05の合流点までをＣ区，Ｄ・ＳＰまでをＤ区，ＳＤ03との合流点までをＥ区，それより北がＦ区である。
註３　胎土・色調については土器１個１個について説明していない。総括編で総括的に扱いたいと考えている。

F類（25・29・32・55～57・430・582・623）　球形の胴部に直立する長い頸部と複合口縁がつくもの。口縁部がA_3に近い25（F_1）とA_4に近い29（F_2）がかる。25は胴部の張りが強く外面ヘラミガキ内面ナデとハケ，F_2は胴部が丸く外面ハケ内面ヘラケズリを施す。32は胴部最大径が下位にあり，櫛描波状文を施す古い様相をもつ。

G類（10～24・33・49～54・58・372・377～379・411・412・418～420・561・572・583・586・595・606・616～622）　球形あるいは卵形の胴部に，円筒状の口頸部がつく長頸壺。頸部がやや短かく，胴部と頸部境がなだらかな12・411・583・618・619（G_1），長い頸部が胴部との境でくの字に屈曲するもので，口縁部が角ばる10・11・13・14・16・49～52・378・418～420・561・606・617（G_2），外反する頸部が口縁部でやや内傾する15・17・20～24・53・54・595・620～622（G_3），口縁部が丸みのある14・19・372・377・412・616（G_4）などがある。胴部内面は，G_1はナデとハケ，G_2・G_4はハケ・ナデとヘラケズリ，G_3はヘラケズリのものが多い。

頸部に1条の沈線をめぐらす10・21・49・50・52・411・606・621や，口縁部に2～3条の凹線をめぐらす53・54・411・620がある。また，記号文や篦描文（11・20・23・24・617・620）を施すものが多い。

H類（62～69・431）　球形あるいはそろばん玉状の胴部に，細長い口頸部がつく細長頸壺。胴部外面ヘラミガキ内面ナデとハケが多い。そろばん玉状の胴部で口縁部が丸い62（H_1），そろばん玉状の胴部に複合口縁がつく63（H_2）胴部が球形で，口縁部に数条の凹線をめぐらす64（H_3）がある。69は把手をつける。

I類（70～76・380・497～499）　台付壺を一括する。内傾する胴上部と粘土帯の貼付けや連続刻みを施す胴下部に円筒状脚柱がつく装飾性の強い70・71・76（I_1），飾りのない72～75・380（I_2），H_1類に脚のつく497（I_3）椀状の胴部に脚のつく498・499（I_4）などがある。380は片側に把手がつく。

甕　A類（120～125・374・382・383・432～434・440～446・574・636・639・640）　口縁部がくの字に外傾するもので，口唇部が平坦である。胴部最大径が口径を越えないものが多いが，432・433・440は胴部が口径を越える。口縁部内外ハケ胴部外面ハケ内面ヘラケズリが多い。口唇部にハケや押圧を施す125・383・440・636がある。433・440は口縁部・胴部内外面ハケを施す。

B類（77～81・85・86・90・144・146・147・149～154・375・453～455・460・461・578・633・641～643）　口縁部がくの字に外傾するもので，胴部最大径が口径より大きいもの。口唇部は面をなして横をむき，強いヨコナデによって凹むものや，1～2条の凹線を残す144・145・150・453・460がある。口縁部は内外面ヨコナデ胴部は外面ハケ内面ヘラケズリを行うものが多い。81・85・86のように口縁部にハケを残すものがある。

C類（82・88・126・127・132～134・136・145・234・435・436・448・451・452・562・563・569・585・589・610・637・638）　口縁部がゆるく外反するもので，口縁部内外ヨコナデ胴部外面ハケ内面ハケ（一部ヘラケズリ）のもの。胴部最大径が下位にある435（C_1），ほぼ中位にある82・88・610（C_2）がある。

D類（83・84・87・89・128～131・135・137～143・447・449・450・456～459）　口縁部がくの字に外反するもので，口縁部内外面ヨコナデ胴部外面ハケ内面ヘラケズリのもの。胴部最大径がやや上位にあるものが多い。口縁部が外反する多くのもの（D_1），口縁部がやや内彎する142・143・457・459（D_2），口縁部が凹線風で胴部最大径が口径を越えない137～140（D_3）などがある。

E類（91～96・148・155～174・194・196～197・200・206～208・210・211・373・462・463・473・565・566・570・579・584・590・634・635・644・646～649・652・658）　口縁部内側に段をもって口縁部がわずかに立ち幅狭の複合口縁となるもの。胴部内面をヘラケズリするものが多いが，ハケの91・92・95・170・373もある。96・203・635・647は口縁部のアゴが丸みをもつ。206～208・211・212などは2～3条の平行沈線をめぐらす。

F類（97～116・175～193・195・201～205・209・212～217・376・384～392・437～439・464～472・474～484・564・567・568・571・577・580・596・604・611・614・645・650・651・654～657・659～662・827）　幅広の複合口

縁部となるもの。E類と区別しがたいものが多い。胴部内面はヘラケズリが徹底する。口縁部がやや短かめで直立する105・176・178・376・389・437・465・469・571・614・651（F_1）や幅広く外傾する101・102・104・110～116・388・483・484・568・577・604・611（F_2）S字状に屈曲する186・187・189・190・195・567・596・655（F_3）などがある。F_1には口縁部に3～5条の平行沈線をめぐらす107・474～477・482・564・659～661や刻みを施す478・479・481・580・662がある。F_3には胴上部に連続刻みを施すものが多い。F_2は口縁部や胴上部に沈線や刻み等の文様を施すことが少ない。

G類（117～119・235）　台付のものを一括した。口縁部がくの字外反の117・118と複合口縁の119があり，胴部内面はナデとハケを施す。235は大形で把手をつけ，胴部は内面ヘラケズリである。

鉢　A類（218～233・395・487～492・494・591・613・626～628）　口縁部が内彎する218（A_1），口縁部がくの字に外反し平らな口唇部が斜め上を向く219・220（A_2），口唇部が幅広くなって横をむく233・591（A_3），口縁部が内側に段をもって幅狭の複合口縁となる221～223・230・488（A_4），幅広の複合口縁となる224～229・231・232・489～491・613・626～628（A_5）がある。胴部内外面ナデとヘラミガキを行う。A_5には直立する口縁部に4～5条の平行沈線を施す224・225と外反して8条の平行沈線を施す226がある。A_1～A_2は平底のものが多いが，A_4に丸底や底部の小さなものがある。

B類（250・251）　口径約40cmの大形のもの。胴上部に把手がつく。口縁端部がA_2に近い251（B_1），A_4に近い250（B_2）がある。252は口縁部に3条の凹線がめぐる。胴部外面ハケ内面ナデ，ハケとヘラケズリがある。

C類（236～249・496・587・653）　甕・壺の胴部下半の形態で，底部を穿孔する甑形のもの。胴部外面ハケで内面はハケだけの236～240・248，ハケかナデとヘラケズリの241～247・249がある。また底部が平底の284凹底の236・245，丸底に近い238・248がある。

高杯　A類（252～254・258・259・265・272～274・277～280・284・295～299・500・501・504・505・514・663）杯部が中位で屈曲して口縁部が外反するもので，脚部は円筒状の脚柱とハの字に開く脚台からなるもの。口縁部と体部の比が1：3となる。口縁端部が肥厚し脚端部に粘土帯を貼付ける258・259・500・501（A_1），口縁端部が肥厚せず脚端部に貼付けのない252・253（A_2）がある。A_1は杯部に一対の環状把手がつくものが多い。A_2は口縁端部及び脚端部に面をとるものと丸いものがある。

B類（260～262・300～304・397）　杯部が中位で屈曲して口縁部が外反するもので，脚部は円筒状の脚柱と段をもつ脚台からなるもの。口縁部が直立ぎみで肥厚した口唇部が内傾する261（B_1），やや幅広の口唇部が斜め上を向く260（B_2），口縁部の反りかえりが大きい262（B_3）がある。それぞれの脚端部は，粘土帯を貼付けるもの，反るもの，面をなすものと変化に富む。

C類（255～257・266～271・275・285～294・502・503・512～513・515～517・576・598・612・664～667）　杯部が中位で屈曲して口縁部が外反するもので，胴部がラッパ状に開くもの。口縁部の反りが大きく太い脚柱が杯部との接合部からハの字状に開く257・287（C_1）と口縁部の反りが小さく（口縁部と体部の比が1：4），比較的細い脚柱とハの字状に開く脚台の256・502（C_2）がある。口唇部が平坦で外を向く265・271や，口縁部がやや内屈する267・268などがある。C_1は口縁部が肥厚するものとしないものがあり，脚部にハケを残すものが目につく。

D類（263・264・305～312・519～521・581・670・671）　S字状スタンプ文や櫛状具による刺突文・丹塗などを施す装飾性の強いもの。264は杯部が下位で屈曲して口縁部が大きく外反するもの（口縁部と体部の比が1：1）で，横を向く口唇部に4本単位の粘土帯を5箇所に貼付ける。

E類（276・396）　口縁部が幅広の複合口縁となるもの。体部は丸みをもつ。

F類（283・506～511・518・597）　皿状の杯部で脚部がラッパ状に開くもの。器台にすべきかもしれない。

器台　**A類**（324・325・327～330・332・398～400・526～529・532・668）　受部が中位で屈曲して口縁部が外反するもので，脚部は円筒状の脚柱と段をもつ脚台からなるもの。口縁部や脚台部が直線的に開く327～330・398・400・526・527（A_1）と強く反りかえる382・399（A_2）がある。A_1には口縁部や脚台部に数条の平行沈線をめぐらす329・398・400がある。口縁端部が丸いものや面をなすものがある。脚柱と受部の接続がゆるやかな327～330・527と段をなす393・400など違いがある。

B類（326・331・525・530・533・669）　受部が中位で屈曲して口縁部が外反するもので，胴部がラッパ状に開くもの。口縁部が直線的で短かく（口縁部と体部の比が１：５），太い脚柱部の326（B_1）と，口縁部の外反度が強い（口縁部と体部の比が１：２）331・525（B_2）がある。

C類（313～316・318・321・323・522～524・531・535）　皿状の受部とハの字状に開く脚部からなるもの。脚柱部がやや筒状となり，口縁端部が丸い316（C_1），平らな口唇部が斜め上を向いて面をなす313～315・522・523（C_2），複合口縁となる318・323・524・535（C_3）がある。C_3は口縁部に２～３条の平行沈線をめぐらす。

D類（317・319～333・534・607）　やや浅い受部と太く高い脚部からなるもの。脚部に２～３段の透しをいれる。口縁部が短かく立つ317や，口縁部に粘土帯を貼付けて複合口縁とする320などがある。321は口縁部に２個一対の円形浮文を５か所に貼付ける。

蓋（334～337・536～538・672～679）　ハの字状に開く形が多く，ハケとナデで整形する。頂部を穿孔する537・672～674・677（Ａ）と穿孔しないもの（Ｂ）があり，Ｂには皿をふせたような335，頂部が筒状にのびた334・676，頂部が環状になる536・537・675，つまみ部を横に穿孔する337・679がある。高杯や器台の脚部内面に煤の付着したものがあり，蓋に転用したものであろう。

小型土器　口径が５cm前後のものと10cm前後のものにわかれる。前者はナデ（手づくね）で後者はハケ・ヘラケズリで整形するものが多い。壺・甕・鉢・高杯の器種がある。

壺（368～370・493・495・551・592・593・691・694・697）　壺Ａ類の小形の691の他は，胴部中位で屈曲して口縁部が内傾する無頸壺である。**甕**（342・344～354・401・542・543・692）　口縁部がくの字に外反する344～350・352・354，複合口縁となる342・351・353・692，その中間的な340・352・542・550などがある。**鉢**（340・341・343・355～367・371・402・544～550・552～559・588・594・599・601・602・615・629・682～690・695・696・698）　脚のつく365～367・555～559・588・695とつかないものがある。前者は体部が内彎するものが多い。後者にはゆるく内彎するもの，斜め上へのびるもの，頸部で屈曲して複合口縁となる550・552・553などがある。把手１個をつけた鉢340は壺64と伴出し一対になる。**高杯**（281・282・539・693）　高杯Ｃ類に近い282・539，Ｂ類に近い693がある。

丹塗土器（２・３・８・60・66・70・254・255・264・326・329・332・395・403・407・509・520・521・523・622）　壺・鉢・高杯・器台の器種に丹塗を施すものがある。

被籠土器（25・29・814・815・403・411）　壺の胴部に白く痕跡をとどめるものが６点ある。

切痕をもつ土器（303・816・817）　鉄器などの鋭利な刃物でつけた切痕をもつ土器片がある。軽石製砥石41・42にみる切れ込みに共通する特徴である。

ヘラ描文（23・24・32・62・318・419）　壺の胴上部・頸部，器台の口縁部内面に印される。

竹管文（11・20・422・425～427・617・620）　壺の頸部に印され，２～５個単位のものがある。

スタンプ文（264・305～308）　高杯の脚部と口縁部内側に印される。Ｓ字形に限られる。

把手　断面円形の環状のものが多いが，断面四角形の338・680や，胴部に貼りついた540・541・681や棒状の339がある。

底部（393・394・575・600・605・609・701～801）　甕や壺の底面はハケを施すものが多いが，葉脈状の708・709，沈線の729がある。776は焼成後の穿孔である。台付のものは直線に開くものと外反ぎみに開くものがある。

B　石器（図版70～74）

玉類（１～40）　勾玉・管玉・小玉がある。完成品もしくはそれに近い１～19，未成品の20～40，原石の78～93がある。玉類はＳＤ03からの出土が多い。**勾玉**　硬玉（１・３・５）滑石（２・４）製がある。２はやや扁平なもの。**小玉**　水晶（６）硬玉（７）製がある。６は穿孔途上にある。**管玉**　碧玉（８～14・16～19）鉄石英（17）製がある。８・９・10は光沢があり完成品，後は孔が貫通しなかったり外面に稜線を残す。太さが2.5mm（８）の細いものから１cm（19）の太いものまである。未完成品のものは断面が四角形で，整形のための調整剥離や擦痕をもつ。碧玉（21・24～28・30・32・33・37）と鉄石英（20・23・29・31・34）製は管玉用，硬玉（35～40）は勾玉用であろう。原石（78～93）　鉄石英・碧玉は大形のものがあり，硬玉は径２cmの河原石が混る。その他水晶，めのうの剥片がある。

石庖丁形石器（41）　片面に自然面を残す剥片を用い，鋭利な側辺に光沢のある擦痕を残す。歯こぼれ状の小剥離がみとめられる。青緑色を呈する。滑川市魚躬遺跡〔橋本他1973〕に類例がある。

磨石・擦石・敲石　蛇紋岩の扁平な河原石の側辺や平坦面に光沢や擦痕を残す磨石（46～48・60），河原石の側片や平坦面に擦痕（52～54・58・59・61～64）や凹み（61・62）敲打（54～61・64）を残すものがある。擦痕と凹み（61・62）擦痕と敲打（54・59・61・63・64）を合せもつものが多い。緑色の玄武岩質のものが多く（54・58・59・60～64）砂岩・蛇紋岩のものもある。54は石斧の転用の可能性がある。

砥石　軽石（42～45）泥岩（49～51）砂岩（65～75・77）製のものがある。軽石製は平坦な面をもつ45，彎曲した面をもつ43，深い切れ込みのある41・42がある。鉄器用であろうか。泥岩製は灰色を呈しきめが細かい。平坦な面に擦痕をとどめる。砂岩製は黄白色を呈し大形のものがある。平坦な面をもつ65～68・71～74，溝状の筋をもつ65～67・72，敲打による凹みをもつ69～71・77がある。

3．ま と め

弥生時代後期の土器群は，富山県内では小杉町囲山遺跡〔橋本1970〕高岡市下佐野遺跡〔上野1967〕氷見市柳田遺跡〔上野1972〕，石川県では柳田うわの遺跡溝状遺構Ａ〔八谷尾1973〕次場遺跡上層〔橋本1973〕出土の土器群に共通した様相をもつ。北陸地方の弥生時代後期は，大きく前半（猫橋Ⅰ式）と後半（猫橋Ⅱ式・次場上層式）にわけられており〔橋本1966〕，本遺跡の主体的な土器群は後半期に位置づけられよう。この時期の土器は，畿内第Ⅴ様式（壺Ｇ）山陰地方（凹線文や鋸歯文壺410，平行沈線を施す器台329・400）伊勢湾地方（台付甕117，櫛描文壺３，口縁部がＳ字状に近い甕384・385・187）との共通性が指摘されており，本遺跡でも同様である。

さて，本遺跡後期土器群は，口縁部や胴部の形態や整形手法など細部についてみると数種の違いをみとめる。口縁部では①口唇部が斜め上を向いて面をなすもの（壺A_1・A_2・B_1・Ｃ，甕Ａ・Ｂ・鉢A_2・高杯B_2），②口縁部内側に段をなし幅狭の複合口縁となるもの（壺A_3・B_2・D_1・F_1・甕Ｅ・鉢A_3），③幅広の複合口縁となる外反ぎみのもの（壺A_4・D_2・E_2・F_2，甕Ｆ，鉢A_4）がある。

胴部内面の整形では，①ハケだけのもの（壺G_1・甕C_1），②ハケと一部ヘラケズリのもの（壺G_2・甕C_2），③ヘラケズリだけのもの（壺G_3・甕C_3）がある。また，胴部最大径が①下位にあるもの（壺B_2・甕C_1），②中位にあるもの（甕C_2）③上位にあり丸味のあるもの（壺B_2・H_2・甕C_3）がある。文様についても①２～３条の凹線②４～５条の平行沈線のものがある。中期から古墳時代の土器群の変化を通観した時に，これらの違いはおおむね時間的な流れの中で変化していくものと考えられる。すなわち，それぞれの特徴の組み合せによって２～３段階の時期区分が可能と考えられる。県内及び周辺地域の遺跡の状況との比較が必要であり，総括編で細かく検討してみたい。（久々忠義）

Ⅶ 江上B遺跡

1．出 土 遺 物（図版75～90）

A 縄文時代（図版75・76）

遺物には，縄文土器・打製石斧・磨製石斧・砥石・凹み石・叩石がある。大部分はSD030より出土した。

縄文土器1～9には，口唇部に圧痕を加えた1，平行沈線と列点文の下に斜位の2段LRの縄文を施した2，条痕文上に平行沈線と列点文を組み合せた4，口縁に数条の平行沈線を引き，その間に縄文をころがす6，条痕文の9がある。2は中期後半，1・3～9は晩期前半になろうか。**打製石斧**1～8には，短冊形のもの1～3・5，撥形のもの4・6～8がある。4・7は撥形で刃部がやや凹む。1～8は後・晩期のものか。13は定角形の磨製石斧で，中期に属する。その他，**砥石**14～19・**凹み石**20・**叩石**22があり，砥石は時代不明である。

B 弥生時代（図版76）

弥生土器の大部分はSD030より出土した。11～13・15・16は壺の，14は甕の口縁部であろう。口縁部は，縄文の上に連弧文・指頭圧痕・刺突文・列点文を施す。11は口唇部をヘラで刻み，連弧文と平行沈線文を組み合せる。15のように口唇部内外に縄文だけを施すものもある。縄文は2段RLのもの11～14と2段LRのもの15・16がある。20は細い縄文を施す。上記の土器群は，魚津市佐伯遺跡〔上野1979〕に類似し，中期の天王山式に比定できる。（宮田進一）

C 弥生時代後期後半から古墳時代初頭（図版76～82）

遺物は，土器・石器があり，多くのものは溝内から出土した。

土器は，壺・甕・鉢・高杯・器台・蓋の6器種に分けれる。壺は，長頸壺31・57，台付長頸壺67，広口壺58・60，無頸壺66，中型壺59・61・62・64・65，小型壺（ミニチュアを含む）63・68の6種がある。

長頸壺は，口縁部の形から，直線的に上方へ伸びるもの，やや斜め上方に伸びるものに分けられ，さらに端部がそのまま終わるものと複合状となるものの2者が合わさりみられる。胴部は，球形で大きく張るものと比較的小さなものがある。この他に，丸形の胴部で長く伸びるものもある。甕は，「く」の字口縁のもの80～85と複合口縁85～104・106～120の基本的2種があり，これに複合口縁で脚がつく台付甕105が加わる。鉢は，小平底の底部から体部が斜め上方に伸びて口縁となる鉢141～146・153～155，同様の器形で底部に穴を持つ甑の2種がある。前者は，口縁部の形により直線的に終わるもの141・144，内彎して終わるもの142・145，「く」の字口縁のもの153，複合口縁のもの143・154・155に分けれる。この他，台付鉢146があり，内彎する口縁を持つ。高杯は，完形品が少なく脚部の形で，棒状脚171・172・177・180・192と「ハ」の字に開くもの174～178・181～185・188～191に2大別できる。棒状脚のものは，杯部が平らで，外面に稜をもって強く屈曲して口縁部となる。口縁部は，中程まで立ち上り，大きく外反する。脚は，長い筒状の棒状脚に丸味をもつ大きく外開きする脚裾がつく。脚裾部は，低く大きく開き端部が複合口縁となるかはね上るもの171・172，外面に段をもち，「ハ」の字状に広がり，端部が複合状となり水平に伸びんもの173・186・192がある。「ハ」の字状の脚は，柱状部からゆるく開き，端部がそのままのもの176～178・181～185・188～191・193と複合状となるもの174・175がある。この他に，杯部と脚が同様の型で小型のもの193がある。器台は，器受部と脚が同じ形となるもの176～178・181～185・188～191・193・201と器受部から浅く大きく開き，「ハ」の字の脚がつくもの194・202～205がある。後者の口縁端部は，複合状となり，上下につまみ出される。蓋161～168は，基本的には笠形で直線的に伸び，逆台形のつまみがつく器形である。つまみは凹むものが多く，穴があけられるもの166もある。この他に，高杯の杯部と似る器形のものがあるが，全器形が不明なため，ここでは高杯の中で扱っておく。ただ，壺の口縁の可能性があるものもあり，断定できない。

これらの土器の特徴をまとめると次のようになる。長頸壺の頸部内外面は，ハケメが目立ち，胴部内面は，ヘラケ

ズリが目立つ。口縁部・頸部外面に文様を持つ。複合口縁となる壺の外面には，クシ状具による平行線文がみられる壺では，丹塗り例・大型品は少ない。甕は，口縁部・胴部外面に「ノ」の字文を持つものがある。胴部内外面をハケメで整形するものは少なく，胴部内面をヘラケズリするものが多い。鉢は，甑とそうでないものの２種がある。高杯は，棒状脚例が多く，棒状有段脚もみられる。大型品は少なく，丹塗り例は少しみられる。器台は，高杯に比べて量的に少なく，蓋は，他の器種に比べて多い。壺・甕の底部に葉脈状文122～124・127～129,「×」形の126をもつものがある。器種では，壺・甕・鉢に台がつく例がみられる。小型土器がみられる。

石器は，玉未成品と加工痕のあるものの２者がある。玉未成品では，管玉と勾玉の未成品がある。前者は，碧玉で後者はヒスイでつくられている。時期は，弥生時代後期後半から古墳時代初頭頃と考えられる。この他に，横長剝片を用い，側面に打圧による剝離を加え，一見打製石斧とみられるものがある。時期・性格・用途は不明であるが，一応ここで扱った。

土器の時期は，上記の特徴などから塚崎II式頃〔吉岡1976〕が主体を占める。それに先行する塚崎Ｉ式・小杉町囲山遺物〔橋本1970〕などと類似点も見出せる。また，時期・距離的に近い江上Ａ遺跡〔久々1981(本書収録)〕の遺物群とは，類似点も多いが異なる点も見られる。ここでは，遺物群の特徴をまとめる事とし，時間差・地域差・性格については，今後の課題としたい。（橋本正春）

Ｄ　中　世（図版83～90）

遺物には，珠洲，土師質土器，越前，中国製白磁・青磁，銅銭，瓦質火鉢，行火，鉄鎌があり，建物群周辺及び溝から多く出土した。遺物の数量は，珠洲・銅銭が多く，その他はわずかである。

珠洲　甕（221～238）　口径44cm前後のものと67cm前後のものとの大・小がある。

口縁部の形態によりＡ～Ｃ類に分かれる。Ａ類は長い口縁が深く屈折するもので，小型である。条線状のタタキが頸基部のやや下った所から右下りに始まるもの221と頸基部直下から平行に始まるもの222がある。Ｂ類は短い口縁が屈折し，端部に丸みのあるもので、大型のもの227・228と小型のもの223・224・226・227がある。タタキは，頸基部直下から平行に始まり，やがて右下りになる。227・228は口縁端部がやや肥厚している。Ｃ類は短い，肥厚した口縁が水平に屈折するもの225・229で，小型である。タタキの方向はＢ類と同じである。口径は不明だが，230～234はＣ類に含まれよう。Ａ類の量はＢ・Ｃ類に較べて少ない。

壺（240～250）　口径10cm前後のものと24cm前後のものとの大・小がある。

小型の壺には，口縁がやや直立するもの240，直立した口縁の端部を肥厚したもの243，口縁が外反するもの241，外反する口縁の端部外削りで面をとるもの242がある。肩部には右→左へと櫛目波状文を描く。

大型の壺は外反する口縁の端部外削りで面をもつ。248は頸基部よりやや下った所からタタキを始める。249は，胴部がやや丸くなり，頸基部直下よりやや右下りにタタキを始める。壺の外底面には250以外静止糸切り痕がある。

鉢[註1]（253～282）口縁端部の形態によりＡ～Ｆ類に分かれる。

Ａ類は端部外削りで面を取るもの253・281で，先端近くでやや内彎する。内面にはオロシメを施さない。Ｂ類は，端部がやや丸くなるもの254で，オロシメを持たない。Ｃ類は端部を水平にするもので，オロシメを持つもの255と，持たないもの256がある。Ｄ類は端部外削りで面をとるもの257～261で，オロシメを施す。258は口縁がやや内彎し，端部が鋭くなっている。Ｅ類は端部を強く押しつけて水平にし，その上に櫛目波状文を施すもの262・263・265で，内面にオロシメを施す。Ｆ類は端部内削りで面をとるもの264で，他の破片より，内面にオロシメを施すことがわかる。内面のオロシメは，Ｃ・Ｄ類よりＥ・Ｆ類の方が太く，多く施されている。その点から考え，266～268・280・282はＣ・Ｄ類に，269～273はＥ・Ｆ類に属する。確認できた鉢の外底面には，253の回転糸切り痕以外，すべて静止糸切り痕が残る。甕・鉢の断面に付着している漆は，土器の接合に用いられている。

珠洲編年〔吉岡1981〕に従えば，甕A類[註3]はII期（13世紀前半），甕B類はIII期（13世紀後半），甕C類はIV期（14世紀）となろうか。片口壺240は，直立する口縁と回転糸切りの底部により，I期（12世紀後半）に属すると考えられるが，甕にI期のものがなく，糸切り痕をもつ土師質小皿がないことから，I期の終りからII期の初めと考えたい。鉢A類も壺240と同様にI期の終りからII期の初めに考えておく。壺249はIII期，鉢B・C類はII期となろう。鉢D類はIII期あるいはIV期の一部を，鉢E・F類はIV期あるいはV期（15世紀前半）の一部を含むと考えられる。

土師質土器　皿（290～310）　口径9cm以下のものと11cm以上のものがある。

口縁部の形態によりA～F類に分かれる。A類は体部がやや丸みをもって立ち上がり，口縁に段を持たず，端部が肥厚するものである。大型のもの300・301・305・306・310と小型のもの290・291・296・297がある。出土例が一番多い。296・301は端部の器厚が薄い。B類は体部が低く立ち上がり，口縁部にヨコナデによる段をつけ，内面の周縁に1条の沈線を巡らすもの293・297・299で，小型である。C類は体部がやや開きぎみに立ち上がり，口縁部にヨコナデによる3段をもつ。大型のもの303・304・308と小型のもの294がある。303・304は内面の周縁に1条の沈線を巡らす。D類はやや肥厚した口縁部にヨコナデによる段をもち，端部に面をもつもの293で，小型である。E類は口縁端部を強くナデるもので，大型のもの307と小型のもの292がある。F類は体部が外反して立ち上がり，端部で外へ屈折するもの309で，大型である。

土師質土器は外底面に回転糸切り痕を残さないことから，13世紀以後に上限が求められる[註4]。D類は，安田城跡〔久々1979〕に類似し，13世紀のものか。F類は石川県白山橋遺跡〔四柳1980〕に類例が見られ，16世紀前半であろう。その他の大半のものは，13世紀～15世紀であろうか。

中国製白磁（315～317）　315は口縁端部が口禿になった皿で，体部外面の下位から底部にかけて施釉されていない。太宰府編年〔横田他1978〕によれば，白磁皿IX期にあたり，13世紀中葉～14世紀中葉になろう。317は，露胎の内面にロクロ成形痕を残す壺の破片を打ちかいたものである。

青磁（318～323）　龍泉窯系の椀には，内外無文のもの320と鎬蓮弁のあるもの322・323がある。13世紀中葉～14世紀中葉になろうか。321は茶色味の強い同安窯系の椀である。稜花皿319や内底面を打ちかいた318がある。

銅銭（1～216）　総出土枚数は595枚[註4]である。その内訳は，SK106から559枚，SK088から27枚，SD014から3枚，SD066から1枚，K17Y43区から1枚（寛永通宝），出土区不明6枚（1枚寛永通宝）である。寛永通宝以外の銅銭は，北宋銭及びそれ以前の渡来銭である。明銭を含んでいない点から，銅銭の流通は，14世紀後半を下らない。SK106出土のものは，大半が北宋銭である。数量的には，皇宋通宝・熙寧通宝・元豊通宝等が多い。

その他，**瓦質火鉢**[註5]（251），**越前**（326），灰釉・鉄釉の**瀬戸**（331～339），断面に漆付着の**美濃**（347），石製の**行火**，**鉄鎌**があり，行火・鉄鎌以外は，室町時代後半に属する。染付の**古伊万里**（348～351），**唐津**（352・353），**越中瀬戸**（330・341～347・354～357）があり，近世以後のものである。

2．ま と め

遺物には，縄文時代中期・晩期，弥生時代中期，弥生時代後期末から古墳時代初頭，鎌倉時代～室町時代，近世以降のものがあり，遺物が集中しているのは，弥生時代後期末から古墳時代初頭と中世である。土器の編年的位置づけ，遺物と遺構との関係等，本遺跡をとりまく諸問題は，今後の課題としたい。　（宮田進一）

註1　ここで述べた鉢とは，吉岡康暢氏の分類した片口鉢類〔吉岡1981他〕のことである。しかし，この片口鉢類には片口でない鉢をも含んでいるので，ここでは，片口を含めて鉢と呼んでおく。

註2　甕222は，胴上半の平行タタキメよりIII期に属すると考えられる。

註3　外底面に回転糸切り痕を持つ土師質小皿は，神田遺跡（本書所収）・若宮B遺跡〔狩野1982〕から一応珠洲I期（12世紀後半）からII期を下限とすると考えられる。

註4　銅銭の計測には，富山県教育科学センター研究主事邑本順亮氏の協力を得た。記して謝意を表する。

註5　瓦質火鉢類が15世紀より日常用器のセットに加わる〔吉岡1981〕。

Ⅷ 東江上遺跡

1．出土遺物

出土した遺物の大部分は，7世紀末から8世紀初頭にかかるものである。これには，須恵器・土師器・製塩土器・砥石がある。このほか，中・近世の陶磁器が若干ある。

A 古 代

(1) 須恵器（図版91～94）

須恵器には，蓋A・蓋B・蓋X・杯A・杯B・椀A・擂鉢・壺・甕・円面硯がある。列記した器種のうち，食器類すなわち供膳用の蓋A・蓋B・杯A・杯Bが大部分を占めている。

蓋 蓋A・Bは杯蓋である。内面に身受けのかえりをもつものを蓋A，かえりが消え屈曲する縁部をもつものを蓋Bとする。これらは，法量によって，蓋AⅠ（1～7；口径約18cm）・蓋AⅡ（8・9；口径約16cm）・蓋AⅢ（10～19；口径約13cm）・蓋AⅣ（20・21；口径約10cm）にわけることができる。蓋Bも同様に，蓋BⅠ（22～34）・蓋BⅡ（35～48）・蓋BⅢ（49～56）とする。

蓋Aには，かえりの先端が口縁端部の下方に出るものはない。かえりをもつ杯蓋としては終末期の型式である。蓋Bの口縁端部には，鋭い嘴状のものが多いが，直立ぎみに屈曲するもの（28・55）や，強く内屈し断面が逆三角形を呈するもの（23）もある。後二者はかえりの消滅直後の型式であろう。蓋A・蓋Bともに，頂部をとどめる個体はその外面をヘラケズリする。内面は，ヨコナデのみを行うものと，ヨコナデののちナデを行うものとの二種がある。蓋A22点について西区と東区との出土比をみると，西区6点，東区16点で，1：3の比率となる。また，蓋Aと蓋Bとの出土比は，およそ2：3である。蓋Aでは蓋AⅢが，蓋Bでは蓋BⅡが主体を占める。なお，蓋X（57）はいわゆる薬壺の蓋である。

杯 杯は，高台をもたないものを杯A，高台をもつものを杯Bとする。杯Bが蓋Aないし蓋Bと組みあう有蓋であるのに対し，平底の杯Aは『正倉院文書』にみえる「片杯」に相当し，基本的には無蓋であると考えられる[註1]〔西1979〕。

杯Aは，蓋A・Bと同様に法量から，杯AⅠ（欠如）・杯AⅡ（58・59）・杯AⅢ（60～72）・杯AⅣ（73～77）にわける。形態的には，a種：底部にやや丸味をもつもの（61・66・72・76・77），b種：平底のもの（その他）との二種がある。それぞれの径高指数（器高／口径×100）〔小笠原他1976〕は，a種では平均値34.6，b種では杯AⅡ22.2，杯AⅢ24.7，杯AⅢ28.3である。このようにa種の指数がもっとも高く，b種では杯AⅡ→杯AⅢ→杯AⅣと口径が小さくなるほど指数が高い。なお，椀AⅣ（78）の指数は34.5であり，杯Aa種の平均値とほぼ同じである。整形・調整では，内底面をヨコナデするものと，ヨコナデののちナデを行うものとがある。

杯Bは，法量から杯BⅠ（79～81・83）・杯BⅡ（90～93・100～102）・杯BⅢ（103・111～114・122～126・133）・杯BⅣ（134～144）にわける。高台は底部と体部の境よりもやや底部中央寄りにつけられ，ために高台の外側でひとたび屈曲して体部が外反するものが多い。この屈曲点は稜となる。高台の端面には，内傾するもの（116），水平のもの（95・118など），外傾するもの（93・102など）の三種類ある。内，後二者が大部分を占める。内底面は，ヨコナデを基調とするが，ヨコナデののちナデるものがある（96・102）。外底面は，丁寧にヘラケズリするもの（95）がわずかにある。径高指数は，杯BⅠ26.2（口径は復原推定），杯BⅡ25.6，杯BⅢ30.3，杯BⅣ41.6である。杯Bでも，杯BⅠ・Ⅱ→杯BⅢ→杯BⅣと口径の小さい杯BⅣがもっとも指数が高い。

杯Aと杯Bとの出土比は21点：68点で，ほぼ1：3である[註2]。また，蓋A・Bと杯A・Bとの出土比は，56点：89点で，2：3である。ちなみに，無蓋と考えられる杯Aを除外し，蓋A・Bとそれらと対をなすと考えられる杯Bとの比は，56点・68点で，6：7となり，上述の推定をほぼ裏づける比率となる。

壺　出土点数が少く，かつ破片が多いので，器種分類は行わない。完形に近い145は，体部外面にカキメを施し，底部外面を不定方向に静止ヘラケズリする。152・153は短頸壺，158・159は台付壺の底部及び高台部である。

甕　口縁部（162・163）・体部の破片が若干ある。復元しえたものは，西区の大溝ＳＤ05の底から出土した１個体のみである（164）。器高91.4cmの大甕である。体部は頸部以下全面にわたって，外面を平行タタキメ，内面を同心円文でうめる。

円面硯（161）　外堤の径17cm，脚台の径23.8cm，高さ８cmの大形品である。海部と陸部との境には内堤をもたない。陸部と脚台部との境に突帯をもつ。脚台の端部は大きく外方へふんばる。脚台部に十字形のスカシをもつ。陸部は焼成時の焼けひずみによって中央が盛りあがっているが，使用痕がみられ，硯として機能したことが窺える。

(2)　**土師器**（図版95・96）

土師器には，甕Ａ・甕Ｂ・甕Ｃ・壺・高杯・椀がある。列記した器種のうち，煮沸形態である甕Ａ・甕Ｂ・甕Ｃが計20余点あり，大部分を占める。供膳形態では，椀１点があるほか杯・蓋の類はまったく存在しない。

甕　形態・法量から便宜上，三つの器種にわける。甕Ａ；大形の長甕（201～205；口径19.6cm～24cm，器高約24cm～27cm），甕Ｂ；中形の長甕（206～211；口径16cm～19.6cm，器高21.5cm～23cm），甕Ｃ；小形の丸甕と長甕（212～217；口径12cm～14.4cm，器高13.8cm～16cm）である。形態的には，いずれも口縁部が「く」の字形にゆるく外反し，端部を丸くおさめる。甕Ａ・甕Ｂが基本的に長甕であるのに対し，甕Ｃは長胴ぎみのもの（213）と，球形の胴部をもつ丸甕（212）との二種がある。３器種ともに成形・調整の上では変わらない。すなわち，①粘土紐巻きあげにより成形したと考えられ，それを示す接合痕ないし凹凸を器面にとどめるものがある。②口縁部は内外面ともに横方向にナデる。③胴部外面は縦方向にハケメ調整する。④胴部内面は横方向ないし斜めにハケメ調整する。⑤前記の③・④のハケメ調整はしばしば口縁部にも及ぶ。以上から明らかなとおり，東江上遺跡の甕には，奈良時代以降の甕にみられるカキメ・ヘラケズリ・タタキメ・同心円文がまったく認められず，須恵器の製作技法が未だ導入される以前の段階のものである。

壺　219は内黒の小壺である。外面はハケメ調整，内面はナデる。230は形態・法量ともに甕Ａと共通するが，口縁部が丸く外反し，胴部内面をハケメののちヘラミガキすることから，ひとまず壺と考えておく。218は遺跡外（トレンチ）出土のもので，上記の土器群に伴うものではない。

高杯　１点ある（221）。杯部の内面は内黒である。脚部の上半と杯部の外面はハケメ。脚端部の外面はナデる。

椀　１点ある（220）。断面は半円形を呈する。厚手である。ロクロ成形した形跡はない。外面にわずかにハケメ。

土製支脚　２点ある（222・223）。いずれも上半を欠く。上下両端が太い棒状のものである。外面をハケメする。

(3)　**製塩土器**（図版96）

東区の竪穴住居ＳＫ19内及びその周辺から破片が出土した。せいぜい数個体であったと推定される。ラッパ状に開く口縁部・細長い胴部・尖り底をもつ「小形棒状尖底」の能登式製塩土器〔近藤1962〕と考えられる。近藤義郎氏の分類による「城ヶ崎タイプ」〔近藤1962〕，橋本澄夫氏の分類によるＣ類〔橋本1976〕中の「尖底ａ類」〔橋本1981〕に該当する。本遺跡から汀線まで直線距離にして約５kmあり，この遺跡で土器製塩が行われたとは考えがたい。おそらく，煎熬容器であった製塩土器を，そのまま塩の運搬容器として利用し，この遺跡に搬入したものであろう。

Ｂ　中世・近世

東区の土坑ＳＫ18から珠洲系陶器の擂鉢の破片（251）及び土師質小皿（234）が出土した。前者は，吉岡康暢氏による珠洲陶の最新の編年〔吉岡1981〕に従えば，そのⅢ期にほぼ該当し，13世紀中頃ないし後半の所産と考えられる。これと共伴した土師質小皿の年代についても同様である。上記のほか，遺構に伴わない珠洲系陶器の破片が若干ある（252～254）。また，近世の川ＳＤ27の底から越中瀬戸が数点出土している。

2．まとめ

A　須恵器について

須恵器の大部分は，供膳形態の蓋Ａ・蓋Ｂ・杯Ａ・杯Ｂである。蓋には，内面にかえりをもつ蓋Ａと，もたない蓋Ｂがある。型式学的には新旧の関係にあるこの二者は，同時期にしばしば共存している。窯跡・宮殿址・集落遺跡において確認されていることである。例えば，富山県下では富山市金草１号窯〔岡崎・藤田1970〕，小矢部市西蓮沼新堤窯，県外では大阪府陶邑古窯址群中のＴＫ217号窯〔田辺1966〕，平城宮跡ＳＤ1900Ａなどにおいてそうである。また，蓋Ａ・Ｂと杯Ａ・Ｂとの共存関係を想定することにも，無理はないと考えてよい。したがって，上記の土器群は，飛鳥・藤原宮の土器編年〔西1978〕でいえば，飛鳥Ⅳ期・Ⅴ期に該当し[註3]，７世紀の第４四半期から８世紀の第１四半期の土器と考えることができる。絶対年代でいえば，およそＡＤ675年頃からＡＤ715年頃ということになる。土器のこうした年代観に大過なければ，この遺跡の存続期間は，せいぜい40年前後と推定することができる。遺構をみたとき，掘立柱建物群に，数期にわたる建て替えがみられないことは，その傍証といえるだろう。

B　土師器について

土師器でもっとも注目されるのは甕である。いずれも口縁部を横方向にナデ，胴部の内外面をハケメ調整する。この種の甕は，長胴化の傾向を除けば，製作技法上は古墳時代以来の伝統的な甕であり，いわば「古墳時代的な甕」といえる。事実，古墳時代後期の甕との間に大きな技術的差異は認められない。

一方，奈良時代以降の甕は様相が一変する。すなわち，長甕という点では形態的に変わりないが，成形・調整技法では以下の諸特徴をそなえている[註4]。①口縁部の内外面を，回転力を利用してヨコナデする。したがって，旧来は丸くおさめていた口縁端部が，内側に向って尖りぎみとなる。②胴部上半の内外面には，回転力を利用したハケメつまりカキメを横方向に施す。③胴部下半から底部にかけて，外面には平行タタキを，内面には同心円文を施す。④胴部外面の中ほどには，しばしばヘラケズリを行う。このように，ロクロ技法・タタキ技法，新たなヘラケズリ技法の採用という諸点から，明らかに須恵器の製作技法によって生産されているのである[註5]。また同様の製作技法は，もう一つの煮沸形態である土堝にも等しく認められる。こうした現象は，須恵器生産と土師器生産を分離してみるならば，土師器生産に生じた大きな技術革新として評価できる。しかし，今一つ看過しえない現象がある。すなわち，この種の形態・技法をもった甕・土堝は，一方では窖窯において須恵器としても焼成・生産されているのである[註6]。したがって，この事実からすれば，須恵器生産と土師器生産を二分して捉え，前者から後者への技術体系の一方的な伝播・流出を想定することはむつかしい[註7]。

ひるがえって，東江上遺跡の土師器に再び目を転ずれば，すでにふれたとおり土師器の供膳形態がまったく欠如しているという事実が浮かぶ。換言すれば，供膳形態は須恵器によって占められていたということである。この時期に畿内では，暗文を多用する土師器の杯・椀類が供膳形態としてなお大きな比重を占めており，きわめて対照的である。前記のことは，東江上遺跡に限られた現象ではなく，７世紀末から８世紀代の北陸地方では，――黒色土器の椀・杯が若干あることを捨象すれば――　かなり一般的なあり方であったと考えられる[註8]。こうした点から，すでに７世紀末において北陸地方では，須恵器生産の優越性を否定できず，土師生産は，土師器固有の機能である煮沸形態（甕）にほぼ限られる[註9]ほどの壊滅的状況にあったと推論できるであろう。だとすれば，上述の須恵器の技法による甕・土堝も，奈良時代に到って土師器生産が須恵器生産体制のなかに包括・併呑され，新たな土器生産体制の下に生産されたものと考えられよう[註10]。つまり，旧来の土師器生産の一定の解体とその新たな再編成が，この時期になされたと考えるのである。また，その再編成には，在地の有力豪族あるいは首長層（郡司層）の関与が介在したと考えている[註11]。その成立時期が奈良時代初頭である点に注目すれば，新たに成立したこの土器生産体制は，いわば地方における「律令的土器生産体制」の成立として捉えるべきであろう。

（岸本雅敏）

註1　西　弘海氏のこの見解は，奈良時代の土器について『正倉院文書』の分析から導き出されたものである。年代的に7，8世紀の交にあたる本遺跡の土器にこの見解を適用するのは，不適当と思われるかもしれない。しかし，内面にかえりをもつ蓋と組みあう平底の杯（西氏のいう杯G）が，飛鳥Ⅳ期にはほとんど消滅している〔西1976〕ことから考えれば，飛鳥Ⅳ・Ⅴ期に該当する本遺跡の土器に西氏の見解は適用しうると考える。

また，本文中で，杯Aが「基本的には」無蓋と述べたのは，実際の使用の場においては，ときに有蓋として現われた蓋然性を考慮したからである。

註2　ただし，杯A・Bいずれかを判別しえない口縁部の破片を捨象しているので，この数値には，今後若干の変動が生ずるかもしれない。一つの傾向を示すものとして，本文ではとりあげた。

註3　本書の遺構編〔岸本1981〕では，土器の編年的位置は，飛鳥Ⅳ期に限定した。しかし，その後土器を整理・検討した結果，飛鳥Ⅳ期に限定することは困難であり，飛鳥Ⅳ・Ⅴ期と幅をもたせて考えたい。ここに修正しておく。上記の判断材料としては，蓋Aと蓋Bとの比土比率がおよそ2：3であること，また蓋B・杯A・Bの土器型式が，飛鳥Ⅳにはとうてい限定できないことを挙げておく。

註4　筆者が甕Cと呼んだ小形甕では，奈良時代以降，本文中に掲げた①～④の技法のすべてが，必ずしも採用されてはいない。特に，タタキ技法は欠如していることが多い。富山県砺波市高沢島Ⅱ遺跡の出土土器〔神保1978〕はその好例である。

註5　須恵器の製作技法によるこの新たな甕は，北陸地方に普遍的に分布しており，奈良時代の北陸地方における土師器甕の地域性となっている。この種の甕は，平安時代以降には，東北地方にも波及しているが，その出現の故地が北陸地方にあることは，本文から明らかである。以上二つの理由から，この種の甕を，橋本　正氏の提唱に従って「北陸型の土師器（長）甕」と呼ぶことにする。

なお，橋本　正氏は，口頭において前記の事実をしばしば強調され，上記の用語をすでに使用されていることを明らかにしておく。

註6　例えば，富山県下の窯跡では，大門町小杉流通業務団地内№16遺跡第2号窯跡〔上野・池野1980〕，小矢部市平桜岡山3号窯〔伊藤1981〕等において認められる。前者は，その出土須恵器が，平城宮の土器編年〔小笠原他1976〕の平城宮Ⅱに併行することから，AD730年頃にはすでに，こうした現象が生じていたことを示している。

註7　須恵器生産から土師器生産への一方的な技術伝播・流出にとどまっていたものであれば，この種の甕は，あくまで土師器にのみ見出されるはずである。しかるに，須恵器としても焼成されているのであるから，須恵器生産組織のなかにおいても，この種の甕が製作されていることは，十分推論できることである。この関係は，両工人集団の緊密な技術交流を想定する〔吉肉1967〕だけでは，説明しきれない面をもっている。

以上述べたように，奈良時代以降には，土師器生産への新技術の導入にとどまらず，須恵器工人が土師器の生産に関与した形跡が認められるのである。このことから，農業共同体内に存在した土師器工人の消滅ないし須恵器生産組織への吸収をただちに考えないにせよ，旧来の土師器生産・須恵器生産が再編成され，両者を包括した新たな土器生産組織・流通機構が整備されたと考えざるをえない。

8世紀末以降，糸切り技法を採用した土師器が出現する背景には，上に想定したような段階が前提条件として存在したと考えている。

註8　吉岡康暢氏は，石川県三浦遺跡中層の土器について，「供膳・貯蔵形態は須恵器，煮沸形態は土師器という器種による明瞭な機能分化がみとめられる」ことを，すでに指摘されている〔吉岡1967〕。また，高島忠平氏も，北陸地方の奈良時代に食器が須恵器に限られ，全国的にみると特異な現象であると述べている〔高島1964〕。

註9　甕以外の器種の生産をまったく否定しようとするものではない。土師器生産が主に煮沸形態の甕によって占められるまでに後退している点を強調するにすぎない。ここでいう土師器生産の後退は，須恵器生産の優越性と表裏一体の関係にある。

註10　同じ形態・製作技法をもつ土器を，焼成段階で土師器と須恵器とに焼き分ける，「焼き分け」が存在したと考えている。焼き分けを必要とした理由は，その器種が甕と塝にほぼ限られていることからも明らかなとおり，煮沸形態のみは耐火性の土師器として酸化焔焼成せざるをえなかったためと考える。

註11　この点に関しては，田中琢・浅香年木両氏の論考〔田中1967・浅香1971〕から多くのことを学んだ。

付記　本遺跡では出土していない新種の「北陸型長甕」について縷々述べたのは，これが本遺跡出土の甕ときわめて対照的であるため，これを採りあげることによって，逆に本遺跡の甕のもつ意味を浮上させようと意図したからにほかならない。東江上遺跡の土師器の甕は，本文・註で述べた北陸型土師器甕の出現前夜の土器として位置づけられるのである。

参　考　文　献

ア　浅香年木　1971　「第４章第２節　平安期の窯業生産をめぐる諸問題」　『日本古代手工業史の研究』　法政大学出版局

荒木繁行・吉岡康暢　1970　「金沢市畝田弥生遺跡調査予報」　石川考古学研究会々誌　第13号

イ　伊藤隆三　1981　『富山県小矢部市平桜岡山３号窯跡』　小矢部市教育委員会

ウ　上野　章　1967　「高岡市下佐野遺跡」　「大境」　３号　富山考古学会

上野　章　1972　「弥生時代付古式土師器」　『富山県史』　考古編

上野　章　1973　「弥生式後期末及び古式土師器」　『富山県滑川市魚躬遺跡発掘調査報告書』　滑川市教育委員会

上野　章　1974　「高岡市頭川遺跡」　大境　第５号　富山考古学会

上野　章　1979　「天王山式土器」　『富山県魚津市佐伯遺跡発掘調査概要』　富山県教育委員会

上野　章・池野正男　1980　『富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第２次緊急発掘調査概要』　富山県教育委員会

オ　大塚初重　1963　「島根県出雲市知井宮遺跡の調査」　『考古学集刊』　第２巻１号

小笠原好彦・西　弘海　1976　「Ａ　平城宮Ⅰ～Ⅶの大別　２　土器　Ⅴ章　考察」　『平城宮発掘調査報告Ⅶ』　奈良国立文化財研究所

小笠原好彦・西　弘海・吉田恵二　1976　「３　土器　Ⅳ章　遺物」　『平城宮発掘調査報告Ⅶ』　奈良国立文化財研究所

キ　岸本雅敏　1981　「東江上遺跡」　『北陸自動車道遺跡調査報告――上市町遺構編――』　上市町教育委員会

岸本雅敏　1982　「遺跡のあり方と性格」　『北陸自動車道遺跡調査報告――魚津市編――』　富山県教育委員会

ク　久々忠義　1981　「江上Ａ遺跡」　『北陸自動車道遺跡調査報告――上市町遺構編――』　上市町教育委員会

コ　近藤義郎　1962　「能登式製塩土器の研究」　『日本塩業の研究５』　日本塩業研究会

近藤義郎　1980　「日本塩業史の考古学的研究」　『日本塩業大系　原始・古代・中世　』　日本塩業研究会

サ　佐原　真　1958　「近畿地方」　『弥生式土器集成――本編２――』

佐原　真・田辺昭三　1966　「弥生文化の発展と地域性――近畿――」『日本の考古学Ⅲ』　河出書房

シ　神保孝造　1978　「土師器　５　高沢島Ⅱ遺跡」　『富山県砺波市栴檀野遺跡群予備調査概要』　砺波市教育委員会

ス　杉原荘介　1968　「伊勢湾地方」　『弥生式土器集成――本編２――』

タ　高島忠平　1974　座談会「北陸の荘園と両遺跡」の席上での発言。『富山県埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　井波町高瀬遺跡・入善町じょうべのま遺跡発掘調査報告書』所収　富山県教育委員会

田中　琢　1967　「畿内と東国――古代土器生産の観点から――」　日本史研究 90号　日本史研究会

田辺昭三　1966　『陶邑古窯址群Ⅰ』　平安学園

ツ　都出比呂志　1979　「前方後円墳出現期の社会」　考古学研究　103号　考古学研究会

坪井清足　1953　「福島県天王山遺跡の弥生式土器」　史林　36－１

ニ　西　弘海　1978　「土器の時期区分と型式変化」　『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ』　奈良国立文化財研究所

西　弘海　1979　「奈良時代の食器類の器名とその用途」　『研究論集Ⅴ』　奈良国立文化財研究所

ハ　橋本澄夫　1966　「弥生文化の発展と地域性――北陸――」　『日本の考古学　Ⅲ』　河出書房
橋本澄夫　1968　「石川県小松市八日市地方遺跡の調査」　石川考古学研究会々誌　第11号
橋本澄夫・荒木繁行　1969　「金沢市寺中遺跡の第１次調査」　石川考古学会々誌　第12号
橋本澄夫　1973　「次場遺跡」　『羽咋市史』　原始・古代編
橋本澄夫　1976　「珠洲市の集落遺跡と土器製塩遺跡」　『珠洲市史　第１巻』　珠洲市
橋本澄夫　1981　「内浦町の土器製塩遺跡と製塩土器」　『内浦町史　第１巻』　内浦町
橋本　正　1970　『囲山遺跡――小杉町囲山遺跡緊急発掘調査報告書――』　富山県教育委員会
橋本　正・上野　章・舟崎久雄　1973　『富山県滑川市魚躬遺跡発掘調査報告書』　滑川市教育委員会
橋本　正・酒井重洋・久々忠義　1980　『富山県井口村井口遺跡発掘調査概要』　井口村教育委員会
橋本正春他　1979　『富山県立山町埋蔵文化財予備調査概要』　立山町教育委員会
浜岡賢太郎　1968　「北陸地方Ⅰ」　『弥生式土器集成――本編２――』
林　謙作　1965　「縄文文化の発展と地域性――東北――」　『日本の考古学Ⅱ』　河出書房
ヒ　東森市良　1971　「九重式土器について」　考古学雑誌　第57巻第１号
久永春男　1966　「弥生文化の発展と地域性――東海――」　『日本の考古学Ⅲ』　河出書房
氷見高等学校歴史クラブ　1964　「富山県氷見地方・考古学遺跡と遺物」
フ　藤田富士夫　1974　「富山県立山古窯跡群」　月刊考古学ジャーナル　№97　ニュー・サイエンス社
藤田富士夫　1981　『白鳥城跡試掘調査概要』　昭和55年度富山市埋蔵文化財調査報告２　富山市教育委員会
ヤ　谷内尾曽司　1973　「柳田うわの遺跡」　『羽咋市史』　原始・古代編
ユ　湯尻修平他　1975　「金沢市戸水Ｂ遺跡調査報告書」　『県立西高校建設関係埋蔵文化財発掘調査報告書』　石川県教育委員会
ヨ　横田賢次郎・森田　勉　1978　「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」　『九州歴史資料館研究論集４』
吉岡康暢　1967　「第３章　遺物」　『加賀三浦遺跡の研究』　石川県教育委員会・松任市教育委員会
吉岡康暢　1976　「Ⅳ　総括　１土器編年と遺構の年代」　『北陸自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』　石川県教育委員会
吉岡康暢　1981　「珠洲」　『日本やきもの集成４』　平凡社
吉岡康暢　1981　「北東日本海域における中世陶磁の流通」　月刊文化財　№215
四柳嘉章　1980　「中世雑器――土師質土器――の編年」　『西川島Ⅰ』　穴水町教育委員会

別　　表

表1　神田遺跡珠洲観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	脚底径	器高	口縁部	体部	頂部	脚・底部	口縁部	体部	頂部	脚・底部	
42	壺	SK103	16.0					タタキ				円形アテ具痕 スリケシ			
44	甕	X22—24 Y21—25	32.8				ヨコナデ			回転糸切りか？	ヨコナデ 波状文あり	ヨコナデ		ヨコナデ	肩部に波状文あり
45	甕	X16—24 Y18—26	48.0				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ	指頭圧痕 アテ具痕			
46	壺	X22—24 Y18—20	22.6					タタキ				アテ具痕 指頭圧痕			
47	壺	SK103	15.2		6.0	11.6	ヨコナデ			回転糸切りか？					
48	壺	X18—20 Y21—25	4.4					ヨコナデ 刺突文あり				ヨコナデ			
50	擂鉢	X22—24 Y21—25	23.0		5.0	9.5	ヨコナデ 端部に波状文	ヨコナデ		ナデと櫛状具	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	口縁端部に波状文 底部静止糸切り
51	擂鉢	X22—28 Y17—25	28.8		9.2	12.0	ヨコナデ	ヨコナデ		ナデと櫛状具	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	5条のオロシメ
52	擂鉢	X16—17 Y26—30	27.4				ヨコナデ				ヨコナデ				片口オロシメ
53	擂鉢	X22—24 Y18—20	29.0				ヨコナデ				ヨコナデ				オロシメ
54	擂鉢	X22—24 Y21—25	48.5				ヨコナデ				ヨコナデ				オロシメ
55	擂鉢	SB003	20.6		10.2	8.4	ヨコナデ	ヨコナデ		ナデ？	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	
56	擂鉢	X22—24 Y18—20	17.8		7.4	8.6	ヨコナデ	ヨコナデ		回転糸切り 櫛状具で消す。	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	
57	擂鉢	X22—24 Y18—20	24.2				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			
58	擂鉢	X22—24 Y21—25	21.2				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			片口
59	擂鉢	X31—32 Y21—30	25.4				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			
60	擂鉢	X18—20 Y 8 —10	24.0				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			
61	擂鉢		24.0				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			
62	擂鉢	X22—24 Y11—15	27.0				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			
63	擂鉢	X22—24 Y18—20	30.4				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			
64	擂鉢		32.6				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			
65	擂鉢		37.4				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			焼成不良
66		X22—24 Y18—25			9.2			ヨコナデ		ナデ		ヨコナデ		ヨコナデ	
67					11.0			ヨコナデ		静止糸切りか？		ヨコナデ		ヨコナデ	
68					10.2			ヨコナデ		回転糸切り		ヨコナデ		ヨコナデ	
69		X22—24 Y21—25			8.6			ヨコナデ		櫛状具		ヨコナデ		ヨコナデ	
70		X21—24 Y18—20			8.8			ヨコナデ		櫛状具		ヨコナデ		ヨコナデ	
71		SB006						ヨコナデ		回転糸切り		ヨコナデ		ヨコナデ	

表2　神田遺跡土師質小皿観察表

番号	出土区	法量		成形・調整				備考
				外面		内面		
		口径	器高	口縁部	底部	口縁部	底部	
81		9.6	1.8	ヨコナデ	糸切り	ヨコナデ	ヨコナデ	
82		8.0	1.8	ヨコナデ	糸切り	ヨコナデ	ヨコナデ	
83	S X113	10.0	1.7	ヨコナデ		ヨコナデ		
84	S B013	14.0	2.4					
85	S B011	8.7	2.0	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	
86	S B010	8.6	1.4					
87	S B010	13.8	3.8	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	
88	S D121	8.0	1.9	ヨコナデ		ヨコナデ		
89	S D121	15.2	2.2	ヨコナデ		ヨコナデ		内面スス付着
90	S B006	7.8	1.1	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	
91	S B006	9.2	1.3	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	指頭痕あり
92	S B006	9.4	1.6	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ナデ	
93	S B006	8.8	1.5	ヨコナデ		ヨコナデ		
94	S X114	8.0	1.1			ヨコナデ	ヨコナデ	
95	S X114	10.0	1.6	ヨコナデ		ヨコナデ		
96	S A057	13.6	2.4	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	S B010 に伴う柵か
97	X22—24 Y21—25	8.0	1.2					
98		8.0	1.4					
99		8.6	1.6					
100	X26 Y16	8.0	1.8	ヨコナデ				内面スス付着
101	X22—24 Y18—20	8.0	1.5	ヨコナデ		ヨコナデ		内底クシ
102	X22—24 Y21—25	9.4	1.7	ヨコナデ				
103	X22—24 Y16—18	9.0	1.8	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	
104	X22—24 Y18—20	9.2	1.4	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	

番号	出土区	法量		成形・調整				備考
				外面		内面		
		口径	器高	口縁部	底部	口縁部	底部	
105	X22—24 Y34	9.4	1.9					
106	S B013 ?	8.6	2.0					
107		9.0	2.0					
108	X26 Y16	9.0	1.6	ナデ	ナデ	ヨコナデ		
109	X22—24 Y21—25	7.4	1.4	ヨコナデ		ヨコナデ		内面放射状の刺突文
110		8.0	1.3					
111	X22—24 Y21—25	7.8	1.2					内面スス付着
112		8.0	1.3			ヨコナデ	ヨコナデ	
113				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
114	X22—24 Y21—25			ヨコナデ		ヨコナデ		
115		8.8	1.4	ヨコナデ		ヨコナデ		
116		8.4	1.5	ナデ		ナデ	ナデ	
117	X27 Y13			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	
118	X22 Y13	9.0	1.7	ヨコナデ		ヨコナデ		
119		8.0	1.7	ヨコナデ		ヨコナデ		
120	X22—24 Y18—20	1.4	2.5					
121	X18—24 Y18—20	13.8	2.8	ヨコナデ		ヨコナデ		外面にスス付着
122	X26 Y17	18.0	2.5	ヨコナデ		ヨコナデ		
123	X22—24 Y18—20	16.0	3.6					
124	X18—20 Y21—25	14.0	1.7					
125	S B011 ?	15.6	2.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	
126	X22—24 Y18—20	14.0	2.2	ヨコナデ		ヨコナデ		
127		17.2	3.4					
128		12.8	1.6					

表3　正印新遺跡弥生土器・土師器観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	脚底径	器高	口縁部	胴上部	胴下部	脚・底部	口縁部	胴上部	胴部	脚・底部	
1	甕	S K31	13.0				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ナデ			外面にスス付着
2	甕	S K33	14.6				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			外面にスス付着 口縁にハケ先で刻み
3	甕	S K33	24.0				ハケメ								外面にスス付着 口縁内面にハケ先で羽状に刻み
5	甕	S K34	23.4	29.6	9.4	37.4	ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	外面にスス付着
6	壺	S K34		44.0	10.0		ヨコナデ	ハケメ ナデ	ハケメ	ハケメ	ナデ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ナデ	
7	壺	S K34	16.2				ナデ				ナデ				口縁内面にハケ先で刻み
8	甕	S K34	16.0								ハケメ				外面にスス付着 口縁にX状の刻み
9	甕	S K34	16.5				ヨコナデ	ナデ			ヨコナデ	ナデ			外面にスス付着 口縁に2条の凹線胴上部に刻み
11	壺	X12　Y30 8層一括		29.0	9.5			ハケメ ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ	ハケメ		ハケメ	ハケメ	ハケメ	
12	壺		12.0												外面にスス付着
13	壺	X 7・8　Y31 7層	13.6				ヨコナデ				ヨコナデ				外面にスス付着
14	壺	X16—20　Y26—30 2・3層	14.0				ハケメ								口縁内外面に刻み 頸部に沈線
15	壺	X12　Y30 8層	13.0				ハケメ				ナデ				口縁にクシ先による刻み
16	壺	X 8　Y30・31 7層	16.0				ヨコナデ ヘラミガキ				ヨコナデ ナデ				頸部に沈線
17	壺		17.6				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			外面にスス付着
18	壺	X 7・8　Y31 7層	18.0												
19	壺	X 5—10　Y31—35 2・3層	18.0				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ				
20	壺	X14・15　Y27・28 8層	14.0												外面にスス付着 口縁外面に刻み、内面格子状の刻み
21	壺	X 9・10　Y30 8層	18.0				ハケメ								口縁内面に指頭圧痕
22	壺		17.6				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			
23	壺	X17・18　Y25・26 8層	18.2				ナデ				ナデ				
24	壺	X 6・7　Y30—32 7層	15.7				ヨコナデ			ヨコナデ ハケメ					
25	壺	X11・12　Y45・46	16.0				ヨコナデ	ナデ			ヨコナデ	ナデ			口縁に貝殻による刻み 沈線は貝殻腹縁 外面にスス付着
26	壺	X 8—10　Y31—33 7層	26.6				ナデ				ナデ ハケメ				口縁ナデの後、格子目を刻む
27	甕	X16・17　Y31—33 7・8層	22.5	31.7	9.5		ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ		外面にスス付着 胴上部に刻み
28	甕	X 8・9　Y30 8層	14.5	17.0			ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ヘラケズリ	外面にスス付着 口縁内面に羽状の刻み
29	甕	X16—19　Y31—35	16.5				ヨコナデ	ナデ			ヨコナデ				外面にスス付着 口縁に凹線
30	甕	X18・19　Y31—32 7・8層	17.3	21.1							ヨコナデ	ナデ ハケ			口縁にハケ先で刻み 外面にスス付着
31	甕	X 8・9　Y30 8層一括	12.7	16.2	5.2	24.0	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ ヘラケズリ	ヨコナデ ハケメ ナデ	ハケメ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	外面にスス付着
32	甕	X11　Y38・39 8層一括	16.8	18.8	7.4	27.0	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	外面にスス付着

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
33	甕	X 8・10 Y31・33 7層	15.0								ハケメ ナデ				口縁外面に指頭圧痕
34	甕	X 9・10 Y31—33 7層	17.4												口縁内外面にスス付着
35	甕		14.5	13.8			ヨコナデ	ハケメ ナデ			ヨコナデ	ハケメ ナデ			外面にスス付着
36	甕	X 7・8 Y38・39 8層一括	19.5				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁内面にヘラによる刻み
37	甕	X 7・8 Y31 7層	20.0				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ナデ			外面にスス付着
38	甕	X 8・9 Y30 8層	14.8				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ	ナデ		外面にスス付着
39	甕	X 8—10 Y31—33 7層	13.4	12.4			ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ		ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ		外面にスス付着 内面に接合痕残る
40	甕	X11・12 Y38・39	16.2	17.5		16.0	ヨコナデ	ハケメ	ハケメ				ハケメ		外面にスス付着
41	甕	X 8—11 Y31—33 7層	17.2				ヨコナデ				ヨコナデ				外面にスス付着
42	甕	X15 Y25 8層	17.6				ヨコナデ				ヨコナデ	ハケメ			外面にスス付着
43	甕	X12 Y41 5層	17.0				ヨコナデ				ヨコナデ				外面にスス付着
44	甕	X 8・9 Y30 8層	20.0												外面にスス付着 口縁内面に指頭圧痕
45	甕	X 8・9 Y30 8層	19.0				ナデ ハケメ	ハケメ			ナデ	ハケメ			ハケ先による羽状の刻みを左右反対に施す 外面にスス付着
46	甕	X12・13 Y30 8層	18.0	17.5			ヨコナデ ハケメ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			口縁に指頭圧痕 頸部にハケ先の押圧による沈線 外面にスス付着
47	甕	X 8・9 Y30 8層	11.0	11.6	5.0	11.5	ヨコナデ	ナデ		ヨコナデ			ヘラケズリ		外面にスス付着 外面丹塗り
48	鉢	X12 Y29 8層	9.4	9.3	3.6	7.0	ヘラミガキ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	外面と内面上部丹塗り 穴は2個一対で2ケ所
51	鉢	X 8—10 Y31—33	26.0												口縁にハケ先で格子状の刻み 2個一対の穴あり
62	甕	X12・13 Y30 8層	25.5	24.4			ナデ 条痕	条痕	条痕		条痕 指頭圧痕	条痕	条痕		外面内下部にスス付着
63	甕	X12・13 Y30 8層一括	23.1	31.0			条痕	条痕	条痕		ナデ	ナデ	ナデ		内外面にスス付着
64	甕	X12 Y29 8層	12.8	15.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ	RLの縄文		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ		外面にスス付着 文様・波状口縁は3単位か
91	壺	SD02		14.5				ハケメ			ナデ	ナデ ハケメ			外面丹塗り
92	高杯	SD04			18.0					ヘラミガキ ヨコナデ				ヨコナデ	脚端部に7～8cm幅で丹塗り
93	甕	X17 Y40 8層 SD03	14.2	13.8	6.0	14.5	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ ナデ	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ ナデ	ナデ	外面にスス付着
94	甕	SD03	20.6				ハケメ	ハケメ			ハケメ	ナデ			外面にスス付着
95	高杯	SD03	27.2				ミガキ	ミガキ			ヨコナデ ミガキ	ミガキ			把っ手が付く
96	壺	SD03	25.5				ヨコナデ				ヨコナデ ハケメ ナデ				
97	高杯	X15 Y40 3層一括 SD03			22.6					ヘラミガキ					
98	高杯	SD05	24.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケメ						外面にスス付着
111	高杯	SD10	24.2				ヘラミガキ				ヘラミガキ				
112	高杯	SD05 X18・19 Y33・34 SD10 X 7 Y50	25.0				ハケメ ヨコナデ	ハケメ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
113	壺	SD05 X18・19 Y33・34 SD10 X7・8 Y50・51	12.7				ハケメ ヘラミガキ ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ ナデ	ハケメ			
114	壺	SD10	13.8	20.5	4.8	23.8	ヨコナデ ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ 凹底	ヨコナデ ナデ	ナデ	ハケメ	ハケメ	
117	台付長首壺	SD11 X8 Y4 5層		19.0				ヘラミガキ				ナデ			竹管による刺突
118	甕	SD11	25.5				ヘラミガキ			ヘラミガキ					外面にスス付着
119	器台	X11—15 Y42—44 2・3層 SD14	24.0					ハケメ ヘラミガキ			ヨコナデ	ヘラミガキ			
120	高杯	SD10								ヘラミガキ ハケメ				ヘラミガキ ハケメ	
121	器台	SD14								ナデ ハケメ			ヘラミガキ	ヘラケズリ ハケメ	外面にスス付着
126	高杯	SD14 X16 Y40 3・4層								ヘラミガキ					脚段部にキザミあり
127	壺	X14・15 Y51—53 5層	13.6				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ				
128	壺	X8 Y45 一括	13.7				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ ナデ				
129	壺	X8 Y45	13				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ナデ			
130	壺	X13 Y50	13.8				ヨコナデ ヘラミガキ				ヨコナデ ヘラミガキ ハケメ				
131	壺	X7 Y48	18.8	34.0			ヨコナデ ハケメ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ヘラケズリ			
132	壺	X9 Y45 一括	12.4				ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ナデ				口縁内面に炭化物付着
133	壺			21.5	5.5		ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ 指頭圧痕	ハケメ	ハケメ ヘラケズリ	ハケメ	ハケメ	
134	壺	X16—20 Y46—50 2・3層	14.0				ハケメ	ハケメ			ハケメ ナデ	ヘラケズリ			ヘラ記号あり
135	壺	X11・12 Y42—44	14.0	20.5			ハケメ	ハケメ			ハケメ	ハケメ			
136	壺		12.5	17.0	5.0	23.8	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ナデ	ハケメ	ナデ	ハケメ	ハケメ	
137	壺	X21・22 Y46—50 3層 X12・13 Y29・30	12.5				ハケメ ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ			ハケメ ナデ	ナデ			
138	壺	X11・12 Y42—44	11.8	30.8	6.5	31.5	ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ハケメ 凹底	ヨコナデ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ヘラ記号あり
139	壺	X11 Y47 5層一括	19.8	30.2	5.6		ヨコナデ ヘラミガキ	ナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ ヘラミガキ	ハケメ			文様部分をのぞき外面丹塗り、ハケ先により文様を施文
140	壺	X9 Y45 一括	17.2				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ				
141	甕	X8 Y45 一括	16.5				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ				外面にスス付着
142	甕	X11—15 Y41—45 2・3層	19.5				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ				
143	甕	X8 Y45 一括	19.5				ヨコナデ				ヨコナデ ナデ				
143	甕		21.5				ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		
145	甕	X15 Y55・56 3層	15.4												外面にスス付着
146	甕	X24・25 Y33・34 3層	16.0				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ ヘラケズリ				外面にスス付着
147	甕	X10 Y47 3層	21.8				ヨコナデ	ハケメ ナデ			ヨコナデ ナデ	ハケメ			外面にスス付着
148	甕	X10 Y49 3層	26.2	33.6			ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		外面にスス付着

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
149	甕	X10 Y48 3層	11.2								ヨコナデ クシメ				
150	甕	X10 Y47 3層	11.2	11.3	10.0		ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ナデ	ヨコナデ	ナデ ハケメ	ナデ	ナデ	外面にスス付着
151	甕	X16—20 Y41—50	16.8	14.0	4.5		ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ハケメ ナデ	ヨコナデ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ヘラケズリ	外面にスス付着
152	甕	X14 Y32 3層一括	16.0	19.0			ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		
153	甕	X14・15 Y51・52 5層	15.5				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			
154	甕	X11・12 Y41・42	15.5				ヨコナデ				ヨコナデ				外面にスス付着
155	甕	X12 Y41 5層	17.0				ヨコナデ				ヨコナデ				外面にスス付着
156	甕	X18 Y43 3層一括	16.8				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			
157	甕	X15 Y45	18.0				ヘラミガキ				ヘラミガキ				
158	甕	X11—15 Y41—45 1・2層	16.8				ヨコナデ ナデ	ナデ			ヨコナデ ハケメ	ハケメ			外面にスス付着
159	甕	X16—20 Y40—50	12.0				ヨコナデ				ヨコナデ				外面にスス付着
160	甕	X 5—10 Y45—50 5層	14.2	15.5			ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		
161	甕	X13 Y50	14.0	16.5			ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ナデ			内外面にスス付着
162	甕	X15 Y57 3層	17.0	21.5	3.2	26.5	ヨコナデ ナデ	ハケメ ナデ	ハケメ	ハケメ	ヨコナデ 指頭圧痕	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	内外面にスス付着
163	甕	X26 Y34	18.2	17.2			ヨコナデ ナデ	ナデ	ナデ		ヨコナデ ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
164	甕	X15 Y57 3層	17.2	22.8	5.4	27.0	ヨコナデ ナデ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ヨコナデ				外面にスス付着
165	甕	X14・15 Y51—53 5層	12.5	11.7	3.0	12.3	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ 凹底	ヨコナデ ナデ	ハケメ	ハケメ	ヘラケズリ	
166	甕	X12 Y42 5層	19.2				ナデ ハケメ	ハケメ			ナデ ハケメ	ハケメ			外面にスス付着
167	甕	X13・14 Y30	15.2	16.5			ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ		
168	甕	X 8 Y45 一括	15.2	18.4			ヨコナデ ハケメ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ ナデ	ハケメ			外面にスス付着
169	甕	X11—15 Y36—40 2・3層	25.8				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ハケメ			外面にスス付着
170	甕	X10 Y47 3層	26.2	33.6			ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		外面にスス付着
171	甕	X X 6—10 Y41—45 3・4層	12.0				ハケメ				ヨコナデ	ハケメ			外面にスス付着
172	甕	X12 Y42 5層	19.2				ヨコナデ ハケメ	ハケメ			ナデ ハケメ	ハケメ			外面にスス付着
173	台付甕	X10 Y53 2・3層							ハケメ	ハケメ			ハケメ	ハケメ	
189	甕	X15 Y54 3層	16.4				ヨコナデ ハケメ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ハケメ			外面にスス付着
190	器台		21.5				ヨコナデ ヘラミガキ				ヨコナデ ヘラミガキ				
191	器台	X15 Y49 3層	25.8				ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			
192	器台	X 7 Y50 3層	25.9				ヘラミガキ				ヘラミガキ				
193	器台	X11・12 Y41—43 X15 Y40 3層一括	20.5				ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
194	鉢	X17・18 Y30	18.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			
195	高杯	X14・15 Y51—53 5層	23.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ミガキ	ミガキ		外面にスス付着
196	鉢	X17・18 Y30	22.8				ハケメ ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			
197	鉢	X23・24 Y30・31 3層	11.8	11.0	3.5	5.7	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
198	鉢	X8 Y53 3層	12.5		5.5	6.0	ナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	凹底	ナデ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	
199	鉢	X14 Y32 3層一括	12.7	13.2			ヨコナデ	ヘラナデ	ナデ		ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		
200	高杯	X13 Y50	24.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			スス付着
201	高杯	X16—20 Y46—50 2・3層	23.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			
202	器台	X15 Y40 3層一括	26.7				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			スス付着
203	高杯	X16 Y34 5層一括	26.5		17.0	20.0	ヨコナデ	ヘラミガキ		ヘラミガキ ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラミガキ		ナデ ヨコナデ	3ツ穴
204	高杯	X17 Y38 3層一括	28.2		19.0	22.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ハケメ ナデ	4ツ穴
205	高杯	X10 Y40—50								ヘラミガキ				ナデ	外面丹塗り
206	高杯	X7 Y45 3層								ヘラミガキ				ハケメ ナデ	
207	器台	X15 Y41 3層一括			17.4					ヘラミガキ				シボリ ナデ ハケ	
208	器台	X8 Y45 3層一括			14.8					ハケメ ナデ				シボリ ナデ ハケメ	スス付着
209	台付長首壺	X15 Y40 3層一括		10.3				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ナデ	ヘラミガキ		
210	台付長首壺	X12・13 Y46—50		19.4				ヘラミガキ	ナデ				ナデ		
211	台付長首壺	X15 Y40 3層一括	8.8	15.0	12.3	19.0	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ナデ ハケメ	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ	シボリ ハケメ	脚と胴の接合部は粘土紐をはり蓋をする
212	台付長首壺	X11・12 Y42—44	8.0	20.8			ヨコナデ	ハケメ ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ		ヨコナデ	ナデ	ナデ		クシ状工具による羽状の刻み 竹管文様は4単位
213	高杯	X9 Y45 一括			18.5					ハケメ ヘラミガキ ヨコナデ				ヘラケズリ ハケメ・ナデ ヨコナデ	
214	高杯	X15 Y40 3層一括			17.3				ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ ヨコナデ			ヘラミガキ	シボリ ハケメ	内外面にスス付着

表4　中小泉遺跡　弥生土器・土師器観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調査								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
1	高杯	SD33								ハケメ					クシ状工具による押圧した五条の沈線を引く
2	高杯	SD33								ハケメ					ヘラ描きによる五条の沈線を引く
3	壺	SD33	13.4			6.9	ハケメ・ヨコナデ・ヘラミガキ	ハケメ・ヘラミガキ			ハケメ・ヨコナデ	ハケメ			指頭圧痕
4	甕	SD33	15.2			2.9	ヨコナデ								外面にスス付着・内面にクシ状工具による列点
5	甕	SD33	22.0	19.7	6.2	27.5	ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		指頭圧痕・外面にスス付着
6	鉢	SD33	22.4			8.5	ハケメ	ハケメ			ハケメ	ハケメ			内・外面にスス付着
7	壺	SD36	15.4			3.0	ハケメ								一つは穿孔，二つは未貫通
8	壺	SD36	14.1			2.8	ヘラミガキ								口唇部にクシ状工具による刻み
9	壺	SD36	21.0			5.0					ハケメ				クシ状工具による刻み
10	壺	SD36	16.9			5.2	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			クシ状工具による刻み
11	甕	SK56	16.1			2.0	ヨコナデ								内面にクシ状工具による羽状の列点
12	甕	SK56	19.8	21.4	8.8	29.8	ハケメ	ハケメ	ハケメ		ハケメ	ハケメ	ナデ		
13	甕	SD39	19.0			3.8	ヨコナデ				ヨコナデ	ハケメ			内外面にスス付着・内面にクシ状工具による羽状の列点
14	甕	SD39	18.2			6.1	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ハケメ			内外面にスス付着
15	甕	SD39	15.2	13.6		11.7	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ		ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ		内外面にスス付着
16	甕	SD36	16.4	14.4	5.6	14.8	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		内外面にスス付着
17	甕	SD36	20.0		7.6		ハケメ	ハケメ	ハケメ						外面にスス付着・内面に指頭圧痕
18	壺	SD27	14.0			1.9									クシ状工具による刻み・外面に簾状文
19	壺	SD27	16.0			2.6									外面に鋸歯状の沈線を引く
20	甕	X35　Y41 1層	20.0	19.0		10.8	ヨコナデ ハケメ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ハケメ			外面にスス付着
21	甕	X16　Y42 2層	19.0			5.0	ヨコナデ・ハケメ				ヨコナデ	ハケメ			外面にスス付着・口唇部にクシ状工具による刻み
22	甕	X30　Y17—20	17.0			2.6	ヨコナデ				ヨコナデ				外面にスス付着
23	甕		21.0			5.0	ヨコナデ ハケメ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ハケメ			外面にスス付着・口唇部は中凹みとなる
24	甕	X13　Y56 1層	16.0			4.2	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			内外面にスス付着
25		X31—35　Y36—40 2・3層													重量感がある
26	甕	SD33			5.2	3.0				ハケメ				ナデ	内底面に指頭痕がある
27	甕	SD33			7.0	3.4				ハケメ					外面にスス付着
28	甕	SD33			9.6	3.8				ハケメ				ハケメ・ナデ	
29	甕	SD33			6.6	2.0				ハケメ				ハケメ・ナデ	外面にスス付着
30	壺	SD33			6.7	4.5				ヘラミガキ					外面にスス付着

番号	器種	出土区	法量				成形・調査								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
31		SD33			5.8	5.6				ハケメ				ハケメ・ナデ	
32		SD33			5.0	3.6				ナデ				ハケメ	黒斑がある
33	甕	SD36			6.0	7.0				ハケメ				ハケメ・ナデ	内外面にスス付着
34		SD36			7.4	3.8				ハケメ					
35		SD35			7.2	3.8				ハケメ				ナデ	内底面に指頭痕がある
36		SD35			9.8	4.3				ハケメ				ナデ	
37		SK56			7.4	7.8				ハケメ・ナデ				ナデ	内外面にスス付着・焼成後に2箇所を穿孔
38		X13—15 Y26—30 2・3層			7.4	3.5				ハケメ				ナデ	外面にスス付着・黒斑がある
39		X17 Y61 1層			5.6	3.5				ハケメ				ハケメ	外面にスス付着
40		X31—35 Y 2・3層			5.8	1.9									
41	長頸壺	SD36	15.0			6.3	ヨコナデ・ハケメ				ヨコナデ・ハケメ				
42	甕	SD36	16.0	14.0		7.0	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ナデ			外面にスス付着・口縁部外面にクシ状工具による刻み
43		SD36			15.1	1.7									クシ状工具による押圧した二条の沈線を引く
44	壺	SD27	15.2			4.8					ヨコナデ・ハケメ				数条の凝凹線文
45	甕	SD27	18.2			3.0	ヨコナデ								外面にスス付着
46	蓋	SD27	12.4			4.3	ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ				ヨコナデ・ハケメ				
47	長頸壺	SD04	19.0			7.6	ヨコナデ・ハケメ・ナデ				ヨコナデ・ナデ				
48	長頸壺	SD36	11.2	17.0		18.9	ハケメ	ハケメ			ハケメ	ハケメ・ナデ			
49	壺	SD27	14.0			7.6	ハケメ・ヘラミガキ				ヘラミガキ				
50	甕	SD37	15.8	16.0		13.7	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ			ヨコナデ・ハケメ	ハケメ			外面にスス付着
51	甕	SD01	17.0			4.2	ハケメ	ハケメ			ハケメ	ヘラケズリ			外面にスス付着
52	蓋	SD41				3.7	ヘラミガキ ハケメ				ヘラミガキ ハケメ				
53	壺	X31—35 Y31—35 2・3層	10.2			6.6	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ			ヨコナデ・ハケメ	ヘラケズリ			
54	鉢	X28 Y21 3層	12.0		4.2	6.0	ヘラミガキ				ヘラミガキ				
55	蓋	X13 Y41 1層	12.4			4.8	ヨコナデ・ハケメ				ハケメ				
56	高杯	SD46								ヘラミガキ					
57		SD36			4.5	4.0				ハケメ・ナデ				ハケメ・ナデ	黒斑がある
58		X31—35 Y35—40 2・3層			3.4	1.8				ハケメ・ナデ				ナデ	
59		表採			2.1	1.9				ハケ				ハケメ	内面にスス付着

表5　中小泉遺跡須恵器観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	脚底径	器高	口縁部	体部	頂部	脚・底部	口縁部	体部	頂部	脚・部	
71	杯	X19 Y60	10.8		7.0	4.1	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	
72	杯	X15 Y48	11.0		6.0	4.0	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	
73	杯	X31—35 Y36—40			11.2					ヨコナデ ヘラケズリ				ヨコナデ ナデ	
74	杯	X20 Y172			9.1					ヨコナデ ヘラケズリ				ヨコナデ ナデ	

表6　中小泉遺跡珠洲観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	脚底径	器高	口頸部	体上部	体下部	脚・底部	口頸部	体上部	体下部	脚・底部	
81	甕	X31—35 Y51—55	48.7			8.0	ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ	タタキ			口縁内面に階段状圧痕を残す
82	甕	X26—30 Y41—45	35.7			5.2	ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ	タタキ			
83	甕	X25 Y76	60.0			7.0	ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ	タタキ			
84	甕	X35 Y41—45 X25 Y46—50 S E52	56.0	61.6	24.0	45.8	ヨコナデ	タタキ	タタキ	静止糸切痕	ヨコナデ	タタキ	タタキ ナデ	ナデ	口唇先端を嘴状に拡長
85	壺	X15—20 Y45—50	13.0			4.5	ヨコナデ				ヨコナデ				
86	壺	X31—35 Y36—40	11.2			8.6	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			口唇先端を嘴状に拡長
87	壺	S D01		17.6		13.4		ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ			体上部に櫛描波状文あり
88		X15 Y45			5.8	4.3			ヨコナデ	静止糸切痕			ヨコナデ	ヨコナデ	
89		S E51			9.8	8.0			タタキ ヨコナデ	静止糸切痕			ヨコナデ	ヨコナデ	
95	擂鉢	X18 Y14	16.1			5.8	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			口唇内面につまみだした稜をもつ
96	擂鉢	X40 Y37・38	30.8			6.6	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			
97	擂鉢	X21 Y41—45 S E51 S E52	36.8		12.3	15.4	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	静止糸切痕	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	
98	擂鉢	X31—35 Y51—56	31.0			11.0	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			
99	擂鉢	X26—30 Y21—25	23.4			6.4	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			
100	擂鉢	X30 Y45	35.0			3.0	ヨコナデ				ヨコナデ				
101	擂鉢	X20 Y26	29.0			4.5	ヨコナデ				ヨコナデ				
102	擂鉢	S D01	43.4			8.1	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			口縁部に櫛描波状文あり
103	擂鉢	S D01	31.8			9.0	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			口縁部に櫛描波状文あり
104	擂鉢	X25—30 Y14・15	30.2		16.6	6.9			ヨコナデ	静止糸切痕			ヨコナデ		
105	擂鉢	X13—15 Y26—30			14.8	7.8			ヨコナデ						

表7　中小泉遺跡土師質小皿観察表

番号	出土区	法量		成形・調整				備考
				外面		内面		
		口径	器高	口縁部	底部	口縁部	底部	
111	X25 Y41—45	10.1	2.2	ヨコナデ		ヨコナデ		
112	SD01	9.4	1.4	ナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	
113	X30 Y31	8.2	1.6	ヨコナデ		ヨコナデ		口縁内外面にスス付着
114	X26—30 Y21—25	10.0	2.0	ヨコナデ	指頭圧痕 ナデ	ヨコナデ	ナデ	口縁内外面にスス付着
115	表採	9.6	2.0	ヨコナデ	指頭圧痕	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	
116	X19 Y43	9.2	1.3	ナデ		ナデ		
117	X25 Y41—45	10.0	1.5	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	
118	X19 Y49	9.0	1.5	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	
119	SD01	7.6	1.7	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	
120	X26—30 Y21—25	10.2	2.3	ヨコナデ		ヨコナデ		
121	X25 Y51	12.0	1.7	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ		口縁内外面にスス付着
122	X26—30 Y21—25	12.0	1.7	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ		
123	X20 Y57	12.0	1.5	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	
124	SD01	10.0	1.2	ヨコナデ		ヨコナデ		
125	X16—20 Y36—40	12.0	1.6	ヨコナデ		ヨコナデ		
126	X31・32 Y41—45	8.0	1.7	ヨコナデ	ナデ	ハケ ヨコナデ	ナデ	
127	X20 Y41	12.2	1.9	ヨコナデ		ヨコナデ		
128	X26—30 Y31—35	10.0	1.5	ヨコナデ	指頭圧痕	ヨコナデ		
129	X35 Y47	12.8	2.5			ナデ		
130	X25 Y41—45	13.0	2.0	ヨコナデ	指頭圧痕	ヨコナデ		
131	X15 Y33	15.0	2.2	ヨコナデ		ヨコナデ		
132	X16—20 Y36—40	14.0	2.0	ヨコナデ	指頭圧痕	ヨコナデ	ナデ	
133	SD01	15.0	1.9	ヨコナデ		ヨコナデ		
134	X16—20 Y21—25	10.6	1.7	ヨコナデ	指頭圧痕 ナデ	ヨコナデ	ナデ	口縁内外面にスス付着
135	表採	14.0	2.3	ヨコナデ		ヨコナデ		口縁内外面にスス付着
136	X17 Y46	14.0	2.2	ヨコナデ		ヨコナデ	ナデ	
137	X31—35 Y41—45	13.0	2.5	ヨコナデ		ヨコナデ		

表8　飯坂遺跡弥生土器観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴上部	胴下部	器高	口頸部	胴部径	脚底径	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
51	壺	X11・12　Y11・12 3層	18.0				ヨコナデ				ヨコナデ ハケメ				口縁部・胴上半にキザミあり
52	壺	X23—25　Y66・67 5層	16.5				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ				口縁部・胴上半にキザミあり
53	壺	3号方形 周溝墓	14.5	25.4			ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ		ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ		
54	壺	X21—25　Y67・68 5層	14.0	24.5			ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヨコナデ	ハケメ		
55	壺	X21—25　Y67・68 5層	15.0				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ				
56	壺	X23—25　Y66・67 5層	14.0				ヨコナデ ヘラミガキ				ヨコナデ	ナデ			口縁内面と外面は丹塗り
57	壺	X21—25　Y67・68 5層	11.6				ヨコナデ				ナデ				内面口縁と外面は丹塗り
58	壺	5号方形周溝 墓溝内	9.0	12.8		10.7									
59	壺	2号方形周溝 墓溝内	11.0				ヨコナデ								
60	壺	X21・22　Y52・53 3層	13.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
61	壺	X21—25　Y69・70 5層	12.2				ヨコナデ				ヨコナデ				
62	壺	3号方形周溝 墓溝内	24.0	36.6	6.6	40.0	ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ ヘラミガキ	ハケメ	ハケメ		
63	壺	X10—15　Y35—40 3・4層	14.2				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁に円形の刻みあり
64	壺	X23—25　Y66・67 5層	22.2												
65	壺	3号方形周溝 墓溝内	22.0				ヨコナデ ヘラミガキ				ヘラミガキ				
66	壺	X21—25　Y73—75 5層	13.5												
67	壺	3号方形周溝 墓溝内	25.0				ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ			
68	壺	X15　Y50 2層		23.6	5.8								ハケメ		
69	壺	X15　Y50 2層	13.8	23.6	6.4	26.8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
70	壺	8号方形周溝 墓溝内	14.0	18.0	5.5	26.5	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ナデ	ナデ	ヨコナデ ハケメ	ハケメ			
71	壺	X30　Y49 1・2層	9.8	16.4	3.0	推定 26.5	ヨコナデ ハケメ	ハケメ		ハケメ	ヨコナデ ハケメ	ヘラケズリ		ヘラケズリ	スス付着
72		7号あるいは8号 周溝墓溝内			3.6					ハケメ				ヘラケズリ	底部のみ
73		7号あるいは8号周 周溝墓溝内			3.4									ヘラケズリ	底部のみ
74		X23—25　Y66・67 5層			5.0					ヘラミガキ				ハケ	底部のみ
75	壺	7号方形周溝 墓溝内	14.2	19.2	4.0	25.5	ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナデ ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	外面スス付着
76	壺	X23—25　Y66・67 5層	13.5				ヨコナデ ハケメ	ヨコナデ ハケメ							
77	壺	X15—20　Y33—38 3層	10.0				ヘラミガキ				ヨコナデ ハケメ				
78	壺	1号方形周溝 墓溝内	8.2				ヨコナデ ヘラミガキ				ヘラミガキ				
79	壺	X25　Y44 1・2層	8.2				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ヘラミガキ				
80	壺	7号方形周溝 墓溝内	14.2	19.2	4.0	25.5	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナデ ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	スス付着

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
81	壺	X22 Y43 3層						ヘラミガキ		ハケメ					
82	壺	X21・22 Y70・71 1・2層	11.8				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ				
83		SD26内	10.5	17.0	5.0	17.0	ヨコナデ ハケメ	ハケメ	ナデ	ナデ	ハケメ	ナデ	ハケメ	ハケメ	内・外面スス付着
84		3号方形周溝 墓溝内			4.5					ナデ				ナデ	
85		X23—25 Y66・67 5層			5.0					ハケメ				ハケメ	
86		第2文化層			6.0										
87		X16—22 Y74—76 1層			2.0					ハケメ				ヘラケズリ	
88		X15—30 Y40—45 3層								ナデ				ハケメ	底部穿孔
89		X20—25 Y45—50 2層			5.4					ナデ				ハケメ	
90		3号方形周溝 墓溝内			4.5					ハケメ				ナデ	
91		X35 Y41—51 1・2層			2.5					ハケメ				ハケメ	外底面にヘラ記号あり
92	壺	X35 Y50・51 1・2層			2.2					ヘラミガキ					
93	壺	3号方形周溝 墓溝内	13.5	18.5	4.5	22.0	ヨコナデ ハケメ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ナデ ハケメ			胴上半に記号あり
94	甕	X24・25 Y3・4 3—5層	13.0	12.2	1.5	11.5	ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
95	鉢	X20—22 Y50—52 2層	15.2				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ ナデ	ヘラケズリ			
96	鉢	X26 Y46 3層	17.8				ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
97	高杯	3号方形周溝 墓溝内	21.5				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ナデ			
98	甕	X15・16 Y50—53 4層	26.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			内面口縁端部に丹塗り痕あり
99	甕	X12—22 Y68 2・3層	16.8	17.8	4.3	2.2	ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ヨコナデ	ヘラケズリ			
100	甕	X25 Y53 1・2層	16.0	15.0			ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
101	蓋	X5—7 Y52—56 5層	16.4				ヨコナデ ハケメ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
102	鉢	5号方形周溝 墓溝内			7.4	3.0									外面丹塗り
103	甕	X25—30 Y40—45 2層	13.2				ハケメ				ヨコナデ ハケメ				
104	甕	X21—25 Y73—75 5層	18.3				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ナデ			口縁にキザミあり
105	甕	SD27内	17.5				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			口縁部・胴上半にキザミあり
106	甕	X23—25 Y66・67 5層	11.6				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁にキザミあり
107	壺	X23—25 Y66・67 5層	19.5				ナデ				ナデ				口縁にキザミあり
108	壺	X5 Y45 2層	15.8	22.5	3.0	24.2	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	孔1つあり
109	高杯	X25 Y52 1・2層				14.0				ヨコナデ				ヨコナデ	
110	高杯	X26・27 Y70・71 1・2層	15.8		13.8	13.2	ヨコナデ ヘラミガキ			ヨコナデ ヘラミガキ	ヨコナデ ヘラミガキ			ヨコナデ ヘラミガキ	

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
111	高杯	3号方形周溝墓溝内 SD23内			23.0					ヘラミガキ					脚端部に円塗り痕あり
112	高杯	3号方形周溝墓	27.5				ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ			

表9　飯坂遺跡須恵器観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	底径	器高	口縁部	体部	頂部	底部	口縁部	体部	頂部	底部	
151	壺	X35 Y15	9.0				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			体部外面に2条の沈線あり
152	壺	X35 Y15 2層		18.2			ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			体部外面の上方に1条の沈線あり
153	壺	X35 Y18 1層	15.0				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁部外面の中ほどに2条の沈線あり
154	壺	遊離					ヨコナデ				ヨコナデ				
155	蓋	X8－10 Y35－40 2層					ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
156	蓋	X35 Y45 2層	12.0				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
157	杯	X20 Y52 1－2層	14.0			推定3.0	ヨコナデ	ヨコナデ ヘラケズリ				ヨコナデ			

表10　飯坂遺跡珠洲観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	底部	器高	口縁部	体部	頂部	底部	口縁部	体部	頂部	底部	
155	甕	X20 Y50 1層						条線状タタキメ				円形アテ具痕			体部破片
156	甕	X20－29 Y65 1層						条線状タタキメ				円形アテ具痕			体部破片
157	甕	X30 Y45 1・2層						条線状タタキメ				円形アテ具痕			体部破片
158	擂鉢	X35 Y46 1層					ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデのちオロシメ			口縁部破片
159	擂鉢	X35 Y38													口縁部破片 口唇部内面に櫛描波状文
160	甕	X35 Y38					ヨコナデ	条線状タタキメ				円形アテ具痕			口縁部破片

表11　飯坂遺跡土師器杯観察表

番号	出土区	法量		成形・調整				備考	番号	出土区	法量		成形・調整				備考
				外面		内面							外面		内面		
		底径	器高	口縁部	底部	口縁部	底部				底径	器高	口縁部	底部	口縁部	底部	
163	X35 Y14	4.5 5		ヨコナデ	糸切り	ヨコナデ	ヨコナデ		166	X35 Y14	5.6		ヨコナデ	糸切り	ヨコナデ	ヨコナデ	
164	X35 Y14	5.3		ヨコナデ	糸切り	ヨコナデ	ヨコナデ		167	X35 Y14	5.9		ヨコナデ	糸切り	ヨコナデ	ヨコナデ	
165	X35 Y13	4.4		ヨコナデ	糸切り	ヨコナデ	ヨコナデ		168	X35 Y13	6.0		ヨコナデ	糸切り	ヨコナデ	ヨコナデ	

表12　江上Ａ遺跡弥生土器観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調査								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
1	壺	A	SD01B区下層	14.0	29.0	5.0	29.5	ヨコナデ ヘラミガキ	ハケ ヘラミガキ	ヘラミガキ	凹底	ヘラミガキ	ハケ	ハケ		
2	壺	A	SD01A区・B区	11.0	22.0			ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ	ハケ		胴上部にヘラ描文
3	壺	A	SD01C区中層	13.5	21.5	4.5	24.0	ヨコナデ		ハケ	凹底	ヨコナデ	ハケ	ハケ		口縁部に連続刻み 胴上部に櫛描文 口縁部・胴上部丹塗
4	壺	A	SD01A区・C区 D区下層	14.5	22.0			ヨコナデ ハケ→ ヘラミガキ	ハケ ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラケズリ		
5	壺	A	SD01A区	11.0	22.0	4.0	18.5	ヨコナデ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	凹底	ヨコナデ	ハケ→ ヘラケズリ	ハケ→ ヘラケズリ		口縁部に６条の沈線
6	壺	A	SD01	14.5				ヨコナデ	ハケ		ハケ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		胴上部にヘラ描文
7	壺	A	SD01D区中層	19.0	19.0	3.5		ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ナデ ヘラミガキ				
8	壺	B	SD01B区下層	13.5	11.0	1.5	11.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラケズリ ヘラミガキ	ヘラケズリ ヘラミガキ		外面・口縁部内面丹塗
9	壺	C	SD01B区中・下層	19.0	23.5	4.0	34.0	ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ→ ヘラミガキ		
10	壺	G	SD01B区下層 D区下層	13.5	18.0	3.5	27.0	ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ ハケ	ナデ	ヘラケズリ		頸部に１条の沈線
11	壺	G	SD01	14.0	16.0	4.0	25.0	ハケ	ハケ	ハケ	ヘラケズリ	ハケ	ハケ	ハケ		頸部に竹管文
12	壺	G	SD01C区・D区	14.5	23.0	4.5	30.5	ハケ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラケズリ	ハケ	ナデ	ハケ		
13	壺	G	SD01E区上層	13.5	19.0			ハケ	ハケ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
14	壺	G	SD01E区下層	14.0	19.5			ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ナデ			
15	壺	G	SD01D区	11.5	19.5			ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ→ ナデ		ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ		
16	壺	G	SD01	12.0	22.0	4.0		ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ	ハケ		胴上部に爪による刻み
17	壺	G	SD01下層	13.5	22.0			ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ハケ			
18	壺	G	SD01	15.0				ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ナデ			
19	壺	G	SD01拡張区	13.0	19.0	3.5	28.0	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
20	壺	G	SD01C区・D区	13.0	19.5	5.5	30.0	ヨコナデ ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラケズリ	ヨコナデ ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		頸部に竹管文
21	壺	G	SD01B区	14,0	16.0			ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラケズリ			頸部に１条の沈線
22	壺	G	SD01B区上・中層 B区下層	12.5				ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ハケ			
23	壺	G	SD01B区下層	13.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ	ヘラケズリ			頸部にヘラ描文
24	壺	G	SD01B区下層 C区下層					ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ ヘラミガキ				頸部にヘラ描文
25	壺	F	SD01B区・C区 D区	17.5	22.5			ヨコナデ ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ		ヨコナデ ハケ→ ヘラミガキ	ナデ	ハケ		被籠土器
26	壺	E	SD01 SD03C区 SD03D区	14.0	23.0			ヨコミガキ ハケ	ハケ	ハケ		ヨコナデ ハケ	ナデ	ハケ		
27	壺	E	SD01A区		20.5	4.0			ハケ	ハケ	ハケ		ナデ	ハケ		
28	壺	D	SD01A区中下層 SD01B区下層 SD03B区下層	19.5	38.5	9.0	46.5	ヨコナデ ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ ハケ ヘラミガキ	ハケ	ハケ→ ヘラミガキ		口縁部に３条の沈線 頸部に連続刻みを付した凸帯
29	壺	F	SD01C区中層 D区下層	16.5	20.0	4.5	29.0	ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ		ヨコナデ ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		被籠土器
30	壺	D	SD01C区中層	22.0	36.0			ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキ	ヨコナデ ハケ	ハケ	ヘラケズリ		頸部に凸帯

番号	器種	出土区	法量				成形・調査								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
31	壺 D	SD01A区中・下層 A区中層		30.0	6.0			ハケ	ハケ			ハケ	ハケ→ ナデ		
32	壺 F	SD01D区		23.0	8.5		ハケ	ハケ	ハケ ナデ	凹底	ナデ	ナデ	ナデ		頸部にヘラ描文 胴上部に櫛描文
33	壺 G	SD01D区中層		18.0	2.5			ハケ	ハケ			ハケ	ハケ		
34	壺 A	SD01上層	15.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ ナデ	指圧			口縁部に連続刻み
35	壺 A	SD01A区下層	14.5				ヨコナデ ハケ	ハケ→ ヘラミガキ			ヨコナデ	ハケ			
36	壺 A	SD01	15.5				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ	ナデ			胴上半部に連続刺突と沈線
37	壺 A	SD01E区中央	12.0				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁部に沈線
38	壺 A	SD01D区下層	16.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
39	壺 A	SD01E区上層	11.0				ヨコナデ ハケ→ ヨコナデ	ハケ			ハケ	ヘラケズリ			
40	壺 A	SD01	14.5				ヨコナデ ナデ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ナデ			
41	壺 A	SD01A区	14.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
42	壺 D	SD01D区下層	15.0				ヨコナデ ヘラミガキ				ヨコナデ ハケ→ ヨコナデ	ナデ			頸部に刻みを付した凸帯
43	壺 A	SD01B・D区中層 C・D区下層	17.0				ヨコナデ				ヨコナデ ヘラミガキ				口縁部に2条の沈線
44	壺 A	SD01C区下層	12.0				ヨコナデ ヘラミガキ				ヨコナデ ハケ→ ナデ				
45	壺 A	SD01	16.5				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ				
46	壺 A	SD01B区下層 C区下層	14.5				ヨコナデ ヘラミガキ				ヨコナデ				
47	壺 A	SD01D区下層	15.5				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁部に刻み
48	壺 A	SD01BCD区下層	21.5				ヨコナデ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ			ヨコナデ ハケ	ハケ			
49	壺 G	SD01A区	16.5				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ				頸部に1条の沈線
50	壺 G	SD01D区中層	13.5				ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ナデ				頸部に1条の沈線
51	壺 G	SD01B区中・下層 C区下層	13.0				ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ			ハケ	ナデ			
52	壺 G	SD01B区下層	11.0				ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ→ ナデ	ヘラケズリ			頸部に1条の沈線
53	壺 G	SD01B区下層 SD03D区上層	15.5				ヨコナデ ナデ				ヨコナデ ナデ	ヘラケズリ			口縁部に3条の凹線
54	壺 G	SD01	15.5				ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ヘラケズリ			口縁部に3条の凹線
55	壺 F	SD01D区中・下層 E区下層	13.5				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ				口縁部に3条の凹線
56	壺 F	SD01D区下層	14.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ				
57	壺 F	SD01	17.0				ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ナデ			
58	壺 G	SD01A区	20.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ				
59	壺 A	SD01D区下層	11.0				ヨコナデ ヘラミガキ	ナデ			ヨコナデ ナデ	ナデ			
60	壺 B	SD01B区下層 C区下層	14.0				ヨコナデ	ヘラミガキ			ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラケズリ			外面・口頸部内面丹塗

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
61	壺 A	SD01D区下層	26.0				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁部に5条の沈線
62	壺 H	SD01A区	8.5	15.5	2.0	18.0	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ		ヨコナデ	ナデ	ハケ		
63	壺 H	SD01A区	9.0	19.0	4.0	24.5	ヨコナデ ハケ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ナデ ハケ	ハケ		頸部に凸帯
64	壺 H	SD01上層	6.5	14.5	3.0	21.5	ヨコナデ ヘラミガキ	ハケ	ハケ		ヨコナデ ナデ	ハケ	ハケ		口縁部に5条の凹線
65	壺 H	SD01 SD03A区下層	11.0				ヘラミガキ				ヘラミガキ				
66	壺 H	SD01B区下層 SD01C区下層	10.0				ヘラミガキ				ヘラミガキ ハケ	ナデ			外面と口縁部内面を丹塗
67	壺 H	SD01B区 SD03A区 SD03D区	9.0				ヨコナデ ハケ→ヘラミガキ				ヨコナデ ハケ→ナデ				
68	壺 H	SD01F区					ヘラミガキ	ハケ				ナデ			頸部に連続刻みを付した凸帯
69	壺 H	SD01B区下層		16.5	2.0				ハケ→ヘラミガキ			ナデ	ハケ		胴部に把手付く
70	壺 I	SD01B区下層	9.0	20.5	22.5	25.5	ヨコナデ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ ヨコナデ	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ナデ ハケ ヨコナデ	外面丹塗
71	壺 I	SD01C区下層	8.0	16.0	19.0	24.5	ハケ→ヘラミガキ	ハケ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ハケ	ハケ	口縁部に1条の凹線 胴部に三段の連続刻み 三本組隆帯を4ヵ所に貼付
72	壺 I	SD01	6.0	13.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ヨコナデ	ナデ	ハケ		
73	壺 I	SD01D区上層	13.5	17.5			ヨコナデ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	しぼり	
74	壺 I	SD01B区	11.0	18.0			ヨコナデ ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ			ヨコナデ	ナデ			
75	壺 I	SD01	12.0	21.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			
76	壺 I	SD01B区下層 C区下層		20.5				ヘラミガキ				ナデ			胴部に隆帯を4ヵ所に貼付
77	甕 B	SD01D区中層	16.0	22.0		31.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		胴上部に連続刻み
78	甕 B	SD01D区下層	17.0	22.5	6.0	29.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ→ヘラケズリ	ハケ		
79	甕 B	SD01B区下層	13.0	15.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
80	甕 B	SD01E区下層	13.0	14.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ハケ ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
81	甕 B	SD01D区下層	14.0	16.0	3.0	20.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
82	甕 C	SD01C区 D区中・下層	17.0	21.0			ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ	ヘラケズリ		
83	甕 D	SD01D区下層	15.0	18.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ ハケ	ハケ→ヘラケズリ	ヘラケズリ		
84	甕 D	SD01D区中層	18.5	24.0		30.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ ヘラケズリ	ヘラケズリ		
85	甕 B	SD01D区下層	14.0				ハケ	ハケ			ハケ	ハケ			
86	甕 B	SD01E区	10.5	12.5			ハケ	ハケ			ハケ	ヘラケズリ			
87	甕 D	SD01C区	13.0	14.5	3.5	18.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
88	甕 C	SD01D区中層	17.5	22.0	3.0		ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ハケ	ヘラケズリ		
89	甕 D	SD01B区下層	20.0	25.0			ハケ ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
90	甕 B	SD01A区	12.0	12.5	3.0	13.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		

番号	品種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
91	甕 E	SD01A区下層	17.0	16.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ	ハケ		
92	甕 E	SD01E区上層	16.5	23.0			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ハケ→ ナデ			
93	甕 E	SD01D区	18.0	23.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ ヘラケズリ	ヘラケズリ		口縁部に連続刻み
94	甕 E	SD01A区・B区	18.0	21.0	4.0		ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
95	甕 E	SD01C区中層 D区下層	20.0	25.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ	ハケ ヘラケズリ		胴上部に連続刻み
96	甕 E	SD01A区	15.5	15.0	4.0	18.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		口縁部に1条の沈線
97	甕 F	SD01D区下層	12.5	13.0	2.5	16.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
98	甕 F	SD01	15.0	15.0	5.0	16.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
99	甕 F	SD01B区下層	19.5	17.0	5.0	18.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
100	甕 F	SD01F区上層	20.0	21.0	5.5	25.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
101	甕 F	SD01C区中層	18.5	20.0	3.5	23.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
102	甕 F	SD01C区中層	19.0	18.0	5.0	21.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
103	甕 F	SD01E区上層	18.5		4.0		ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
104	甕 F	SD01	19.5	17.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
105	甕 F	SD01F区上層	13.0	15.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
106	甕 F	SD01C区	17.0	18.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ ヘラケズリ	ハケ		
107	甕 F	SD01A区	17.0	20.5			ヨコナデ	ハケ ヨコナデ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		口縁部に3条の凹線
108	甕 F	SD01C区	18.5	20.0			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			胴上部に連続刻み
109	甕 F	SD01B区	20.5	21.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		胴上部に連続刻み
110	甕 F	SD01D区下層	19.0	16.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ナデ			
111	甕 F	SD01C区下層	18.0	17.0			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
112	甕 F	SD01B区	16.5	13.5	4.0	14.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ ハケ	ハケ ヘラケズリ	ヘラケズリ		胴上部に櫛描文
113	甕 F	SD01	18.0	15.0	3.5	15.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
114	甕 F	SD01		14.0	4.0			ハケ ヘラケズリ	ヘラケズリ			ヘラケズリ	ヘラケズリ		
115	甕 F	SD01F区上層		16.0	5.5			ハケ	ハケ			ハケ ヘラケズリ	ヘラケズリ		
116	甕 F	SD01A区中・下層	34.0	38.5	12.0	39.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
117	甕 G	SD01C区	19.0	21.0	7.0	21.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ナデ	ナデ ヘラケズリ	ナデ	口唇部、胴上部に連続刻み
118	甕 G	SD01C区下層	15.5	18.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ナデ	ハケ		
119	甕 G	SD01B区	15.0	14.5	10.5	18.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ ナデ	ヨコナデ	ハケ→ ナデ	ハケ→ ナデ	ハケ	
120	甕 A	SD01A区	20.5				ヨコナデ ハケ	ハケ			ハケ	ヘラケズリ			

番号	品種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
121	甕 A	SD01E区	16.5				ヨコナデ	ハケ			ハケ	ヘラケズリ			
122	甕 A	SD01D区下層	22.0				ヨコナデ	ハケ			ハケ	ヘラケズリ			
123	甕 A	SD01D区	19.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
124	甕 A	SD01E区上層	13.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
125	甕 A	SD02C区	17.0				ハケ	ハケ			ハケ	ヘラケズリ			
126	甕 C	SD01A区	16.0	15.5			ハケ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
127	甕 C	SD01A区	17.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ナデ ハケ			
128	甕 D	SD01E区	12.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
129	甕 D	SD01E区下層	15.0	16.0			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
130	甕 D	SD01上層	14.0	16.0			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ ヘラケズリ			口縁部に1条の沈線
131	甕 D	SD01B区中層	15.5				ヨコナデ	ハケ			ハケ	ナデ ヘラケズリ			
132	甕 C	SD01C区下層	14.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
133	甕 C	SD01C区中層	18.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
134	甕 C	SD01C区中・下層	19.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
135	甕 D	SD01B区下層	18.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
136	甕 C	SD01F区下層	17.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
137	甕 D	SD01B区下層	17.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
138	甕 D	SD01B区下層 C区下層	14.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
139	甕 D	SD01C区中層	19.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に3条の凹線
140	甕 D	SD01C区中層	17.5	17.5			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に2条の凹線
141	甕 D	SD01D区下層	19.5	15.5			ハケ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
142	甕 D	SD01C区中層	18.5	16.5			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
143	甕 D	SD01	19.5	20.5			ナデ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ヘラケズリ			
144	甕 B	SD01E区上層	15.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に2条の沈線
145	甕 C	SD01C区 SD05B区	15.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ ハケ ナデ	ハケ			口縁部に1条の沈線
146	甕 B	SD01A区 C区下層	18.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
147	甕 B	SD01	16.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
148	甕 E	SD01C区下層	16.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
149	甕 B	SD01C区下層 D区下層	18.0	20.5			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ナデ			
150	甕 B	SD01D区下層	17.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ヘラケズリ			口縁部に1条の沈線

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
151	甕 B	SD01A区下層	13.5				ヨコナデ				ハケ	ヘラケズリ			
152	甕 B	SD01上層	15.0	16.0			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリか			口縁部と胴上部に連続刻み
153	甕 B	SD01C・D区下層	14.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
154	甕 B	SD01A区	14.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ ヘラケズリ			
155	甕 E	SD01B区下層 C区下層	16.0				ヨコナデ	ハケ			ハケ				
156	甕 E	SD01D区下層	20.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
157	甕 E	SD01C区下層 SD03D区	14.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ナデ			口縁部に1条の凹線
158	甕 E	SD01C区	14.0	16.5			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
159	甕 E	SD01A区	15.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
160	甕 E	SD01D区下層	16.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
161	甕 E	SD01A区下層	19.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ヘラケズリ			
162	甕 E	SD01A区中・下層	16.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
163	甕 E	SD01	16.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
164	甕 E	SD01A区	13.0	13.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
165	甕 E	SD01E区上層	21.0				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			
166	甕 E	SD01E区上層	18.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
167	甕 E	SD01B区	16.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
168	甕 E	SD01上層	15.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
169	甕 E	SD01B区下層	18.5	15.0			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
170	甕 E	SD01C区中・下層 D区下層	17.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			胴上部に連続刻み
171	甕 E	SD01A区	18.0	20.0			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
172	甕 E	SD01E区下層	23.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
173	甕 E	SD01	22.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ナデ ハケ			
174	甕 E	SD01F区上層	17.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
175	甕 F	SD01C区	16.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
176	甕 F	SD01C区下層	15.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
177	甕 F	SD01	17.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ナデ			
178	甕 F	SD01C区中層	14.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ナデ			
179	甕 F	SD01D区	13.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
180	甕 F	SD01D区	15.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
181	甕 F	SD01B区上層 SD01C区中層	14.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
182	甕 F	SD01上層	16.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
183	甕 F	SD01D区中層	16.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
184	甕 F	SD01C区中層	18.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
185	甕 F	SD01下層	19.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
186	甕 F	SD01B区下層 C区下層	18.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			胴上部に連続刻み
187	甕 F	SD01A区下層	17.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
188	甕 F	SD01A区	15.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
189	甕 F	SD01A区	17.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			胴上部に連続刻み
190	甕 F	SD01D区下層	17.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			
191	甕 F	SD01C区下層	15.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
192	甕 F	SD01	17.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ナデ ヘラケズリ			胴上部に連続刻み
193	甕 F	SD01D区下層	17.5	16.5			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			胴上部に連続刻み
194	甕 E	SD01A区	19.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ナデか			胴上部に連続刻み
195	甕 F	SD01上層	19.5				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			胴上部に連続刻み
196	甕 E	SD01C区下層	16.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ナデ			口縁部に連続刻み
197	甕 E	SD01A区	16.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			口縁部に連続刻み
198	甕 E	SD01C・D区	15.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ				口縁部に連続刻み
199	甕 F	SD01D区下層	17.5				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁部に連続刻み
200	甕 E	SD01C区下層	13.5				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁部に連続刻み
201	甕 F	SD01	16.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に4条の凹線
202	甕 F	SD03C区	19.0				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁部に4条の凹線
203	甕 F	SD01D区下層	18.0				ヨコナデ	ハケか			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に1条の凹線
204	甕 F	SD01E区下層	17.5				ヨコナデ	ハケか			ヨコナデ				口縁部に3条の凹線
205	甕 F	SD01	15.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に4条の沈線
206	甕 E	SD01C区下層 D区下層	23.5				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁部に3条の凹線
207	甕 E	SD01B区 D区下層	30.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			口縁部に3条の凹線
208	甕 E	SD01C区	28.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			口縁部に3条の沈線
209	甕 F	SD01D区下層	18.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に3条の沈線
210	甕 E	SD01C区	14.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に4条の沈線

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
211	甕 E	SD01A区中層	19.0				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁部に4条の沈線
212	甕 E	SD01E区下層	17.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に4条の沈線
213	甕 F	SD01上層	17.5				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に6条の沈線
214	甕 F	SD01A区	14.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に5条の沈線
215	甕 F	SD01E区上層	14.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に5条の沈線
216	甕 F	SD01A区	14.5				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁部に4条の沈線
217	甕 F	SD01B区中層	16.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に12条の沈線
218	鉢 A	SD01B区上層	16.0		5.0	9.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
219	鉢 A	SD01B区下層	19.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
220	鉢 A	SD01A区下層	17.5		5.0	9.5	ヨコナデ	ハケ	ナデ		ヨコナデ	ナデ	ナデ		
221	鉢 A	SD01B区中層 C区下層	18.5	17.5			ヨコナデ	ナデか	ナデか		ヨコナデ	ナデか	ナデか		
222	鉢 A	SD01B区下層 C区中層	17.0	15.5	4.0	9.0	ヨコナデ	ヘラミガキ	ハケ	凹底	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		口縁部に連続刻み
223	鉢 A	SD01F区下層	18.5				ヨコナデ	ヘラミガキか	ヘラミガキか		ヨコナデ	ヘラミガキか	ヘラミガキか		
224	鉢 A	SD01B区下層	19.5	15.5	3.5	12.0	ヨコナデ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラケズリ ヘラミガキ	ヘラケズリ ヘラミガキ		口縁部に4条の凹線
225	鉢 A	SD01B区下層	23.0	19.0	5.0	11.0	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ ヨコナデ	ハケ ヘラミガキ	ヘラミガキ		口縁部に6条の沈線
226	鉢 A	SD01B区下層	25.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ				口縁部に8条の沈線
227	鉢 A	SD01E区上層	21.0	16.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		胴部外面上半と内面に丹塗
228	鉢 A	SD01E区下層	19.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			
229	鉢 A	SD01	20.0	15.5			ヨコナデ	ヘラミガキ			ヨコナデ				
230	鉢 A	SD01B区	18.0				ヨコナデ								口縁部に1条の沈線
231	鉢 A	SD01A区下層	18.0	14.0	3.0	8.0	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
232	鉢 A	SD01C区下層	15.5				ヨコナデ				ヨコナデ				頸部に2個1対の穴
233	鉢 A	SD01C区下層	24.0	21.5			ヨコナデ	ナデ			ヨコナデ	ヘラミガキか			
234	甕 C	SD01C区中層 下層		24.0	4.0			ハケ	ハケ→ ヘラケズリ			ハケ→ ヘラケズリ	ハケ		胴上部に櫛描文と連続刻み
235	甕 G	SD01A区中層 C区中層 D区		34.0				ハケ	ハケ	ハケ		ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	胴上部に櫛描文と連続刻み 把手が付く
236	鉢 C	SD01F区上層	16.5	9.0	6.0		ハケ	ハケ		凹底	ハケ	ハケ	ハケ		
237	鉢 C	SD01B区下層	18.0		2.0	13.5	ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ	ハケ		
238	鉢 C	SD01C区	20.0		5.0	10.0	ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ	ハケ		
239	鉢 C	SD01B区下層	20.5		3.0	12.5	ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ	ハケ		
240	鉢 C	SD01X13 Y42 X15 Y37 X14・15 Y41・42 上層	18.5		2.0	10.5	ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ	ハケ		

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
241	鉢 C	SD01C区中層	16.5		4.0	12.0	ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ	ヘラケズリ		
242	鉢 C	SD01B区中層	18.5				ハケ	ハケ	ハケ ヘラケズリ		ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
243	鉢 C	SD01B区	20.0		3.0	13.5	ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
244	鉢 C	SD01B区	14.5		1.5	15.5	ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
245	鉢 C	SD01B区上・中層	15.5		5.0	14.5	ヨコナデ	ナデ	ハケ	凹底	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
246	鉢 C	SD01B区中層	18.0		4.5	14.5	ナデ	ナデ	ナデ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
247	鉢 C	SD01B区下層	17.5		3.0	15.5	ハケ	ハケ	ハケ		ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
248	鉢 C	SD01E区上層	17.5		6.0	15.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ	平底	ハケ	ハケ	ハケ		
249	鉢 C	SD01D区下層	16.0				ヨコナデ	ハケ			ハケ	ヘラケズリ			
250	鉢 B	SD01A区 B区下層 C区下層	36.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ				口縁部に3条の凹線 把手がつく
251	鉢 B	SD01A区 B区下層	38.0		8.5	23.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ナデ ヘラケズリ	ハケ ヘラケズリ		片口状になる
252	高杯A	SD01A区・C区中層 D区下層 SK28	28.0	20.0	19.5	20.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	シボリ	ハケ	蓋に転用 穴4カ所
253	高杯A	SD01E区上・下層	27.5	22.0	18.5	21.0	ヨコナデ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラケズリ ナデ	穴4カ所
254	高杯A	SD01A区 SD03C区	24.0	18.5	17.5	20.0	ヨコナデ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ	ハケ	外面と杯部内面を丹塗 穴3カ所
255	高杯C	SD01B区中・下層	16.0	13.5	10.0	11.5	ヨコナデ	ヘラミガキか	ヘラミガキ	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヨコナデ	外面と杯部内面を丹塗 穴3カ所
256	高杯C	SD01C区中層	22.5	19.0	15.0	16.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラケズリ ハケ	
257	高杯C	SD01A区 B区中層	23.5	18.5	16.5	19.5	ヨコナデ	ハケ	ナデ	ハケ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラケズリ ハケ ヨコナデ	
258	高杯A	SD01B区下層	31.0	23.5	21.5	25.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラケズリ ハケ ヨコナデ	把手がつく 穴4カ所
259	高杯A	SD01E区下層 D区下層	30.0	23.5	24.0	26.0	ヘラミガキか	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキか	しぼり ナデ	穴4カ所
260	高杯B	SD01E区上層	27.5	21.0	21.0	22.5	ヨコナデ	ナデ	ハケ	ヘラミガキ ヨコナデ	ハケ ヘラミガキ			ナデ ヨコナデ	
261	高杯B	SD01B区下層	29.0	25.0	21.0	24.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ ヨコナデ	穴4カ所
262	高杯B	SD01B区中層 下層 C区下層	31.0	19.5	20.5	22.0	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ハケ ヨコナデ	把手がつく 穴4カ所
263	高杯D	SD01D区													脚部に連続刺突 穴2個1対 4カ所
264	高杯D	SD01D区下層 SD03A区 SD05B区	30.0	13.0			ヨコナデ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ		口縁部内側にS字スタンプ文 4本組の粘土帯5カ所 内外面に丹塗り
265	高杯A	SD01E区中・下層 C区下層	26.0	22.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ						
266	高杯C	SD01C区	28.0	21.5			ヨコナデ→ ヘラミガキ	ヨコナデ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		蓋に転用
267	高杯C	SD01B区中・下層	26.5	21.5			ヨコナデ→ ヘラミガキ	ヨコナデ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
268	高杯C	SD01C区・D区下層 SD03A区 SD05A区上層	26.0	21.0			ヨコナデ→ ヘラミガキ	ヨコナデ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ	口縁部に1条の沈線 穴4カ所
269	高杯C	SD01E区上・下層	27.0	22.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラケズリ ハケ	
270	高杯C	SD01A区 SD03C区上層	24.0	21.0			ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか		

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
271	高杯C	SD01	27.0	24.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	しぼり	口縁部に1条の沈線 穴4カ所
272	高杯A	SD01E区上層	25.5	20.0			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラミガキか		ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキか		
273	高杯A	SD01	30.0	22.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキか		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキか		
274	高杯A	SD01A区 SK28 SK29	31.5	25.0			ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ		
274	高杯C	SD01D区下層	27.5	21.0			ヨコナデ	ヨコナデ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキか	ヘラケズリ	
275	高杯E	SD01D区中・下層	19.5	14.0			ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
277	高杯A	SD01B区上層 C区下層	28.0	22.5			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
278	高杯A	SK28 SD01B区中層	27.0	20.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
279	高杯A	SD01C区下層	25.0	18.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキか	ヘラケズリ	
280	高杯A	SD01B区下層 C区上層	27.5	20.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキか	ナデか	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ナデか	
281	小型高杯	SD01B区下層	12.0	9.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
282	小型高杯	SD01E区下層	14.0	10.5			ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
283	高杯F	SD01C区下層	16.0				ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
284	高杯A	SD01B区中層			21.0					ヘラミガキ				ハケ	蓋に転用 穴4カ所
285	高杯C	SD01C区中層			16.5					ハケ→ ヘラミガキ				ヘラケズリ ヨコナデ	穴4カ所
286	高杯C	SD01E区			17.0					ハケ ヨコナデ				ヘラケズリ ヨコナデ	蓋に転用
287	高杯C	SD01B区下層			16.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ ハケ ヨコナデ				ヨコナデ	穴4カ所
288	高杯C	SD01B区下層			17.0					ハケ				ヘラケズリ ヨコナデ	蓋に転用 穴4カ所
289	高杯C	SD01A区下層			19.0					ヘラミガキ				ハケ ヨコナデ	穴3カ所
290	高杯C	SD01B区下層			17.5					ヘラミガキ				ハケ ヨコナデ	蓋に転用
291	高杯C	SD01A区			17.0					ハケ→ ヘラミガキ				ハケ	穴3カ所
292	高杯C	SD01A区下層 B区下層			19.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキか	ヘラケズリ ハケ ヨコナデ	
293	高杯C	SD01			18.5				ヘラミガキ	ヘラミガキ				ハケ	穴4カ所
294	高杯C	SD01E区上層			15.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラケズリ ヨコナデ	蓋に転用 穴3カ所
295	高杯A	SD01C・D区下層			24.5					ヘラミガキ				ハケ	蓋に転用 穴2個1対　4カ所
296	高杯A	SD01C区中層			22.0					ヘラミガキか				ハケか	穴4カ所
297	高杯A	SD01A区 C区			24.0					ヘラミガキ				ハケ	蓋に転用 穴4カ所
298	高杯A	SD01C区			20.0					ヘラミガキ				ハケ	蓋に転用
299	高杯A	SD01			21.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ				ハケ	穴4カ所
300	高杯B	SD01B区			21.0					ヘラミガキ				ハケ ヨコナデ	穴4カ所

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
301	高杯B	SD01E区上層			21.5				ハケ→ヘラミガキ	ヘラミガキ ヨコナデか				ヨコナデ	穴4カ所
302	高杯B	SD01E区上層			20.5					ハケ→ヘラミガキ			ハケ	ハケ	
303	高杯B	SD01			18.5					ハケ→ヘラミガキか				ハケ→ヨコナデ	脚部内面に切痕
304	高杯B	SD01B・C・D区下層			22.0					ヘラミガキ				ハケ ヨコナデ	穴4カ所
305	高杯D	SD02 SD01B・D区下層			28.0					ヘラミガキ				ヘラミガキか	脚部にS字スタンプ文
306	高杯D	SD01C区			19.0					ヘラミガキ				ハケ→ヨコナデ	脚部にS字スタンプ文
307	高杯D	SD01 SD03D区上層			23.5					ヘラミガキ				ヨコナデ	脚部にS字スタンプ文
308	高杯D	SD01A区下層			20.0					ヘラミガキ				ハケ	脚部にS字スタンプ文
309	高杯D	SD01			26.0					ヘラミガキ				ヨコナデ	脚部に連続刺突
310	高杯D	SD01B区穴・16 SD03C区			22.0					ヘラミガキ				ヨコナデ	脚部に連続刺突
311	高杯D	SD01			22.0					ヘラミガキ				ハケ	脚部に5条の沈線
312	高杯D	SD01C区下層			17.5					ヘラミガキ				ヘラミガキ ヨコナデ	脚部に連続刺突
313	器台C	SD01D区下層	22.0		20.5	19.0	ヨコナデ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラケズリ ハケ ヨコナデ	穴4カ所
314	器台C	SD01B区下層 D区	20.5		16.5	18.5	ヨコナデ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ヨコナデ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ヨコナデ	
315	器台C	SD01D区	12.5		11.5	10.5	ヨコナデ	ヨコナデ	ハケ	ナデ	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ→ナデ	口縁部に1条の沈線
316	器台C	SD01B・C区	18.0		14.5	16.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ ヨコナデ	
317	器台C	SD01B区上層	19.5		15.5	17.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ナデ ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ヘラケズリ	
318	器台C	SD01X18Y38	22.5		18.5	18.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ→ヘラミガキ ヨコナデ	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ ヨコナデ	口縁部内面にヘラ描文
319	器台D	SD01A区	23.0		19.0	19.5	ヨコナデ	ハケ ナデ	ヘラミガキ	ナデ ハケ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラケズリ ナデ ハケ	穴4カ所・2段
320	器台D	SD01D区中層	22.0				ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		口縁部に2条の凹線 穴4 所・3段
321	器台D	SD01E区上層	27.0		22.0	22.0		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラケズリ	ハケ ナデ	口縁部に2個1対円形浮文 穴4カ所・2段タカ
322	器台D	SD01B・C区下層	21.5				ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ	
323	器台C	SD01B区下層	20.0				ヨコナデ	ヘラミガキ			ヨコナデ	ヘラミガキ			口縁部に2条の凹線
324	器台A	SD01A区中・下層			17.0				ハケ	ナデか ハケ→ヘラミガキ				ハケ ヨコナデ	穴4カ所
325	器台A	SD01上層			19.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキか	ヘラケズリ	ハケ ヨコナデ	穴4カ所・2段
326	器台B	SD01上層	22.5	18.5	18.0	20.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラケズリ ヨコナデ	外面と杯部内面を丹塗 穴3カ所
327	器台A	SD01A区 C区中層	26.5	6.5	19.0	21.5	ヨコナデ	ヨコナデ	ハケ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ ヨコナデ	穴4カ所
328	器台A	SD01C・D区中層	25.0	19.0	19.0	23.5	ヨコナデか	ヨコナデか	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヨコナデ	穴大4カ所小4カ所
329	器台A	SD01E区上層	27.0	21.0	18.0	23.0	ヘラミガキ	ヘラミガキか	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラケズリ	ハケ ナデ	口縁部外面・杯部内面を丹塗・穴4カ所 脚部に11条の沈線
330	器台A	SD01D区下層 SD03C区	24.5	17.5	17.5	20.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
331	器台B	SD01F区下層	23.0	16.5			ヨコナデ	ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか		穴4カ所
332	器台A	SD01B区下層 E区上層			21.0				ハケ→ヘラミガキ	ヘラミガキ				ハケ ヨコナデ	外面丹塗
333	器台D	SD01F区上層			22.0					ヘラミガキ ヨコナデ				ヘラミガキ ヨコナデ	穴4カ所2段
334	蓋	SD01B区下層	14.5		5.5	9.0	ヨコナデ	ハケ	ナデ		ヨコナデ	ハケ			
335	蓋	SD01B区	13.5		2.5	3.5					ハケ	ナデ	ナデ		
336	蓋	SD01			6.0				ナデ				ナデ		
337	蓋	SD01D区下層						ハケ							
338	把手	SD01D区下層						ヘラミガキ							
339	把手	SD01B区													
340	小型鉢	SD01	10.5		6.0	8.5		ハケ	ハケ			ヘラケズリ	ヘラケズリ		把手がつく
341	小型鉢	SD01下層	13.0	13.5			ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ	ハケ		
342	小型甕	SD01C区下層	9.5	8.5			ヨコナデ				ヨコナデ				
343	小型鉢	SD01E区上層	15.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ ナデ			有孔
344	小型甕	SD01C区下層	8.5	7.0	3.5	7.0	ヨコナデ	ナデ	ナデ		ヨコナデ	ナデ	ナデ		
345	小型甕	SD01B区	9.0	8.0	4.5	7.0	ナデ	ハケ	ハケ		ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
346	小型甕	SD01B区	9.0	7.0	2.0	7.0	ナデ	ハケか	ハケか		ナデ	ナデか	ナデか		
347	小型甕	SD01E区上層	10.0	10.0	3.0	10.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ヘラケズリか	ヘラケズリか		
348	小型甕	SD01B区	10.0	8.0			ヨコナデ	ナデ			ヨコナデ	ナデ			
349	小型甕	SD01C区下層	9.0	8.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ナデ	ナデ		
350	小型甕	SD01B区	9.0	9.0	4.0	6.5	ヨコナデ	ナデ	ナデ	凹底	ヨコナデ	ナデ	ナデ		
351	小型甕	SD01B区下層	11.0	8.0	3.5	8.0	ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
352	小型甕	SD01 ㊺	6.0	5.5	2.5	5.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
353	小型甕	SD01下層	11.5	9.5	2.0		ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
354	小型甕	SD01A区下層	12.0	9.0	2.0	6.8	ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
355	小型鉢	SD01A区	12.5		4.0	6.5	ナデ	ハケ	ハケ		ナデか	ナデか	ナデか		
356	小型鉢	SD01D区下層	11.5		3.0	7.0	ナデ	ナデか	ハケ		ナデか	ナデか	ハケ		
357	小型鉢	SD03B区	8.0		3.0	6.0	ヨコナデ	ハケか	ハケか		ヨコナデ	ヘラケズリ	ナデ		
358	小型鉢	SD01D区下層	6.5		4.0	5.0	ヨコナデ				ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
359	小型鉢	SD01B区下層	9.0		3.0	6.5	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
360	小型鉢	SD01 X3・4 Y38	7.0		3.5	5.0	ハケ	ハケ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
361	小型鉢	SD01B区	7.0		5.0	4.0	ナデ	ナデ	ナデ		ハケ	ハケ	ハケ		
362	小型鉢	SD01B区下層	6.5		3.0	4.0	ナデ	ナデ	ナデ	凹底	ハケ	ハケ	ハケ		
363	小型鉢	SD01C区	5.5		1.5	4.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
364	小型鉢	SD01	4.5			3.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
365	小型鉢	SD01C区下層	13.5				ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ	ナデ	
366	小型鉢	SD01A区	10.5				ハケ	ハケ	ナデ		ナデ	ハケ	ハケ		
367	小型鉢	SD01D区下層	9.0		4.5	6.0	ハケ	ハケ	ハケ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
368	小型壺	SD01A区中層	2.5	4.0	3.5	4.5	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
369	小型壺	SD01B区	3.5	5.0	3.5	4.5	ヨコナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
370	小型壺	SD01E区下層	3.5	7.0	4.5	4.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
371	小型鉢	SD01B区下層	5.5		3.5	4.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
372	壺 G	SD02B区	13.0	19.0	5.0	27.5	ヨコナデ	ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
373	甕 E	SD02	19.5	22.0			ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ→ ナデ	ハケ		口縁部・胴上部に連続刻み
374	甕 A	SD02B区	17.0	16.0	4.0	18.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
375	甕 B	SD02A区	15.0	15.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
376	甕 F	SD02B区	30.0	33.0	8.0	36.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
377	壺 G	SD02B区	12.5				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ				
378	壺 G	SD02	11.0				ハケ				ハケ				
379	壺 G	SD02	14.0				ヨコナデ				ヨコナデ ハケ				
380	壺 I	SD02	9.0	17.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ナデか	ナデか	ナデか		把手がつく
381	壺 A	SD02B区	19.5				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			頸部に1条の沈線
382	甕 A	SD02	15.5				ヨコナデ	ハケ			ハケ	ヘラケズリ			
383	甕 A	SD02	23.0				ハケ				ハケ				口辰部に押圧
384	甕 F	SD02C区	13.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリか			
385	甕 F	SD02A区	16.0												
386	甕 F	SD02B区	20.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
387	甕 F	SD02B区東	18.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に連続刻み
388	甕 F	SD02	18.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
389	甕 F	SD02	15.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
390	甕 F	SD02A区	17.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
391	甕 F	SD02B区	19.0				ヨコナデ	ハケか			ヨコナデ	ハケ			
392	甕 F	SD02	17.0	15.5			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
393	底部	SD02B区西			6.0				ハケ						
394	底部	SD02A区			4.5 6.5				ナデ				ハケ		
395	鉢 A	SD02	18.5	14.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			口縁部内外丹塗
396	高杯E	SD02	24.0	19.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
397	高杯B	SD02B区 SD04C区			24.0					ハケ→ ヘラミガキ ヨコナデ				ハケ ヨコナデ	
398	器台A	SD02			21.0									ヨコナデ	脚部に14条の沈線 蓋に転用
399	器台A	SD02 SD03 SD23	30.0	21.0	24.0	21.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ ヨコナデ	
400	器台A	SD02B区	25.0	18.5	21.0	25.0		ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ ヨコナデ	口縁部に8条・脚部に11条の沈線
401	小型甕	SD02	12.5		4.5	9.5	ヨコナデ	ハケ ナデ	ナデ		ヨコナデ	ナデ	ナデ		
402	小型鉢	SD02	8.5		3.5	5.0	ナデ	ナデ	ナデ			ハケ	ハケ		
403	壺 A	SD03B区	18.0	30.0	7.0	36.0	ヨコナデ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ		ヨコナデ	ハケ ヘラケズリ	ハケ ナデ		口縁部内外・胴部上半丹塗 被籠土器
404	壺 C	SD03D区	18.0				ヨコナデ ナデ	ハケ			ヨコナデ ハケ ナデ	ハケ			
405	壺 A	SD03D区	15.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ナデ			
406	壺 A	SD03D区	12.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ナデ			
407	壺 B	SD03D区	10.0	14.0	2.5	12.0	ヨコナデ	ヘラミガキか	ヘラミガキか		ヨコナデ	ヘラミガキか	ヘラミガキ		口縁部に穴 外面と内面丹塗
408	壺 B	SD03A区下層	10.5	12.0	3.0	11.0	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラケズリ ヘラミガキ	ヘラミガキ		
409	壺 B	SD03B区	15.5	15.0	2.5	13.0	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		口縁部に6条の沈線
410	壺 B	SD03C区 SD05A区	14.0	14.5	3.5	12.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラミガキか	ヘラミガキ ハケ		胴上部に鋸歯文 口縁部に5条の沈線
411	壺 G	SD03B区	13.5	19.0	6.5	34.0	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		口頸部に3条の凹線 被籠土器
412	壺 G	SD03C区	12.0	17.5			ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ		ハケ	ハケ ナデ	ハケ→ ナデ		
413	壺 E	SD03B区	13.0	22.0	5.0	26.0	ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ		ヨコナデ ハケ	ナデ	ハケ		
414	壺 E	SD03B区 SD05B区	14.0	20.5			ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ		ヨコナデ ハケ	ナデ	ハケ		
415	壺 D	SD05D区		29.0	7.0			ハケ ヘラミガキ	ハケ ヘラミガキ			ヘラケズリか	ヘラケズリ		
416	壺 E	SD03B区		19.0			ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ナデ	ハケ		
417	壺 A	SD03D区	15.5				ヨコナデ				ヨコナデ ハケ	ハケ			
418	壺 G	SD03C区上層	13.5				ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ヘラケズリ ハケ			
419	壺 G	SD03A区下層 B区	14.0				ハケ	ハケ			ハケ	ナデ			胴上部にヘラ描文
420	壺 G	SD03A区	13.5				ハケ	ハケ			ハケ	ヘラケズリ			

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
421	壺 A	SD03A区	14.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ				口縁部に2条の凹線
422	壺 A	SD03D区	13.0				ヨコナデ ナデ	ハケ			ヨコナデ ハケ				頸部に竹管文1個以上
423	壺 A	SD03D区上層	13.5												
424	壺 A	SD03B区	12.0				ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ナデ			
425	壺 E	SD03D区上層	13.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に2条の沈線 頸部に3個の竹管文
426	壺 A	SD03A区	15.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ				口縁部に2条の沈線 頸部に4個の竹管文
427	壺 A	SD03D区	15.5				ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に2条の凹線 頸部に5個の竹管文
428	壺 A	SD03C区上層	18.5				ヨコナデ	ヘラミガキ			ヨコナデ ヘラミガキ	ハケ ヘラケズリ			
429	壺 A	SD03下層	11.0				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁部に4条の凹線
430	壺 F	SD03B区	17.5				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ				
431	壺 H	SD03	9.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ ナデ				
432	甕 A	SD03A区下層	19.0	25.0			ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ ヘラケズリ	ハケ ヘラケズリ		
433	甕 A	SD03D区	14.5	16.5	4.5	16.5	ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ	ハケ		
434	甕 A	SD03A区	17.5	11.5	3.5	19.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
435	甕 C	SD03D区上層	13.0	18.5	6.5	25.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ	ハケ		
436	甕 C	SD03A区下層	13.5	15.0	4.0	14.5	ヨコナデ	ハケ→ ナデ	ハケ→ ナデ		ヨコナデ	ハケ→ ヘラケズリ	ヘラケズリ		頸部に2個1対の穴2カ所
437	甕 F	SD03A区下層	15.5	16.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
438	甕 F	SD03A区下層	14.0	14.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		胴上部に連続刻み
439	甕 F	SD03C区上層	15.5	22.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ ヘラケズリ	ヘラケズリ		胴上部に連続刻み
440	甕 A	SD03A区 D区	25.5				ハケ	ハケ			ハケ	ハケ			
441	甕 A	SD03D区	19.5				ハケ	ハケ			ハケ	ハケ			
442	甕 A	SD03	14.0				ハケ	ハケ			ハケ	ヘラケズリ			
443	甕 A	SD03C・D区中層	18.0	15.5			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
444	甕 A	SD03C区中層	19.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
445	甕 A	SD03A区	14.0	13.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
446	甕 A	SD03	20.0	18.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
447	甕 D	SD03C区	18.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
448	甕 C	SD03	16.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
449	甕 D	SD03A区	16.0	15.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
450	甕 D	SD03A区	20.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
451	甕 C	SD03C区	14.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ ナデ			
452	甕 C	SD03A区下層	16.0	15.0			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ナデ			
453	甕 B	SD03A区	10.0	9.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ナデ	ナデ		
454	甕 B	SD03C区上層	10.0	9.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		口縁部に2条の沈線
455	甕 B	SD03B区	10.5	10.0	3.5	10.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
456	甕 D	SD03A区	16.0	14.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
457	甕 D	SD03A区	13.0	12.0			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
458	甕 D	SD03A区	16.0	15.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
459	甕 D	SD03D区上層	14.0	13.5			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ	ハケ		
460	甕 B	SD03C区	15.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に1条の凹線
461	甕 B	SD03下層	18.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に1条の凹線
462	甕 E	SD03A区下層	16.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ				
463	甕 E	SD03D区上層	20.0	23.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ	ハケ		
464	甕 F	SD03A区下層	14.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
465	甕 F	SD03D区上層	15.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
466	甕 F	SD03B区	15.0	13.5			ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			
467	甕 F	SD03C区	16.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ナデ			
468	甕 F	SD03上層	21.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
469	甕 F	SD03B区	18.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			
470	甕 F	SD03	18.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
471	甕 F	SD03C区	19.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
472	甕 F	SD03C区	18.5	20.0			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ヘラケズリ			
473	甕 E	SD03C区	18.5	18.5			ヨコナデ	ナデ			ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
474	甕 F	SD03C区上層	17.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に2条の凹線
475	甕 F	SD03A区	17.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に2条の凹線
476	甕 F	SD03	18.5				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に4条の凹線
477	甕 F	SD03A区	18.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に3条の凹線
478	甕 F	SD03C区	17.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ				口縁部に連続刻み
479	甕 F	SD03C区	15.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			口縁部と胴上部に連続刻み
480	甕 F	SD03C区	17.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			胴上部に連続刻み

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
481	甕 F	SD03D区西上層	19.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			口縁部と胴上部に連続刻み
482	甕 F	SD03C区	19.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に4条の凹線と胴上部に連続刻み
483	甕 F	SD03A区下層 C区	34.0	34.0			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			胴上部に連続刻み
484	甕 F	SD03A区下層	29.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
485	壺	SD03		15.5	2.0			ハケ	ハケ			ヘラケズリ	ヘラケズリ		
486	甕	SD03D区上層		14.0	4.0			ハケ	ハケ			ヘラケズリ	ヘラケズリ		
487	鉢 A	SD03C区	18.5	15.5	4.0	10.0	ヨコナデ	ナデか	ヘラケズリ		ヨコナデ	ナデか	ヘラケズリ		
488	鉢 A	SD03B区	18.0	15.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		口縁部に3条の沈線
489	鉢 A	SD03	25.0	19.5	3.0	12.0	ヨコナデ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ		ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ		口縁部に4条の沈線
490	鉢 A	SD03B区	18.0	14.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリか			口縁部に5条の凹線
491	鉢 A	SD03C区上層	15.0	13.5	2.5	11.0	ヨコナデ				ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラケズリ			
492	鉢 A	SD03C区	17.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ			
493	小型壺	SD03A区	12.0	16.5	3.0	11.5	ヨコナデ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ		ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ヘラミガキ		口縁部に2条の凹線
494	鉢 A	SD03B区	20.5	17.5			ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
495	小型壺	SD03B区下層	12.5	18.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヨコナデ	ハケ→ナデ		
496	鉢 C	SD03D区	16.0		4.0	14.0	ハケ	ハケ	ハケ		ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
497	壺 I	SD03A区下層	7.0	14.0			ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ナデ	ナデ		
498	壺 I	SD03D区	17.0	18.5	12.0	15.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ	
499	壺 I	SD03B区	8.0	11.5											
500	高杯A	SD03A区下層 C区 D区	32.0	25.0	25.0	28.0	ヘラミガキ	ヘラミガキか	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキか	ヨコナデ	把手がつく 穴4カ所
501	高杯A	SD03A区下層 SD01D区下層	32.0	25.0	23.5	25.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ	把手がつく 穴4カ所
502	高杯C	SD03	24.0	19.5	18.0	17.0	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ハケ ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヨコナデ	穴4カ所
503	高杯C	SD03A区	25.5	19.5			ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
504	高杯A	SD03B区	30.5	22.0			ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
505	高杯A	SD03A区	27.0				ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか		ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか		
506	高杯F	SD03B区	14.0		14.0	13.0	ヨコナデか	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキ	ヨコナデか	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ハケ ヨコナデ	
507	高杯F	SD03D区	16.5		13.5		ヨコナデ	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ナデ	穴3カ所
508	高杯F	SD03D区	15.0		10.0	9.5	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ	
509	高杯F	SD03D区	14.0				ヨコナデか	ヘラミガキか	ヘラミガキか		ヨコナデか	ヘラミガキか	ヘラミガキか		口縁部外面に丹塗り
510	高杯F	SD03A区	15.0				ヨコナデか	ヘラミガキか	ヘラミガキか		ヨコナデか	ヘラミガキか	ヘラミガキか		

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
511	高杯F	SD03A区	16.0				ヨコナデ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデか	ヘラミガキか	ヘラミガキか		
512	高杯C	SD03A区下層			16.5				ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ			ヘラミガキか	ヨコナデ	穴4カ所
513	高杯C	SD03C区			11.5				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキか	ハケ	穴4カ所
514	高杯A	SD03A区			20.0				ヘラミガキか	ヘラミガキか			ヘラミガキか	ハケ	穴4カ所
515	高杯C	SD03D区上層			17.5				ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ			ヘラミガキか	ハケ	穴4カ所
516	高杯C	SD03C区			14.5					ハケ→ヘラミガキ				ハケ ヨコナデ	
517	高杯C	SD03B区			14.0					ハケ→ヘラミガキ				ハケ	蓋に転用 穴4カ所
518	高杯F	SD03D区			13.0				ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ			ナデか	ハケ	
519	高杯D	SD03D区								ヘラミガキ				ハケ	脚部に連続刺突
520	高杯D	SD03A区								ヘラミガキ				ハケ	外面丹塗 脚部に連続刺突
521	高杯D	SD03A区								ヘラミガキ				ハケ	外面丹塗 脚部に連続刺突
522	器台C	SD03A区	19.5		17.0	15.5	ヨコナデ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ ヨコナデ	穴4カ所
523	器台C	SD03B区 C区上層	17.0		13.5	14.5	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ハケ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	外面・杯部内面丹塗 穴4カ所
524	器台C	SD03D区上層	24.0				ヨコナデ	ハケ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		口縁部に4条の凹線
525	器台B	SD03B区	23.0	13.5	16.5	20.5	ヨコナデか	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ハケ→ヘラミガキか	ヨコナデか	ヘラミガキ	ヘラミガキか	ナデか	
526	器台A	SD03A区下層	26.0	18.5	19.0	23.0	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ヘラミガキか	ハケ ヨコナデ	胴上部に2条の沈線 穴4カ所
527	器台A	SD03A区下層 C区上層	26.5	21.0	19.5	25.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ→ナデ	穴4カ所2段
528	器台A	SD03D区上層	25.0	17.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		蓋に転用
529	器台A	SD03B区	27.5	22.0			ハケ→ヘラミガキか	ハケ→ヘラミガキか	ハケ→ヘラミガキか		ハケ→ヘラミガキか	ハケ→ヘラミガキか	ハケ→ヘラミガキか		
530	器台B	SD03C区上層 D区			15.0					ハケ→ヘラミガキ				ハケ	
531	器台C	SD03A区下層			17.5					ヘラミガキ				ハケ	
532	器台A	SD03D区			19.0				ハケ→ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ				ハケ ヨコナデ	穴3カ所
533	器台B	SD03D区			21.0				ハケ	ハケ→ヘラミガキか			ハケ	ハケ	
534	器台D	SD03A区			18.0				ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ ヨコナデ				ハケ	穴4カ所2段
535	器台C	SD03B区			18.0					ハケ→ヘラミガキ ヨコナデ				ハケ ヨコナデ	脚部に3条の沈線
536	蓋	SD03	14.0		4.5	5.0	ハケ	ハケ	ハケ	ナデ	ハケ	ハケ	ハケ		
537	蓋	SD03C区西上層	11.0		4.0	5.0	ナデか	ナデか	ナデか		ナデか	ナデか	ナデか		天井部有孔
538	蓋	SD03A区下層			3.5			ハケ							天井部有孔
539	小型高杯	SD03D区	8.0	7.0	6.0	6.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデか	
540	把手	SD03D区上層													

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
541	把手	SD03C区						ハケ ナデ							
542	小型甕	SD03A区	11.0		2.0	7.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
543	小型甕	SD03B区	11.5	9.5	3.5	8.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
544	小型鉢	SD03D区	8.0		3.5	7.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
545	小型鉢	SD03A区	13.0		3.5	7.0	ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ	ハケ		
546	小型鉢	SD03A区下層	11.0		4.5	8.0	ヨコナデ	ナデ	ナデ		ヨコナデ	ハケ	ハケ		
547	小型鉢	SD03C区上層	9.0		3.5	5.5	ナデか	ナデか	ナデか		ナデか	ナデか	ナデか		
548	小型鉢	SD03B区	8.0	7.0	4.0	5.5	ヨコナデ	ナデ	ナデ		ヨコナデ	ナデ	ナデ		
549	小型鉢	SD03	7.0		3.5	5.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
550	小型鉢	SD03A区下層	11.0	12.0			ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ナデ	ナデ		
551	小型壺	SD03A区下層	8.5	11.0	5.0	9.0	ナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ナデ	ヘラミガキ	ヘラケズリ		
552	小型鉢	SD03D区	8.5	9.5	5.0	6.0	ヨコナデ	ナデ	ナデ	凹底	ヨコナデ	ナデ	ナデ		
553	小型鉢	SD03D区	8.5		3.0	4.5	ヨコナデ	ナデ	ナデ		ヨコナデ	ナデ	ナデ		
554	小型鉢	SD03A区	9.0		4.5	5.0	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ハケ	ハケ	ハケ		
555	小型鉢	SD03A区	10.0		4.0	6.0	ヨコナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		
556	小型鉢	SD03A区	12.0		5.0	7.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ナデ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ	
557	小型鉢	SD03	10.0		5.0	7.5	ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ハケ	ハケ	ナデ		
558	小型鉢	SD03C区	10.5		4.0	7.5	ハケ	ナデ	ナデ	ナデ	ハケ	ハケ	ハケ		
559	小型鉢	SD03D区	9.0		4.5	8.5	ハケ	ハケ	ハケ	ナデ	ハケ	ハケ	ハケ		
560	壺 A	SD04	11.5	24.5			ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ		ヨコナデ	ハケ	ハケ		
561	壺 G	SD04D区	12.0	16.5	15.5	27.0	ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ		ヨコナデ ハケ ナデ	ナデ	ヘラケズリ		
562	甕 C	SD04C区	15.0	20.5			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
563	甕 C	SD04	16.0	20.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ→ ナデ	ハケ→ ナデ		
564	甕 F	SD04	22.0				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ				口縁部に3条の凹線
565	甕 E	SD04B区上・中層	24.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
566	甕 E	SD04	22.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			
567	甕 F	SD04	18.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ハケ			
568	甕 F	SD04C区	20.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			
569	甕 C	SD04A区	14.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ハケ			
570	甕 E	SD04C区	15.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ハケ			

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
571	甕 E	SD04A区	18.5	20.5			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
572	壺 G	SD04C区		19.0	4.0			ハケ	ハケ			ヘラケズリ	ヘラケズリ		
573	壺 G	SD04E区			9.0				ナデ				ナデ		
574	甕 A	SD04C区		11.0	4.0			ハケ	ハケ			ハケ ヘラケズリ	ヘラケズリ		
575	底部	SD04C区			3.5				ハケ				ヘラケズリ		
576	高杯C	SD04C区	23.0	16.0			ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
577	甕 F	SD10	20.5	22.5	4.0	25.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
578	甕 B	SD10	16.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			胴上部に連続刻み
579	甕 E	SD10	21.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ				
580	甕 B	SD10	17.0	19.0			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ナデ ハケ			口縁部に連続刻み
581	高杯D	SD03A区								ヘラミガキ				ナデ	脚台部に連続刻み
582	壺 F	SD03 SD05A区		21.5			ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ		ヨコナデ ハケ	ナデ	ナデ		
583	壺 G	SD05A区	10.0	18.0			ハケ	ハケ	ハケ		ハケ→ ナデ	ハケ	ハケ		
584	甕 E	SD05B区東	15.0	16.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
585	甕 C	SD05B区	16.0	15.0			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
586	壺 G	SD05B区	11.5				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			
587	鉢 C	SD05B区	13.5				ヨコナデ	ナデか			ヨコナデ	ナデか	ヘラケズリ		
588	小型鉢	SD05A区	6.0		8.5	10.0	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ	
589	甕 C	SD05B区	16.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
590	甕 E	SD05B区	18.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
591	鉢 A	SD05A区	22.0				ヨコナデ	ヘラミガキ			ヨコナデ	ヘラミガキ			口縁部に1条の沈線
592	小型壺	SD05A・B区	9.0	11.5	3.0	6.5	ヨコナデ	ナデ	ナデ		ヨコナデ	ハケか	ハケか		
593	小型壺	SD05	4.0	5.0	3.0	5.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
594	小型鉢	SD05D区	6.5		4.5	5.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
595	壺 G	SD23	13.5				ヨコナデ ハケ				ヨコナデ ハケ				
596	甕 F	SD23	19.0				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			
597	高杯F	SD23	16.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
598	高杯C	SD23			19.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ				ハケ ヨコナデ	蓋に転用
599	小型鉢	SD23	5.5		3.0	3.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
600	底部	SD23			3.5				ハケ				ヘラケズリ		

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
601	小型鉢	SD06	9.5		4.5	4.0	ナデ	ナデ	ナデ		ハケ	ハケ	ハケ		
602	小型鉢	SD06	12.5		3.0	7.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ナデ	ナデ		
603	壺 A	SD09C区	17.0				ヨコナデ								口縁部に1条の沈線
604	甕 F	SD09C区	19.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ				
605	土師器杯底部	SD12B区			6.0					回転糸切り					
606	壺 G	SE26	12.0	15.0	3.0	27.0	ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ヨコナデ	ナデ	ナデ		頸部に1条の沈線
607	器台D	SE26			14.5					ハケ→ ヘラミガキ				ハケ ヨコナデ	
608	壺 A	SK27	16.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
609	底部	SK27 SD01B区下層			5.0				ヘラミガキ				ナデ		
610	甕 C	SK28	15.0	20.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ	ハケ		
611	甕 F	SK28	21.5				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁部に2条の凹線
612	高杯C	SK28			13.5					ヘラミガキ				ナデ	穴4カ所
613	鉢 A	SK31	14.0	14.5	4.0	13.0	ヨコナデ	ヘラミガキか	ヘラミガキか		ヨコナデ	ナデか	ナデか		外面口頸部内面を丹塗り
614	甕 F	SK29	15.5				ヨコナデ	ハケ			ハケ	ハケ			
615	小型鉢	SK29	6.0		3.5	3.5	ヨコナデ	ナデ	ナデ		ヨコナデ	ナデ	ナデ		
616	壺 G	SD08	14.0	21.0			ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ→ ナデ		ハケ	ナデ	ハケ		
617	壺 G	X11・12 Y41・42	12.0	16.5	2.5	26.5	ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		頸部に竹管文
618	壺 G	X10 Y40	11.0	17.5	6.5	23.0	ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ナデ ハケ	ハケ		
619	壺 G	SD08	15.0				ヘラミガキ	ハケ→ ヘラミガキ			ヨコナデ ハケ	ハケ			
620	壺 G	SD02	16.5				ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ ハケ	ナデ			口縁部に5～6条の沈線 頸部に竹管文
621	壺 G		12.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			頸部に1条の沈線
622	壺 G	X11・12 Y41・42	13.5				ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ナデ	ヘラケズリ			頸部に部分的に丹塗り
623	壺 F	X11・12 Y41—43	14.0				ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ナデ			
624	壺 A	X17・18 Y32	18.0				ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヨコナデ	ハケ			頸部に1条の沈線
625	壺 A	X20 Y27	15.5				ヨコナデ	ハケ→ ヘラミガキ			ヨコナデ	ナデ			頸部に1条の沈線
626	鉢 A		24.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			
627	鉢 A	X13 Y40 黒砂	19.5	15.0	4.0	10.0	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラミガキか	ヘラミガキか		口縁部に1条の沈線
628	鉢 A	X20 Y26	27.5				ヨコナデか				ヨコナデ				
629	小型鉢	B区	14.0	13.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ→ ヘラミガキか			
630	甕	X20 Y28	15.5	13.0			ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ→ ナデ	ハケ→ ナデ		口縁部内側が押圧で小波状になる

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
631	甕	X22 Y31	18.0		4.5		ハケ	ハケ	ハケ			ハケ	ハケ		口縁部内側に櫛描文
632	631の底部	X22 Y31													
633	甕 B	X11・12 Y41・42	18.0		5.0		ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ ハケ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
634	甕 E	X11・12 Y41・42	19.0	19.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ハケ	ハケ		
635	甕 E	X16—26 Y35	17.5	15.0			ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ナデ	ナデ		口縁部に連続刺突 胴上部に8条の櫛描文
636	甕 A	X11・12 Y21・42	17.5				ハケ	ハケ			ハケ	ヘラケズリ			
637	甕 C	トレ129	17.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
638	甕 C	D区	15.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
639	甕 A	X5・6 Y28・29	13.5	12.5			ハケ	ハケ			ハケ	ナデ			
640	甕 A	X18 Y28	16.0	14.0			ハケ	ハケ			ハケ	ヘラケズリ			
641	壺 B	X10 Y37・38	15.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
642	甕 B	X7—11 Y32—34	19.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ				胴上部に連続刺突
643	甕 B	X11・12 Y41・42	16.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
644	甕 E		18.0				ヨコナデ	ハケ			ハケ ヨコナデ	ヘラケズリ			
645	甕 F		17.5				ヨコナデ	ハケか			ヨコナデ	ヘラケズリ			
646	甕 E	X21 Y25	19.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
647	甕 E	X19 Y29・30	15.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に1条の凹線
648	甕 E	X21・22 Y35 上層	13.0	11.5			ヨコナデ				ヨコナデ				
649	甕 E	X14 Y32	14.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ナデ			
650	甕 F	X18 Y38	15.0	15.5			ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
651	甕 F	X13—15 Y14・15	18.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
652	甕 E	X13—15 Y36—38	16.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
653	鉢 C	D区下層	17.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ハケ			
654	甕 F	X21 Y31・32	17.5				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			
655	甕 F	X11・12 Y30・31	21.5				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			
656	甕 F	X11・12 Y41・42	16.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			胴上部に連続刻み
657	甕 F	X21 Y31・32	19.0				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
658	甕 E	X9 Y38・39	15.5				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁部に2条の凹線
659	甕 F	X20 Y25	24.0				ヨコナデ ハケ	ハケ			ヨコナデ ハケ	ヨコナデ			口縁部に3条の凹線
660	甕 F	X13・14 Y26・27	17.5				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に3条の凹線

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
661	甕 F	X7・8 Y30・31	19.5				ヨコナデ	ハケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に5条の沈線
662	甕 F	X17 Y23	19.5				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			口縁部に連続刻み
663	高杯A	X10 Y39	32.5	26.0			ヨコナデか	ヨコナデか	ハケ→ヘラミガキか		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキか		把手がつく
664	高杯C	SD01	28.5	24.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
665	高杯C	X19・20 Y35・36	26.0	19.5			ヨコナデか	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラミガキ			
666	高杯C	X13・14 Y26・27	30.0	24.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
667	高杯C		28.0	22.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		
668	器台A	X2—4 Y36—39			16.0				ナデ	ヘラミガキ ナデ				ナデ	穴4カ所
669	器台B				17.5				ハケ	ハケ				ハケ ヨコナデ	
670	高杯D	C区下層								ナデ				ハケ	脚部に連続刺突
671	高杯D	X5・6 Y28—30 X Y34・35								ナデ				ナデ	脚部に連続刺突
672	蓋	X5・6 Y28—30	10.5		3.0	4.5	ハケ	ハケ ナデ			ハケ	ハケ			頂部に穴
673	蓋	X19 Y28・29	15.5		4.0	4.0	ハケ	ハケ			ハケ	ハケ			頂部に穴
674	蓋				2.5			ハケ ナデ				ハケ			頂部に穴
675	蓋	X16 Y34・35			4.5			ハケ				ハケ			
676	蓋	X15 Y25			4.5			ナデ				ヘラケズリ			
677	蓋	X16・17 Y33			3.0			ナデ				ハケ			頂部に孔
678	蓋	X17・18 Y32			2.5				ナデ						
679	蓋	X17 Y35			3.0										側面に孔
680	把手	X19 Y37							ナデ						環状
681	把手	X10 Y37・38							ナデ						
682	小型鉢	X18 Y35 X11—15 Y35 上層	11.5		4.0	6.5	ヨコナデ	ハケ	ナデ		ヨコナデ	ハケ ナデ	ナデ		
683	小型鉢	X26 Y29	11.5		5.5	6.5	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
684	小型鉢		11.5		5.5	7.0	ハケ	ハケ	ハケ		ハケ	ハケ	ハケ		
685	小型鉢	X11 Y39・40	10.5		4.0	6.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
686	小型鉢	X9・10 Y33・34	10.5	8.5	6.0	4.5	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
687	小型鉢	X11 Y28—39	9.0		5.5	3.5	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
688	小型鉢	X9・10 Y26—28	5.0		3.5	4.5	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
689	小型鉢	X23 Y29	8.0		3.0	5.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
690	小型鉢		6.0		3.0	5.5	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
691	小型壺	SD C区	7.5	10.0	4.0	8.5	ヨコナデ	ナデ	ナデ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ナデ		
692	小型甕	X19 Y26 SD	9.5	9.5	2.5	10.0	ヨコナデ	ハケ	ハケ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
693	小型高杯	X5・6 Y28—30			12.5					ヨコナデ				ヨコナデ	
694	小型壺	SD01C区 X10 Y30	8.5	11.5	3.0	8.5	ヨコナデ	ナデ	ナデ		ヨコナデ	ナデ	ナデ		
695	小型鉢	X9・10 Y26—28	12.5		7.5	8.5	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラケズリ		
696	小型鉢	X18・19 Y29	4.5	5.5	4.0	4.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
697	小型壺	X19・20 Y29・30	3.5	4.0	3.0	4.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
698	小型鉢	X18・19 Y29	5.0	5.5	3.5	4.0	ナデ	ナデ	ナデ		ナデ	ナデ	ナデ		
699	須恵器 杯身	X7・8 Y30・31	11.0				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			
700	珠州甕		9.0				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ	円形あて具痕			

表13　江上Ｂ遺跡土師器観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
31	壺	SD030	12.5				ハケメ	ハケメ			ハケメ	ヘラケズリ			
32	壺	SD030	12.0				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ				ヘラ状具による文様あり
33	壺	SD030	15.2				ハケメ	ハケメ			ハケメ	ヘラケズリ			
34	壺	SD030	17.0				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ				
35	壺	SD030	15.0				ヨコナデ ハケメ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ヘラケズリ			黒斑あり
36	壺	SD030	17.0				ヨコナデ ハケメ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ヘラケズリ ナデ			
36	壺	SD030	15.0				ヨコナデ				ヨコデナ ハケメ				
38	壺	SD030	16.6	23.8			ヨコナデ ハケメ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ヘラケズリ ナデ			外面スス付着
39	壺	SD030	18.8				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ				
40	壺	SD030	19.0				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ナデ				平行線文指紋あり
41	壺	SD030					ハケメ	ハケメ			ハケメ	ハケメ			肩部に櫛状具による文様あり
42	壺	SD030	14.0				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ ハケメ				
43	壺	SD019	14.0				ヨコナデ ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			ヨコナデ ハケメ ナデ	ナデ			
44	壺	SD019	15.5				ヨコナデ ハケメ ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ			ヨコナデ ハケメ シボリ	ヘラケズリ			
45	壺	SD010		15.6			ハケメ	ハケメ			ハケメ	ハケメ ヘラケズリ ナデ			外面スス付着
46	壺	X13 Y43	15.6	21.9			ヨコナデ ハケメ	マケメ ヘラミガキ			ヨコナデ ハケメ	ヘラケズリ			黒斑あり
47	壺	SK051	15.0	17.0			ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ハケメ		ハケメ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		内面胴下部も黒い 外面スス付着
48	壺	SD046	12.2												
49	壺	SD046	12.0				ヨコナデ ハケメ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ヘラケズリ			櫛描文あり
50	壺	SD032	15.0				ヨコナデ ハケメ ナデ				ハケメ ナデ				
51	壺	SD002	18.6				ヨコナデ ハケメ				ヨコナデ				2個対となる円形刺突あり
52	壺	X16—20　Y36—40	12.8				ハケメ	ハケメ			ハケメ	ヘラケズリ			外面スス付着
53	壺	X16—20　Y56—60	14.2				ハケメ	ハケメ			ハケメ	ヘラケズリ			
54	壺		12.8				ヨコナデ ナデ ヘラミガキ				ヨコナデ ハケメナデ ヘラミガキ				
55	壺	X21—25　Y41—45	13.0				ハケメ	ハケメ			ハケメ ヘラケズリ	ヘラケズリ			外面スス付着
56	壺	X16—20　Y36—40	19.0				ハケメ	ハケメ			ハケメ ナデ	ナデ			
57	壺	X16　Y41—43					ハケメ	ハケメ			ハケメ ナデ	ナデ			外面スス付着 頸部に突帯あり
58	壺	SD066	14.0				ヨコナデ				ヘラミガキ				外面丹塗り(?)とスス付着
59	壺	SD019・030	14.7	17.6			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ		外面全体と口縁部内面丹塗り、櫛状具による五条の平行線文
60	壺		16.8				ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ハケメ			外面スス付着

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
61	壺	SD002	9.6				ナデ?				ヘラミガキ				櫛状具による五条の沈線、外面スス付着
62	壺	X21—25 Y41—14	14.0				ハケメ ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ			ハケメ ヘラミガキ	ヘラケズリ			口縁部外面丹塗り、平行線文
63	壺	SD030		9.5			ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ		黒斑あり
64	壺	SD030					ヘラミガキ	ヘラミガキ			ハケメ	ハケメ			頸部に突帯あり
65	壺	SD030		11.0	4.0		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黒斑あり
66	壺	SD030	10.0				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ヘラミガキ	ヘラミガキ			口縁端部もヘラミガキ
67	壺	SD030		16.6				ヘラミガキ	ヘラミガキ			ハケメ	ハケメ		胴部最大径に粘土帯を貼るさらに3個一対の粘土帯を6個所に貼り付ける
68	壺			7.0	2.1			ヘラケズリ ナデ	ヘラケズリ ナデ	ヘラケズリ ナデ		ナデ	ナデ	ナデ	
69	壺	SD030	15.0	20.6		20.0	ハケメ	ハケメ	ハケメ		ハケメ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		
80	甕	SD030	12.5				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着
81	甕	SD030	16.0				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			
82	甕	SD030	15.5				ナデ	ハケメ			ハケメ	ヘラケズリ			外面スス付着
83	甕	SD030	14.8				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着
84	甕	SD030	16.0				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ ナデ			外面スス付着
85	甕	SD030	14.4				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ナデ			外面スス付着
86	甕	SD030	14.4				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着
87	甕	SD030	14.5				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着
88	甕	SD030	19.3				ヨコナデ				ヨコナデ				外面スス付着
89	甕	SD030	20.5				ヨコナデ ナデ				ヨコナデ				外面スス付着 口縁部外面連続刺突あり
90	甕	SD030	17.6				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			口縁部外面胴上部外面に連続刺突あり
91	甕	SD030	20.2	20.0			ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		外面スス付着
92	甕	SD030	17.0				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着
93	甕	SD030	16.8				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			外面スス付着
94	甕	SD030	16.2				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着
95	甕	SD030	15.2				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			
96	甕	SD030	24.0				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ				
97	甕	SD030	20.8				ヨコナデ	ハケメケ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着 2条の平行線文
98	甕	SD030	24.0				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヘラケズリ			櫛状具による平行線文あり
99	甕	SD030	27.6	32.0			ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着 肩部に連続刺突あり
100	甕	SD030	17.2				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヘラケズリ			3条の平行線文

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
101	甕	SD030	17.9				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ ハケメ			
102	甕	SD030	16.8				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着 2条の平行線文
103	甕	SD030	15.2				ヨコナデ				ヨコナデ	ヘラケズリ			4条の平行線文
104	甕	SD030	19.4				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着 9条の平行線文
105	甕	SD030	18.3	14.4	11.0	16.9	ヨコナデ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ハケメ	ヨコナデ	ナデ	ヘラケズリ	ナデ	黒斑あり
106	甕	SD070	15.7				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着 肩部に連続刺突あり
107	甕	SD070	14.0				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着 2条の平行線文
108	甕	SD070	18.0				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着 2条の平行線文
109	甕	SD050	17.2				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着 5条の平行線文
110	甕	SD019	17.5	18.3	4.0	18.3	ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ヘラミガキ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	外面スス付着 黒斑あり
111	甕	SD019	16.6				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着
112	甕	SD019	16.3				ヨコナデ ハケメ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ヘラケズリ			外面スス付着
113	甕	SD019	18.2				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヘラケズリ			3条の平行線文
114	甕	SD019	17.5				ヨコナデ	ハケメ				ヘラケズリ			外面スス付着 5条の平行線文
115	甕	SD066	18.8				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着
116	甕	SD018	17.6	21.0			ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ヘラケズリ			外面スス付着
117	甕	SD032	16.8	20.8			ヨコナデ	ヨコナデ ハケメ			ヨコナデ	ハケメ			
118	甕	SD070	16.8				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ヘラケズリ			外面スス付着 2条の平行線文
119	甕	SD012	17.0				ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ ハケメ	ヘラケズリ			2条の平行線文
120	甕			19.4	6.2			ハケメ	ハケメ	ヘラケズリ		ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	外面スス付着
121		SD030			2.0										
122		SD030			4.0					ナデ				ヘラケズリ	葉脈状文あり
123		SD030			6.0									ヘラケズリ	葉脈状文あり
124		SD030			3.3					ハケメ				ヘラケズリ	文様あり
125		SD030			3.0					ハケメ				ヘラケズリ	底部外面ハケメ
126		SD030			4.0					ハケメ				ハケメ	「メ」記号あり
127		SD030			4.8									ハケメ	葉脈状文あり
128		SD019			5.2					ハケメ				ヘラケズリ	底部外面ハケメ
129		SD019			4.4					ハケメ				ハケメ	ヘラ記号あり
141	鉢	SD030	14.8				ヨコナデ	ハケメ ヘラミガキ			ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ			

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
142	鉢	SD030	11.8	13.2			ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		ヨコナデ	ナデ ヘラケズリ	ヘラケズリ ナデ		黒斑あり
143	鉢	SD030	20.0	16.0			ヨコナデ ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ			ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ			
144	鉢	SD030	14.0				ヨコナデ	ナデ			ヨコナデ ナデ	ナデ			黒斑あり
145	鉢	SD030	17.0				ハケメ	ハケメ				ヘラケズリ ハケメ			
146	鉢	SD030	9.2	14.0	10.8	19.0	ナデ	ナデ ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ	ハケメ ナデ ヘラミガキ	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	ナデ	ハケメ	
147	甑	SD030	19.2		3.0		ヨコナデ ナデ	ハケメ ナデ		ヘラケズリ ハケメ	ヨコナデ ナデ	ナデ		ナデ	焼成前の穿孔
148	甑	SD030			2.0				ハケメ	ハケメ ナデ		ヘラケズリ	ナデ	ナデ	焼成前の穿孔
149	甑	SD030			6.0				ハケメ	ハケメ			ヘラケズリ ナデ	ナデ	焼成前の穿孔
150	甑	SD030			3.0				ハケメ	ナデ			ヘラケズリ	ヘラケズリ	焼成前の穿孔
151	甑	SD030			3.0				ナデ	ナデ			ナデ	ナデ	焼成前の穿孔
152	甑														
153	鉢	X16 Y41—43	17.8	16.8			ヨコナデ	ハケメ	ハケメ		ハケメ ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ		口縁端部スス付着 黒斑あり
154	鉢	SD066	20.0												
155	鉢	X16—18 Y41—43	20.0	15.0			ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケメ ヘラミガキ		黒斑あり
156	甑	SD030			4.0				ハケメ	ナデ				ナデ	焼成前の穿孔 凹底
157	甑	SD018			5.0				ハケメ	ハケメ ナデ			ヘラケズリ ナデ	ヘラケズリ	焼成前の穿孔で胴部上半にあり
158	甑	SD030			4.0				ハケメ	ハケメ ナデ			ナデ	ナデ	焼成前の穿孔
161	蓋	SD030	4.0			4.5		ハケメ ナデ	ヨコナデ ナデ			ハケメ ナデ	ナデ		
162	蓋	SD002	4.5			3.0		ナデ ヘラミガキ	ナデ ヘラミガキ			ナデ ヘラミガキ	ナデ		
163	蓋	X16—20 Y36—40	5.0			3.0		ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			ナデ	ナデ		
164	蓋	X26—30 Y26—30	3.0			2.0		ナデ	ナデ			ナデ	ナデ		
165	蓋	X25—30 Y20—25	4.0			4.6			ナデ			ナデ	ナデ		
166	蓋	SD014	3.2			3.0						ナデ	ナデ		頂部に焼成前の穴あり
167	蓋	X16—20 Y36—40	5.4			3.6		ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			ナデ	ナデ		
168	蓋	SD022			3.8	3.0		ハケメ ナデ	ハケメ ナデ			ハケメ ナデ	ナデ		
171	高杯	SD030・060	31.0		23.0	22.8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	シボリ ヘラケズリ ヘラミガキ	焼成前の脚に穴4個 突帯は粘土帯をはりつける
172	高杯	SD030			18.4	5.5	ヘラミガキ								
173	高杯	SD030			18.1	5.7				ヘラミガキ				ハケメ	
174	高杯	SD030			18.6	13.0				ヘラミガキ				ヨコナデ	
175	高杯				16.4	12.8									

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
176	高杯				13.5	9.5									
177	高杯	SD030			16.3	10.7				ヘラミガキ				ハケメ	
178	高杯	X20 Y43			10.0	5.0				ヘラミガキ				ナデ	
179	高杯	SD019						ヘラミガキ				ナデ		ヨコナデ	
180	高杯	SD019													
181	高杯	SD019			16.0	4.0				ヘラミガキ				ハケメ	
182	高杯	SD002								ヘラミガキ					
183	高杯	SD004								ヘラミガキ					
184	高杯	SD002								ヘラミガキ					
185	高杯	SD002—008								ヘラミガキ					
186	高杯	SD002			22.0	3.7									
187	高杯	SD035	27.5			2.5									
188	高杯	X13・14 Y42・43			12.8	7.3									
189	高杯	X11—15 Y41—45													
190	高杯	X17・18 Y42			19.8	3.8									
191	高杯				11.6	7.7									
192	高杯	X16—20 Y36—40			13.2	11.0									
193	高杯	X13 Y43	10.0		6.8	4.6									
194	高杯	SD030	14.5			6.8									

表14 江上B遺跡珠洲観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
221	甕	SD070 SD036	47.5	52.5			ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				
222	甕	SD014 砂層	49.5				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				
223	甕	SD014	37.5				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				
224	甕	SD014	40.5				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				
225	甕	X11—15 Y31—35 2層	48.0				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				
226	甕	表採	44.0				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				
227	甕	SD014	67.0				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	
228	甕	SD014	68.0				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				断面に漆付着
229	甕	SK106	38.5	45.5	15.0	51.4	ヨコナデ	タタキ	タタキ	タタキ	ヨコナデ				渡来銭を埋納している
230	甕	SD014					ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				
231	甕	SD016					ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				
232	甕	X17—19 Y42・43 2層					ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				
233	甕	SD014					ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				
234	甕	SD014					ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				
236	甕	X24—28 Y24—28 3層													
237	甕	SK007 上面													
238	甕	SD014 砂層													
240	壺	SK095	7.8	12.6	6.8	10.2	ヨコナデ				ヨコナデ				外底面に回転糸切り痕あり
241	壺	X31—35 Y46—50 3層					ヨコナデ				ヨコナデ				
242	壺	SD016	12.7				ヨコナデ				ヨコナデ				
243	壺	X31—35 Y51—55 1層	10.3				ヨコナデ				ヨコナデ				
244	壺	SD014						ヨコナデ							肩部に5条のクシ描き波状文あり
245	壺	SD016とSD004との合流点						ヨコナデ				ヨコナデ			肩部に8条のクシ描き波状文あり
246	壺	X11—15 Y61—65 2層			9.0										
247	壺	SD028			10.7					ヨコナデ				ヨコナデ	外底面に静止糸切り痕あり
248	壺	SD014 砂利層	23.0				ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				外底面に静止糸切り痕あり？
249	壺	SD070 SD014	24.1	33.2			ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				瓦質
250	壺	SD014					ヨコナデ	タタキ			ヨコナデ				
253	鉢	SD014	21.0		8.8	9.2	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ				外底面に回転糸切り痕あるか？
254	鉢	SD070 X24—28 Y24—28 3層	20.5		10.0	8.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ						
255	鉢	SD058 X26—30 Y35—45 1層					ヨコナデ				ヨコナデ				オロシメあり
256	鉢	SD014 SD004	25.3				ヨコナデ				ヨコナデ				
257	鉢	SD037 X26—30 Y21—25 3層	32.0				ヨコナデ				ヨコナデ				オロシメあり
258	鉢	SD070					ヨコナデ				ヨコナデ				オロシメあり
259	鉢	SD070					ヨコナデ				ヨコナデ				11条のオロシメあり 菊花文の押印あり 片口鉢
260	鉢	SK007					ヨコナデ				ヨコナデ				オロシメあり
261	鉢	SD014 砂利層					ヨコナデ				ヨコナデ				オロシメあり 口縁端部に6条のクシ描き文あり片口鉢

番号	器種	出土区	法量				成形・調査								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	脚底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	脚・底部	口頸部	体部	頂部	脚・底部	
262	鉢	SD008附近					ヨコナデ				ヨコナデ				14条のオロシメあり 口縁端部に6条のクシ描き波状文あり
263	鉢	X26—30 Y56—60 1層					ヨコナデ				ヨコナデ				5条(?)のオロシメあり口縁端部にクシ描き波状文あり(6条か)
264	鉢	SD016					ヨコナデ				ヨコナデ				口縁端部にクシ描き波状文あり
265	鉢	X24—28 Y25—30 1層					ヨコナデ				ヨコナデ				オロシメあり 口縁端部にクシ描き波状文あり
266	鉢	SD037 SK088			13.3				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ	11条のオロシメあり 内面に漆付着
267	鉢	SD070 SD037			11.5				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ	20条のオロシメが「米」状に入る
268	鉢	SD037			12.9				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ	12条のオロシメあり
269	鉢	SD037 X25—30 Y21—25 3層			13.3				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ	13条のオロシメあり 底部突孔直横内出土の破片の内外面は炭化している
270	鉢	X21—23 Y26—30 の溝内 SD070			11.1				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ	10条以上のオロシメあり
271	鉢	SD014			9.5				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ	12条のオロシメあり
272	鉢	SD014 X26—30 Y56—60 1層			12.3				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ	11条のオロシメあり 内面に漆付着
273	鉢	X31—35 Y46—50 3層			9.5				ヨコナデ	ヨヨナデ			ヨコナデ	ヨコナデ	9条のオロシメあり
274	鉢	SD014													断面に漆付着 オロシメあり
275	鉢	X16—25 Y61—65 2層													断面に漆付着 オロシメあり
276	鉢	SD014			13.0					ヨコナデ				ヨコナデ	12条のオロシメあり
277	鉢	SK086					ヨコナデ				ヨコナデ				16条のオロシメあり
278	鉢	SD070					ヨコナデ				ヨコナデ				内面に「O」の押印あり
279	鉢	SD016					ヨコナデ				ヨコナデ				内面に「⁞⁞」の押印あり
280	鉢	X26 Y35 2層					ヨコナデ				ヨコナデ				7条のオロシメあり 内面に漆付着

表15　江上B遺跡土師質小皿観察表

番号	出土区	法量		成形・調整				備考	番号	出土区	法量		成形・調整				備考
				外面		内面							外面		内面		
		口径	器高	口縁部	底部	口縁部	底部				口径	器高	口縁部	底部	口縁部	底部	
290	X24—28 Y24—28 3層	6.8	1.3	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ		301	SD014	11.6	1.6	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	
291	X24—28 Y24—28 3層	7.8	1.5	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ		302	SD070	11.8	2.1	ヨコナデ		ヨコナデ		
292	X24—28 Y24—28 3層	7.8	1.2	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	スス付着	303	SD018	12.6	2.8	ヨコナデ		ヨコナデ		
293	SD030	7.8	1.9	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ		304	X26—30 Y41—45 3層	12.8	2.6	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	
294	SD037	7.8	1.7	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ		305	SD016	12.8	2.0	ヨコナデ		ヨコナデ		スス付着
295	SD014	8.0	2.0	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ		306	SD016	13.2	2.0	ヨコナデ		ヨコナデ		
296	X24—28 Y24—28 3層	8.0	1.5	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ		307	X23 Y41 3層	13.2	2.4	ヨコナデ		ヨコナデ		内外面にスス付着
297	X21—25 Y42 3層	8.2	1.6	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ		308	SD032	13.2	1.4	ヨコナデ		ヨコナデ		
298	SD037	8.8	1.8	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ		309	X21 Y21—23 1層	14.0	1.7	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	
299	SD004	8.8	1.8	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ		310	SD066	15.2	2.2	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	
300	SD036	11.6	2.0	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ	ナデ	スス付着									

表16　江上Ｂ遺跡ＳＫ106出土渡来銭観察表

番　号	銭　　文	中国での初鋳年代	西　　暦	直径	重さ	厚さ	書体	分類(枚数)	備　　考
1	開元通寶	唐　　武徳４年	６２１	2.5	3.3	0.11	隷	Ａ（　８）	元の字の１画が短く，２画が左端上がりのもの。内郭外径が大きいもの。
2				2.5	3.2	0.12	隷	Ｂ（　２）	Ａより４文字とも小さい。
3				2.3	2.6	0.10	隷	Ｃ（　２）	Ｂより４文字がやや小さい。内郭外径が小さいもの。
4				2.5	3.7	0.13	隷	Ｄ（　２）	元の字の１画が長く，２画が左端上がりのもの。内郭外径が小さいもの。
5				2.4	3.7	0.15	隷	Ｅ（　２）	Ｄよりやや文字が小さい。内郭外径がやや大きいもの。
6				2.5	3.7	0.15	隷	Ｆ（１０）	元の字がＥとは違う。
7				2.3	2.3	0.09	隷	Ｇ（　２）	内郭外径がふつう。文字はＦと同じ大きさ。
8				2.4	3.4	0.15	隷	Ｈ（　１）	元の字の２画は左端の上がりかたが，Ｇより直上する。他の文字はＧに似る。
9				3.2	2.5	0.12	隷	Ｉ（　１）	内郭外径がやや小さい。文字はＨを小さくした感じ。
10				2.3	2.1	0.08	隷	Ｊ（　１）	内郭外径が小さい。文字もＨより小さい。
11				2.5	3.4	0.10	隷	Ｋ（　１）	元の１画が長く，２画の両端が上がるもの。
12				2.5	3.7	0.12	隷	Ｌ（　１）	背の上に「⌣」の記号あり。太くて短い。文字はＤに似る。
13				2.4	3.4	0.11	隷	Ｍ（　１）	背の上に「⌣」の記号あり。太くて短い。文字はＤに似る。
14				2.4	2.4	0.10	隷	Ｎ（　３）	背の上に「⌣」の記号あり。太くて短い。文字はＭをやや小さくした感じ。
15				2.4	3.1	0.14	隷	Ｏ（　２）	背の上に「⌣」の記号あり。長い。文字はＥに似る。
16				2.5	3.5	0.12	隷	Ｐ（　１）	背の上に「⌣」の記号あり。太くて細い。文字はＥに似る。
17				2.5	3.7	0.13	隷	Ｑ（　１）	背の上に「－」の記号あり。Ｏより長い。文字はＥに似る。
18				2.5	3.1	0.12	隷	Ｒ（　１）	背の上に「⌒」の記号あり。文字はＥに似る。
19				2.5	3.4	0.11	隷	Ｓ（　１）	背の下に「⌒」の記号あり。太くて長い。文字はＥに似る。
20				2.5	3.5	0.13	隷	Ｔ（　１）	背の下に「⌒」の記号あり。細くて長い。文字はＥに似る。
21				2.4	3.6	0.13	隷	Ｕ（　１）	背の下に「⌒」の記号あり。細くて短い。文字はＥに似る。
22	開元通寶	唐　　会昌５年	８４５	2.4	3.2	0.10	隷	Ｖ（　１）	背の上に「洛」の文字あり。文字はＤに似る。紀地銭。
23				2.4	3.2	0.14	隷	Ｗ（　１）	背の上に「京」の文字あり。文字はＤに似る。紀地銭。
								小　計（４９）	不明２枚を含む。
24	乾元通寶	唐　　乾元２年	７５９	2.5	2.8	0.12	楷	Ａ（　１）	背の下に「⌒」の記号あり。短いもの。
25				2.4	2.6	0.90	楷	Ｂ（　２）	背の下に「⌒」の記号あり。長いもの。
26				2.5	3.2	0.11	楷	Ｃ（　１）	背に記号なし。
27	咸康元寶	前蜀　　咸康元年	９２５	2.3	3.2	0.10	楷	Ａ（　１）	
28	唐国通寶	南唐　　交泰元年	９８５	2.4	3.3	0.10	篆	Ａ（　１）	
29				2.4	3.2	0.11	篆	Ｂ（　１）	唐・国の字は文形が違う。通・寶の字は，Ａより小さい。
30	宋通元寶	北宋　　建隆元年	９６０	2.4	3.5	0.11	楷	Ａ（　３）	通の字は隷書か。
31				2.4	3.2	0.11	楷	Ｂ（　１）	通・寶の字は小さい。元の字は文形が違う。通の字は隷書か。
32	太平通寶	北宋太平興国元年	９７６	2.4	3.2	0.11	楷	Ａ（　３）	通の字は隷書か。
33	淳化元寶	北宋　　淳化元年	９９０	2.4	3.8	0.12	楷	Ａ（　１）	通の字は隷書か。
34	至道元寶	北宋　　至道元年	９９５	2.5	3.5	0.10	楷	Ａ（　２）	
35				2.4	3.5	0.11	行	Ｂ（　２）	
36				2.5	3.4	0.12	草	Ｃ（　２）	
37	咸平元寶	北宋　　咸平元年	９９８	2.5	3.6	0.12	楷	Ａ（１１）	
38	景徳元寶	北宋　　景徳元年	１００４	2.4	3.9	0.09	楷	Ａ（　１）	内郭外径が大きい。文字が，内郭と外輪との間にすきがある。
39				2.4	3.7	0.12	楷	Ｂ（　７）	内郭外径が小さい。特に，景・元の文字が外輪と接している。
40	祥符元寶	北宋大中祥符元年	１００８	2.5	3.2	0.09	楷	Ａ（　１）	元の字の３画が長い。大きい字。内郭外径はやや大きい。
41				2.5	3.3	0.11	楷	Ｂ（　２）	元の字の３画が長い。文字はＡより小さい。内郭外径は大きい。
42				3.3	2.5	0.10	楷	Ｃ（　６）	元の字の３画がやや長い。元の字はＢより大きい。内郭外径は小さい。
43				2.1	2.3	0.10	楷	Ｄ（　１）	元の字の３画がやや長い。元の字の４画がＣと違う形
44				2.5	4.1	0.11	楷	Ｅ（　３）	元の字の３画がふつう。内郭外径は大きい。表に丹塗の痕が見える。
45				2.5	4.0	0.11	楷	Ｆ（　６）	元の字の３画がやや短い。内郭外径は小さい。
46				2.5	2.7	0.08	楷	Ｇ（　１）	元の字の３画がやや短い。文字はＦより小さい。
47				2.5	2.8	0.09	楷	Ｈ（　１）	元の字の３画がやや短い。文字はＧより小さい。
								小　計（２１）	
48	祥符通寶	北宋大中祥符元年	１００８	2.4	3.3	0.11	楷	Ａ（　２）	大きい文字。内郭外径は大きい。
49				2.5	3.7	0.11	楷	Ｂ（　５）	文字はＡより小さい。内郭外径は大きい。
50				2.4	3.3	0.11	楷	Ｃ（　５）	通の字はＢより縦が短い。内郭外径は小さい。
51	天禧通寶	北宋　　天禧元年	１０１７	2.5	3.9	0.11	楷	Ａ（　５）	文字が大きい。内郭外径が大きい。
52				2.5	4.0	0.12	楷	Ｂ（　６）	Ａよりも，禧の字が小さく寶の字は大きい。天の１・２画が短い。
53				2.4	4.1	0.12	楷	Ｃ（　３）	文字がやや小さい。内郭外径は小さい。
54	天聖元寶	北宋　　天聖元年	１０２３	2.6	3.5	0.10	楷	Ａ（　１）	内郭外径が大きい。
55				2.5	4.8	0.13	楷	Ｂ（１６）	文字はＡと同じ大きさ。内郭外径がやや大きい。Ｂは細別される可能性あり。
56				2.5	3.8	0.10	楷	Ｃ（　３）	文字はＢより小さい。内郭外径は小さい。
57				2.5	3.5	0.13	篆	Ｄ（　５）	

番　号	銭　　文	中国での初鋳年代	西　　暦	直径	重さ	厚さ	書体	分類(枚数)	備　　考
58	天聖元寶	北宋　天聖元年	1023	2.5	3.6	0.11	篆	E（ 7）	内郭外径がDより大きいもの。
59				2.4	3.5	0.11	篆	F（ 5）	内郭外径はDと同じ大きさだが，聖・寶の字がやや上の位置にある。
							小　計（37）		
60	明道元寶	北宋　明道元年	1032	2.5	3.3	0.11	楷	A（ 2）	
61A				2.6	3.8	0.10	篆	B（ 2）	
62	景祐元寶	北宋　景祐元年	1034	2.5	4.1	0.13	楷	A（ 1）	内郭外径が大きい。
63				2.5	3.7	0.12	楷	B（ 2）	Aよりも，元・寶の字が小さい。景の5画の横棒が長い。
64				2.5	3.1	0.10	楷	C（ 1）	Bより文字が小さく，細い。
65				2.5	3.1	0.10	隷	D（ 1）	景・祐の字が郭より離れている。
66				2.5	3.8	0.12	隷	E（ 1）	景・祐の字が郭に接している。
67	皇宋通寶	北宋　寶元2年	1038	2.4	3.7	0.10	楷	A（ 3）	通の字が内郭内径の真中にくる。内郭内径は大きい。
68				2.5	3.8	0.10	楷	B（ 1）	Aより皇の字が横広で，寶の字が小さい。内郭内径はやや大きい。
69				2.5	3.8	0.11	楷	C（ 3）	文字はAをやや小さくした感じ。内郭内径はふつう。
70				2.4	3.4	0.10	楷	D（ 1）	通・寶の字がCより大きい。内郭外径はふつう。
71				2.4	3.8	0.11	楷	E（ 3）	通の字がAよりやや上の位置にある。内郭外径は大きい。
72				2.5	3.2	0.11	楷	F（ 3）	Eより宋の字は横広で，寶の字は小さい。内郭外径はふつう。
73				2.5	3.4	0.12	楷	G（ 4）	内郭外径は小さい。文字は太い。
74				2.5	3.3	0.09	楷	H（ 3）	内郭外径は小さい。文字は細い。
75				2.5	4.0	0.12	隷	I（ 3）	4文字は大きく，太い。内郭外径はふつう。
76				2.4	3.6	0.10	隷	J（ 4）	4文字は大きく，細い。内郭外径はふつう。
77				2.4	3.4	0.10	隷	K（ 6）	文字はIより小さい。孔形が大きい。内郭外径は大きい。
78				2.4	3.8	0.11	隷	L（ 5）	皇・宋の字はKより小さい。内郭外径はふつう。
79				2.6	3.3	0.10	隷	M（ 1）	文字が郭から離れている。内郭外径は大きい。
80				2.3	2.8	0.08	隷	N（ 2）	文字がやや小さい。内郭外径も小さい。
81				2.5	3.6	0.12	篆	O（ 4）	大きい字。
82				2.5	3.8	0.11	篆	P（ 7）	宋・寶の字がOより大きい。
83				2.5	3.1	0.11	篆	Q（ 3）	宋，寶の字はPと同じ，皇・通はPよりやや小さい。
84				2.4	3.7	0.11	篆	R（ 4）	文字がPよりやや小さい。
85				2.5	4.0	0.11	篆	S（ 4）	皇・通の字がRより小さい。内郭外径は小さい。
86				2.4	3.2	0.09	篆	T（ 2）	文字がSより細く，縁が広い。
							小　計（66）		
87	至和元寶	北宋　至和元年	1054	2.4	3.2	0.10	楷	A（ 1）	
88				2.4	3.9	0.13	篆	B（ 2）	
89				2.5	3.9	0.12	篆	C（ 2）	寶の字がBより小さい。
90				2.4	3.9	0.12	篆	D（ 2）	文字がBより小さい。内郭外径が大きい。
91	至和通寶	北宋　至和元年	1054	2.5	3.1	0.09	篆	A（ 1）	内郭外径が大きい。
92				2.2	2.8	0.10	篆	B（ 2）	内郭外径が小さい。
93	嘉祐元寶	北宋　嘉祐元年	1056	2.5	2.9	0.10	楷	A（ 1）	大きい字。
94				2.4	3.2	0.10	楷	B（ 2）	小さい字。
95				2.3	3.9	0.12	篆	C（ 2）	内郭外径が小さい。寶の字は大きい。
96				2.5	3.6	0.10	篆	D（ 1）	内郭外径が大きい。通の字は小さい。
							小　計（16）		
97	嘉祐通寶	北宋　嘉祐元年	1056	2.5	3.1	0.10	楷	A（ 2）	
98				2.4	3.5	0.12	楷	B（ 1）	通の字は隷書。
99				2.4	3.4	0.10	楷	C（ 3）	通の字は隷書。寶の字がBよりやや小さい。
100				2.3	3.4	0.10	篆	D（ 1）	大きい字。
101				2.3	3.8	0.12	篆	E（ 4）	小さい字。
							小　計（11）		
102	治平元寶	北宋　治平元年	1064	2.4	3.5	0.12	楷	A（ 2）	元の3・4画が「儿」。
103				2.4	4.7	0.14	楷	B（ 1）	内郭外径はAより小さく，縁が広い。
104				2.5	4.7	0.13	楷	C（ 1）	元の3・4画が「儿」。
105				2.4	2.9	0.11	篆	D（ 2）	
106				2.4	2.9	0.10	篆	E（ 2）	平の字がDより小さい。
							小　計（ 8）		
107	治平通寶	北宋　治平元年	1064	2.4	3.6	0.11	篆	A（ 1）	
108	熙寧元寶	北宋　熙寧元年	1068	2.4	3.6	0.14	楷	A（ 3）	内郭外径がやや大きい。
109				2.5	3.2	0.12	楷	B（ 6）	内郭外径がふつう，Aより寧の字は小さく，元・寶の字は大きい。
110				2.4	3.0	0.11	楷	C（ 2）	元の3・4画が「儿」。その他の文字はBと同じ。
111				2.4	3.5	0.14	楷	D（ 4）	Bより寧の字は大きい。熙・寶の字はBに同じ。

番　号	銭　　文	中国での初寿年代	西　　暦	直径	重さ	厚さ	書体	分類(枚数)	備　　考
１１２	**熙寧元寶**	北宋　　熙寧元年	１０６８	2.5	2.8	0.13	楷	Ｅ（　３）	文字はＢ～Ｄよりやや小さい。内郭外径はやや小さい。
１１３				2.5	4.0	0.12	楷	Ｆ（　４）	Ｅより，熙の字は小さく，寧の字は縦長で，元の字はやや郭に接する。
１１４				2.4	3.8	0.13	楷	Ｇ（　１）	内郭外径は小さく，元の字の２画は左端上がり。
１１５				2.5	3.2	0.12	楷	Ｈ（　１）	元の字はＧと同じ，内郭外径は大きい。
１１６				2.5	4.4	0.13	篆	Ｉ（　４）	寶の字の「宀」は長い。内郭外径はやや大きい。
１１７				2.4	3.8	0.10	篆	Ｊ（　３）	寶の字の「宀」は短い。内郭外径はやや大きい。
１１８				2.5	3.6	0.11	篆	Ｋ（　５）	寶の字の「宀」は長いが，字はやや小さい。
１１９				2.4	3.7	0.13	篆	Ｌ（　４）	寶の字の「宀」はＪより小さい。熙の字もＪより小さい。
１２０				2.4	4.6	0.16	篆	Ｍ（　６）	内郭外径はふつう。寶の字の「宀」はＬと同じ長さ。
１２１				2.3	4.0	0.15	篆	Ｎ（　４）	内郭外径はやや小さい。寶の字の「宀」はＭと同じ長さ，寧の字はＭと違う。
１２２				2.2	3.5	0.13	篆	Ｏ（　１）	内郭外径は小さい。文字も小さい。
１２３				2.3	3.8	0.12	篆	Ｐ（　７）	熙・寧の字はＩ～Ｏとは違う。元の字２画は両端上がる。
１２４				2.4	3.2	0.10	篆	Ｑ（　１）	内郭外径はＰよりやや小さい。
								小　計（５９）	
１２５	**元豊通寶**	北宋　　元豊元年	１０７８	2.5	3.8	0.12	行	Ａ（　１）	文字は大きい。内郭外径も大きい。元の字の３画がはねる。
１２６				2.5	3.3	0.11	行	Ｂ（　４）	元の字の３画はわずかにはねる。寶の字はＡより小さい。
１２７				2.5	3.9	0.12	行	Ｃ（　２）	内郭外径はやや大きい。寶の字の19画は内側にはねる。他の文字はＢに似る。
１２８				2.5	3.8	0.14	行	Ｄ（　２）	内郭外径はやや大きい。寶の字の18・19画は内側にはねる。他の文字はＢに似る。
１２９				2.5	3.7	0.11	行	Ｅ（　４）	内郭外径はふつう。Ｄよりも通・寶の字が大きい。寶の字の18・19画は内側にはねる。
１３０				2.4	3.9	0.14	行	Ｆ（　７）	豊・通・寶の字はＥに似る。元はＤに似る。
１３１				2.4	4.0	0.13	行	Ｇ（　２）	豊・通・寶の字はＤに似る。元はＥに似る。
１３２				2.4	3.4	012	行	Ｈ（　１）	豊・通の字はＧに似る。元の字の３・４画がＧ・Ｆとは違う。
１３３				2.3	3.3	0.12	行	Ｉ（　２）	文字はＧに似るが，元・寶の字は違う。
１３４				2.4	3.5	0.15	行	Ｊ（　２）	元の字の４画が上にはねる。
１３５				2.4	3.6	0.13	行	Ｋ（　３）	内郭外径は小さい。文字もＦをやや小さくした感じ。
１３６				2.5	3.3	0.12	篆	Ｌ（　２）	文字が大きい。内郭外径はやや大きい。
１３７				2.5	3.3	0.11	篆	Ｍ（　４）	豊・寶の字はＬより小さい。元の字の３画はＬより長い。内郭外径はやや大きい。
１３８				2.5	3.8	0.11	篆	Ｎ（　３）	文字が郭に接している。Ｍの文字に似る。内郭外径はふつう。
１３９				2.4	3.6	0.14	篆	Ｏ（１１）	内郭外径はふつう。文字はＭに似て郭にやや離れている。
１４０				2.5	4.1	0.13	篆	Ｐ（　２）	元の字の４画は郭に接している。通は郭よりやや離れている。他の２字はＯに似る。
１４１				2.5	3.4	0.11	篆	Ｑ（　１）	寶の字の「宀」はＯより短い。内郭外径も小さい。
１４２				2.2	2.3	0.11	篆	Ｒ（　１）	寶の字の「宀」はＯと同じくらい。内郭外径は小さい。
１４３				2.5	3.8	0.13	篆	Ｓ（　１）	文字はＱと同じ大きさだが，縁が広い。
１４４	**元祐通寶**	北宋　　元祐元年	１０８６	2.5	3.9	0.14	行	Ａ（　５）	内郭外径は大きい。表に丹塗の痕が残っている。
１４５				2.4	4.3	0.14	行	Ｂ（　６）	寶の字がＡより大きい。
１４６				2.4	2.9	0.13	行	Ｃ（　３）	寶の字の19画は内側にはねない。元の字の３画は上にはねる。
１４７				2.5	3.6	0.10	行	Ｄ（　２）	内郭外径はふつう。
１４８				2.4	3.9	0.12	行	Ｅ（　３）	内郭外径はふつう。寶の字がＤよりやや大きい。元の字がＤと少し違う。
１４９				2.4	3.5	0.11	行	Ｆ（　３）	内郭外径は小さい。
１５０				2.4	3.7	0.12	篆	Ｇ（　４）	内郭外径は大きい。
１５１				2.4	3.6	0.12	篆	Ｈ（　２）	元の字の３画が折れまがる。
１５２				2.4	3.9	0.14	篆	Ｉ（　２）	元の字の２画がＨより長い。
１５３				2.4	3.4	0.12	篆	Ｊ（　５）	内郭外径はふつう。祐・寶の字がやや上の位置にある。文字はＩに似る。
１５４				2.4	4.1	0.13	篆	Ｋ（　１）	内郭外径は小さく。縁が広い。文字は細く，大きい。
１５５				2.5	2.4	0.12	篆	Ｌ（　５）	外径は小さく縁が広い。文字は細く小さい。
								小　計（９６）	
１５６	**紹聖元寶**	北宋　　紹聖元年	１０９４	2.4	4.2	0.19	行	Ａ（　１）	大きい字，内郭外径は大きい。
１５７				2.4	4.2	0.14	行	Ｂ（　２）	
１５８				2.4	3.8	0.13	行	Ｃ（　１）	聖の字はＢと違う。他の文字はＢに似る。
１５９				2.4	3.9	0.14	行	Ｄ（　１）	寶の字はＢ・Ｃよりも大きい。
１６０				2.5	3.8	0.11	行	Ｅ（　２）	内郭外径は小さい。紹の字はＢ～Ｏよりも横広である。
１６１				2.5	3.5	0.12	篆	Ｆ（　１）	大きい字。
１６２				2.5	3.8	0.12	篆	Ｇ（　２）	
１６３				2.4	3.8	0.12	篆	Ｈ（　２）	Ｇより，紹の字は小さいが，聖の字は大きい。
１６４				2.4	4.3	0.13	篆	Ｉ（　２）	内郭外径は，やや小さい。元の字がＨより小さい。
１６５				2.4	3.8	0.14	篆	Ｊ（　２）	元の字がＩより偏平である。
１６６				2.3	3.5	0.11	篆	Ｋ（　１）	内郭外径は小さい。

番　号	銭　文	中国での初鋳年代	西　暦	直径	重さ	厚さ	書体	分類(枚数)	備　考
１６７	紹聖元寶	北宋　紹聖元年	１０９４	2.4	3.6	0.12	篆	Ｌ（　３）	紹・寶の字はＫよりも小さい。縁が広い。
							小　計（２０）		
１６８	元符通寶	北宋　元符元年	１０９８	2.4	3.9	0.13	行	Ａ（　１）	
１６９				2.4	3.9	0.11	行	Ｂ（　１）	元の字はＡより偏平。
１７０				2.4	3.8	0.13	行	Ｃ（　１）	Ａよりも符の字は小さく，寶の字は大きい。
１７１				2.4	3.3	0.10	行	Ｄ（　１）	内郭外径が小さく，縁が広い。符・通・寶の字はＢに似る。
１７２				2.5	3.3	0.10	篆	Ｅ（　２）	大きい字
１７３				2.4	3.8	0.13	篆	Ｆ（　１）	
１７４				2.4	4.1	0.14	篆	Ｇ（　３）	Ｆより，元の字は郭に接している。符の字は違う。内郭外径は小さい。
１７５				2.4	3.1	0.12	篆	Ｈ（　１）	内郭外径は小さい。Ｇよりも符の字は大きく通の字は小さい。
１７６	聖宋元寶	北宋建中靖国元年	１１０１	2.5	3.5	0.12	行	Ａ（　１）	孔形が大きい。内郭外径はやや大きいが，４文字とも字形が違う。聖の字は楷書。
１７７				2.4	3.9	0.15	行	Ｂ（　１）	孔形が大きい。内郭外径はやや大きいが，４文字とも字形が違う。聖の字は楷書。
１７８				2.4	3.8	0.14	行	Ｃ（　１）	孔形が小さい。内郭外形はやや大きいが，４文字とも字形が違う。聖の字は楷書。
１７９				2.4	3.2	0.12	行	Ｄ（　４）	
１８０				2.4	3.7	0.15	行	Ｅ（　４）	文字はＣの字を小さくした感じ。
１８１				2.5	3.6	0.11	行	Ｆ（　１）	聖の字はＥよりも小さい。
１８２				2.4	3.8	0.12	行	Ｇ（　２）	Ｅより，聖の字の「王」が小さく，宋の字は小さい。聖は楷書
１８３				2.4	3.8	0.12	行	Ｈ（　１）	内郭外径は小さく，縁が広い。聖の字は楷書。
１８４				2.4	3.7	0.12	篆	Ｉ（　７）	内郭外径がやや大きい。
１８５				2.4	3.7	0.13	篆	Ｊ（　４）	元の字の２画がＩより長い。
１８６				2.5	3.4	0.12	篆	Ｋ（　２）	内郭外径はふつうで，縁が広い。文字は細い字。元の字が特徴的。
１８７				2.5	3.6	0.11	篆	Ｌ（　３）	文字が郭に接している。内郭外径はふつう。
１８８				2.4	3.1	0.11	篆	Ｍ（　２）	文字が小さい。
１８９				2.4	3.5	0.11	篆	Ｎ（　２）	宋の字がＭより大きい。内郭外径は小さい。
							小　計（３５）		
１９０	大観通寶	北宋　大観元年	１１０７	2.4	3.1	0.11	楷	Ａ（　５）	
１９１				2.5	3.9	0.16	楷	Ｂ（　２）	通の字は，Ａより上の位置にある。
１９２				2.6	3.9	0.12	楷	Ｃ（　２）	大の字の３画がＡ・Ｂより短く，郭に接している。
１９３	政和通寶	北宋　政和元年	１１１１	2.4	3.7	0.12	楷	Ａ（　１）	
１９４				3.5	2.5	0.12	隷	Ｂ（　１）	和の字は隷書か。大きい字。
１９５				2.5	2.8	0.15	隷	Ｃ（　１）	文字はＢよりもやや小さい。孔形は大きい。
１９６				2.4	3.4	0.12	隷	Ｄ（　２）	文字はやや小さい。孔形は大きい。
１９７				2.5	3.5	0.10	隷	Ｅ（　２）	和の字は内郭に接している。縁が広い。政の字の６画が長い。
１９８				2.5	3.7	0.12	隷	Ｆ（　１）	和の字の4画はＥより長い。他の文字はＥに似る。縁が広い。孔形は大きい。
１９９				2.4	4.0	0.14	隷	Ｇ（　１）	通・寶の字は，Ｄよりやや縦長にした感じ。他の文字はＤに似る。和の字の「口」は小さい。
２００				2.4	4.2	0.14	隷	Ｈ（　１）	和の字がＢ～Ｇより，やや左寄りの位置にある。
２０１				2.5	4.2	0.13	隷	Ｉ（　１）	文字は縁に寄っている。
２０２				2.5	4.0	0.13	篆	Ｊ（　３）	和の字の１画が長い。
２０３				2.5	4.0	0.13	篆	Ｋ（　５）	和の字の１画が短い。
２０４				2.5	2.7	0.11	篆	Ｌ（　４）	文字はＫに似るが通・寶の字がやや上の位置にある。
２０５				2.4	3.1	0.12	篆	Ｍ（１０）	和の字の１画が短い。文字はＫ・Ｌよりも小さい。
							小　計（３３）		
２０６	宣和通寶	北宋　宣和元年	１１１９	2.4	3.3	0.12	隷	Ａ（　１）	大きい字
２０７				2.4	3.1	0.11	隷	Ｂ（　１）	小さい字
２０８				2.4	4.0	0.15	篆	Ｃ（　１）	
２０９	嘉定通寶	南宋　嘉定８年	１１１５	2.5	3.8	0.12	楷	Ａ（　１）	背に「八」の記号あり。
２１０	淳熙通寶	南宋　淳熙元年	１１７４	2.4	3.2	0.12	楷	Ａ（　１）	背の上に半円形あり。
２１１		淳熙９年	１１８２	2.4	4.5	0.12	楷	Ｂ（　１）	背の上に「九」の記号あり。
２１２		淳熙12年	１１８６	2.4	3.1	0.11	楷	Ｃ（　１）	背の上・下に「十二」の記号あり。
２１３		淳熙16年	１１８９	2.5	3.6	0.12	楷	Ｄ（　１）	背の上・下に「十六」の記号あり。
２１４	嘉泰通寶	南宋　嘉泰元年	１２０１	2.5	3.4	0.11	楷	Ａ（　１）	背の上に「元」の文字あり。
２１５	開禧通寶	南宋　開禧２年	１２０６	2.3	2.9	0.12	楷	Ａ（　１）	背の上に「二」の記号あり。
２１６		開禧３年	１２０７	2.4	3.5	0.16	楷	Ｂ（　１）	背の上に「三」の記号が見えるか？
							総　計５５９枚		

註　直径は上・下の長さ、厚さは縁の厚さを示す。

表17　東江上遺跡須恵器観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	底径	器高	口縁部	体部	頂部	底部	口縁部	体部	頂部	底部	
1	蓋A I	X58 Y34	18.0				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
2	蓋A I	東区遊離	17.4				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ				ヨコナデの ちナデ		かえりあり
3	蓋A I	X42—46 Y30—33	18.0				ヨコナデ				ヨコナデ				かえりあり
4	蓋A I	X32　Y15 （SA15柱穴内）	18.0				ヨコナデ				ヨコナデ				かえりあり
5	蓋A I	東区トレンチ5	17.0				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
6	蓋A I	X35 Y51	17.0				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
7	蓋A I	X31—33 Y16—19	17.0				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
8	蓋A II	SK19内	16.0				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
9	蓋A II	X46・47 Y29・30	14.8				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデの ちナデ		かえりあり
10	蓋A III	X37 Y47	14.0				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
11	蓋A III	X45　Y39 床土	14.0				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
12	蓋A III	X44—47　Y28—32 （東区大溝内）	13.0				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
13	蓋A III	X48 Y28	13.4				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
14	蓋A III	X25 Y27	14.0				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
15	蓋A III	X22 Y21	13.0				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
16	蓋A III	X41・42 Y28・29	13.0				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
17	蓋A III	X50—55　Y30—45 客土	12.0				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
18	蓋A III	X44・45 Y27・28	11.6				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
19	蓋A III	X31 Y25	12.4				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
20	蓋A IV	X19・20 Y18・19	10.0				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		かえりあり
21	蓋A IV	SK19	9.6				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデの ちナデ		かえりあり
22	蓋B I	X31 Y25	18.0				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
23	蓋B I	X27・28 Y17・18	18.3				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
24	蓋B I	X43—45　Y32—36 （東区大溝内）	18.2				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
25	蓋B I	X31　Y25 床土	18.2				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
26	蓋B I	X43—45　Y32—36 （東区大溝内）	18.2				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデの ちナデ		
27	蓋B I	遊離	18.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
28	蓋B I	X51　Y51 （東区大溝内）	18.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
29	蓋B I	X30・31 Y20	17.0				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
30	蓋B I	X30・31 Y20	17.4				ヨコナデ				ヨコナデ				

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	底径	器高	口縁部	体部	頂部	底部	口縁部	体部	頂部	底部	
31	蓋BI	X24・25 Y17・18	17.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
32	蓋BI	X45—50 Y40—45	17.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
33	蓋BI	X35—50 Y26—40	17.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
34	蓋BI	X51・52 Y31・32 床土	17.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
35	蓋BII	X29 Y45	16.6				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
36	蓋BII	X35—50 Y26—40	16.6				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
37	蓋BII	X43—45 Y32—36 （東区大溝内）	16.4				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
38	蓋BII	X35・36 Y34・35	16.4				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
39	蓋BII	X35—50 Y26—40	16.4				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
40	蓋BII	X35—50 Y26—40	16.4				ヨコナデ				ヨコナデ				
41	蓋BII	X51・52 Y31・32	16.4				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
42	蓋BII	X46 Y37・38 客土	16.4				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
43	蓋BII	X23 Y21	16.2				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデの ちナデ		
44	蓋BII	X35—50 Y26—40	16.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
45	蓋BII	X39・40 Y28・29	16.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
46	蓋BII	X45—50 Y40—45	15.4				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
47	蓋BII	X40・41 Y48・49	15.4				ヨコナデ				ヨコナデ				
48	蓋BII	X51・52 Y30・31	15.0				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
49	蓋BIII	排土中	14.4				ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		頂部内面に墨痕あり 杯蓋硯として利用か
50	蓋BIII	X40 Y34	14.2				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
51	蓋BIII	X43—46 Y35—38	14.0				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
52	蓋BIII	X43 Y37 床土	14.0				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
53	蓋BIII	X31 Y20	12.6				ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
54	蓋BIII	X31 Y19	11.9			2.5	ヨコナデ		ヘラケズリ ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		
55	蓋BIII	X31 Y25	12.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
56	蓋BIII	X46・47 Y29・30 床土	11.6				ヨコナデ				ヨコナデ				
57	蓋X	X25 Y26	18.0				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			薬壺の蓋
58	杯AII (b種)	X47・48 Y37・38	16.0		10.8	3.5	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデの ちナデ	径高指数21.9
59	杯AII (b種)	X42 Y34	16.0		10.0	3.6	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			径高指数22.5
60	杯AIII (b種)	X51 Y51 （東区大溝）	14.0		9.2	3.6	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	径高指数25.7

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	底部	器高	口縁部	体部	頂部	底部	口縁部	体部	頂部	底部	
61	杯AIII（a種）	X31 Y20	13.0		9.8	4.8	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリのちナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	径高指数36.9
62	杯AIII（b種）	X40・41 Y40—49	13.0		7.0	3.8	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	外底面にヘラ記号あり（X）径高指数29.2
63	杯AIII（b種）	X56・57 Y36	13.0		9.3	3.5	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	径高指数26.9
64	杯AIII（b種）	X25 Y18	13.0				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			杯BIIIか
65	杯AIII（b種）	SK20	13.0		7.8	3.5	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	径高指数26.9
66	杯AIII（a種）	X24 Y20	12.6			4.0	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	径高指数31.7
67	杯AIII（b種）	東区トレンチ5	12.2		9.0	3.0	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			径高指数25.4
68	杯AIII（b種）	SDO5	12.0		8.4	3.3	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			径高指数27.5
69	杯AIII（b種）	X46—53 Y31—35	12.0		6 4	3.5	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			径高指数28.3
70	杯AIII（b種）	X25 Y15・16	12.0		8.0	3.4	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			径高指数27.5
71	杯AIII（b種）	X57・58 Y38	12.0		8.0	3.3	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ			径高指数32.2
72	杯AIII（a種）	X45—50 Y26—35	11.8		8.0	3.8	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	径高指数26.8
73	杯AIV（b種）	X19 Y13	11.2		6.0	3.0	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ			径高指数29.1
74	杯AIV（b種）	遊離	11.0		8.0	3.2	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	径高指数29.1
75	杯AIV（b種）	東区トレンチ4	11.0		8.0	3.2	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	径高指数35.2
76	杯AIV（a種）	SDO5	10.8		7.2	3.9	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			径高指数37.0
77	杯AIV（a種）	X46・47 Y42・43	10.0		6.6	3.7	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	径高指数34.5
78	椀AIV	SK19	11.0		4.6	3.8	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	径高指数34.5
79	杯BI	X45—56 Y26—35	推定20.0		14.4	推定5.2		ヨコナデ		ヘラケズリのちナデ		ヨコナデ		ヨコナデ	
80	杯BI	X39・40 Y58—60	推定18.8		14.0	推定5.0		ヨコナデ		ヘラケズリ		ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	
81	杯BI	遊離	17.4		12.2	4.5	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	
82	杯BII	X26 Y16	推定17.2		13.4	推定3.5	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			
83	杯BI	X27 Y16			14.4									ヨコナデ	
84	杯B	X21・22 Y15・16			14.4									ヨコナデのちナデ	
85	杯B	X33 Y16			14.4									ヨコナデ	
86	杯B	X31 Y25			13.2									ヨコナデのちナデ	
87	杯B	X41—43 Y48—50			13.2									ヨコナデのちナデ	
88	杯B	X43—45 Y32—36（東区大溝内）			12.8									ヨコナデのちナデ	
89	杯B	X43 Y36・37			12.8			ヨコナデ				ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	
90	杯BII	X47 Y42	16.6		10.0	4.5	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	底部	器高	口縁部	体部	頂部	底部	口縁部	体部	頂部	底部	
91	杯BII	X45 Y34	16.4		11.6	4.5	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	
92	杯BII	X22 Y21 (西区トレンチ2)	推定 16.0		11.2	4.1	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラケズリのちナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	
93	杯BII	X20・21 Y18・19	15.6		11.6	4.4	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	
94	杯B	X44—47 Y28—32			13.4					ヘラケズリのちナデ				ヨコナデのちナデ	
95	杯B	X31 Y25			12.6					ヘラケズリ				ヨコナデのちナデ	きわめて丁寧なつくり、高台はふんばる
96	杯B	X26 Y19 (西区トレンチ2)			12.4			ヨコナデ				ヨコナデ		ヨコナデ	
97	杯B	X27 Y24 (西区トレンチ1)			11.6			ヨコナデ				ヨコナデ		ヨコナデ	
98	杯B	X43—45 Y32—36			12.2									ヨコナデのちナデ	
99	杯B	X43—45 Y32—35	推定 14.1		10.4	推定 3.1	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	
100	杯BII	SDO5	推定 15.3		9.6	推定 3.1	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	
101	杯BII	X32 Y16	推定 15.0		10.2	推定 4.0	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	
102	杯BII	X20 Y15	14.8		10.0	4.5	ヨコナデ	ヨコナデ		ヘラキリ	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	
103	杯BIII	遊離	推定 14.0		9.7	4.3		ヨコナデ				ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	
104	杯B	X51・52 Y31・32			11.0			高台に接する部分はヘラケズリ		ヘラケズリ		ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	
105	杯B	X30 Y15			11.0									ヨコナデ	
106	杯B	X21・22 Y14・15			11.4					ヨコナデ				ヨコナデのちナデ	
107	杯B	X27・28 Y17・18			10.6					ヘラケズリ				ヨコナデのちナデ	
108	杯B	X46—53 Y31—35			10.2			ヨコナデ				ヨコナデ		ヨコナデ	
109	杯B	X46—50 Y26—35			10.2			ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	
110	杯B	X43 Y36・37			9.6									ヨコナデ	
111	杯BIII	X21・22 Y15・16	14.2				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			体部外面の中ほどに2条の沈線あり (杯Bと推定)
112	杯BIII	X30・31 Y15・16	14.0				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			体部外面の中ほどに2条の沈線あり (杯Bと推定)
113	杯BIII	X21・22 Y18 客土	14.2		7.4	4.8	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	
114	杯BIII	X46—53 Y31—35	推定 13.6		8.4	推定 3.9	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	
115	杯B	X21 Y11			10.0					ヘラケズリ				ヨコナデのちナデ	
116	杯B	X23 Y20			10.0			ヨコナデ				ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	
117	杯B	X51・52 Y31・32			9.8			ヨコナデ				ヨコナデ		ヨコナデのちナデ	
118	杯B	X41 Y26・27			9.4					ヘラケズリ				ヨコナデのちナデ	
119	杯B	SDO5			9.6									ヨコナデのちナデ	
120	杯B	X37・38 Y27・28			9.4									ヨコナデ	

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	脚底径	器高	口縁部	体部	頂部	脚・底部	口縁部	体部	頂部部	脚・底部	
121	杯B	SK20			10.0									ヨコナデ	
122	杯BIII	X49 Y24 床土	推定 13.4		10.2	推定 4.1		ヨコナデ						ヨコナデの ちナデ	
123	杯BIII	X58・59 Y39・40 床土	13.2		8.6	4.0	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	
124	杯BIII	X44—47 Y28—32 （東区大溝内）	13.0				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			
125	杯BIII	X44—47 Y28—32 （東区大溝内）	13.0		9.0	3.8	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	
126	杯BIII	試掘33トレンチ			9.0			ヨコナデ				ヨコナデ		ヨコナデ	
127	杯B	X45 Y34 床土			9.2									ヨコナデの ちナデ	
128	杯B	X45 Y34 床土			8.4									ヨコナデの ちナデ	
129	杯B	X36—39 Y42—45			8.4									ヨコナデの ちナデ	
130	杯B	東区トレンチ5			8.0			ヨコナデ				ヨコナデ		ヨコナデ	
131	杯B	X46 Y37・38			8.8									ヨコナデ	
132	杯B	SK19			8.6			ヨコナデ				ヨコナデ		ヨコナデの ちナデ	
133	杯BIII	X50 Y38	12.2		7.4	3.6	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデか	内底面はツルツル 転用硯として利用か
134	杯BIV	X46—50 Y26—35	11.0				ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	
135	杯BIV	X31 Y不明	10.2		7.6	4.1	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ			体部外面は高台に接 する部分をヘラケズ りする
136	杯BIV	X43—48 Y35—40 床土	8.6		6.0	3.7	ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	
137	杯BIV	X23 Y23 客土												ヨコナデの ちナデ	
138	杯BIV	X19 Y14			6.6			ヨコナデ		ヘラキリ		ヨコナデ		ヨコナデ	
139	杯BIV	X41・42 Y26・27			6.6									ヨコナデ	
140	杯BIV	X35—50 Y26—40			6.4			ヨコナデ				ヨコナデ		ヨコナデの ちナデ	
141	杯BIV	X50—55 Y30—45 床土			6.8									ヨコナデの ちナデ	
142	杯BIV	遊離			6.4									ヨコナデ	
143	杯BIV	X29 Y21・22			6.2									ヨコナデ	
144	杯BIV	X51 Y30—31 床土			6.0			ヨコナデ				ヨコナデ		ヨコナデ	
145	壺	X31 Y25 床土	12.0	19.6		18.8	ヨコナデ	カキメ		不定方向の 静止ヘラケズリ	ヨコナデ				
146	壺	SDO5	14.0				ヨコナデ				ヨコナデ				頸部以下を欠く
147	壺	X43—48 Y35—40 床土	14.0				ヨコナデ				ヨコナデ				頸部以下を欠く
148	壺	X43—48 Y35—40	12.6				ヨコナデ				ヨコナデ	円心円文			頸部以下を欠く
149	壺	X20 Y11	15.0				ヨコナデ				ヨコナデ	円心円文			頸部以下を欠く
150	壺	遊離（東区）	14.0				ヨコナデ				ヨコナデ	円心円文			頸部以下を欠く

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	脚底径	器高	口縁部	体部	頂部	脚・底部	口縁部	体部	頂部	脚・底部	
151	壺	X23 Y20	10.0				ヨコナデ				ヨコナデ				口縁部外面に1条の沈線あり 体部欠損
152	短頸壺	X31 Y20	7.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
153	短頸壺	遊離	9.0				ヨコナデ				ヨコナデ				
154	壺	X33 Y57		8.5											口縁部、底部を欠く 体部外面に2条の沈線あり
155	壺		10.3				ヨコナデ				ヨコナデ				156と同一個体
156	壺				8.0			ヨコナデ				ヨコナデ			155と同一個体
157	壺	X56・57 Y36		17.2				ヨコナデ				ヨコナデ			体部外面に2条の沈線を引き、その間をヤザミで埋める
158	台付壺	X54・55 Y39・40			10.3			ヨコナデ				ヨコナデ		ヨコナデ	
159	台付壺	X45—50 Y23—30			11.0			ヨコナデ				ヨコナデ			
160	擂鉢	X25 Y27 床土			15.0			ヨコナデ				ヨコナデ			
161	円面硯	X40—45 Y35—40 床土	外堤径 17.0		脚台径 23.8	8.0	ヨコナデ			脚部に十字形の透しあり				ヨコナデ	陸部は焼成中の膨張によりふくらむ
162	甕	X43・44 Y26・27 床土	復原 31.0				ヨコナデ					ヨコナデ			体部を欠く
163	甕	試掘46トレンチ	復原 40.0				ヨコナデ					ヨコナデ			口縁部外面に3条の櫛描波状文
164	大甕	SDO5底	60.6	83.4		91.4	ヨコナデ	平行タタキメ		平行タタキメ	ヨコナデ	円心円文		円心円文	口縁部外面に2条の沈線あり，櫛描波状文あり

表18　東江上遺跡土師器観察表

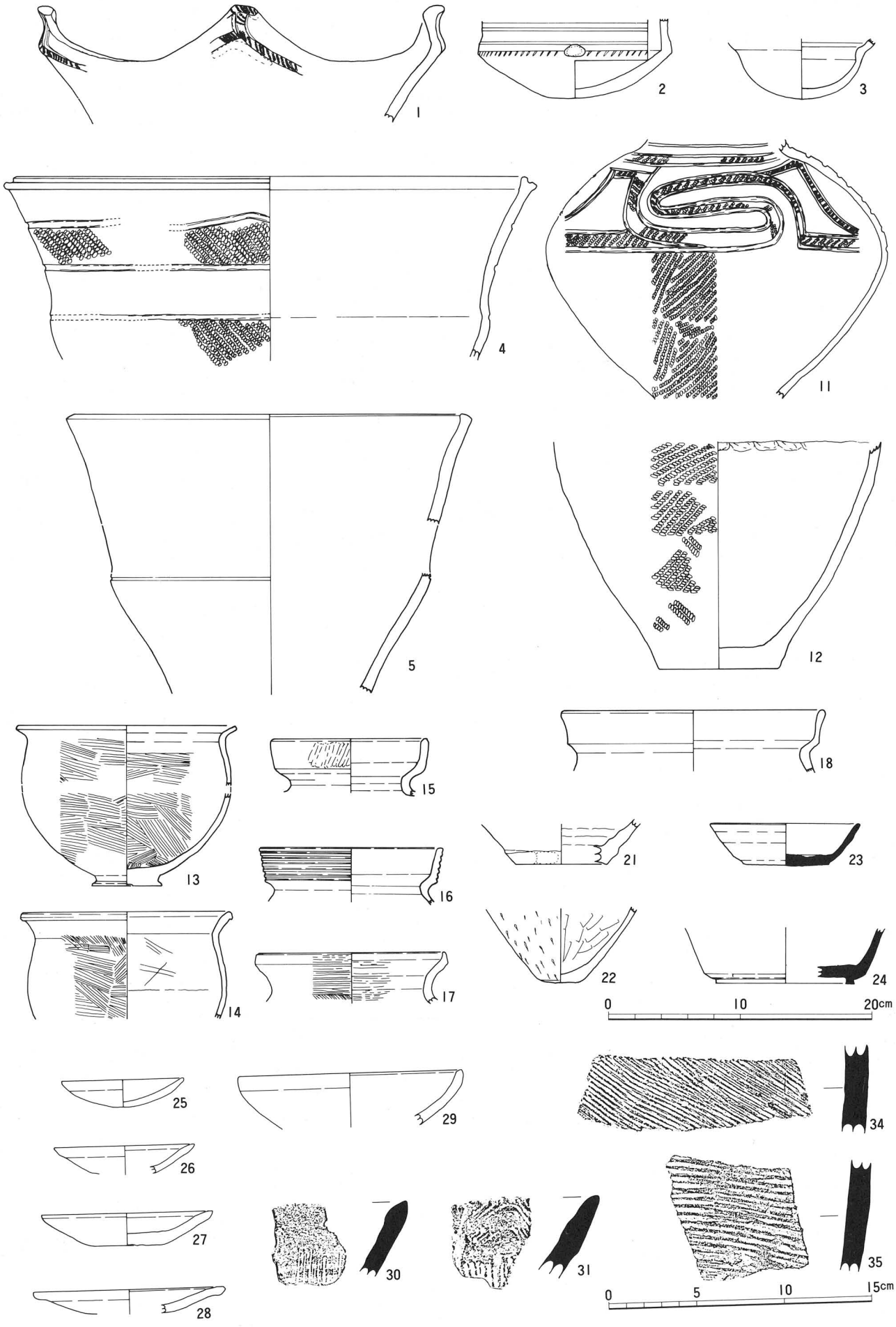
番号	器種	出土区	法量				成形・調整							備考
							外面				内面			
			口径	胴部径	底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	底部	口頸部	胴上部	胴下部	底部	
201	甕A	X50 Y38 （SK19の南）	19.6	20.6		推定 27.0	ナデ	ハケメ （縦）	ハケメ （縦）		ハケメ （横）	ハケメ （横）	ハケメ （横）		
202	甕A	X26 Y16	24.0	23.4		推定 24.5	ナデのち一部ハケメ	ハケメ （縦）	ハケメ （縦）		ナデ	ナデ	ナデのち一部ハケメ （横）		
203	甕(A)	X47・48 Y37・38	24.0				ナデ	ハケメ （縦）			ハケメ （横）	ハケメ （横）			
204	甕(A)	SDO5	23.8				ハケメ （縦）	ハケメ （縦）			ハケメ （横）	ナデ			
205	甕(A)	X19 Y18	23.0				ハケメ （縦） ナデ				ハケメ （横）				
206	甕B	X50 Y38 （SK19の南）		17.8					ハケメ （縦）	ハケメ			ハケメ （横）	ハケメ	
207	甕B	X50 Y38 （SK19の南）	19.6	18.6		22.5	ナデ、一部にハケメ （縦）	ハケメ （縦）	ハケメ （縦）	ハケメ	ナデ、一部にハケメ	ハケメ （横）	ハケメ （横）	ハケメ	外底面及び胴部上半の内面に煤付着
208	甕B	X50 Y38 （SK19の南）	17.0	17.2		23.0	ナデ （横）	ハケメ （縦）	ハケメ （縦）	ハケメ	ハケメ （横）	ハケメ （横）	ハケメ （横）	ハケメ	外面及び胴部上半の内面に煤付着
209	甕B	X58 Y38 X47・48 Y37・38 X50 Y38床土	18.2	17.5		21.5	ナデ （横）	ハケメ （縦）	ハケメ （縦）	ハケメ	ハケメ （横）	ハケメ （横）	ハケメ （横）	ハケメ	
210	甕B	X43—48 Y35—40 床土	16.0	15.5		推定 22.5	ナデ、一部にハケメ （縦）	ハケメ （縦）	ハケメ （縦）		ハケメ （横）	ハケメ （横）	ハケメ （横）	ハケメ	
211	甕B	X48 Y38 床土	13.0	13.8		13.8	ナデ （横）	ハケメ （縦）	ハケメ （縦）	ハケメ	ナデ	ハケメ （横）	ハケメ （横）	ハケメ	外面下半及び胴部上半の内面に煤付着
212	甕C	X47 Y40 床土	14.2	14.2			ナデ （横）	ハケメ （縦）			ナデ（横）のちハケメ （横）	ハケメ （横）			

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	胴部径	底径	器高	口頸部	胴上部	胴下部	底部	口頸部	胴上部	胴下部	底部	
213	甕C	X50 Y38 （SK19の南）	12.8	14.4		推定 15.7	ナデ （横）	ハケメ （縦）	ハケメ （縦）		ハケメ （横）	ハケメ （横）	ハケメ （横）		外面及び胴部上半の内面に煤付着
214	甕C	X47 Y40 床土	14.2	14.2			ナデ （横）	ハケメ （縦）			ナデのちハケメ（横）	ハケメ （横）			
215	甕C	X36・37 Y47—49	14.4	13.0			ナデのちハケメ（縦）	ハケメ （縦）	ハケメ （縦）		ハケメ （横）	ハケメ （横）	ハケメ （横）		胴部中央に接合痕をとどめる
216	甕C	SK19	14.0	12.0			ナデ （横）	ハケメ （縦）			ナデ （横）	ナデ （横）			
217	甕C	X45—50 Y40—45	12.0	14.8			ナデ （横）	ハケメ （縦）			ハケメ （横）	ナデ （横）			
218	壺	試掘37トレンチ	13.6	15.2		18.0	ヘラミガキ	磨耗により不明	不明	不明		ハケメ （横）	ハケメ （横）	ハケメ	
219	壺	X31 Y26 床土	10.0	10.7		8.5	ナデ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	黒色土器
220	椀	X43—45 Y32—36	12.5			5.4	ナデ	ナデのち一部にハケメ	ナデのち一部にハケメ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
221	高杯	X50 Y38 （SK19の南）	15.2		9.8	10.2	ナデのちハケメ	ハケメ	ハケメ	脚端部ナデ	磨耗により不明 ヘラミガキか	磨耗により不明、ヘラミガキか		ヘラケズリ脚端部はナデ	黒色土器
222	支脚	X24・25 Y15・16			6.6				ハケメ	ナデ			ナデ		上半を欠く
223	支脚	X26・27 Y15			8.0				ハケメ						上半を欠く
224	壺	SDO5		15.0				ハケメのちヘラミガキ	ハケメのちヘラミガキ	ハケメのちヘラミガキ		ハケメ	ハケメ	ハケメ	
225	甕B	X48 Y28 床土	16.8				ハケメ				ハケメ				口縁部破片
226	甕	SK19	19.8				ナデ				ナデ				口縁部破片
227	甕	X20・21 Y20	20.0				ナデ			ハケメ	ハデのちハケメ（横）				
228	甕B	X48 Y38 床土	17.8	20.0			ナデのち一部ハケメ（縦）	ハケメ （縦）	ハケメ （縦）		ナデ （横）	ハケメ （横）	ハケメ （横）		底部を欠く
229	甕	X51 Y30							ハケメ （縦）	ハケメ			ハケメ	ハケメ	胴部の大半を欠く
230	壺	X28 Y15 SDO1 } 接合	25.0	29.0			ナデ	ハケメ （縦）			ヘラミガキ （横）	ハケメのち一部にヘラミガキ			褒か？
231	製塩土器	X47 Y40					頸部ヘラケズリ				頸部ナデ 接合痕あり				能登式製塩土器頸部
232	製塩土器	SK19付近					磨耗により不明				頸部ナデ 接合痕あり				能登式製塩土器頸部
233	製塩土器	SK19付近												シボリメあり	能登式製塩土器尖底部
234	小皿	SK18	11.6			推定 2.6	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	土師質小皿 （鎌倉時代）

表19　東江上遺跡珠洲観察表

番号	器種	出土区	法量				成形・調整								備考
							外面				内面				
			口径	体部径	脚底径	器高	口縁部	体部	頂部	脚・底部	口縁部	体部	頂部	脚・底部	
301	擂鉢	SK18					ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ	ヨコナデ オロシメ			
302	擂鉢	X15 Y10						ヨコナデ				ヨコナデ オロシメ			
303	擂鉢	試掘トレンチ22					ヨコナデ				櫛描波状文	ヨコナデ オロシメ			
304	壺	遊離						「車輪文」状の押文あり				円形アテ具痕			

図　　版


1
2
3
4
11
5
12
13
15
18
16
21
23
14
17
22
24
0
10
20cm
25
29
34
26
27
30
31
35
28
0
5
10
15cm

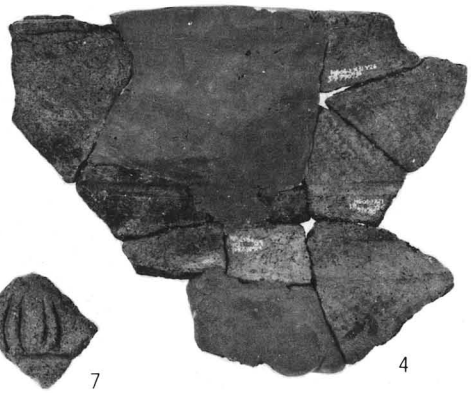
図版1　下経田遺跡

11

2

27

1



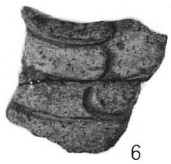
4

8

9

3

10



6

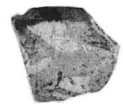
7

14

19

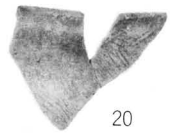
25

29



28

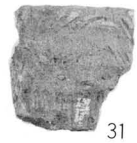
17



20

32

33



31

13

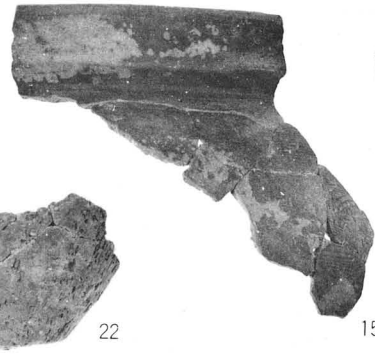
15

16

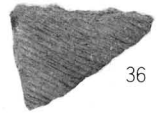
34

13

22



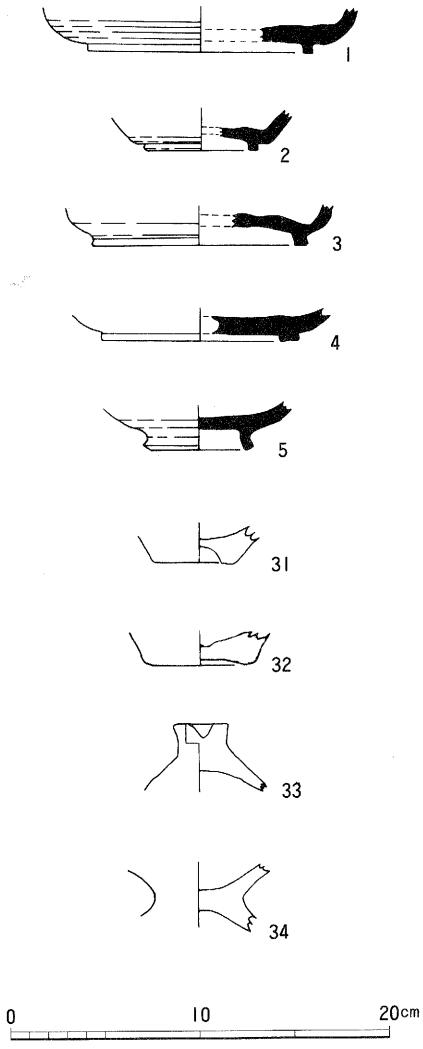
15



36

35

37



図版２　神田遺跡　14.SX113　24.SE081

1

6

7

8

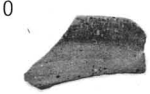
11

12

3

9

10


13

14

2

4

15

16

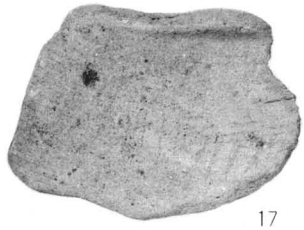
5

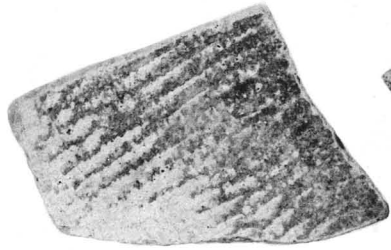
18

19

21

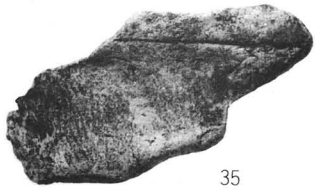
23


17


20

22

24

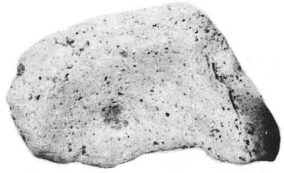

35

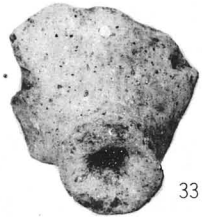
36

37

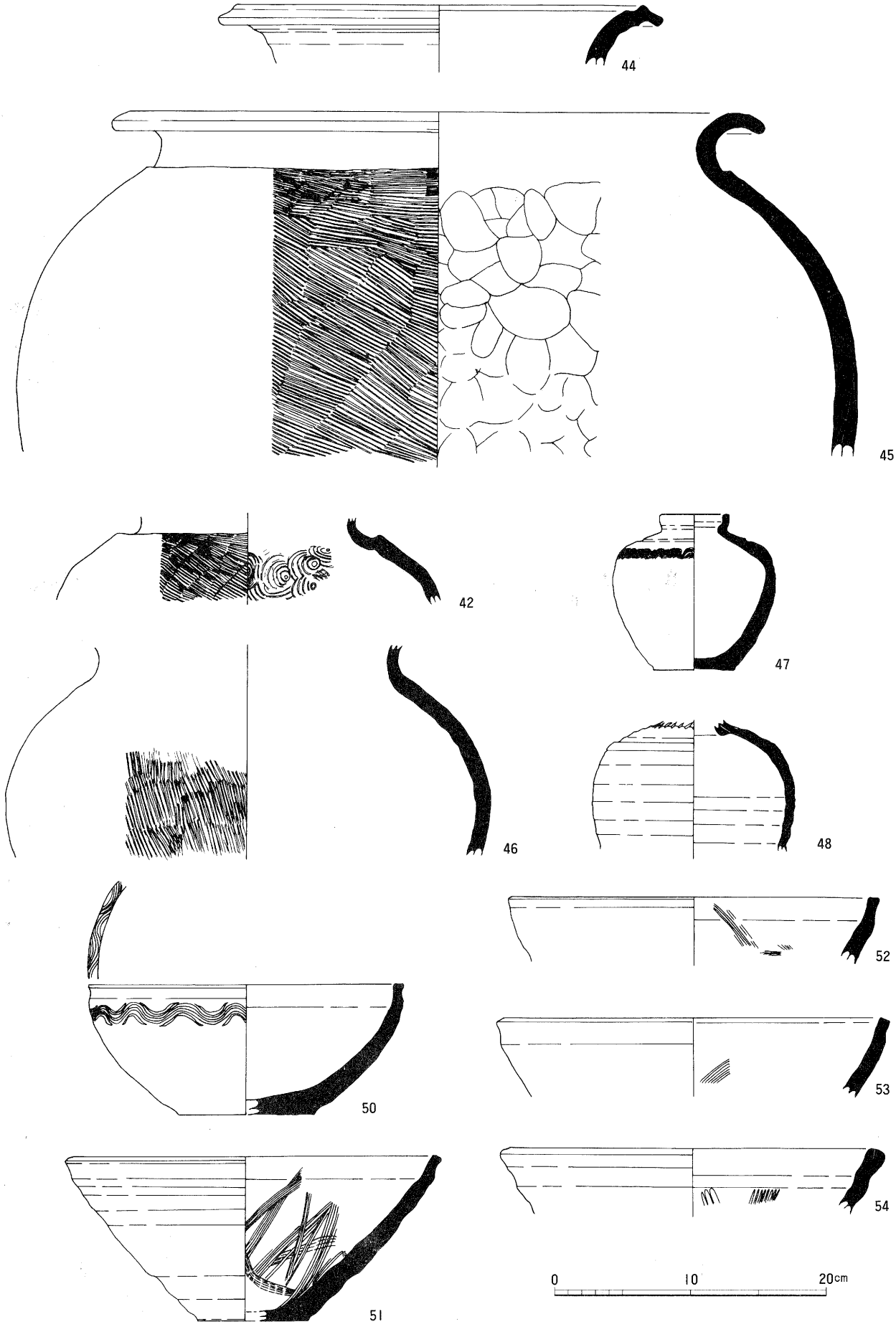
38

31


32

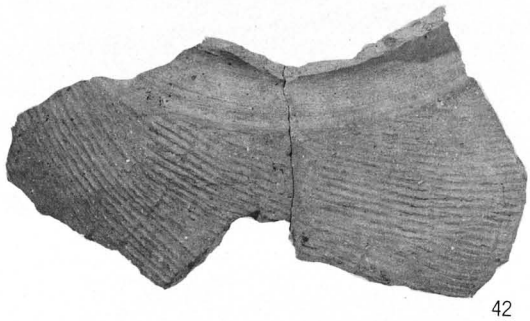

33

34

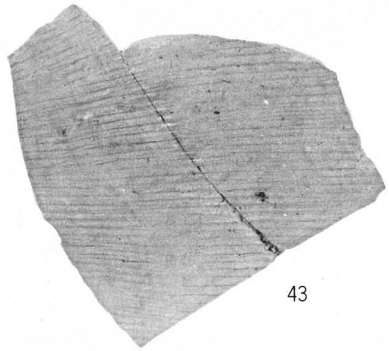


図版３　神田遺跡　42・47.SK103

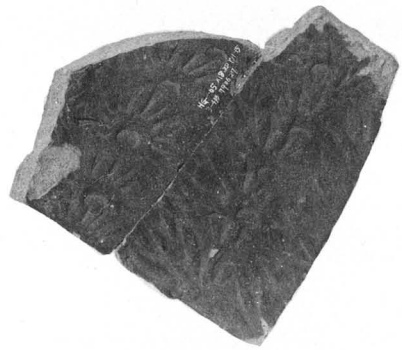
41



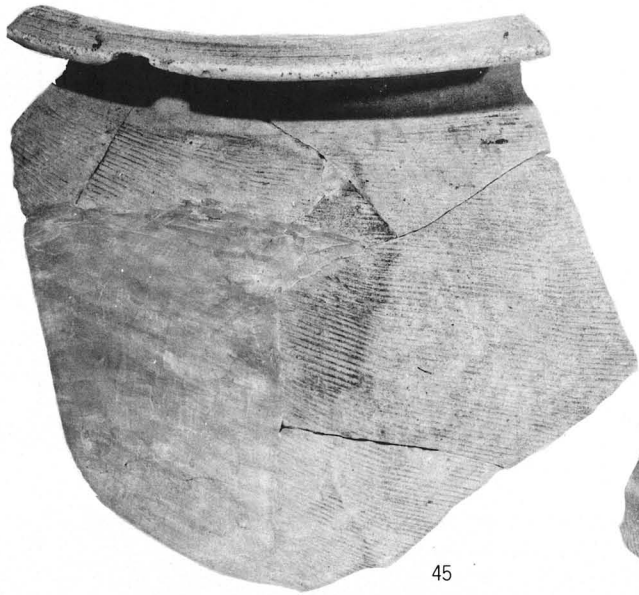
42



43



1 : 2



45

44

46

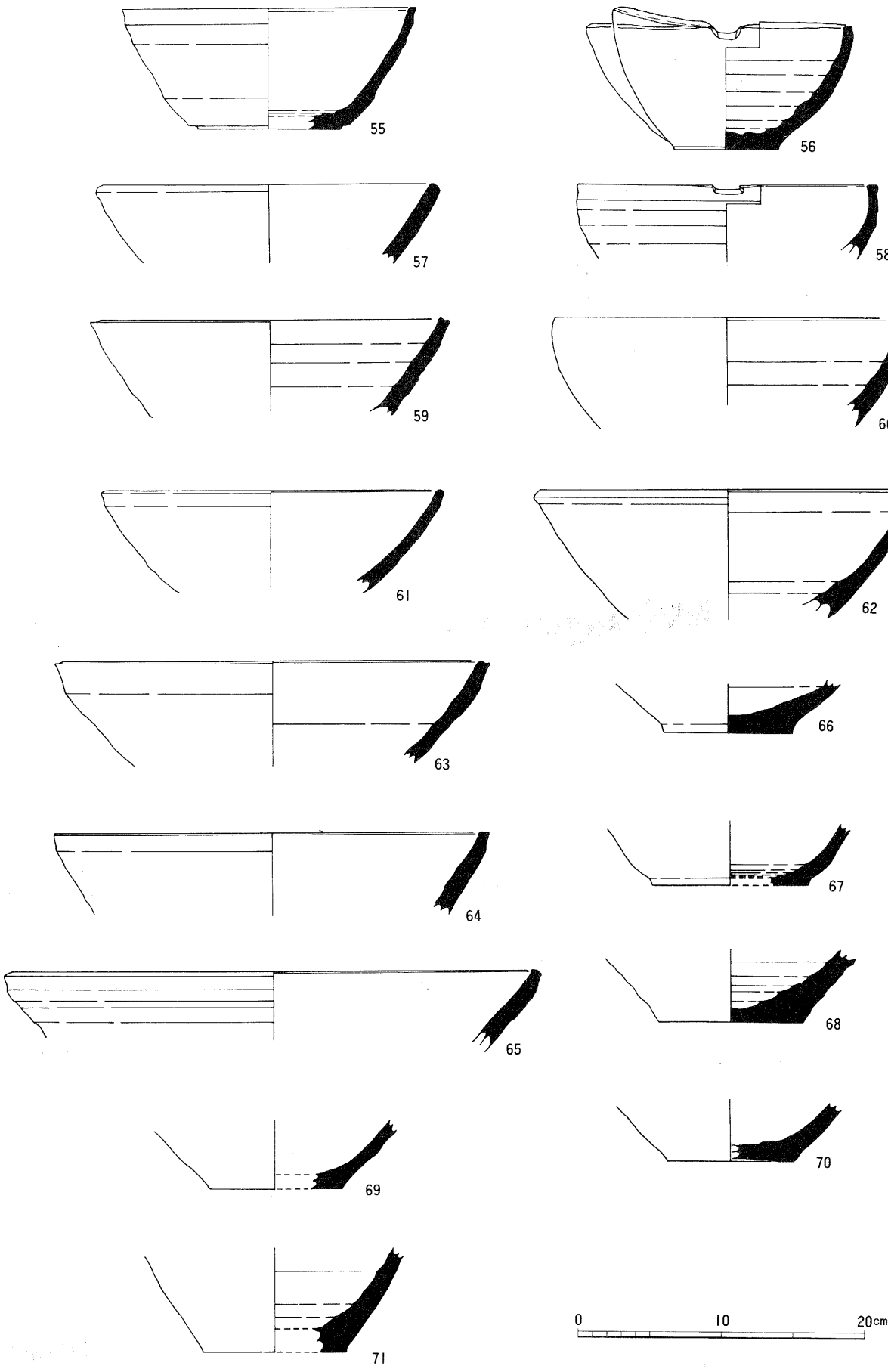
1 : 4

49

48

47

1 : 2



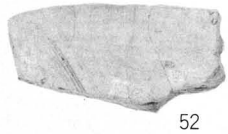
図版 4　神田遺跡　55.SB003　71.SB006　73.SK103

55

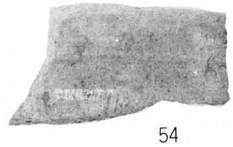
56

50

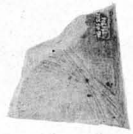
53



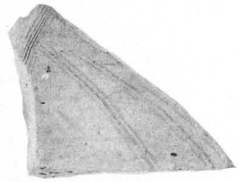
52



54



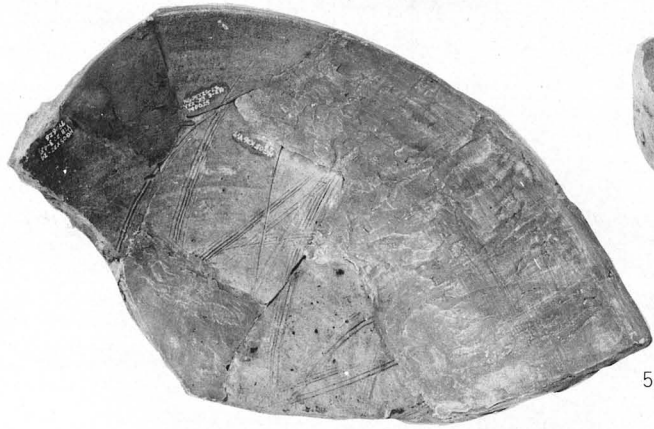
73



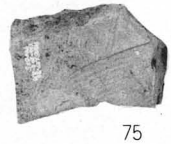
74

72

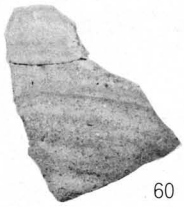
76



51

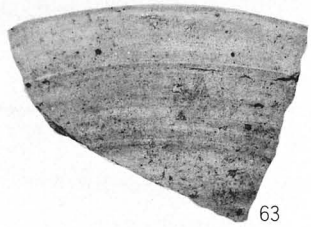


75

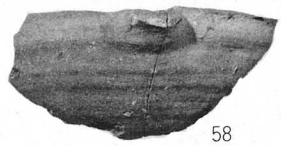


60

59

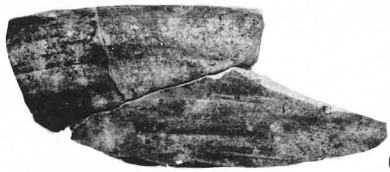


63



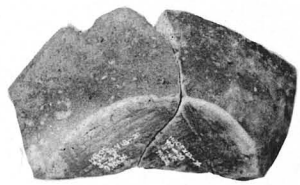
58

77

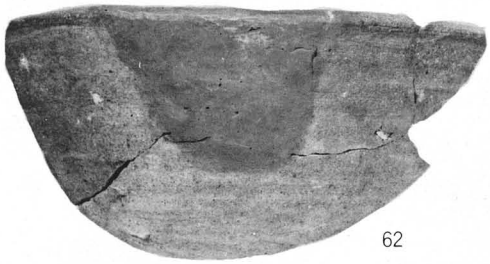


66

61



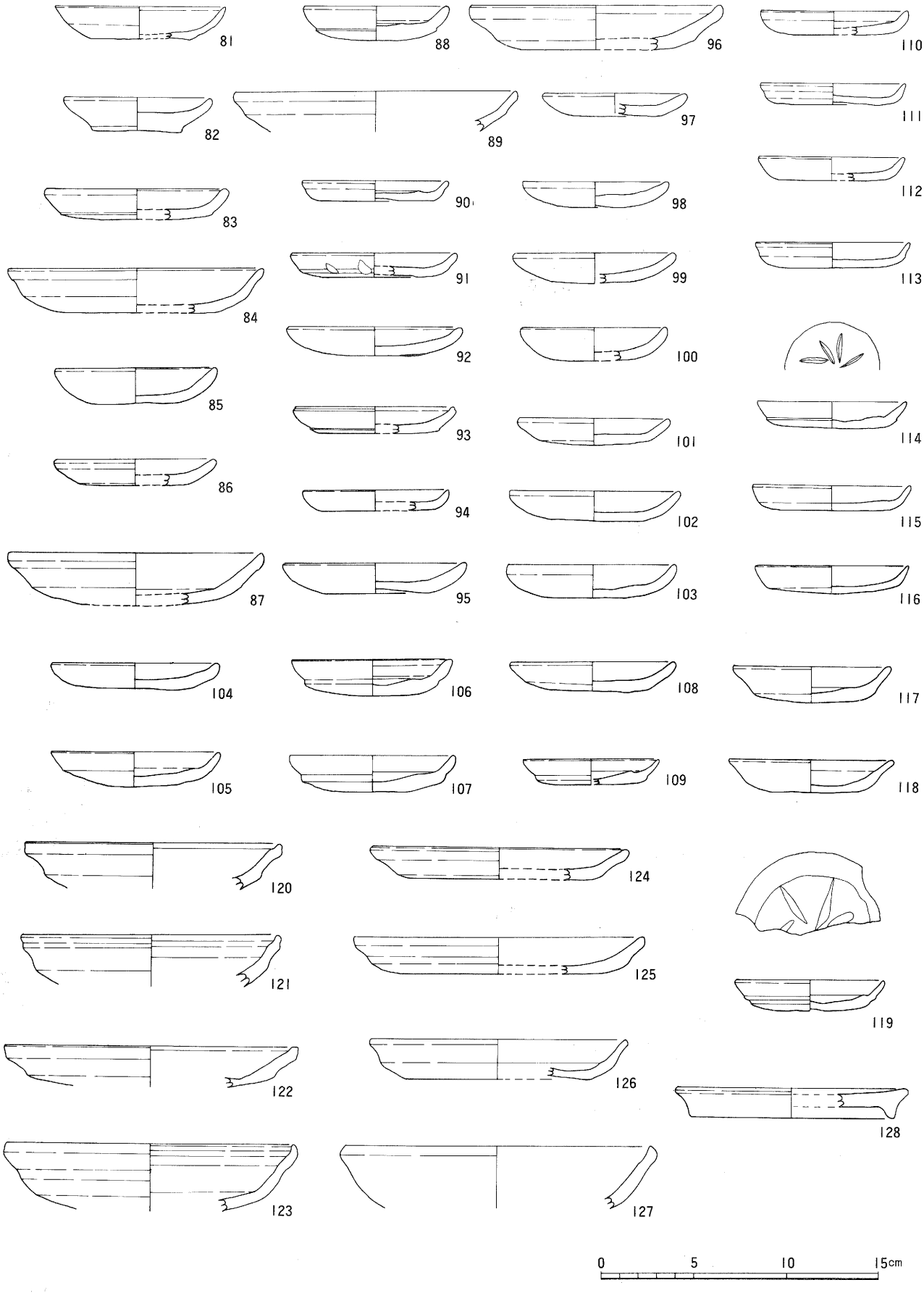
70



62

68

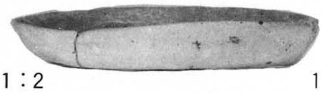
78



図版 5　神田遺跡　83.SX113　84.SB013　85.SB011　86・87.SB010　88・89.SD121　90～93.SB006　94・95.SX114　96.SA057

1 : 2 82

1 : 2 81



1 : 2 113

1 : 2 116

1 : 2 104

1 : 2 103

1 : 2 118

1 : 2 115

1 : 2 102

1 : 2 105

1 : 2 129

1 : 2 130

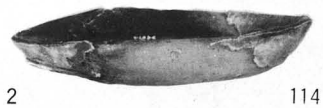
1 : 2 108

1 : 2 119

1 : 2 117

1 : 2 107

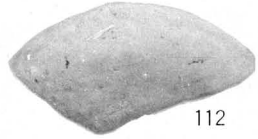
1 : 2 106



1 : 2 114

122

84



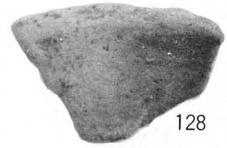
112

127

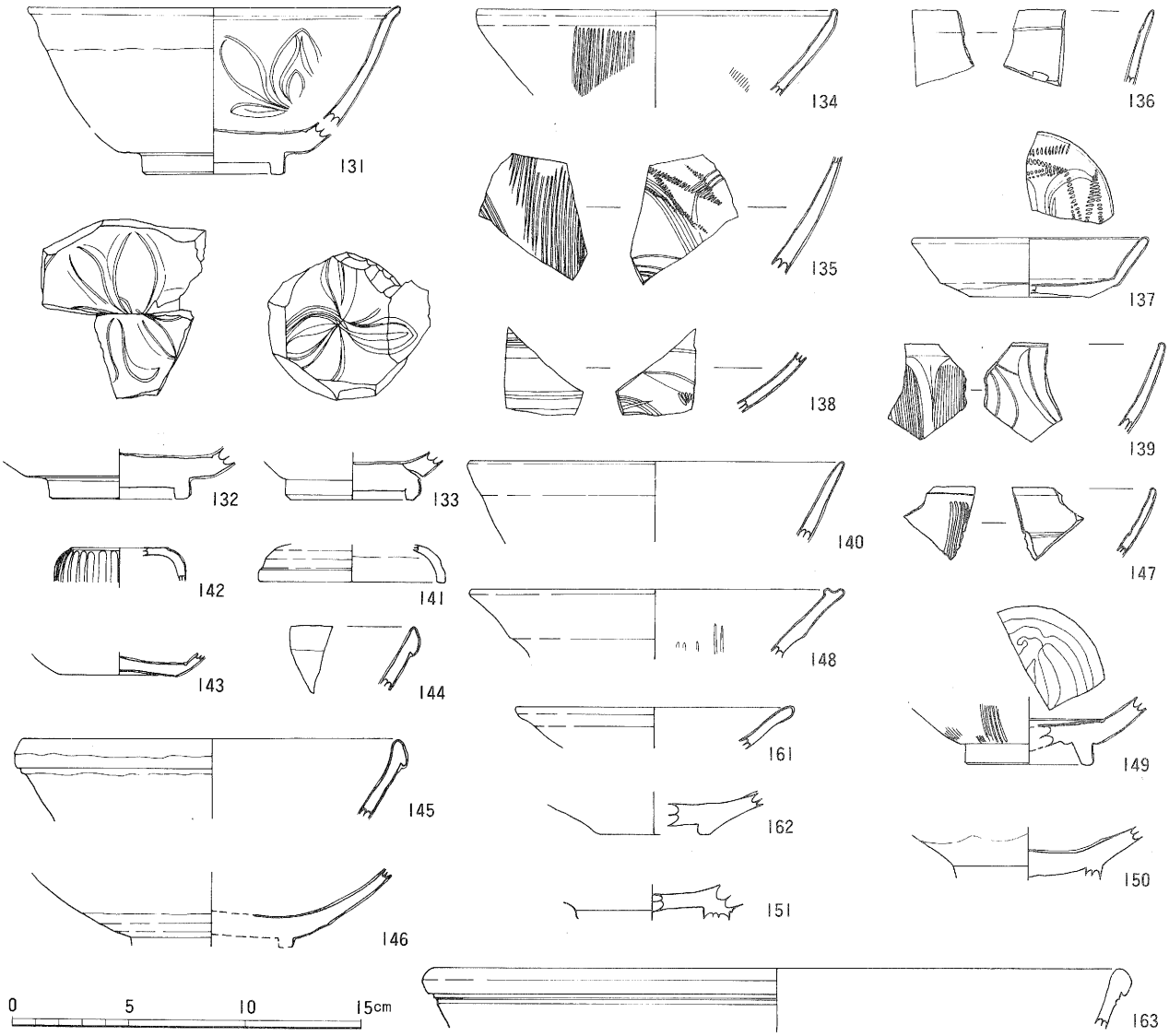
126

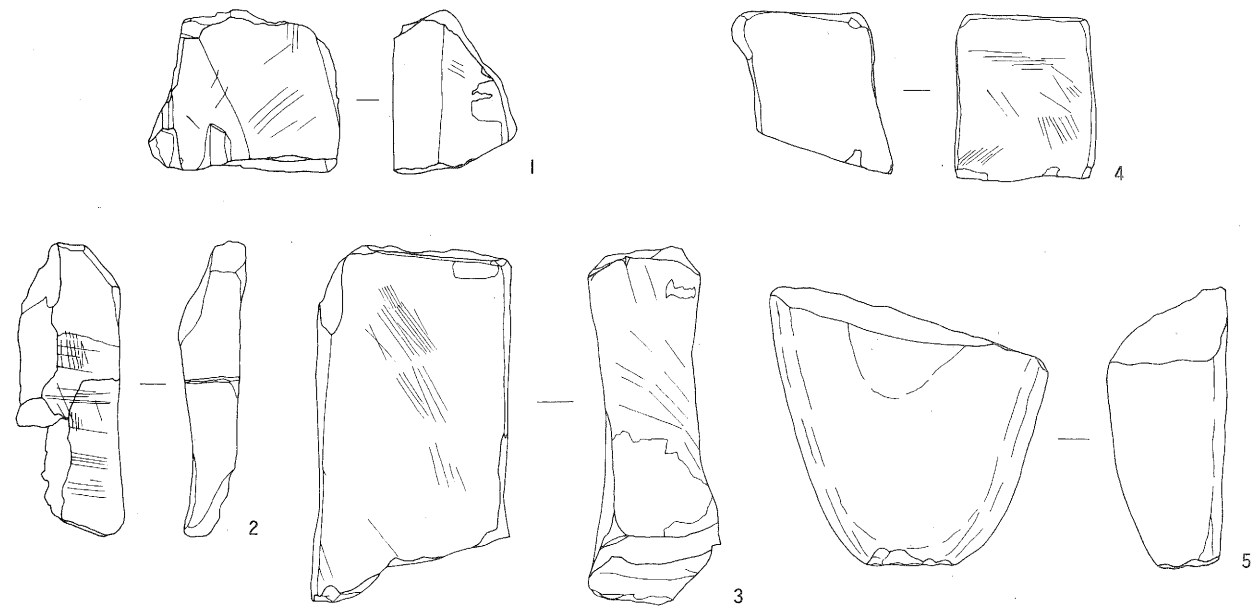
121

131

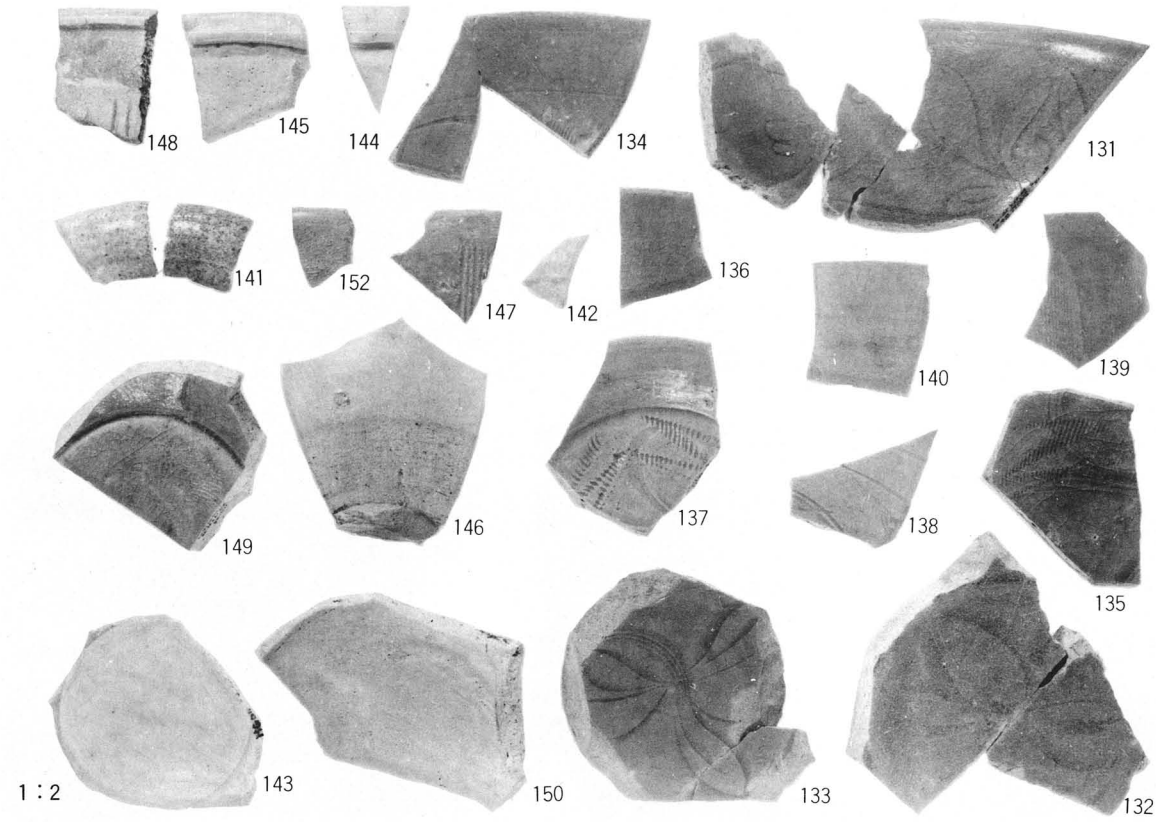


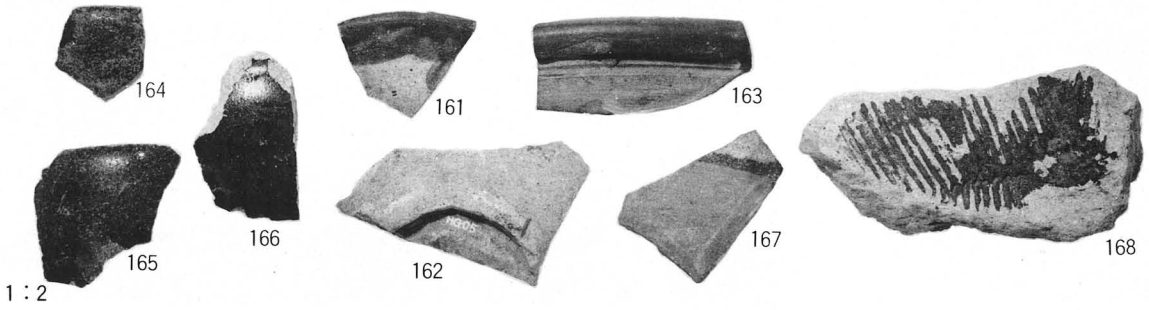
128





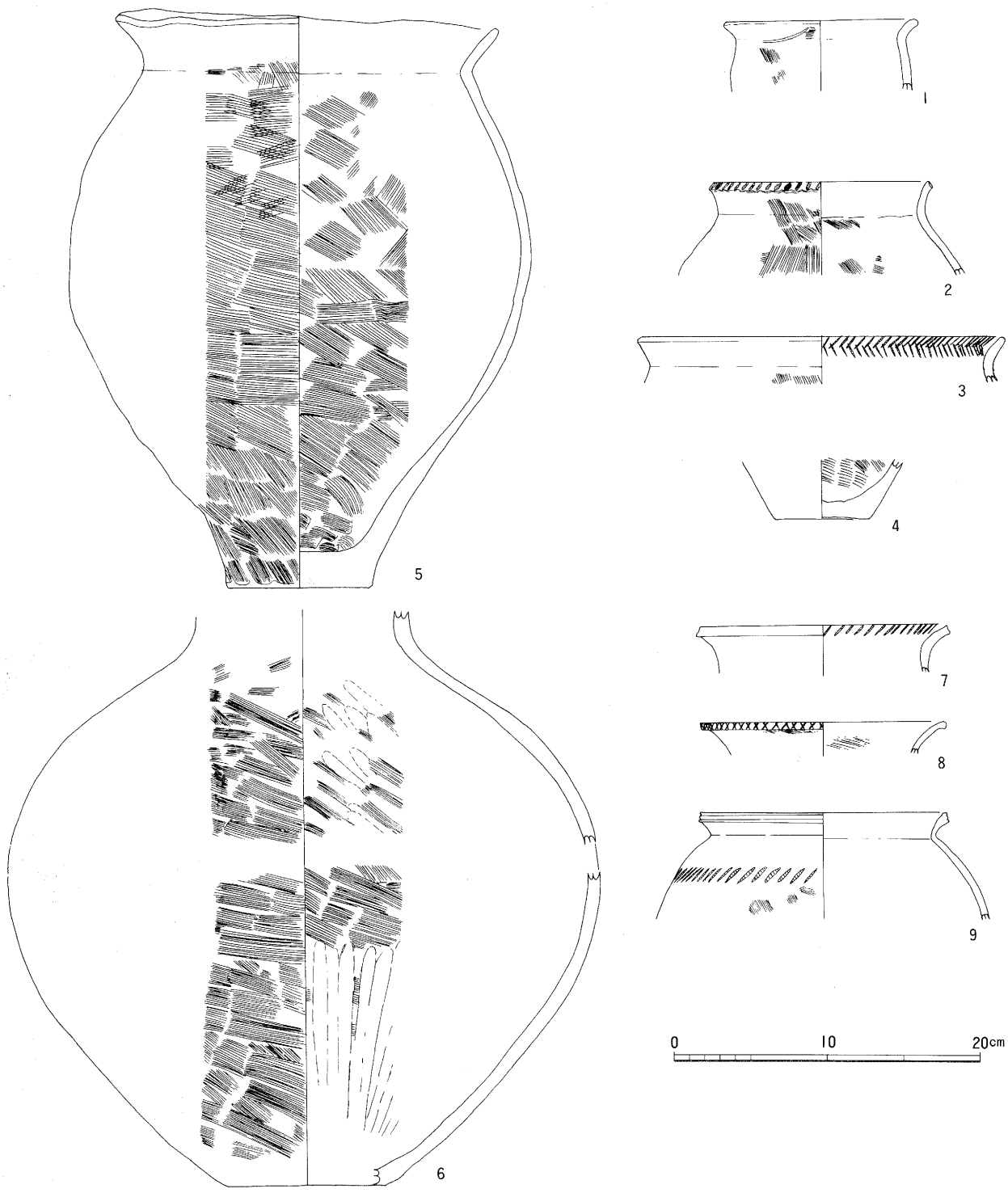
図版 6　神田遺跡　141.SK103　1・2.SB013


148
145
144
134
131
141
152
147
142
136
140
139
149
146
137
138
135
1 : 2
143
150
133
132

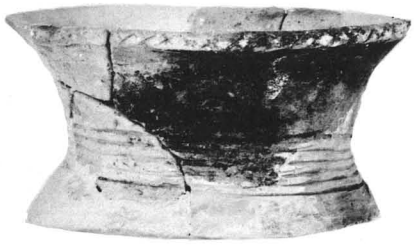

164
161
163
166
165
162
167
168
1 : 2

1 : 2
1
2
3
4
5
6

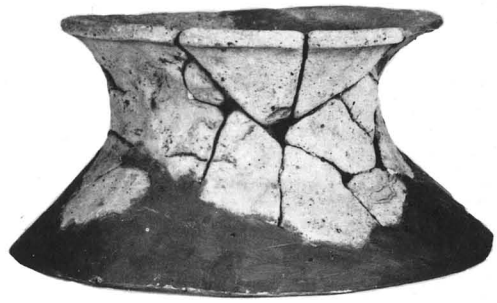
1
2
3
4
5



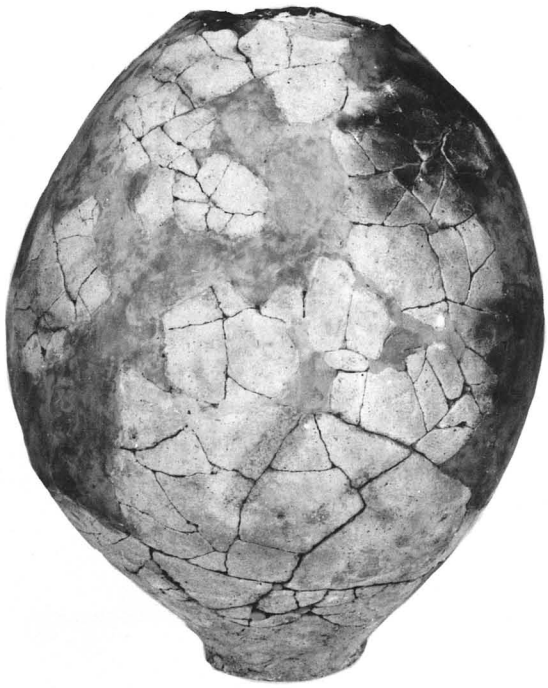
図版 7　正印新遺跡　1.SK31　2～4.SK33　5～9.SK34



25



24



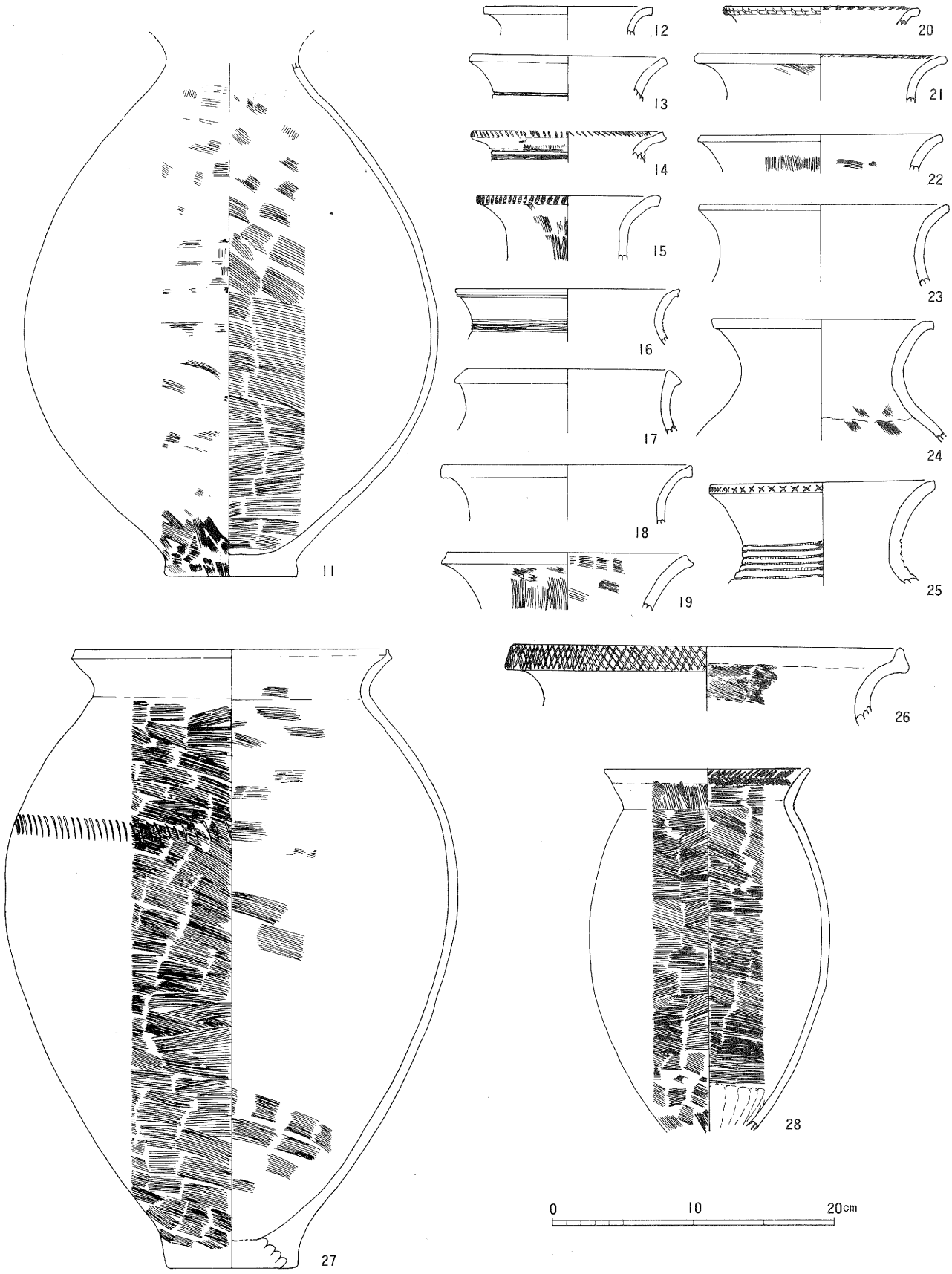
11

45

28

5

31



図版 8　正印新遺跡　第 7 ・ 8 層出土

48

30

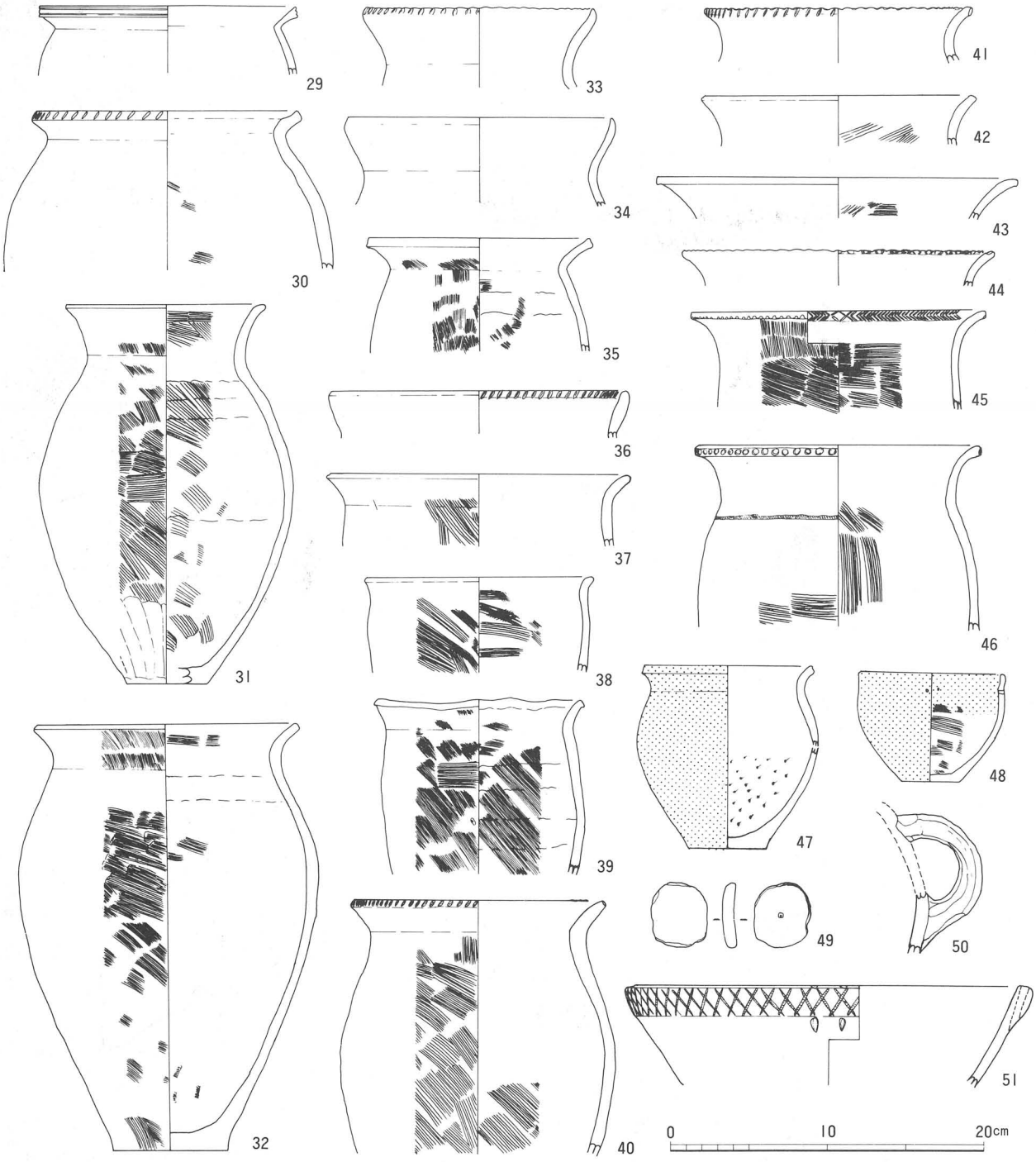
32

46

27

40

39



図版 9　正印新遺跡　第 7 ・ 8 層出土

63

64

62

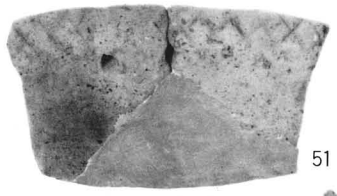
9

26

34

19

2



51

86

50

1 : 2 18

78

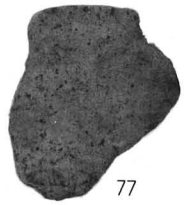
47

33

53

55

14



77

52

54

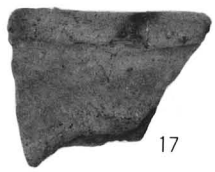
56

75

16

59A

74



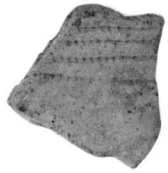
17

13

1 : 2 61

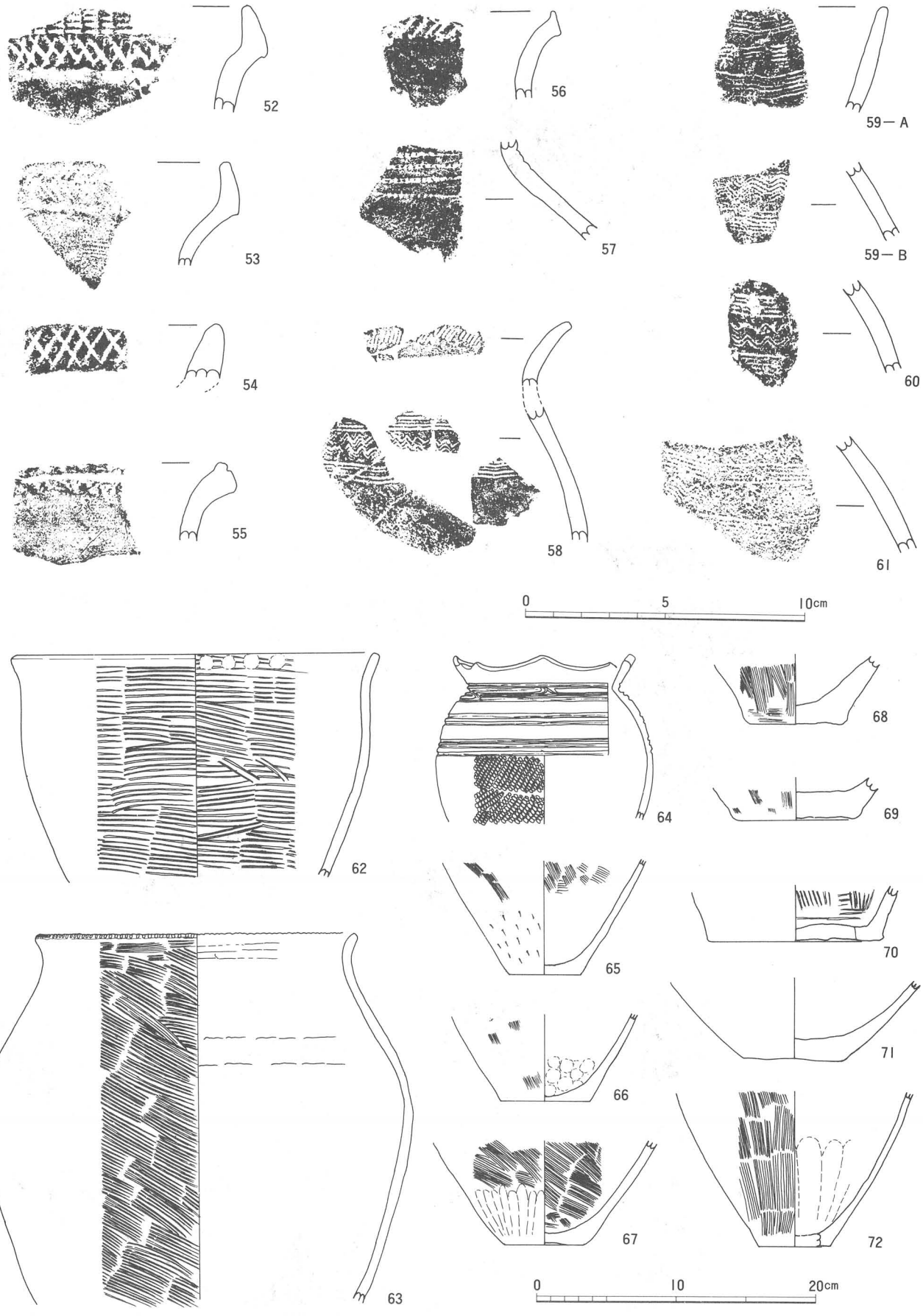
59B

73

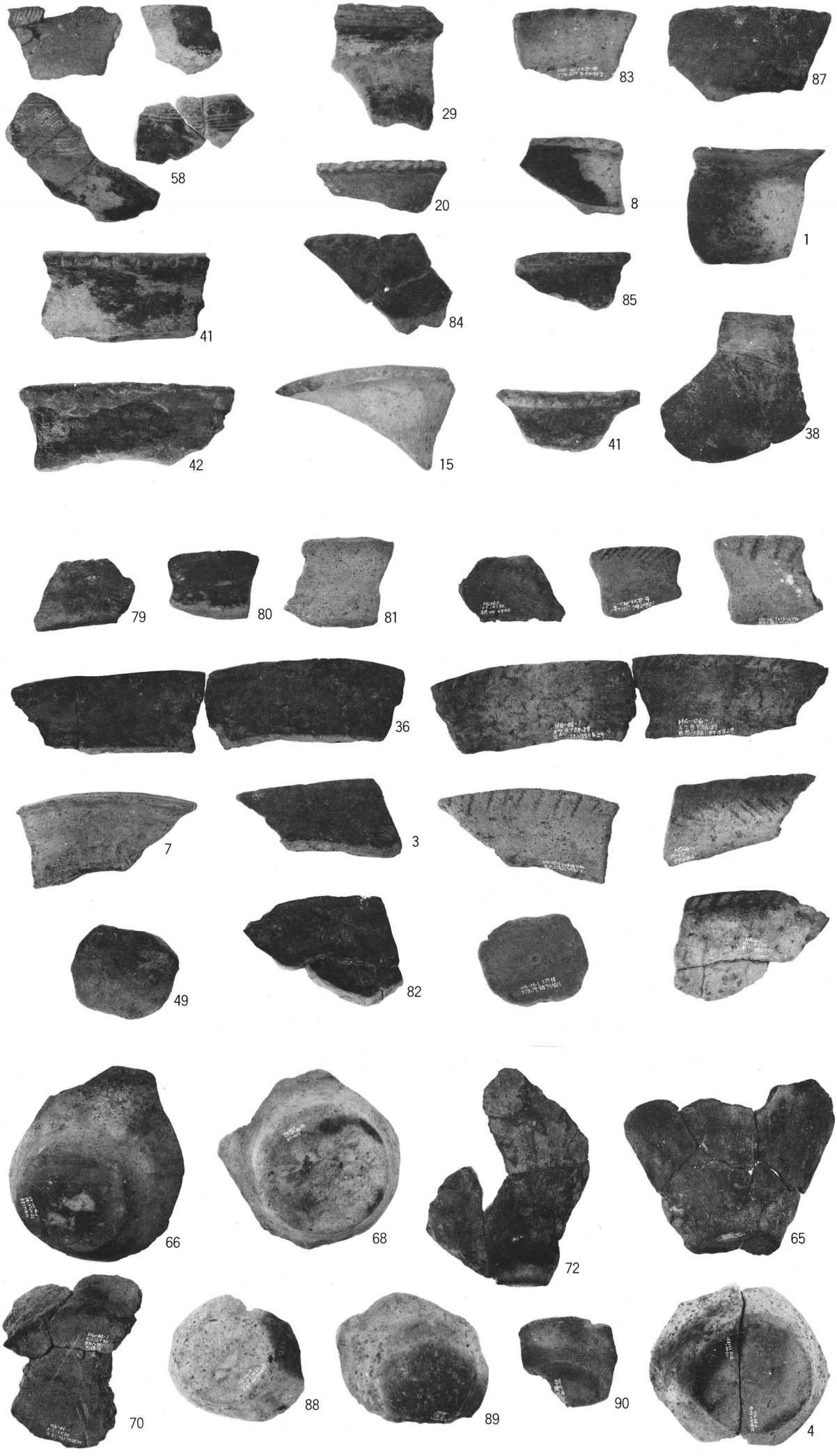


57

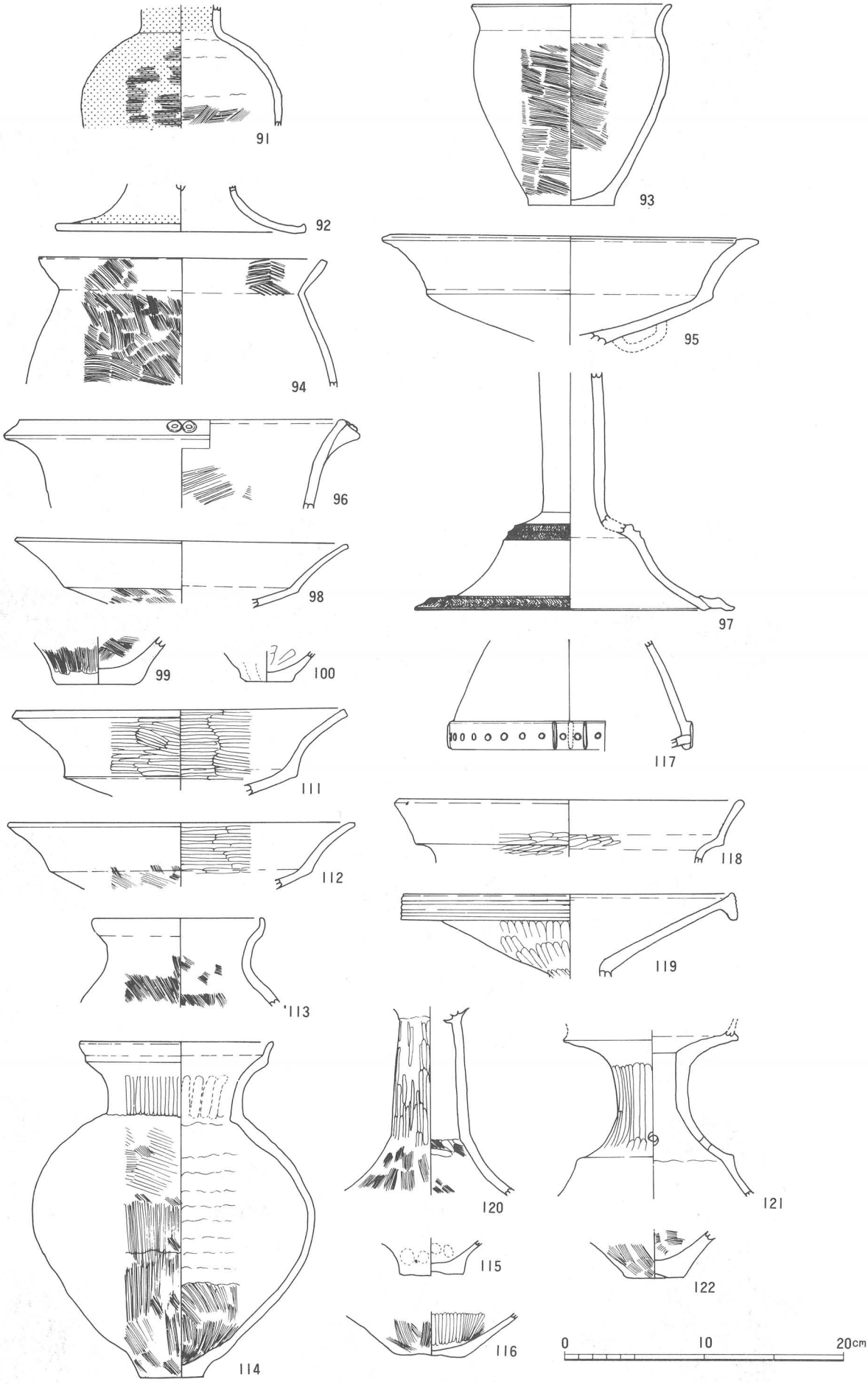
16



図版10　正印新遺跡　第７・８層出土


58
29
83
87
20
8
1
41
84
85
42
15
41
38
79
80
81
36
7
3
49
82
66
68
72
65
70
88
89
90
4

1 : 2



図版11　正印新遺跡　上層遺構内出土　91.SD02　92～97.SD03　125.SD04　98～100・112・113・123.SD05
111～116・120・124.SD10　117・118.SD11　119・121・122・126.SD14

93

119

111

97

114

91

120

123

124

118

117

125

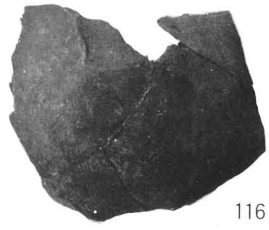
96

92

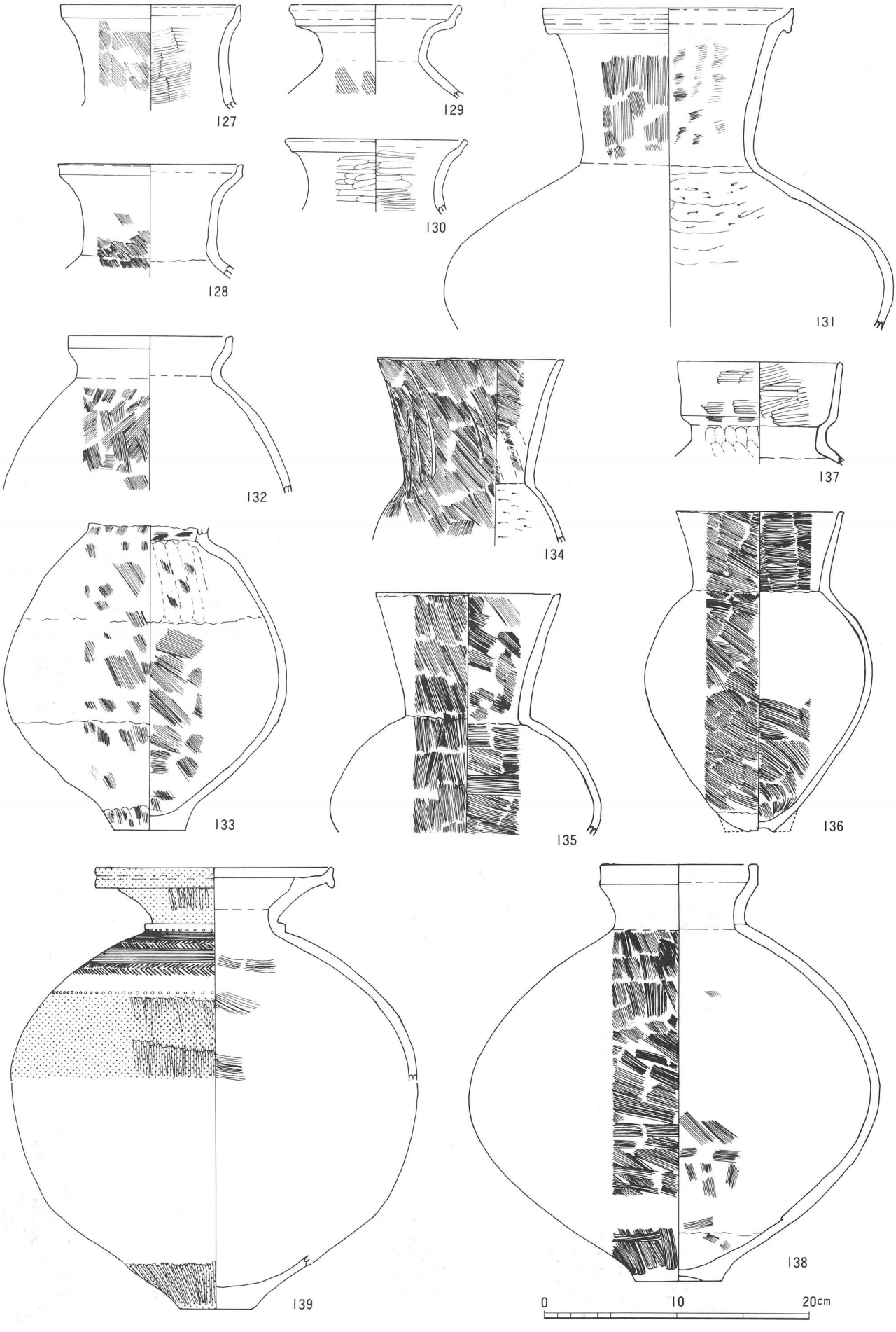
94

121

126



116



図版12　正印新遺跡　第3・5層出土

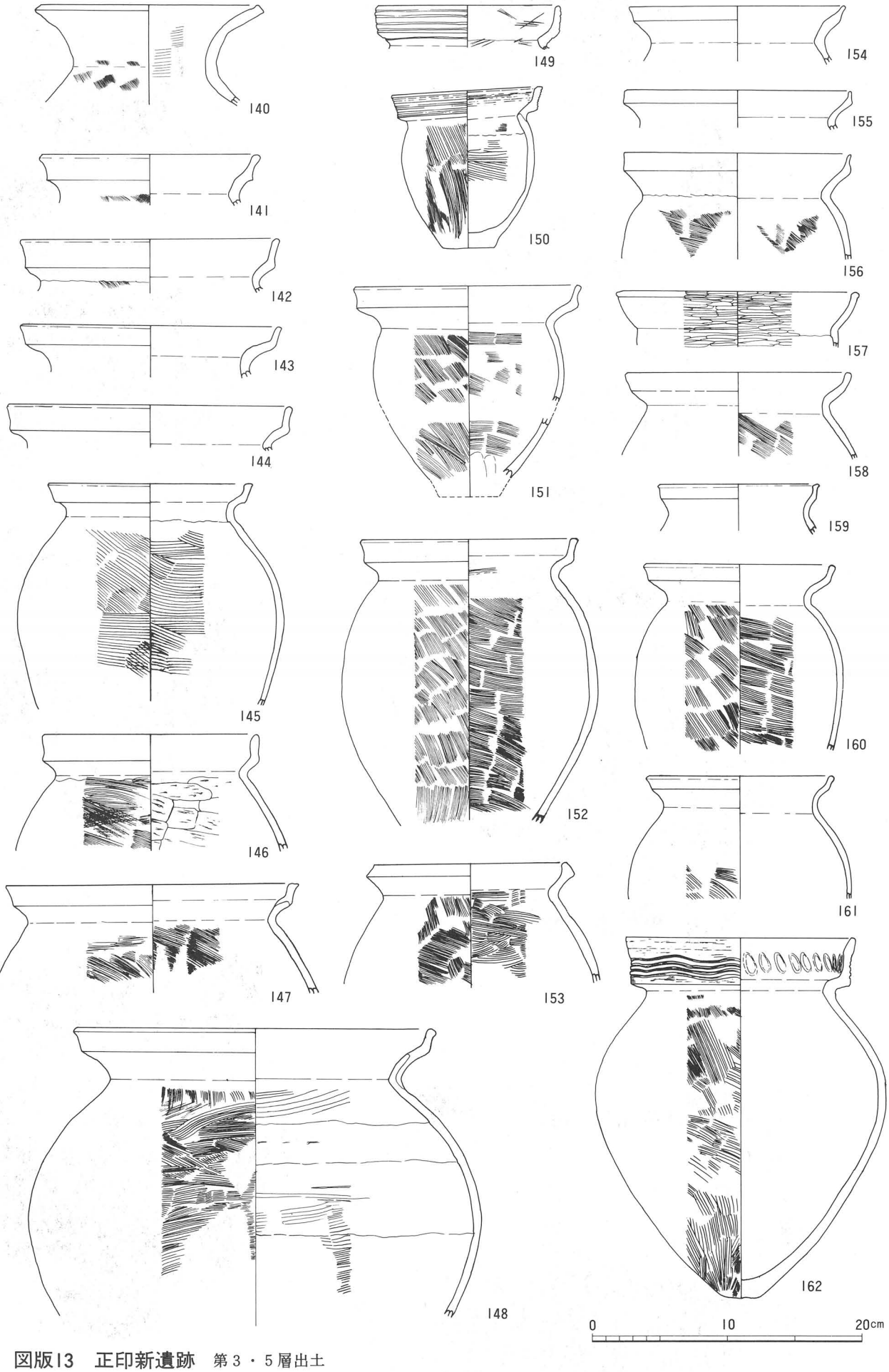
139

135

138

136

133

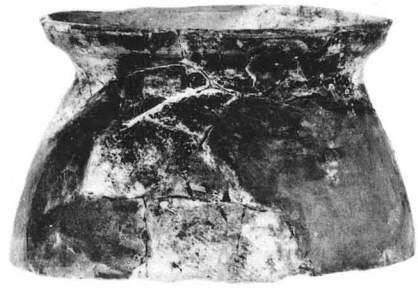


図版13　正印新遺跡　第3・5層出土

140

150

132



161

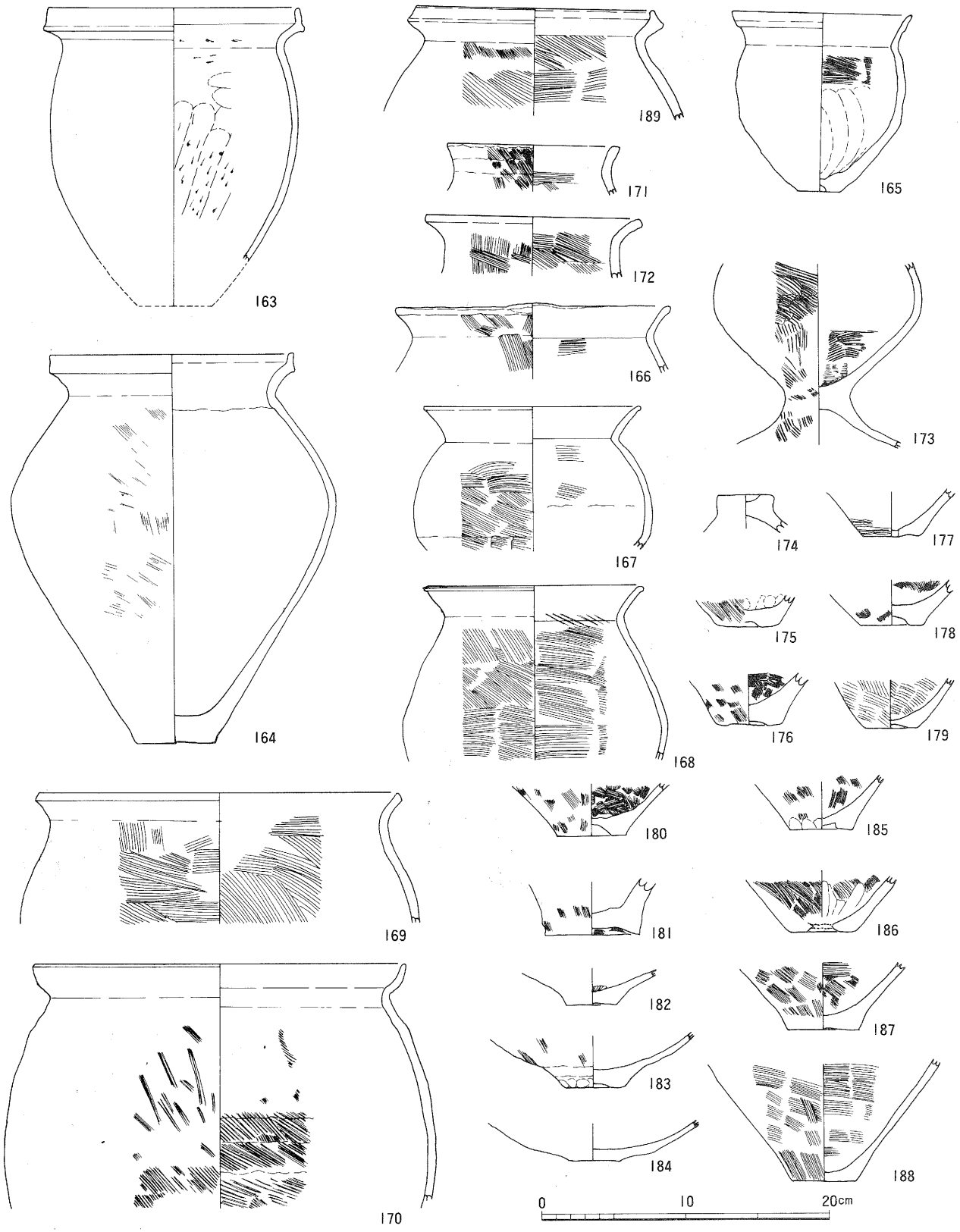
148

198

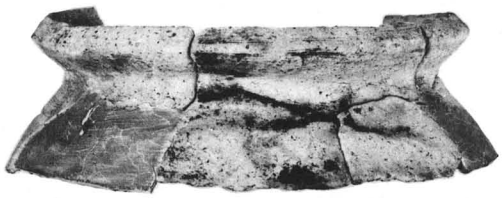
199

145

169



図版14　正印新遺跡　第3・5層出土



189

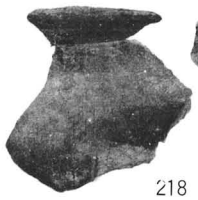
168

163

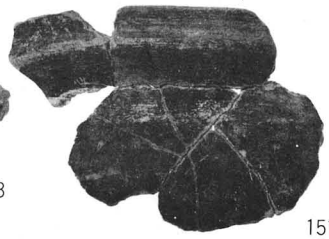
167

152

166



218



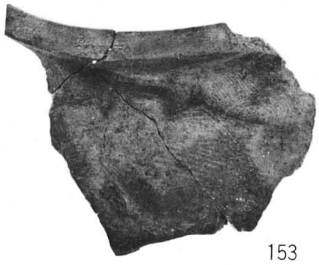
151

146

134

216

215



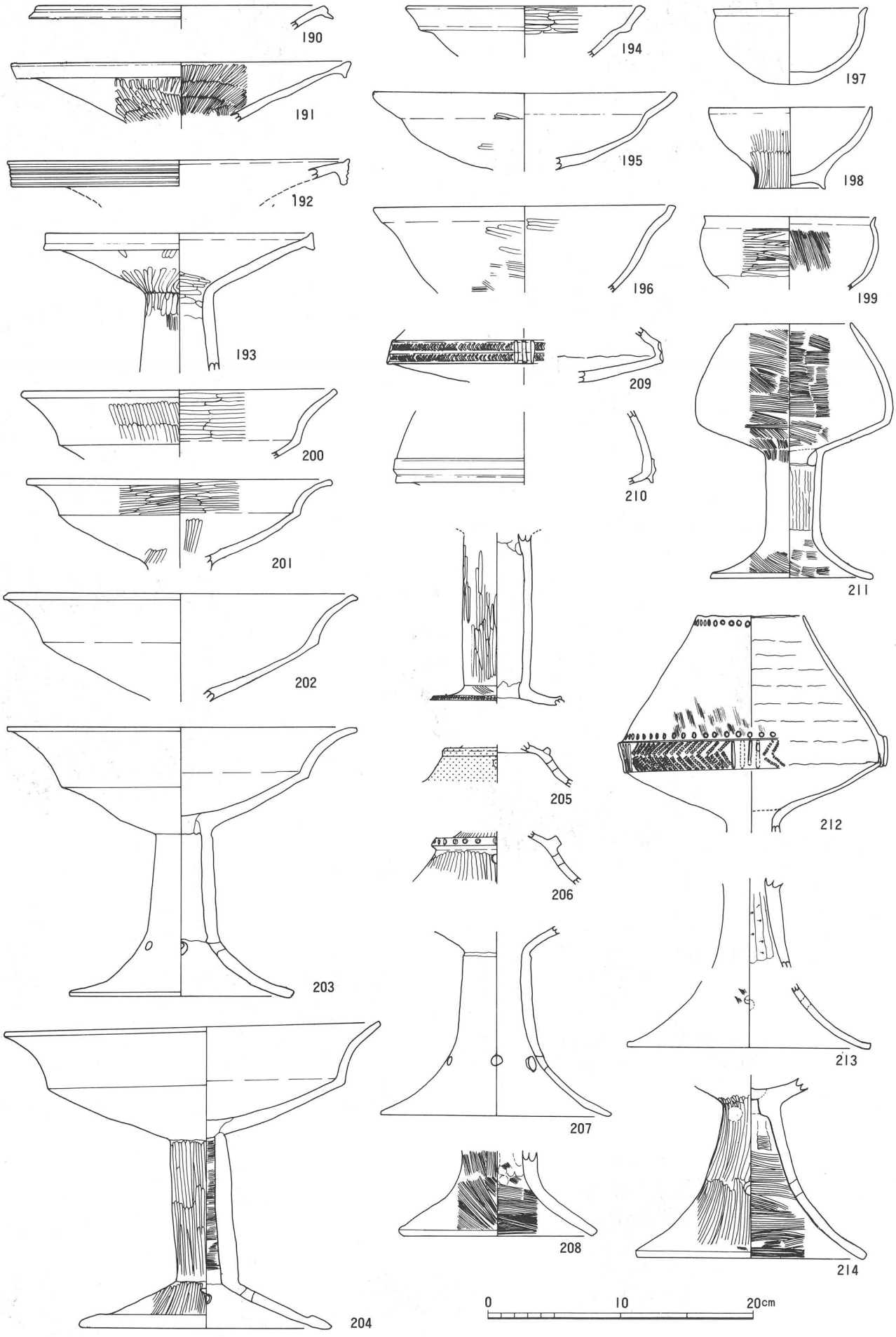
153

217

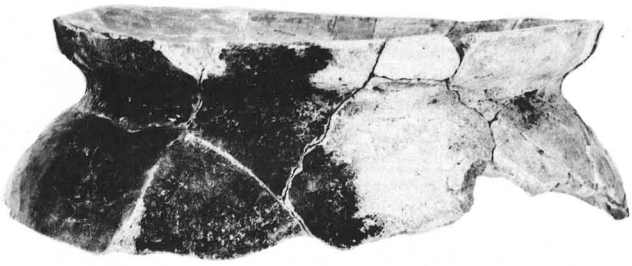
174

177

178



図版15　正印新遺跡　第3・5層出土



147

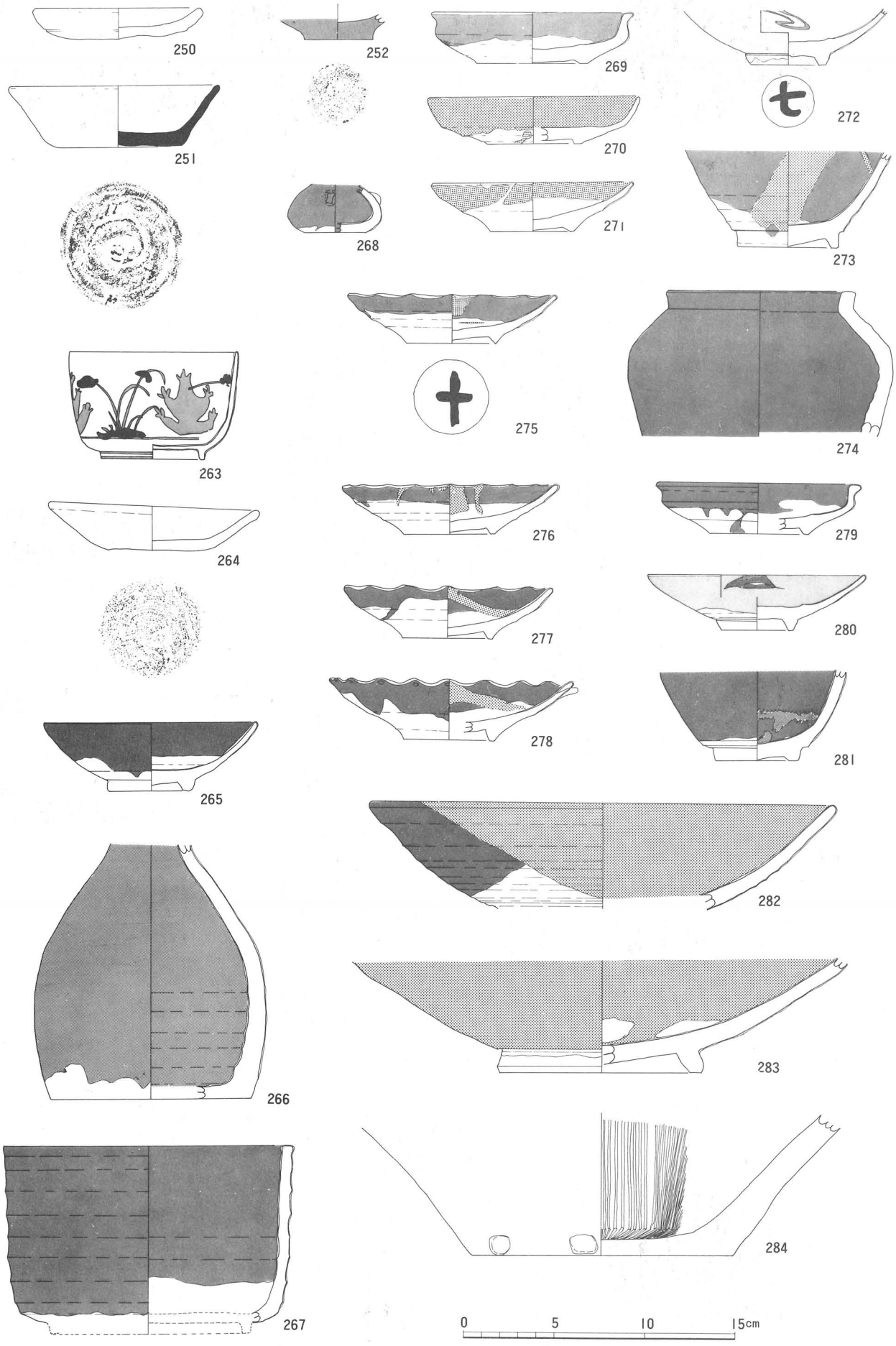
164

203

212

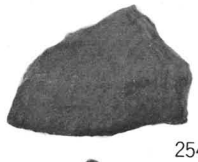
204

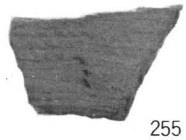
211



図版16　正印新遺跡　264～266・284・286・287・289.SD01　250・251.SD02　263.SE35　252.SK29　269～271・273・275～283.SK26

253


254

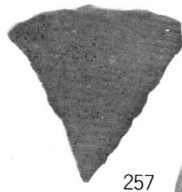

255

264

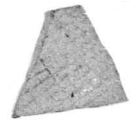
260

256

256


257

252


261

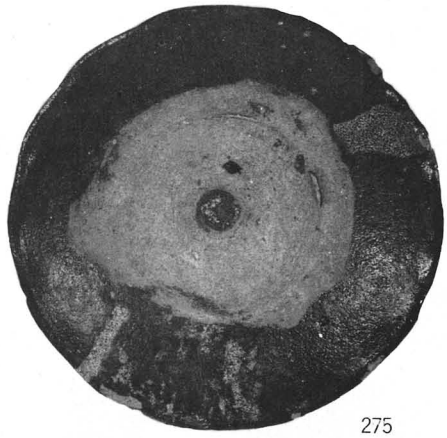
258

259

251

262

272

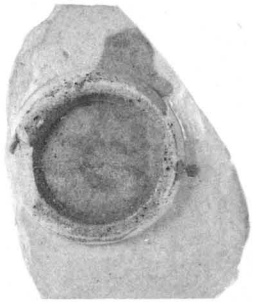

275

265

1 : 2

277

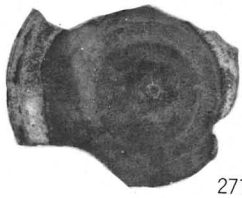
1 : 2

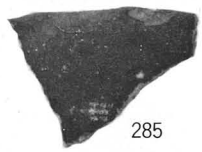


263

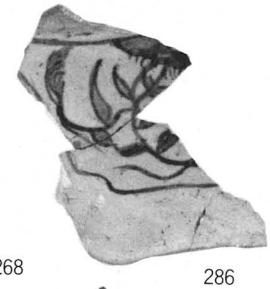
1 : 2

267

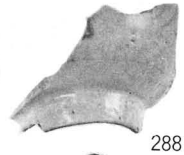

271


285

268


286

287


288

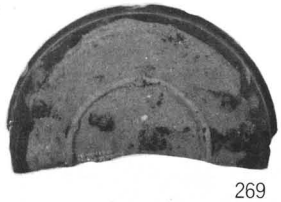
278

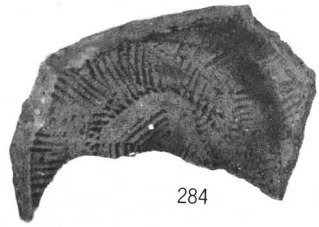
289

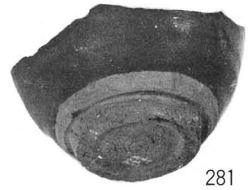
290

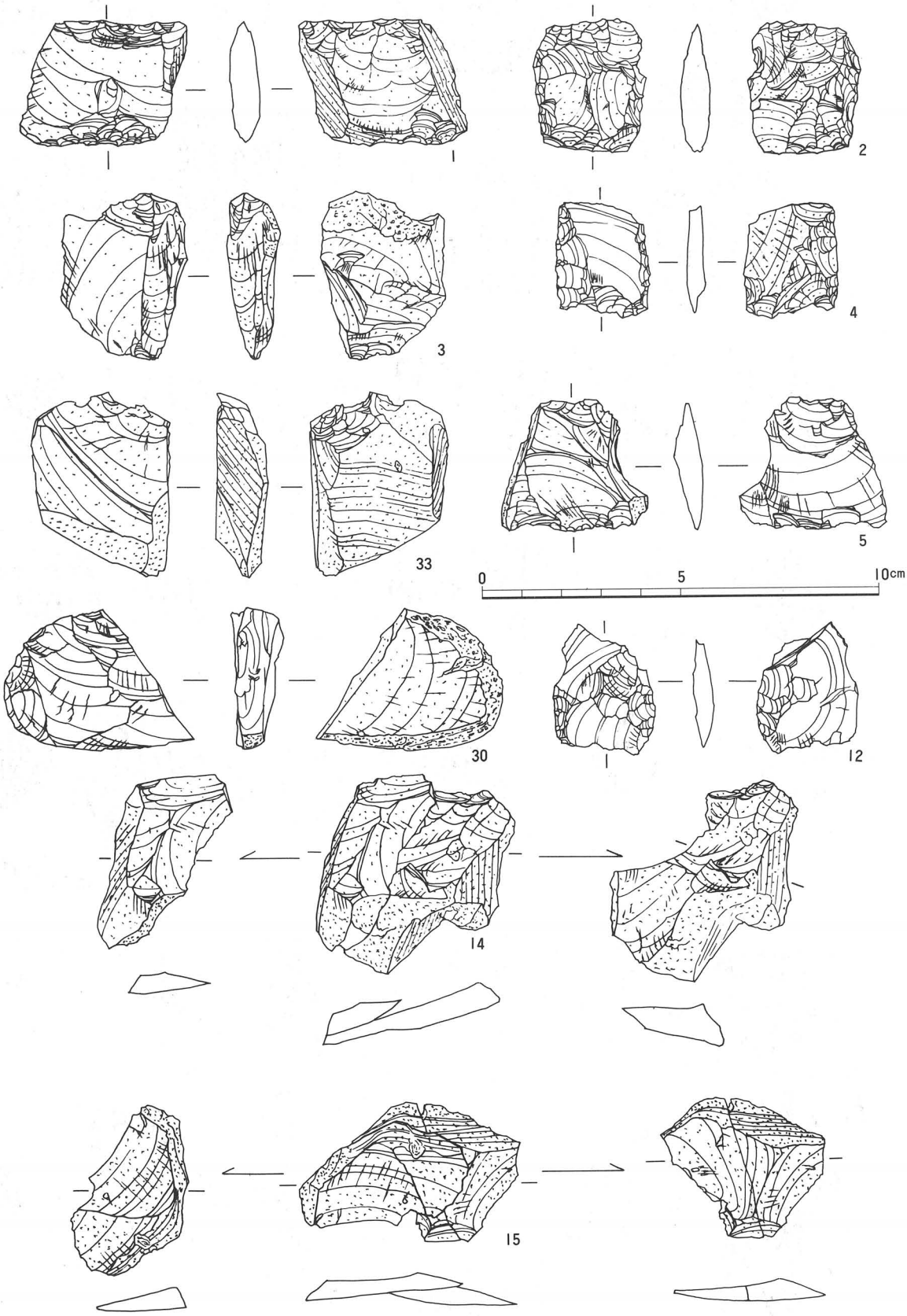
266

279

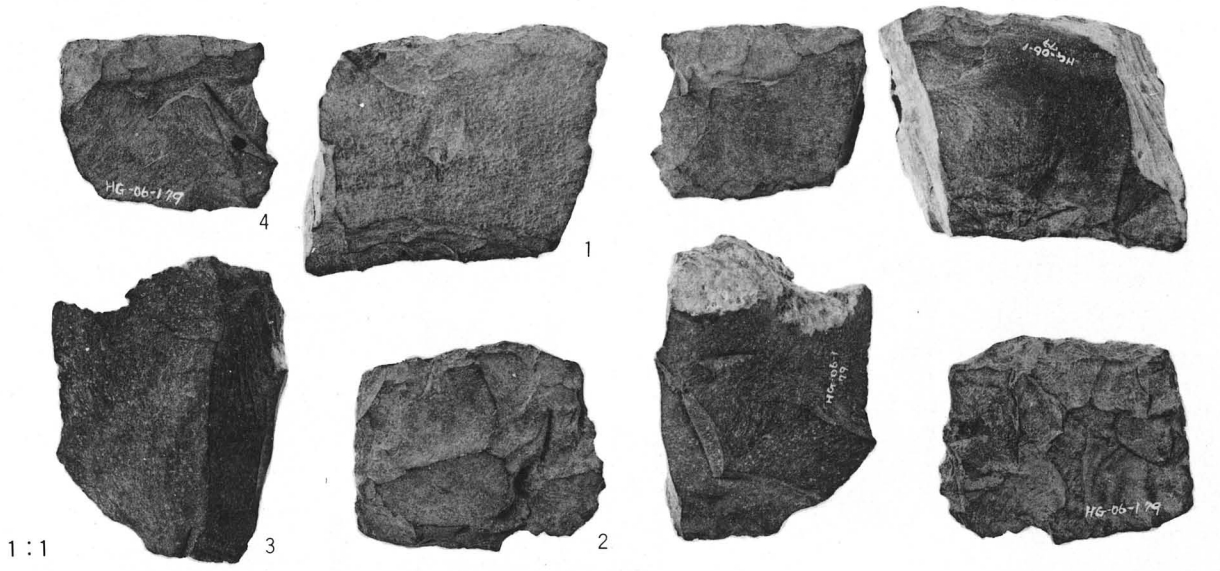

269

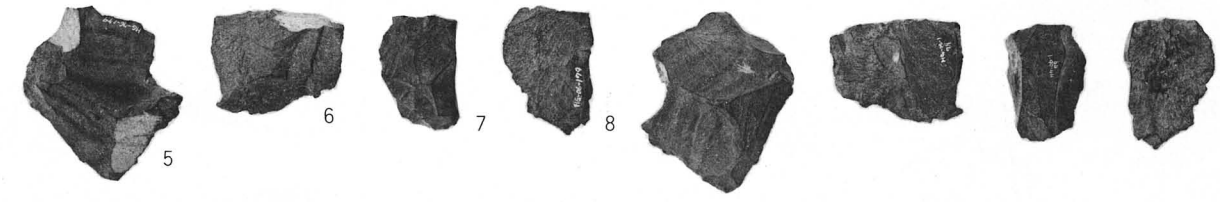

284

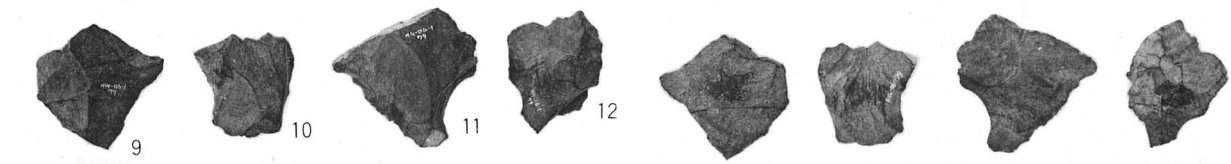

281

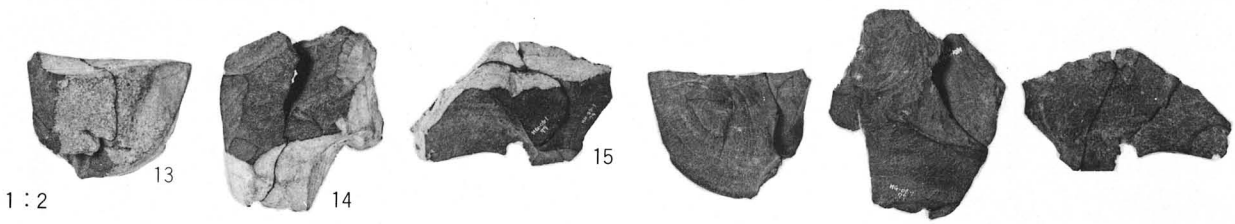


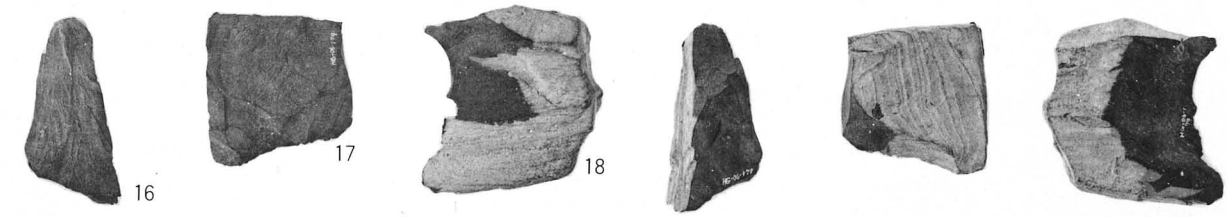
図版17　正印新遺跡

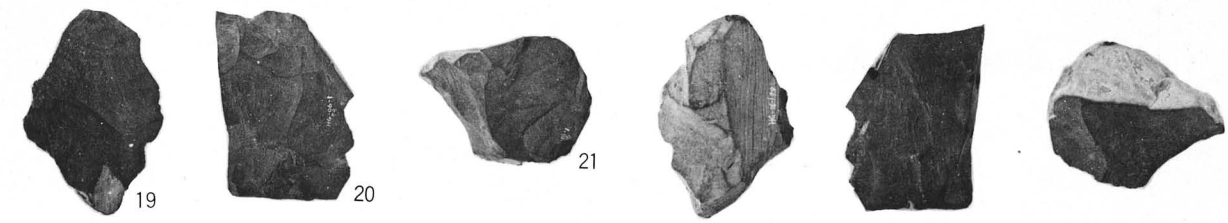

HG-06-179
4
1
HG-06-179
3
2
HG-06-179
1 : 1

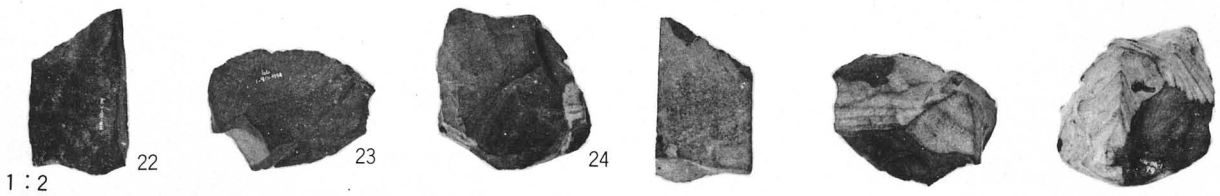

5
6
7
8

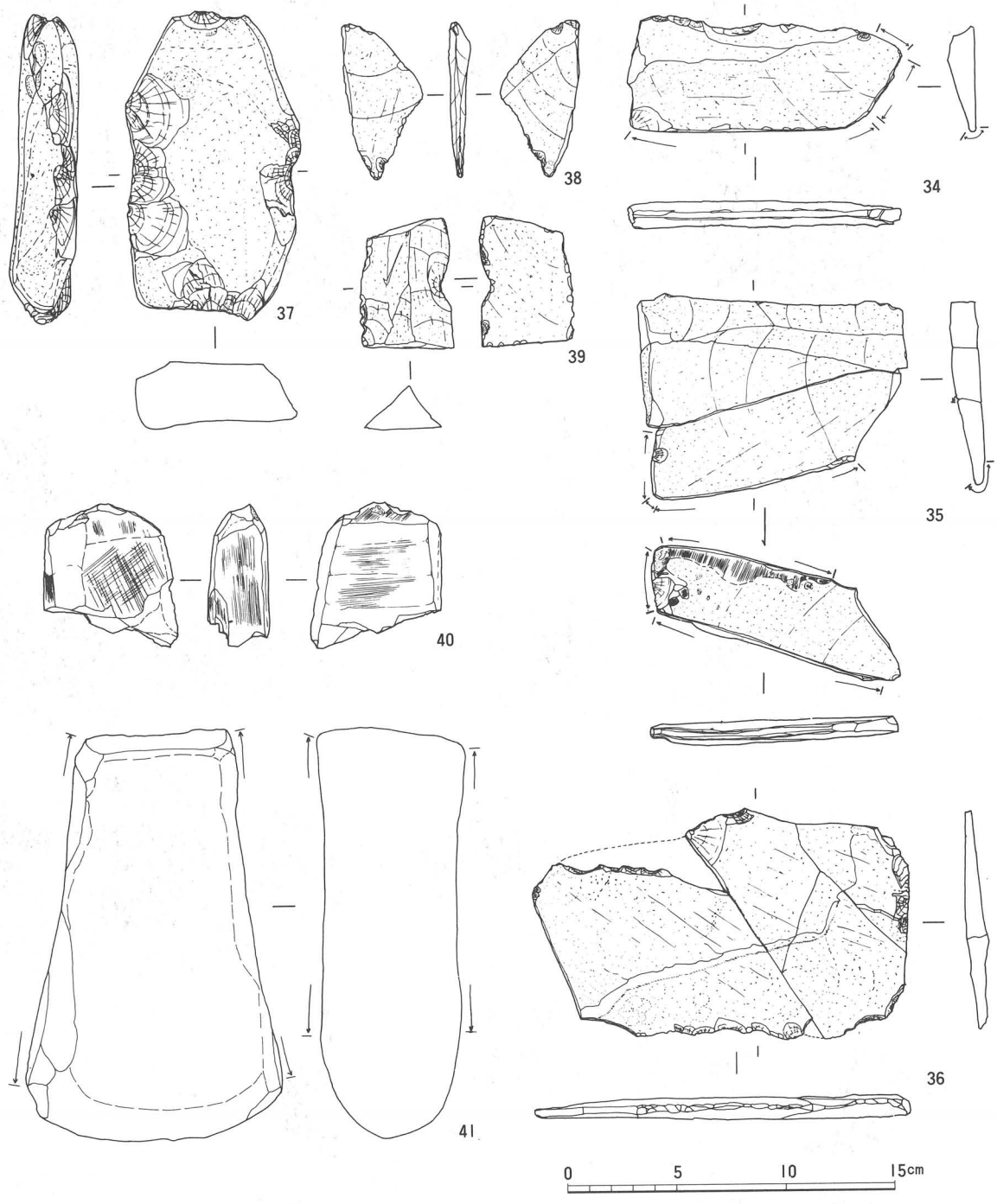

9
10
11
12


13
1 : 2
14
15

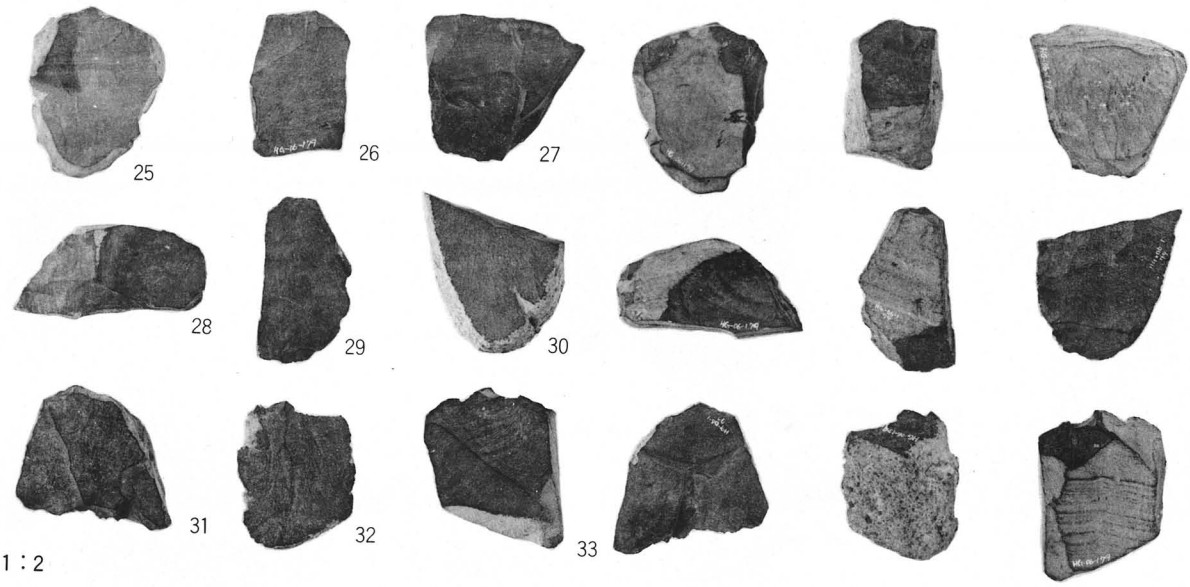

16
17
18


19
20
21

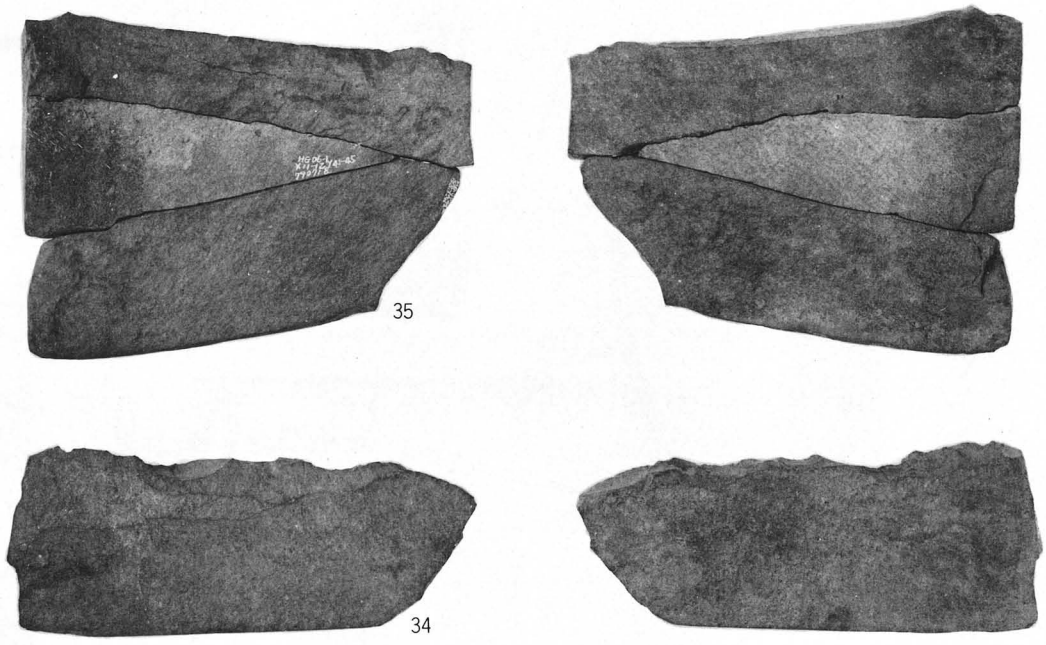

1 : 2
22
23
24



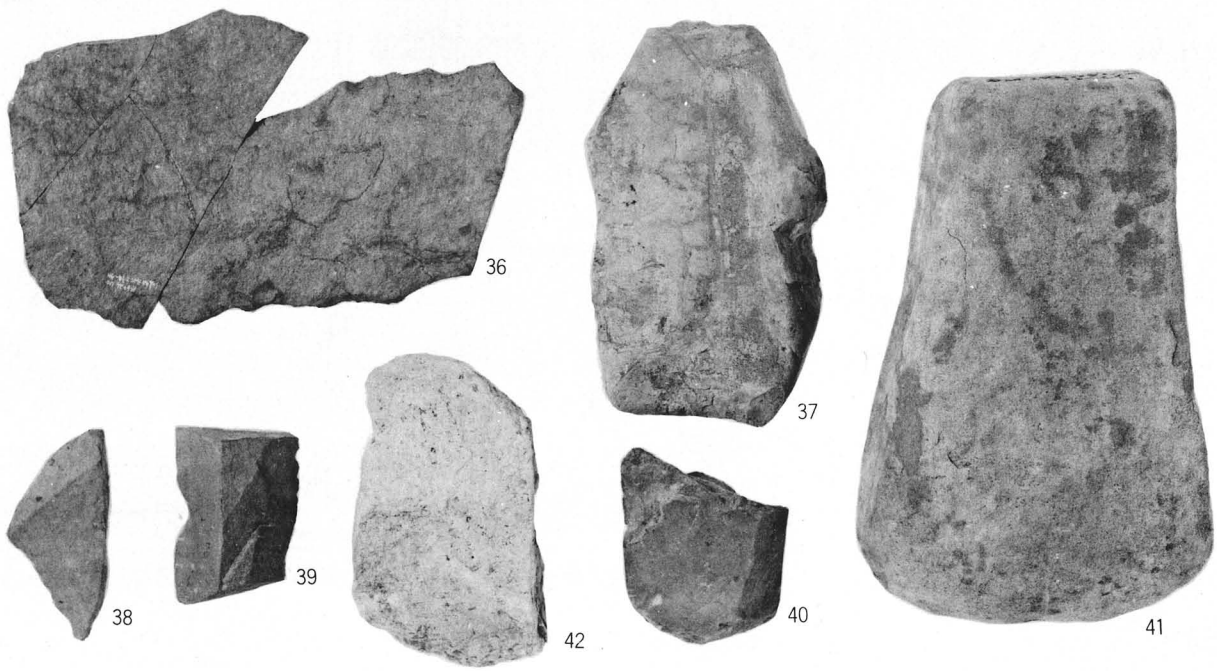
図版18　正印新遺跡

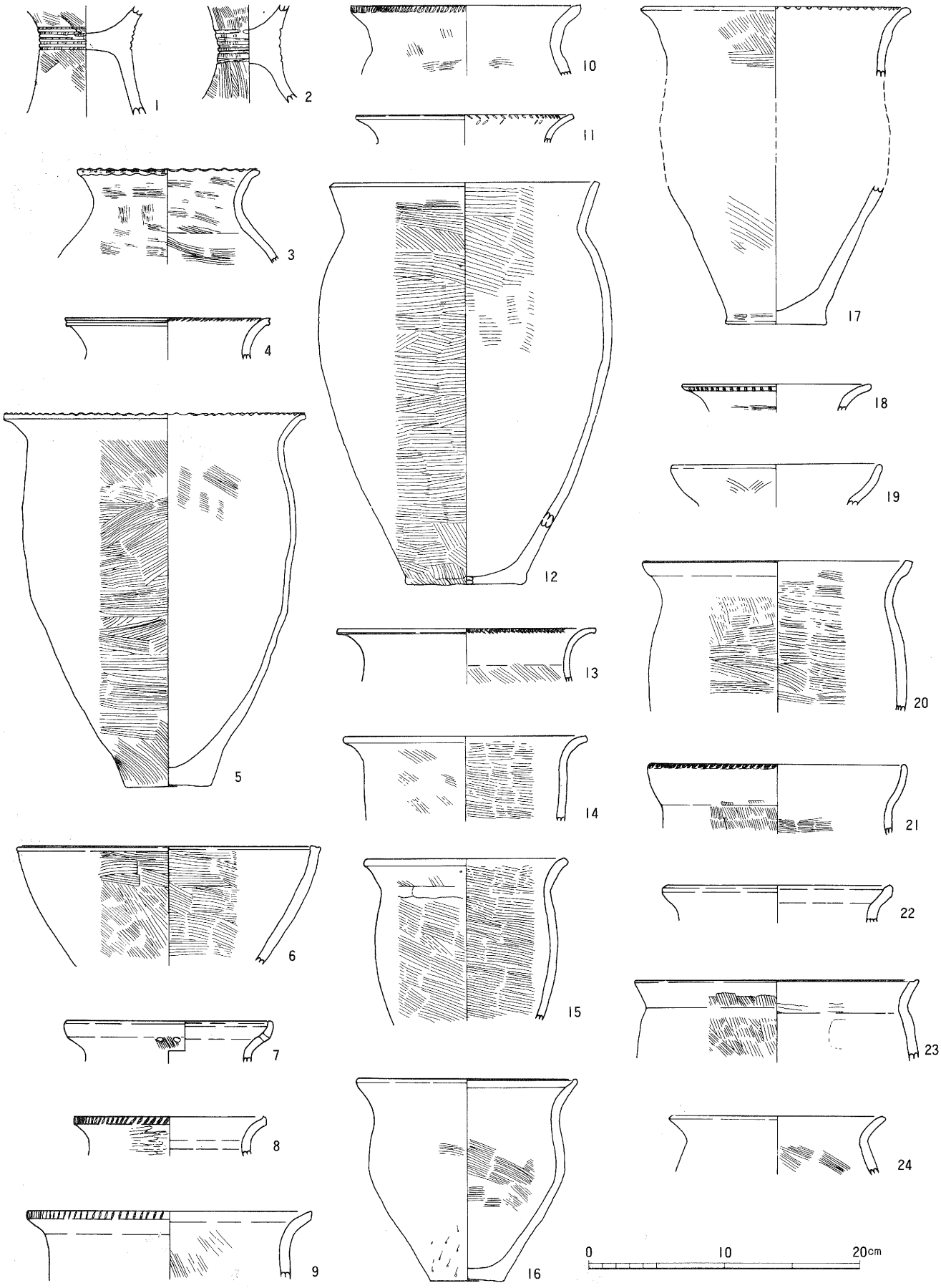


1 : 2



1 : 2





図版19　中小泉遺跡　1～6.SD33　7～10・16・17.SD36　11・12.SK56　13～15.SD39　18・19.SD27

2 : 3

1

2 : 3

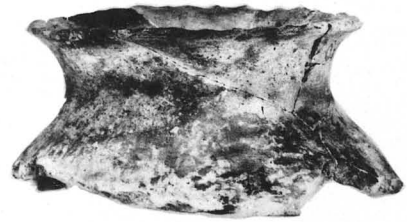
2

5

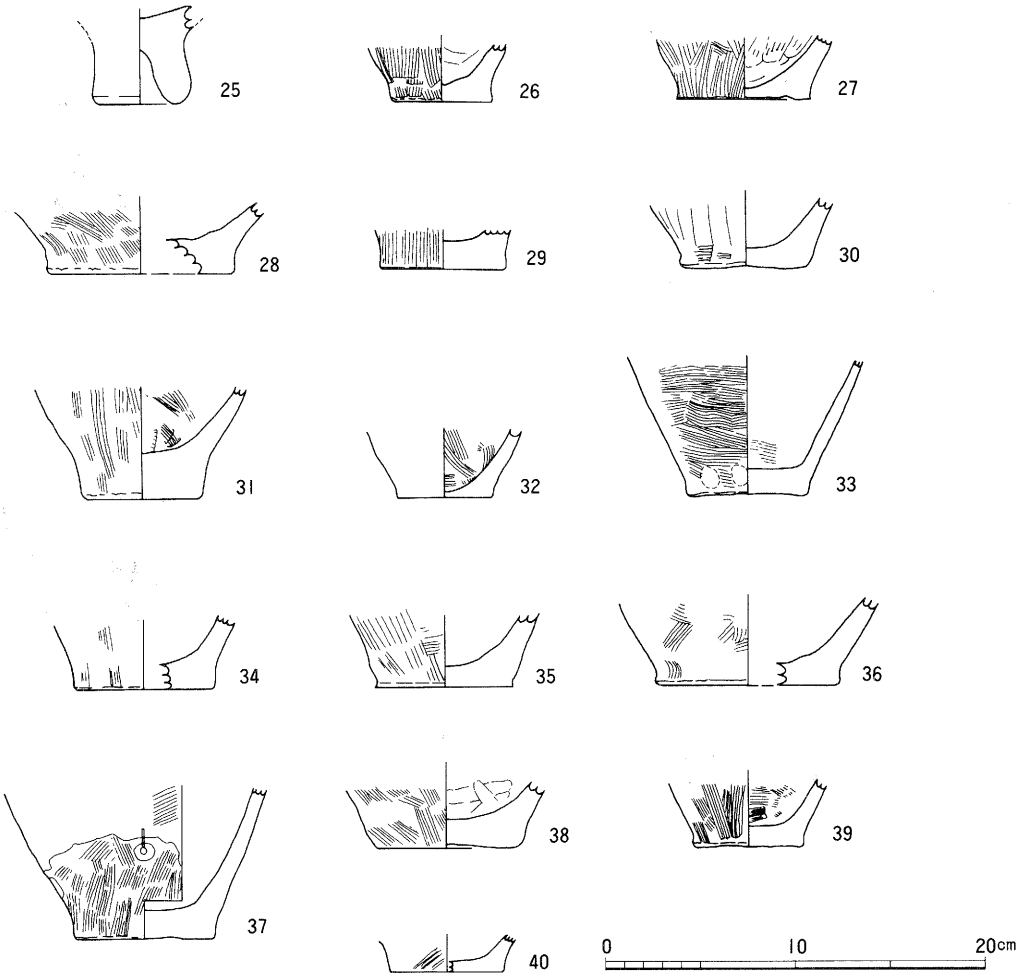
15

16

12

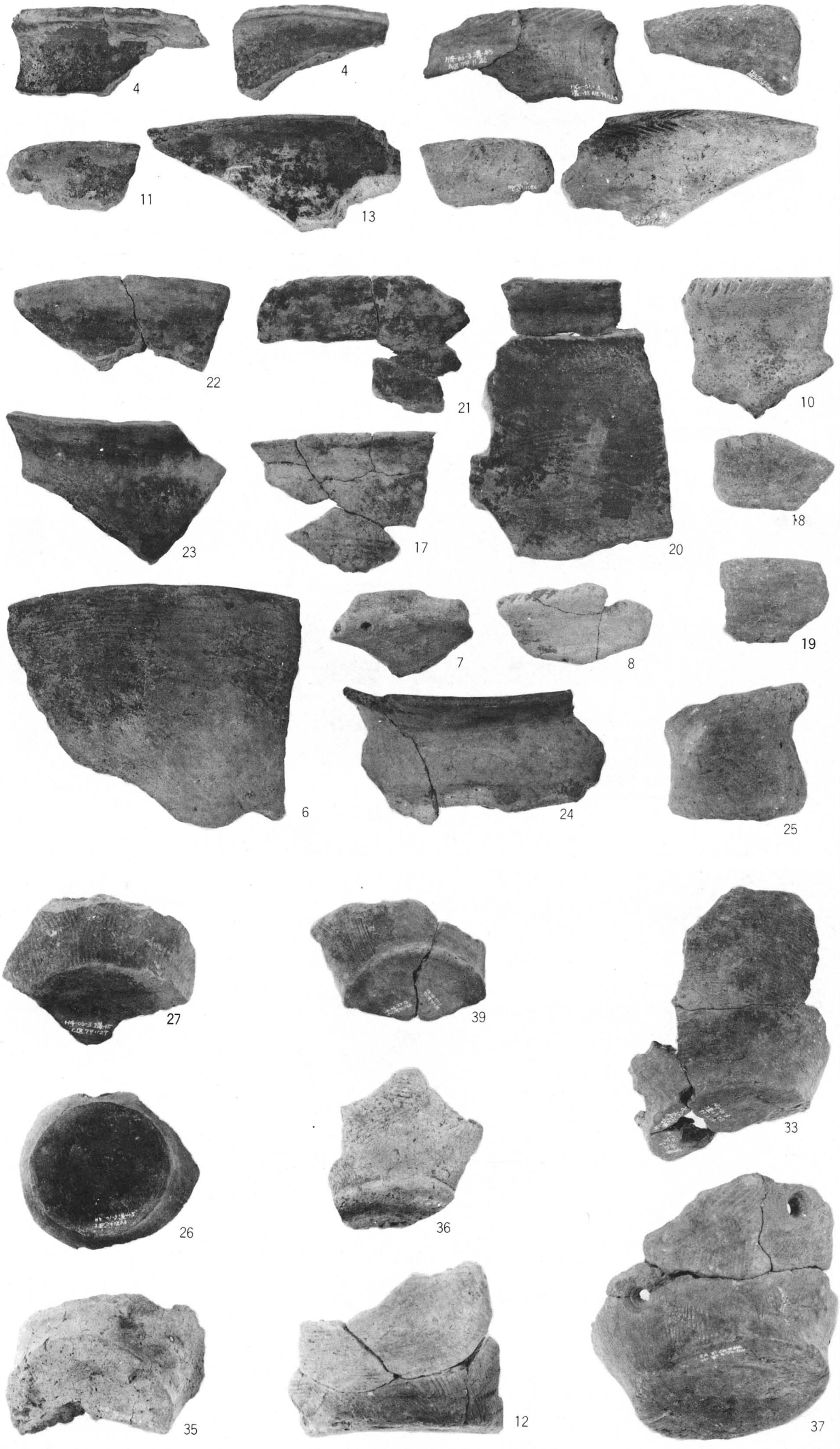


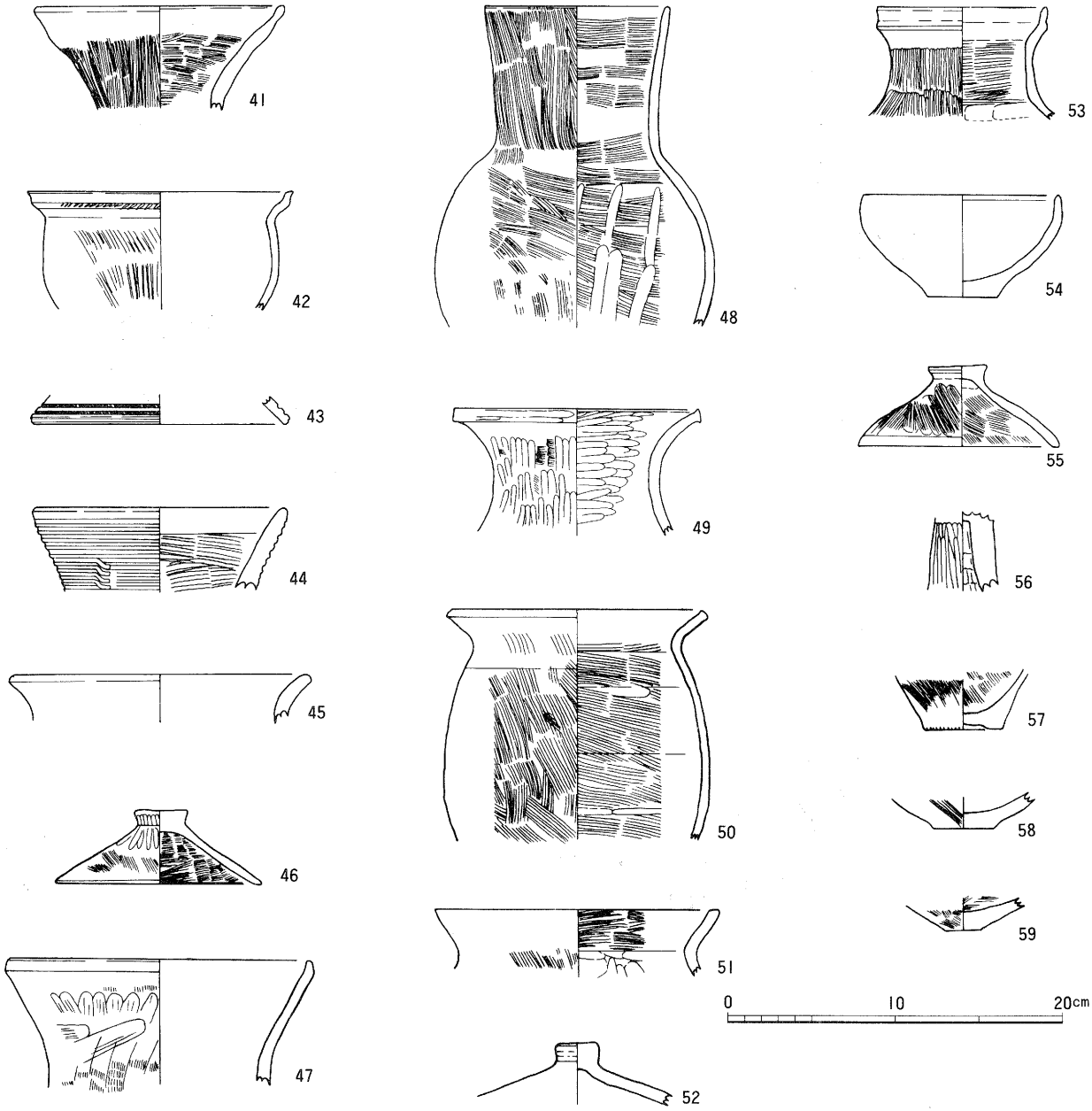
3



図版20　中小泉遺跡　26～32.SD33　33・34.SD36　35・36.SD35　37.SK56

1 : 2





図版21　中小泉遺跡　41～43・48・57.SD36　44～46・49.SD27　47.SD04　50.SD37　51.SD01　52.SD41　57.SD46

48

54

1 : 2

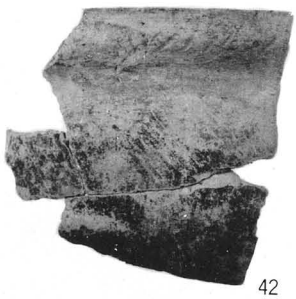
46

1 : 2

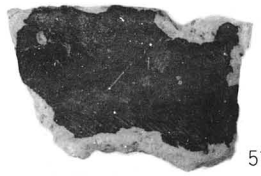
50

55

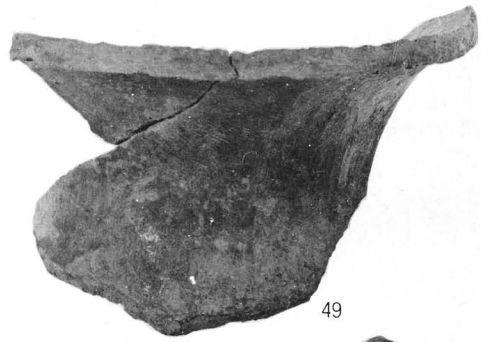
1 : 2



42



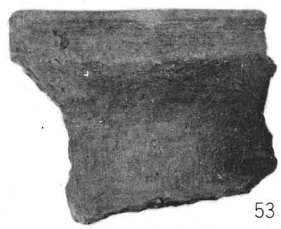
51



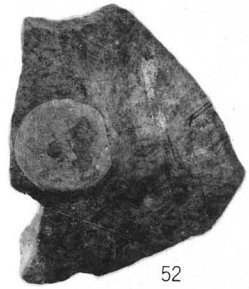
49

45

44

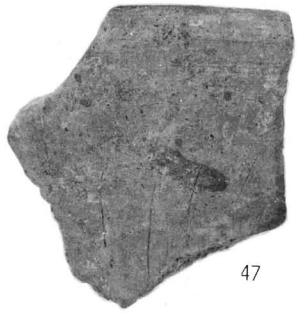


53



52

41

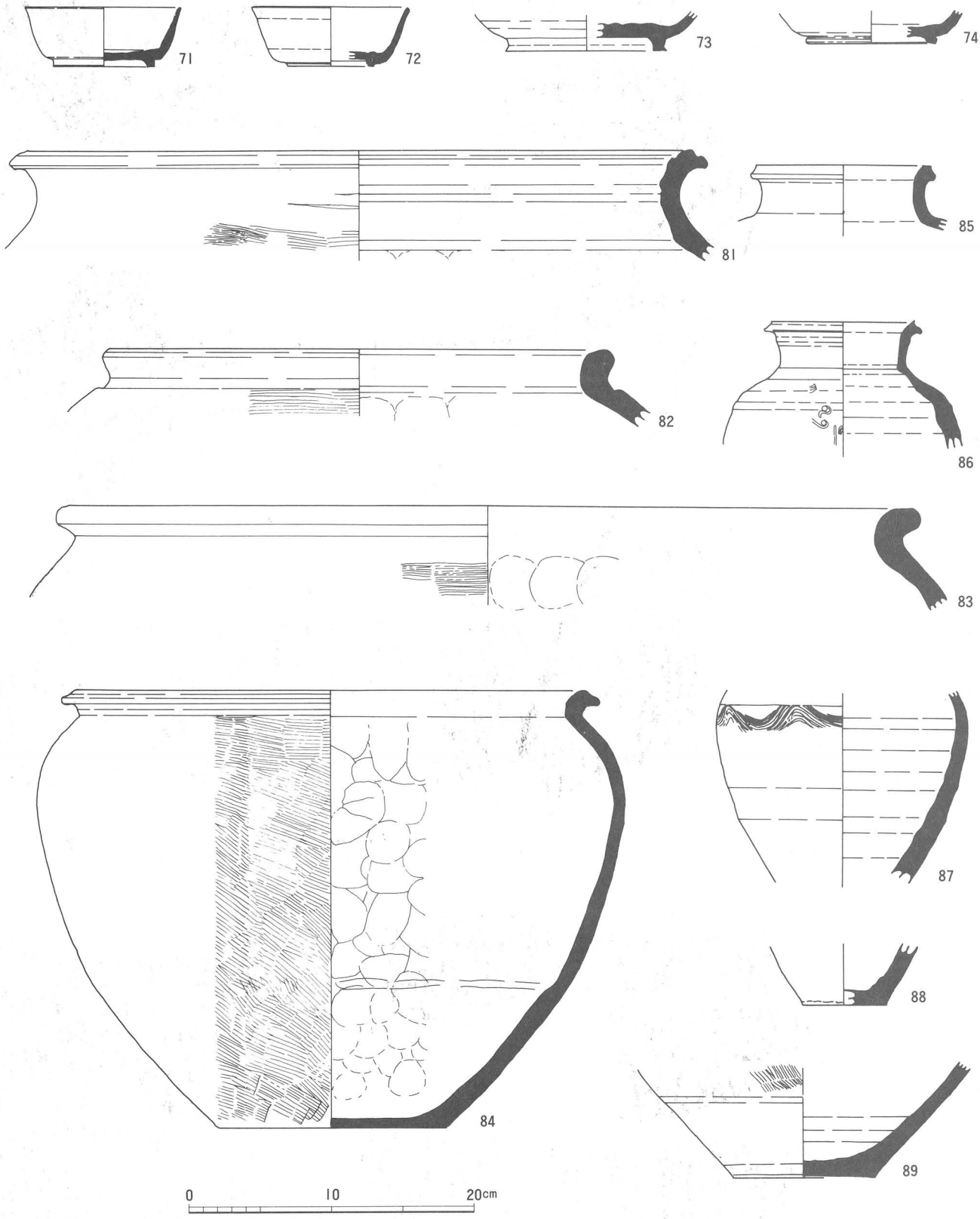


47

56

57

1 : 2

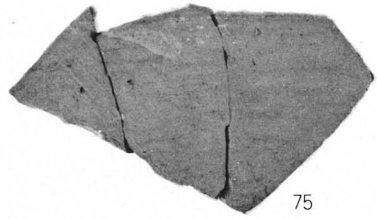


図版22　中小泉遺跡　84.SE52　89.SE51

1 : 2

71

72



75

74

73

76

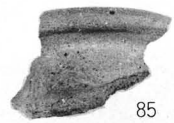
1 : 5

84

81

90

86

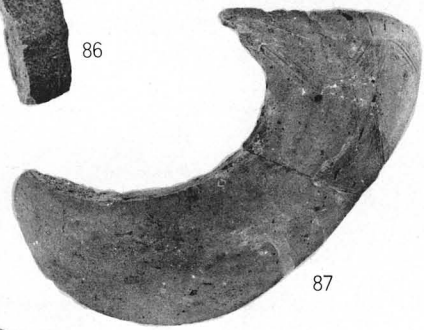


85

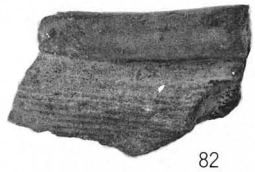
83

91

93



87

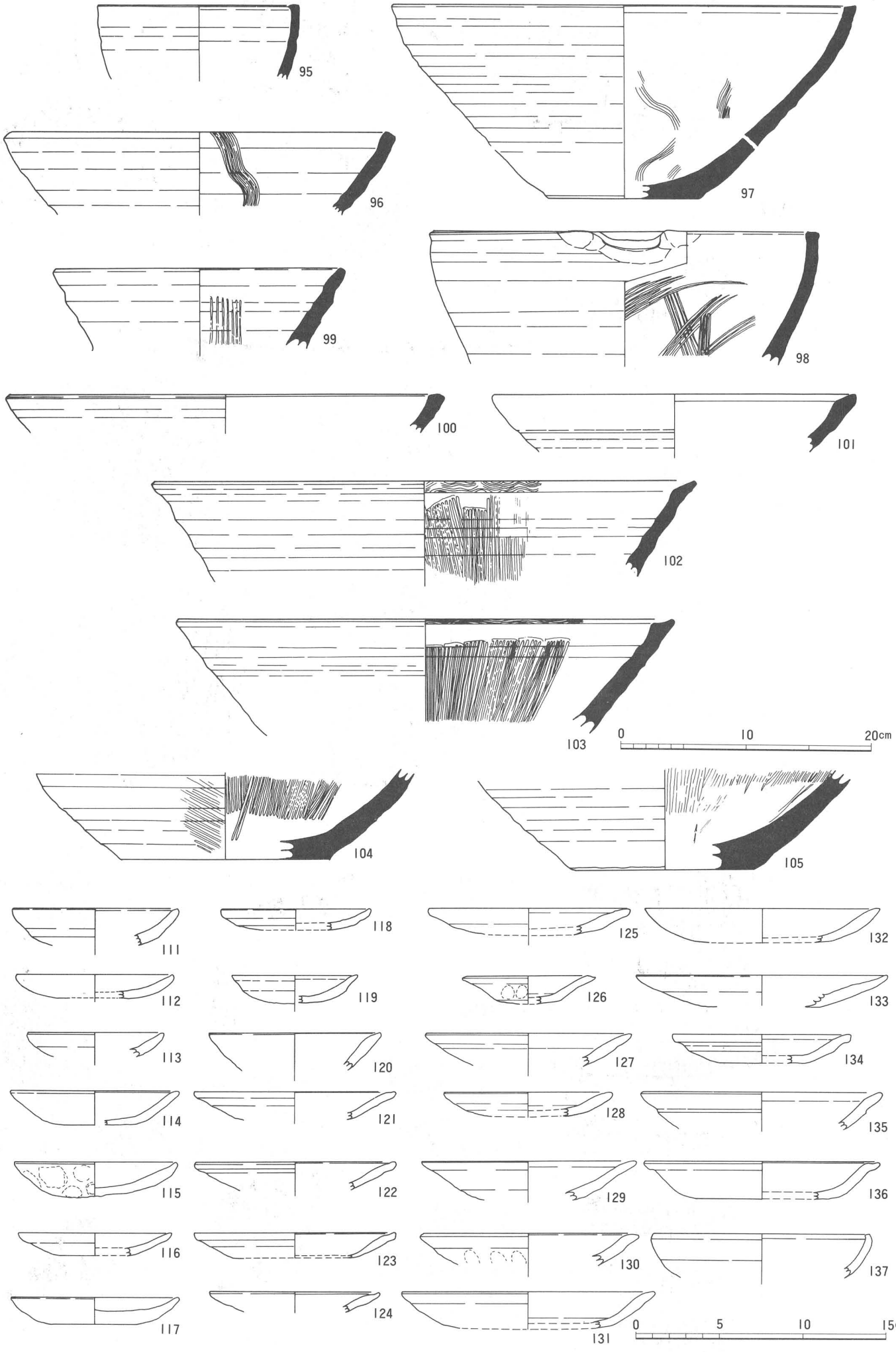


82

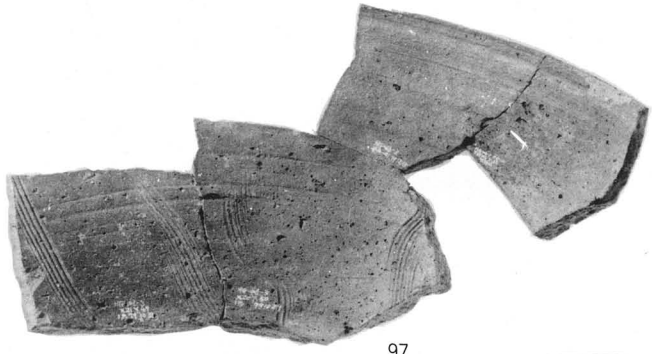
92

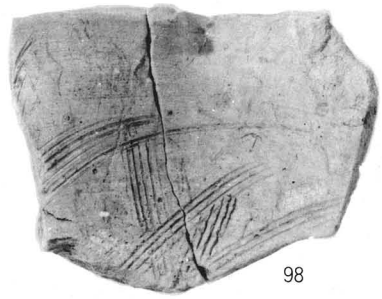
94

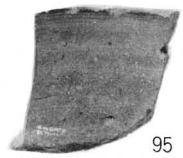
88

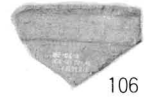


図版23　中小泉遺跡　97.SE51・52　102・103・112・119・124・133.SD01


97


98


95


106

96

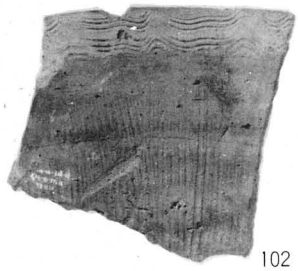
97

100

107

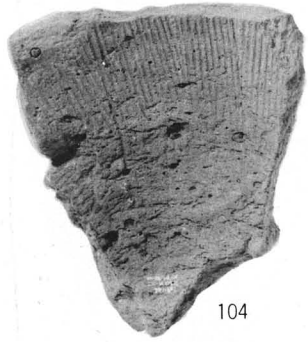
101

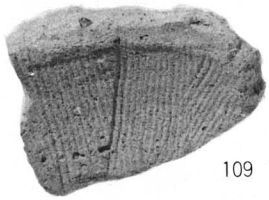
99


102

103

108


104


109

105

133

119

124

112

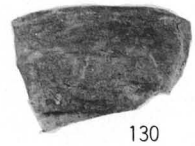
122

135

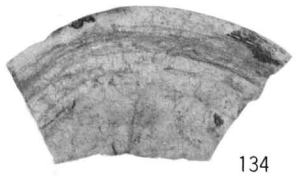
121

118

128


130

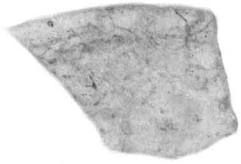
114


134

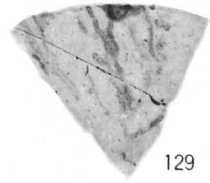
136

123

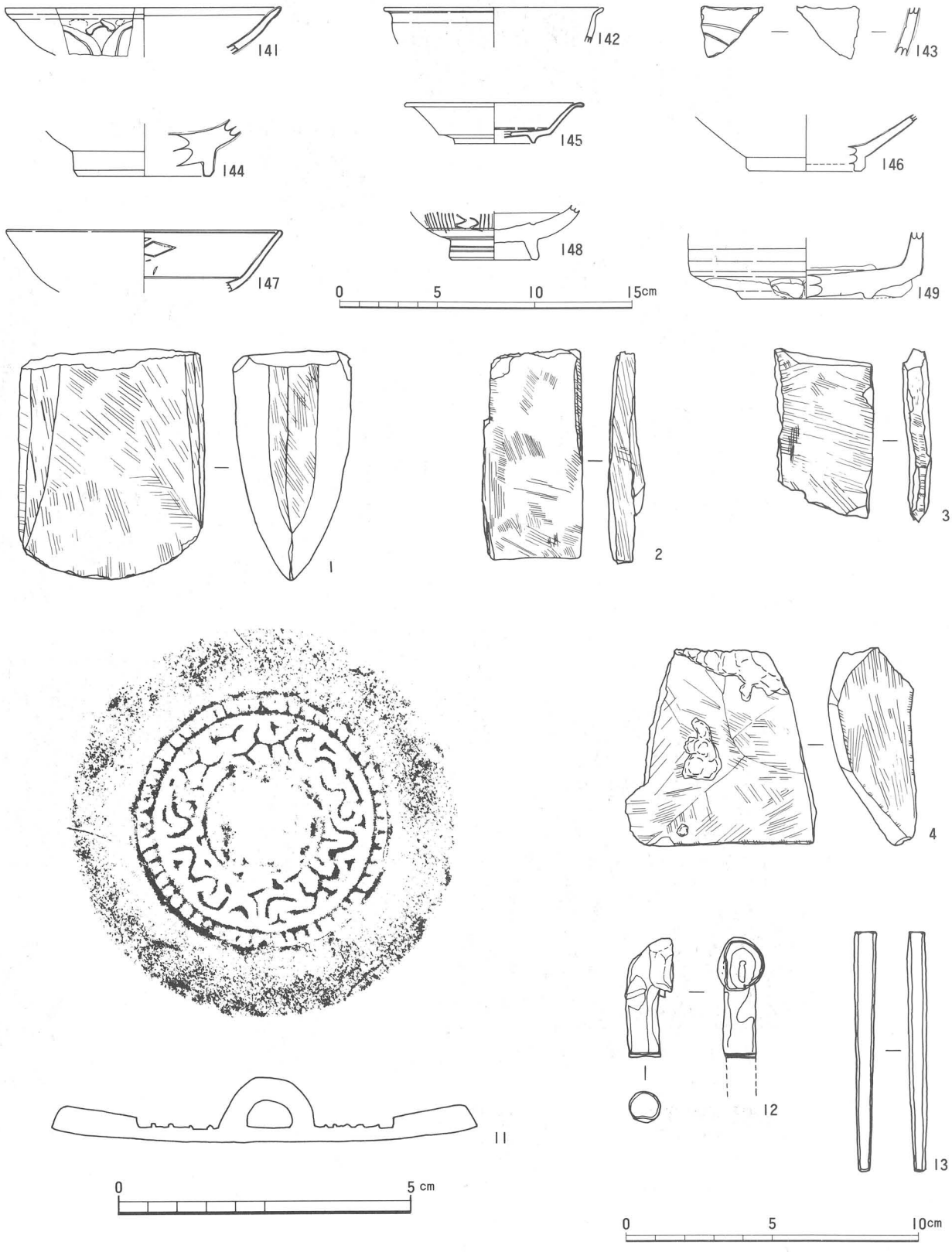
132


131

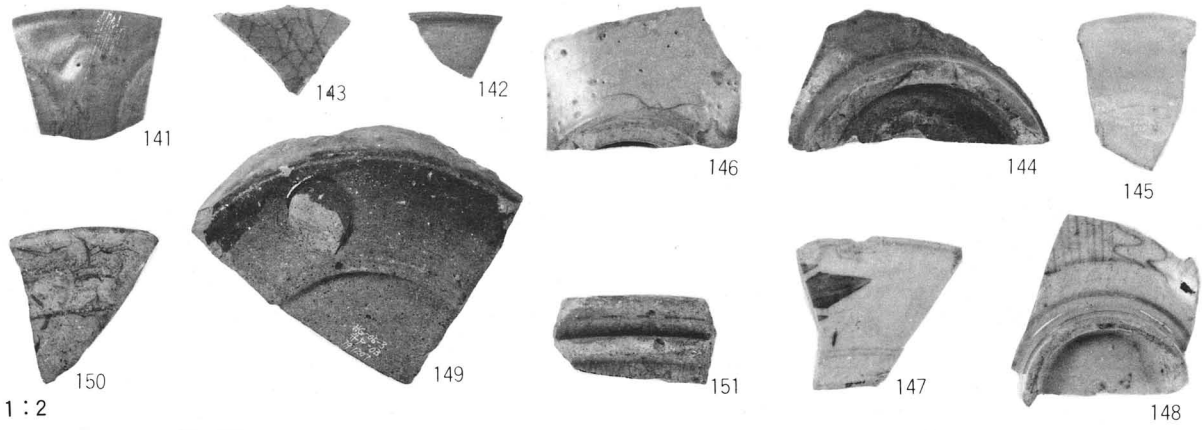
117


129

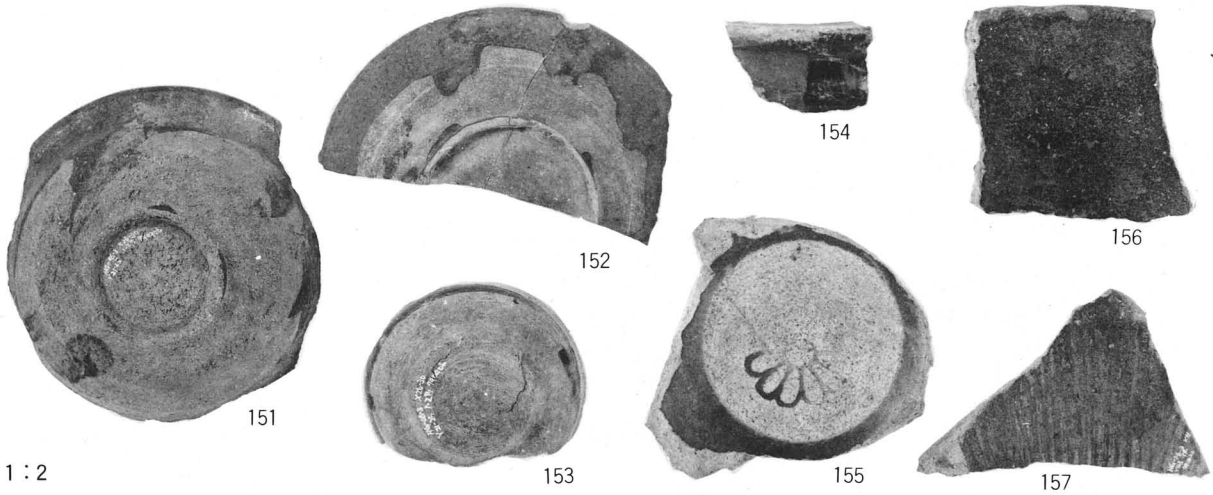
1 : 2



図版24　中小泉遺跡　149.SK59　1.SD46　11.SD39



1 : 2



1 : 2

1 : 1

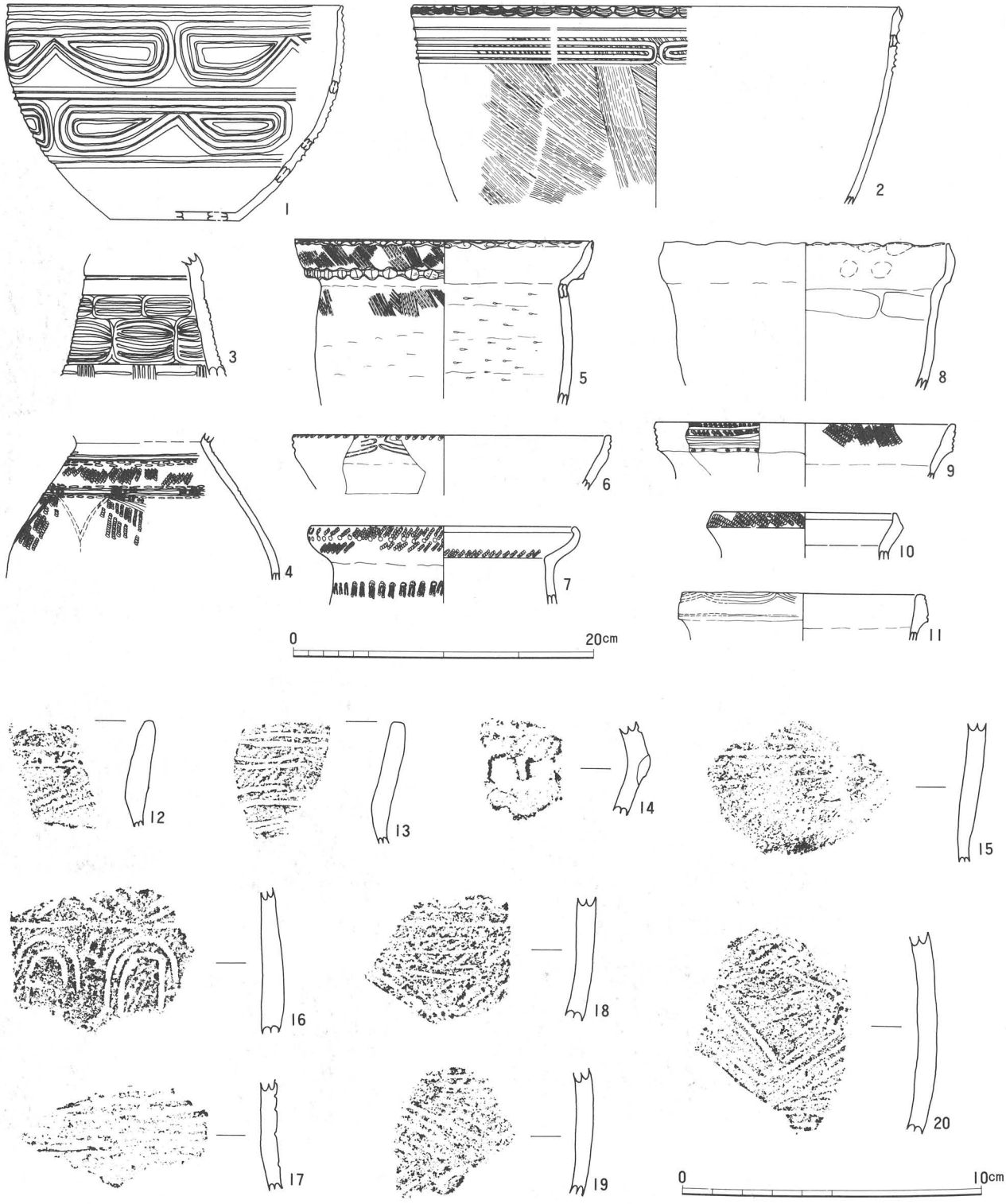
1

1 : 2

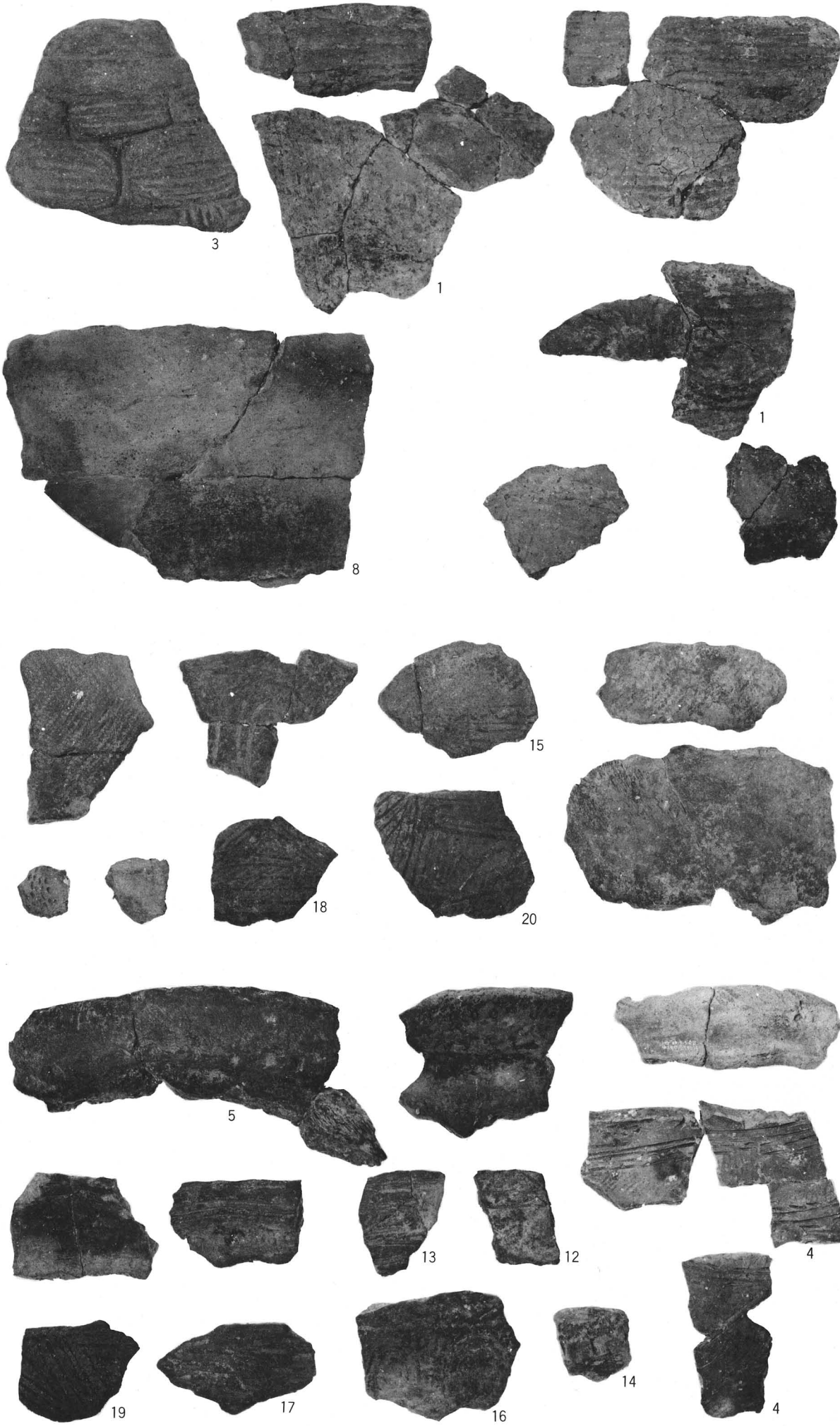
1 : 1

11

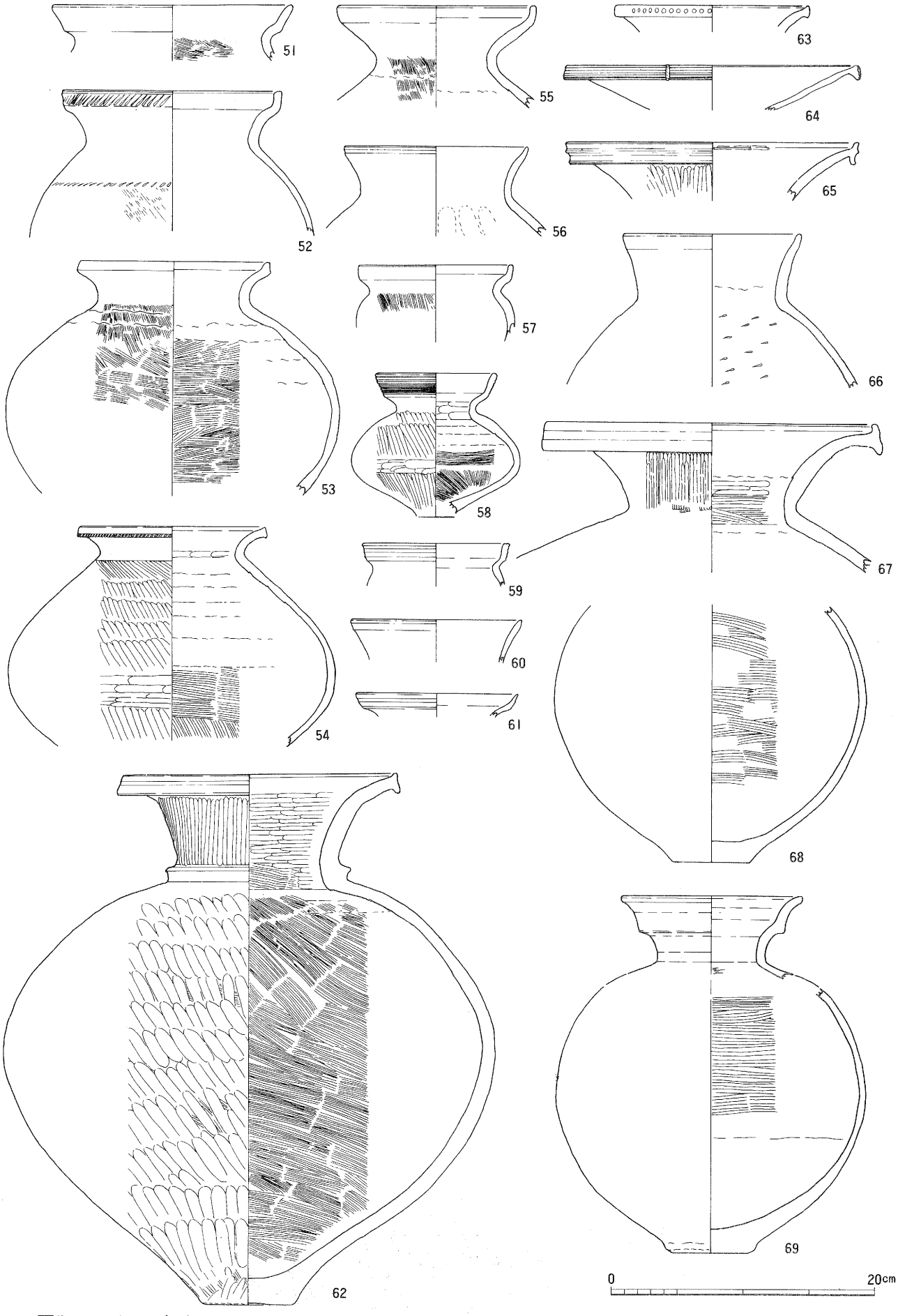
1 : 1.2



図版第25　飯坂遺跡　4～7．9・11．16～20．3号方形周溝墓墳丘下層．12～15．7号方形周溝墓溝



2 : 1



図版26　飯坂遺跡　59．2号方形周溝墓　53・62・65・67．3号方形周溝墓　58．5号方形周溝墓

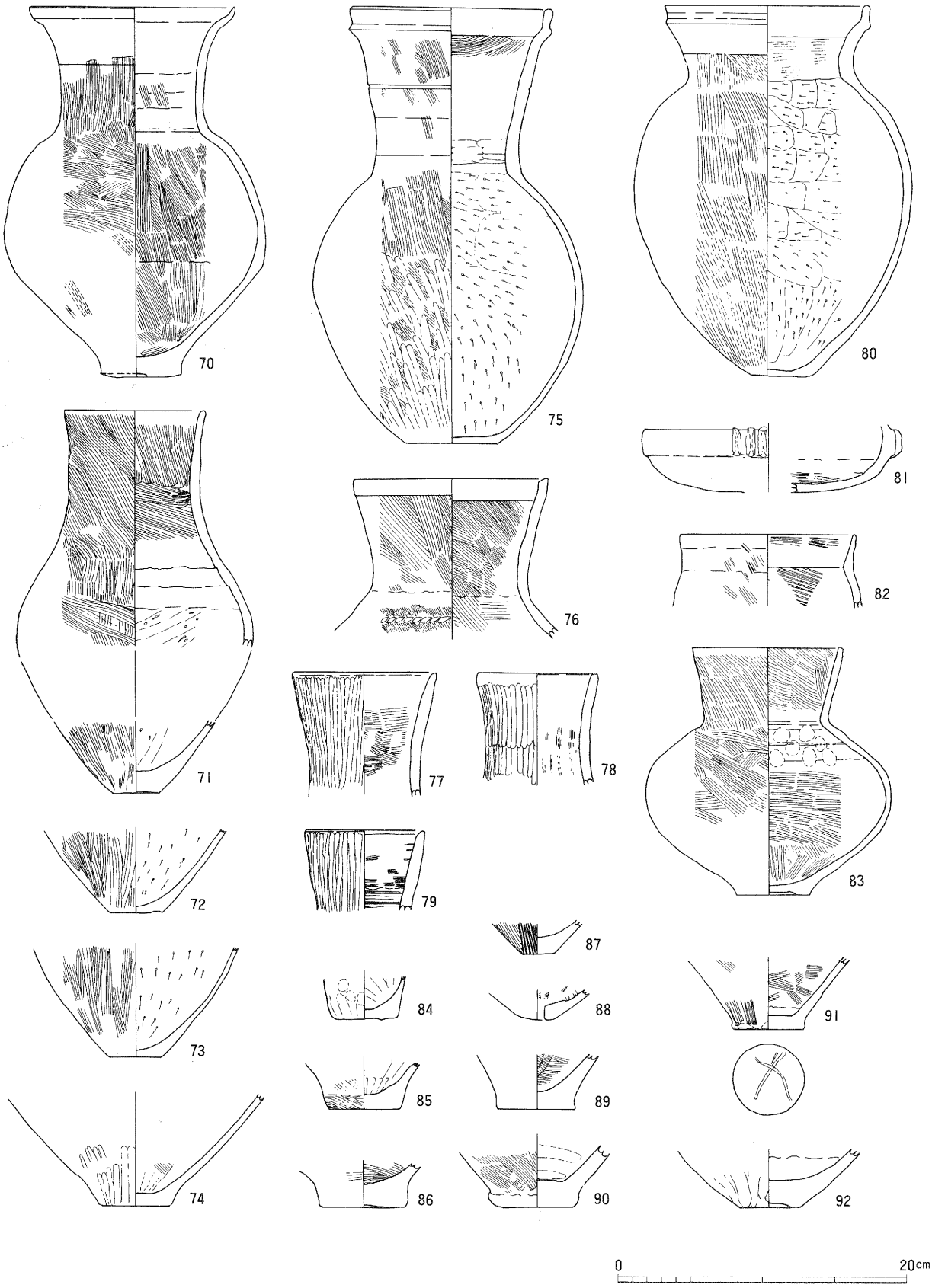
54

58

66

68

62



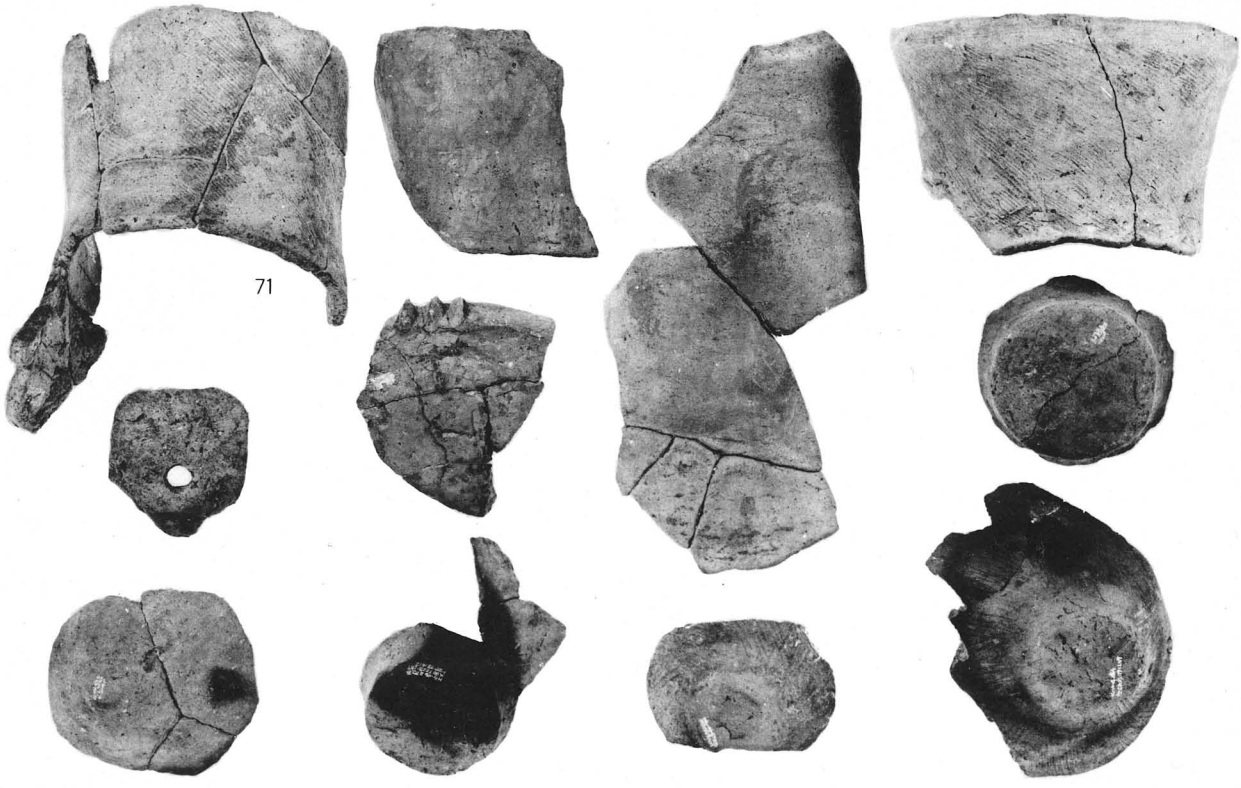
図版27　飯坂遺跡　78．1号方形周溝墓　84・90．3号方形周溝墓　75・80．7号方形周溝墓　70．8号方形周溝墓

70

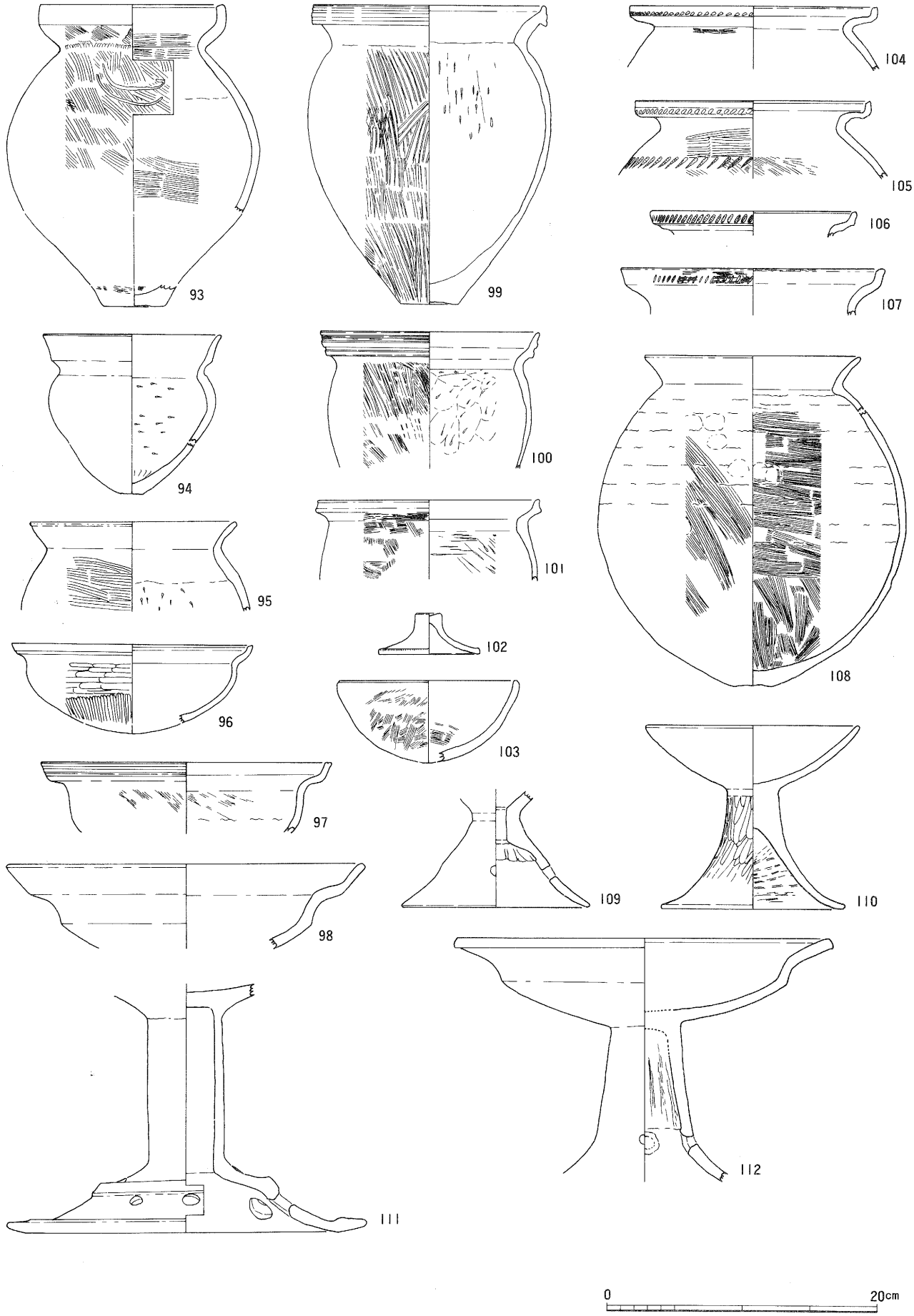
75

80

83

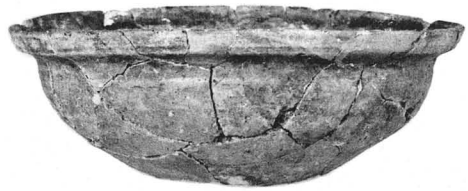


71



図版28　飯坂遺跡　93・97・111・112. 3号方形周溝墓　102. 5号方形周溝墓

93



96

95

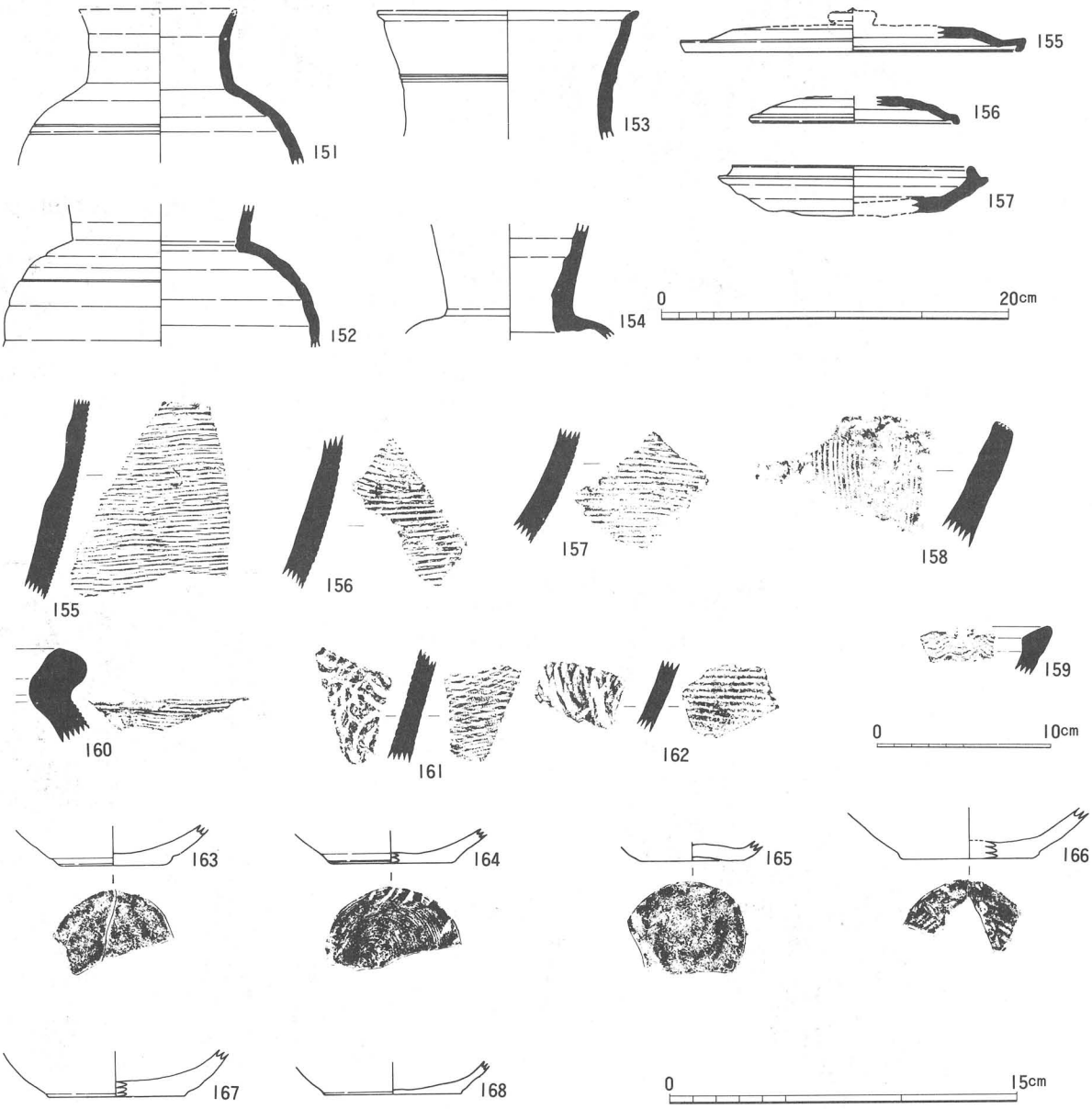
111

101

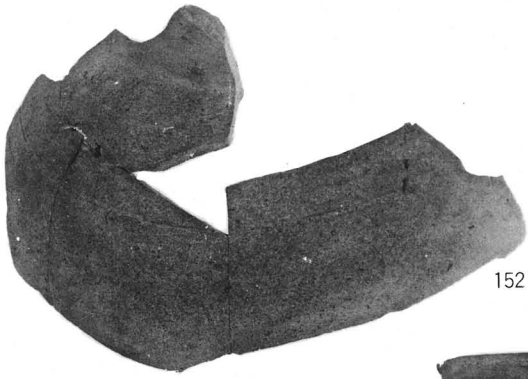
103

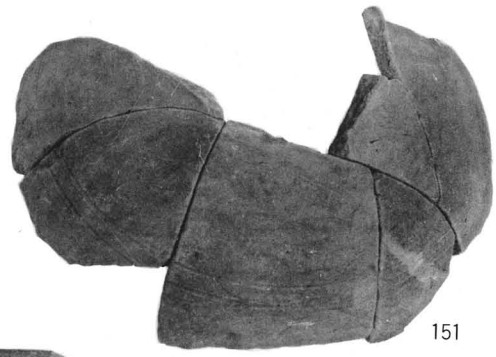
112

110

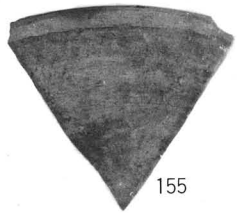

151
153
155
156
157
152
154
0
20cm
155
156
157
158
159
160
161
162
0
10cm
163
164
165
166
167
168
0
15cm

図版29　飯坂遺跡


152


151

157

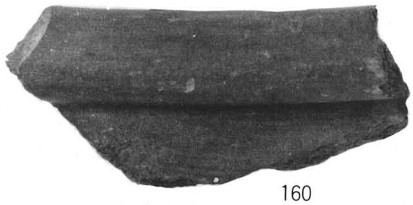

155

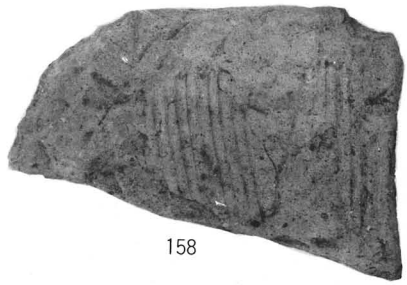
153

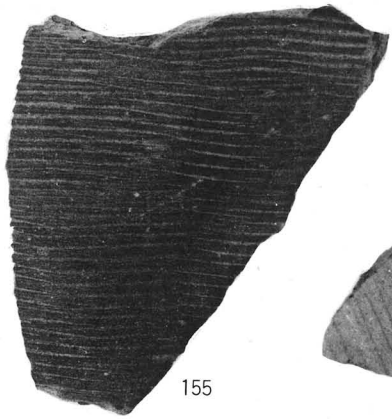
151

156

159


160

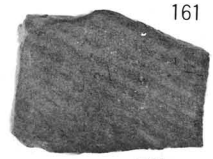

158

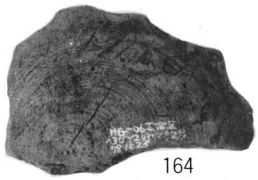

155

156

157

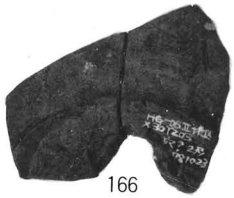
161


162


164

165

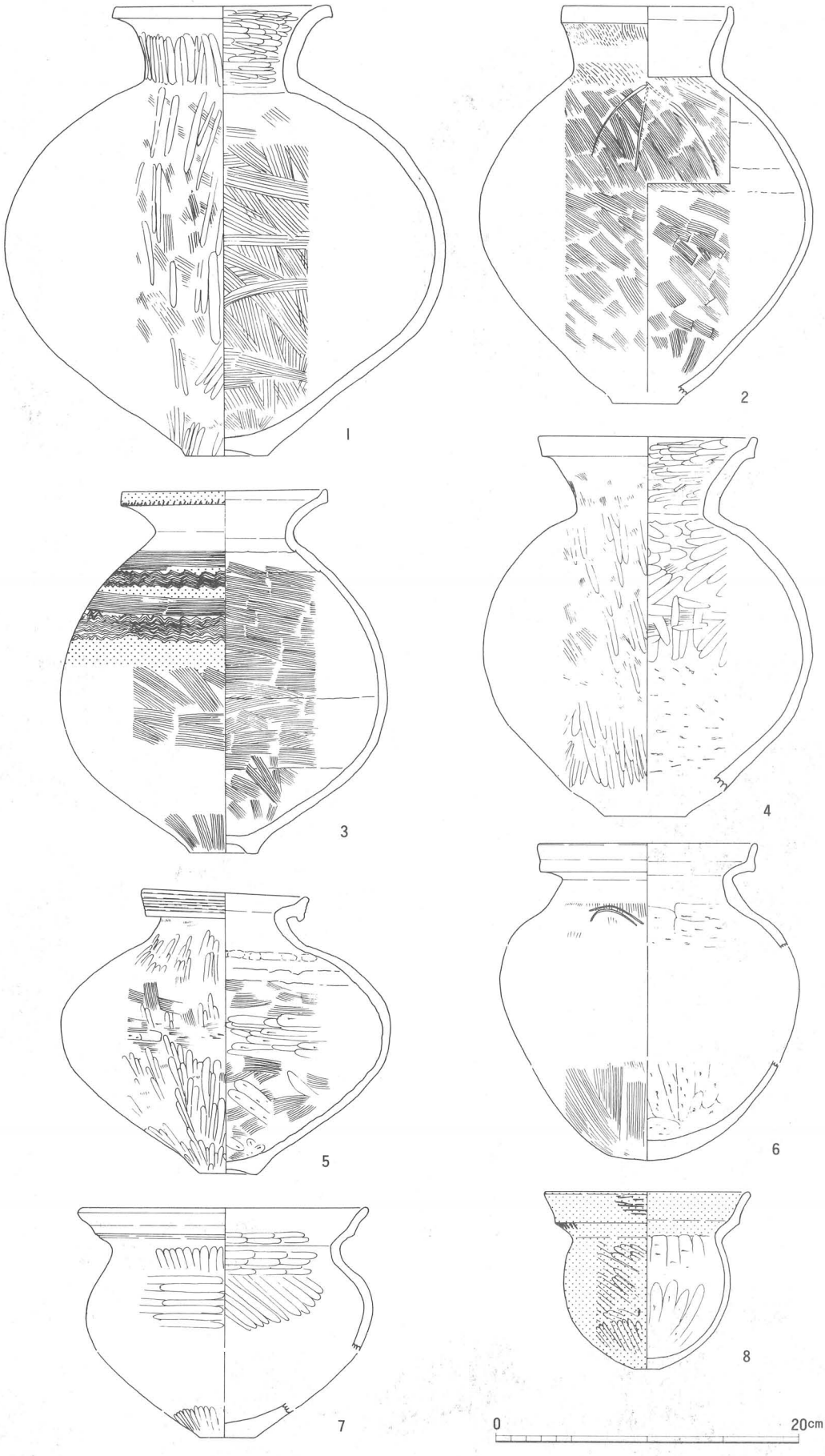
168


166

167

163

1：2



図版30　江上A遺跡　SD01

1

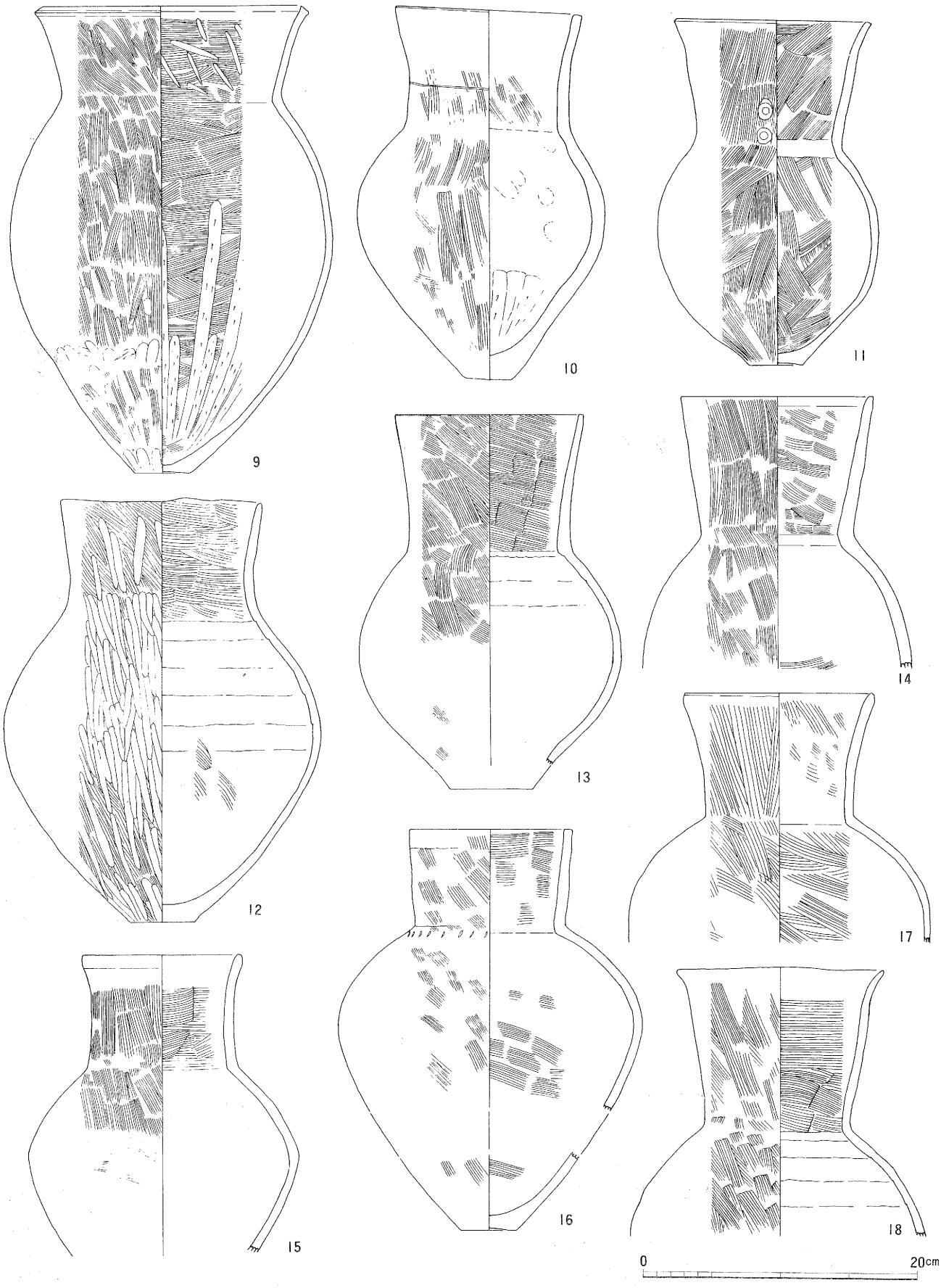
2

4

3

7

5



図版31　江上A遺跡　SD01

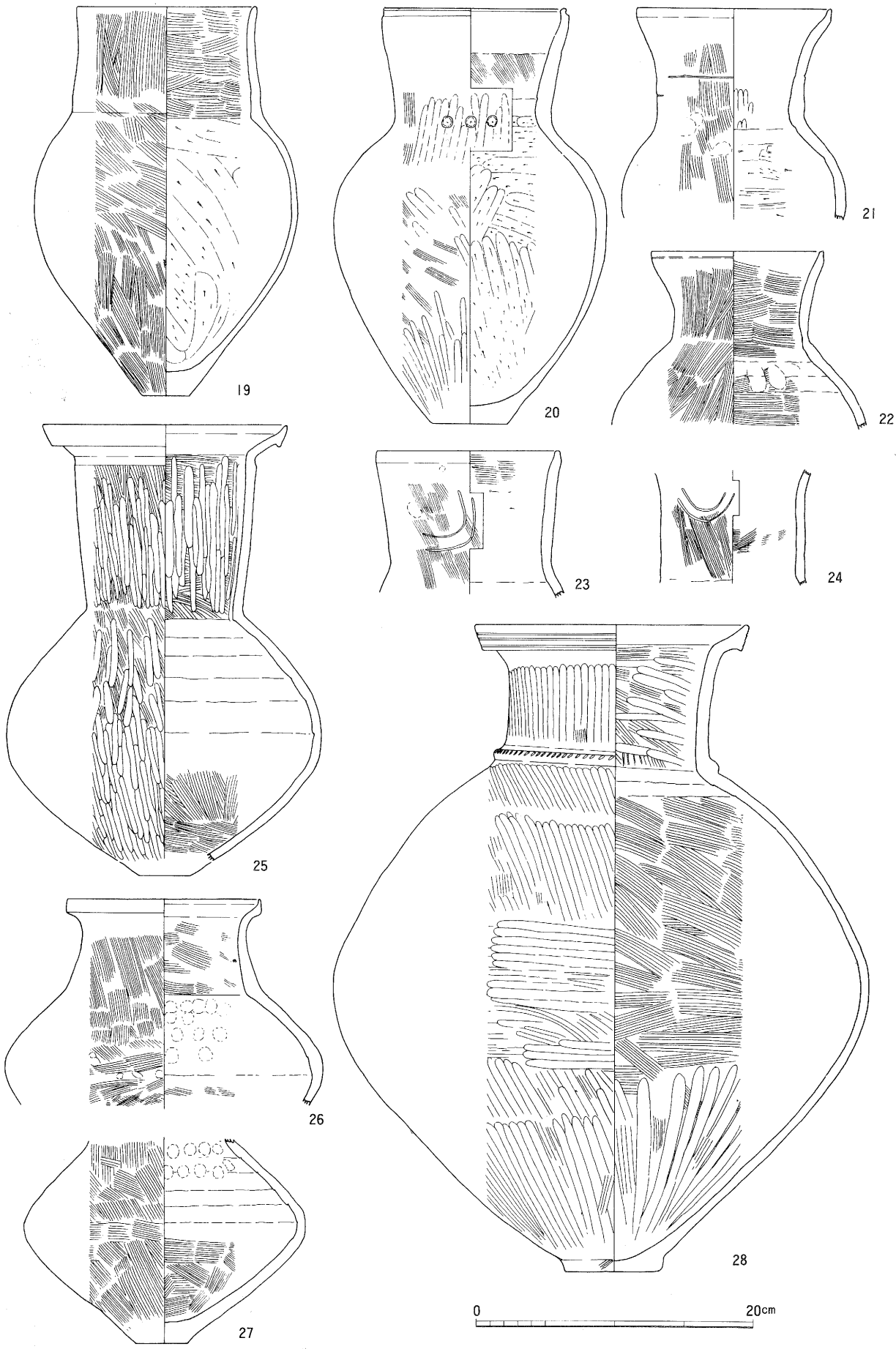
9

11

10

12

8

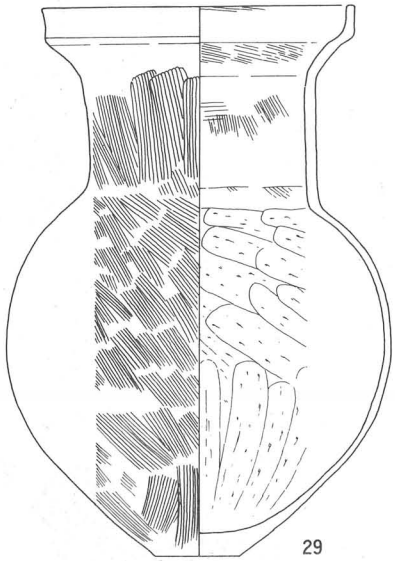


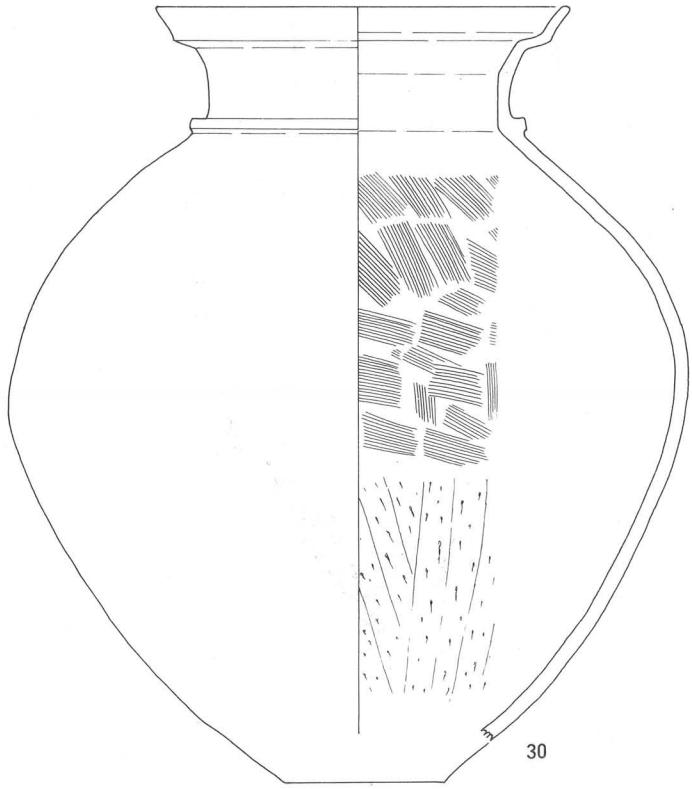
図版32　江上A遺跡　SD01

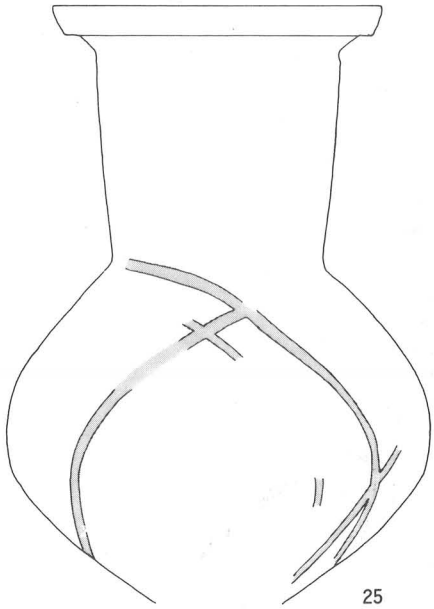
19

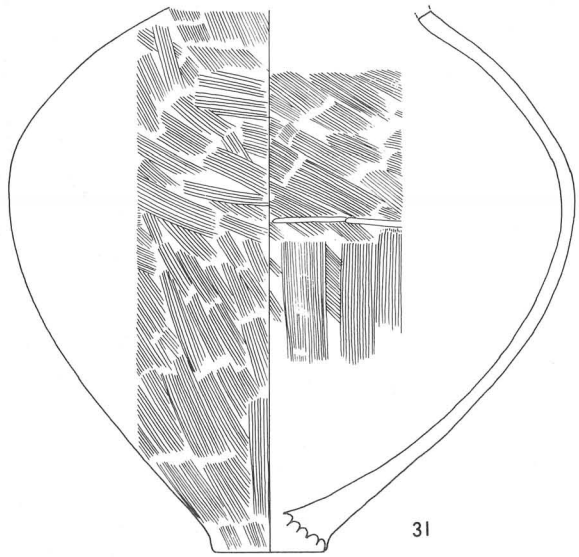
20

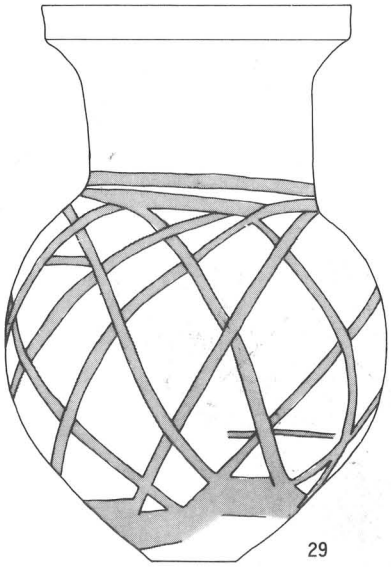
28

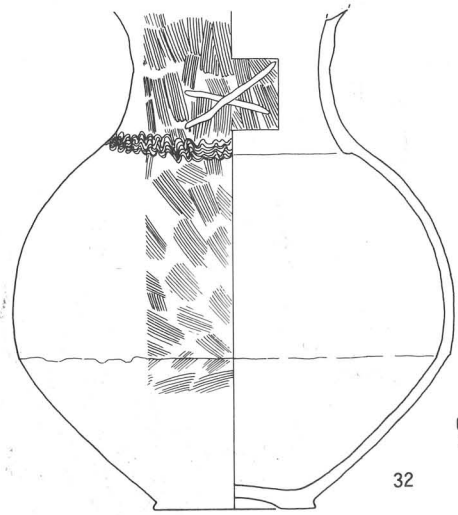


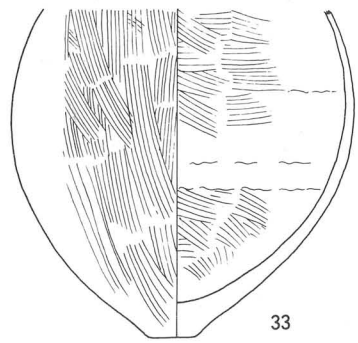






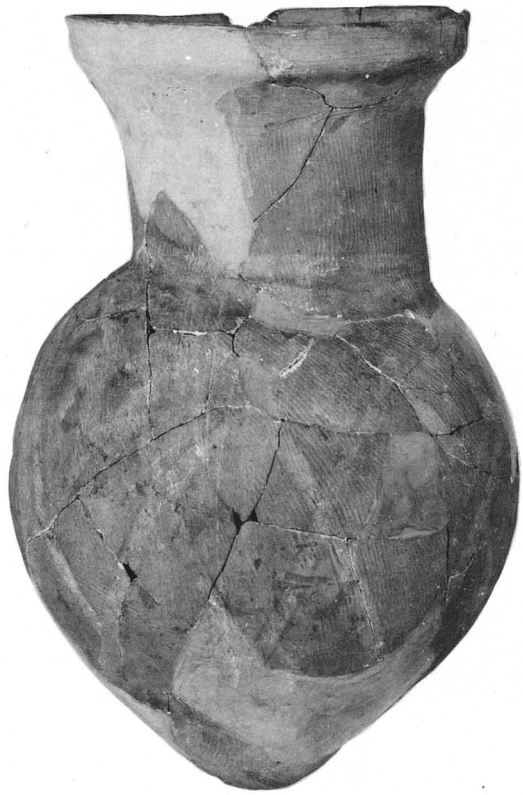






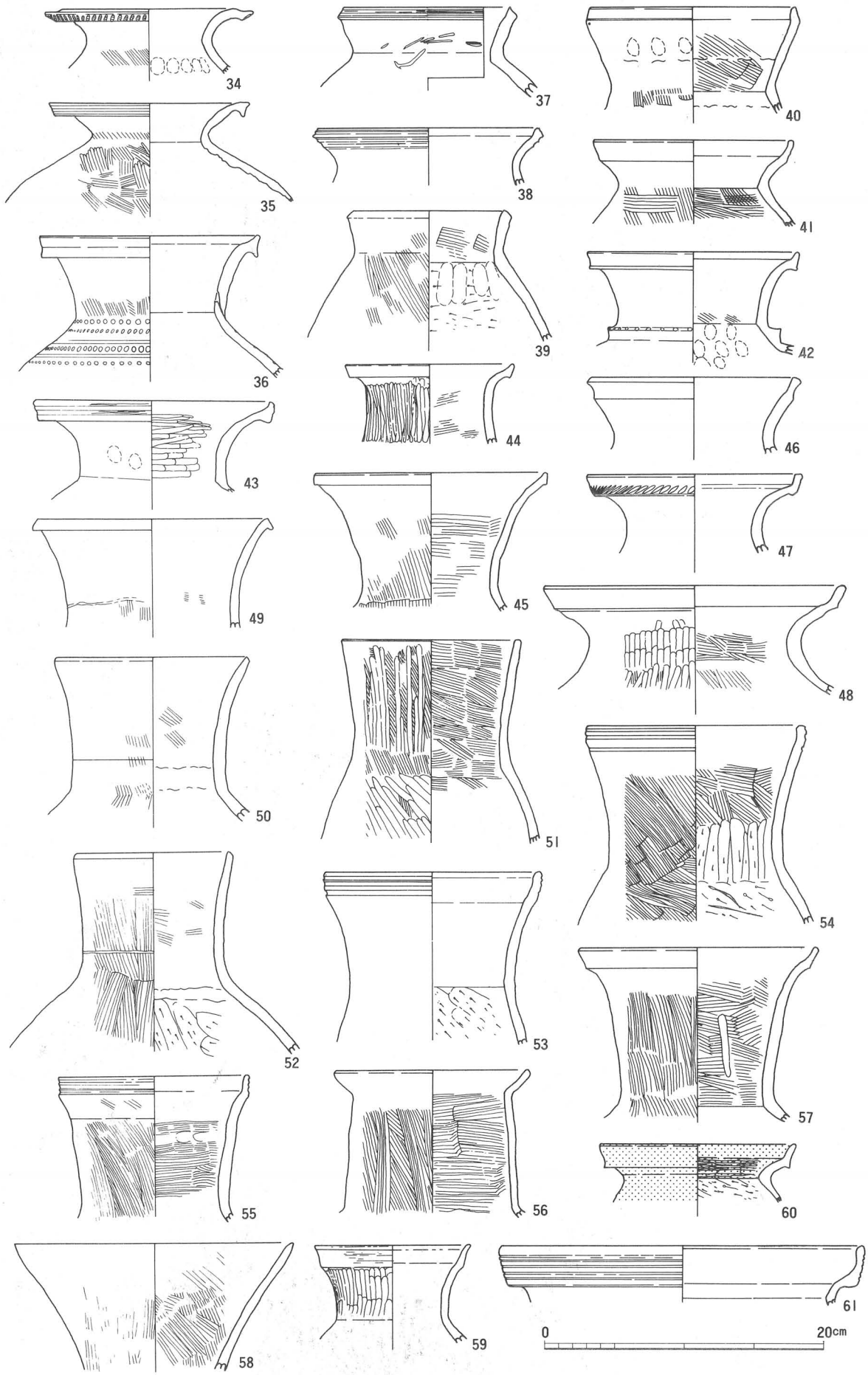
図版33　江上A遺跡　SD01

25



29

30



図版34　江上A遺跡　SD01

15

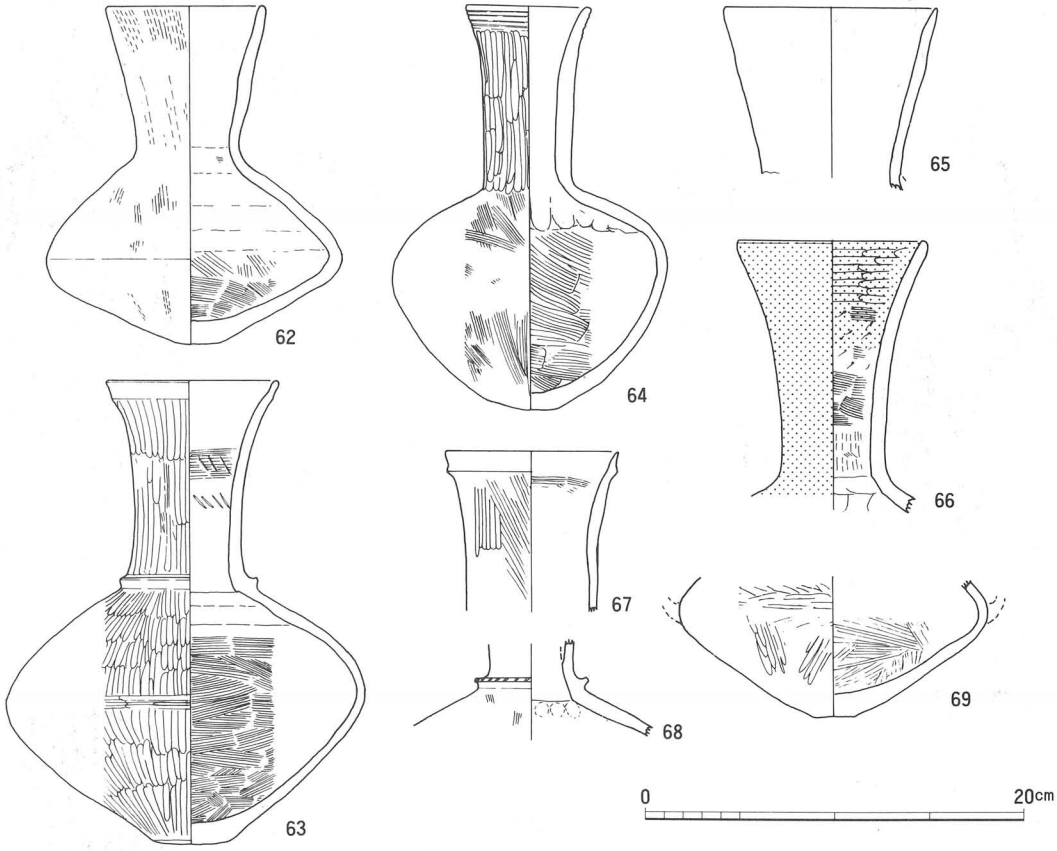
13

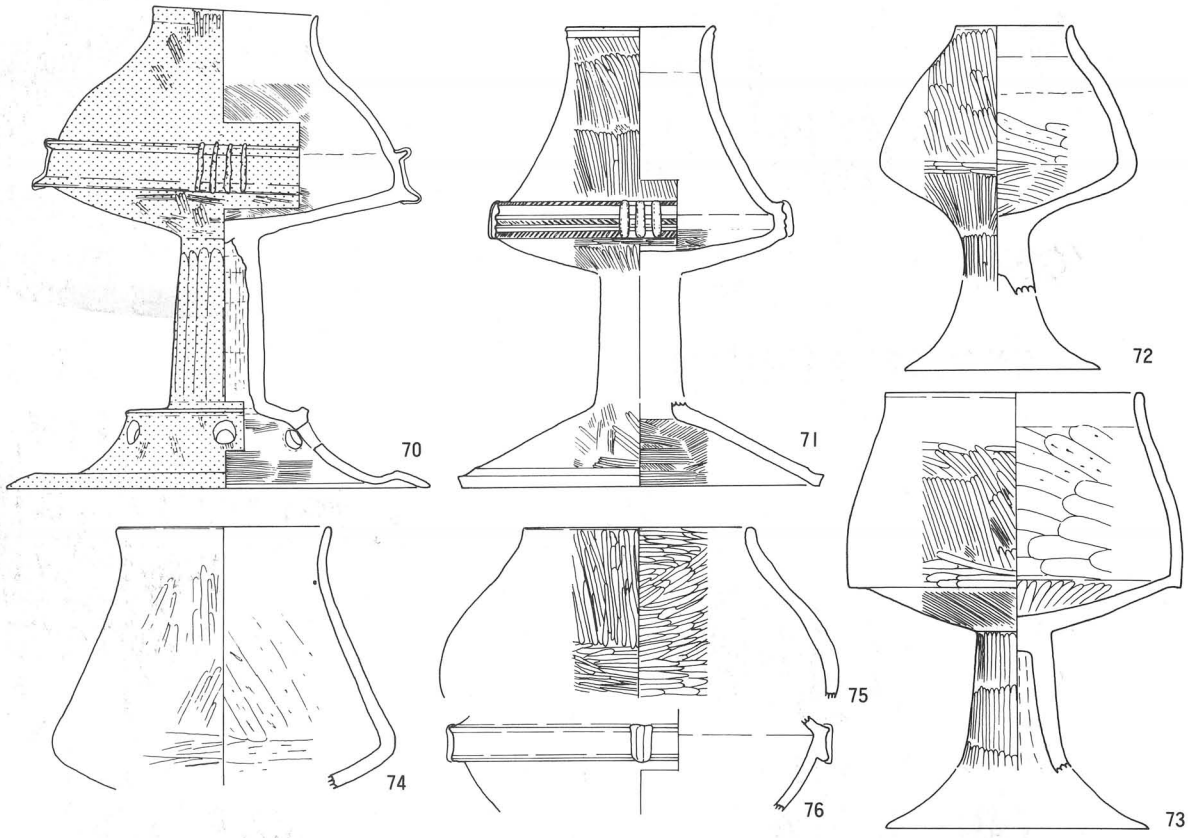
16

54

21

18





図版35　江上A遺跡　SD01

64

62

63

71

73

70

図版36　江上 A 遺跡

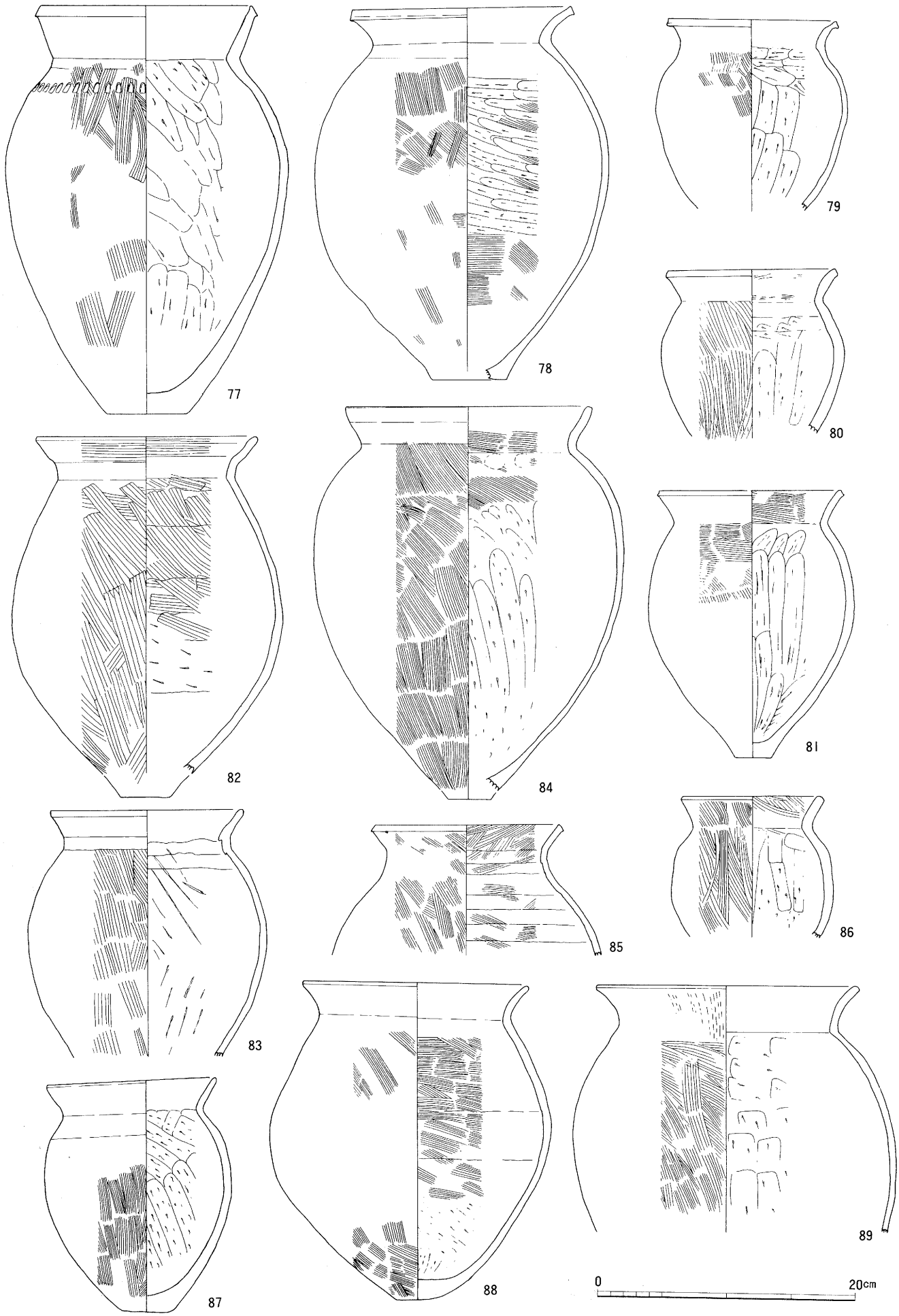
72

32

234

27

235



図版37　江上A遺跡　SD01

77

78

83

82

92

80

図版38　江上A遺跡

84

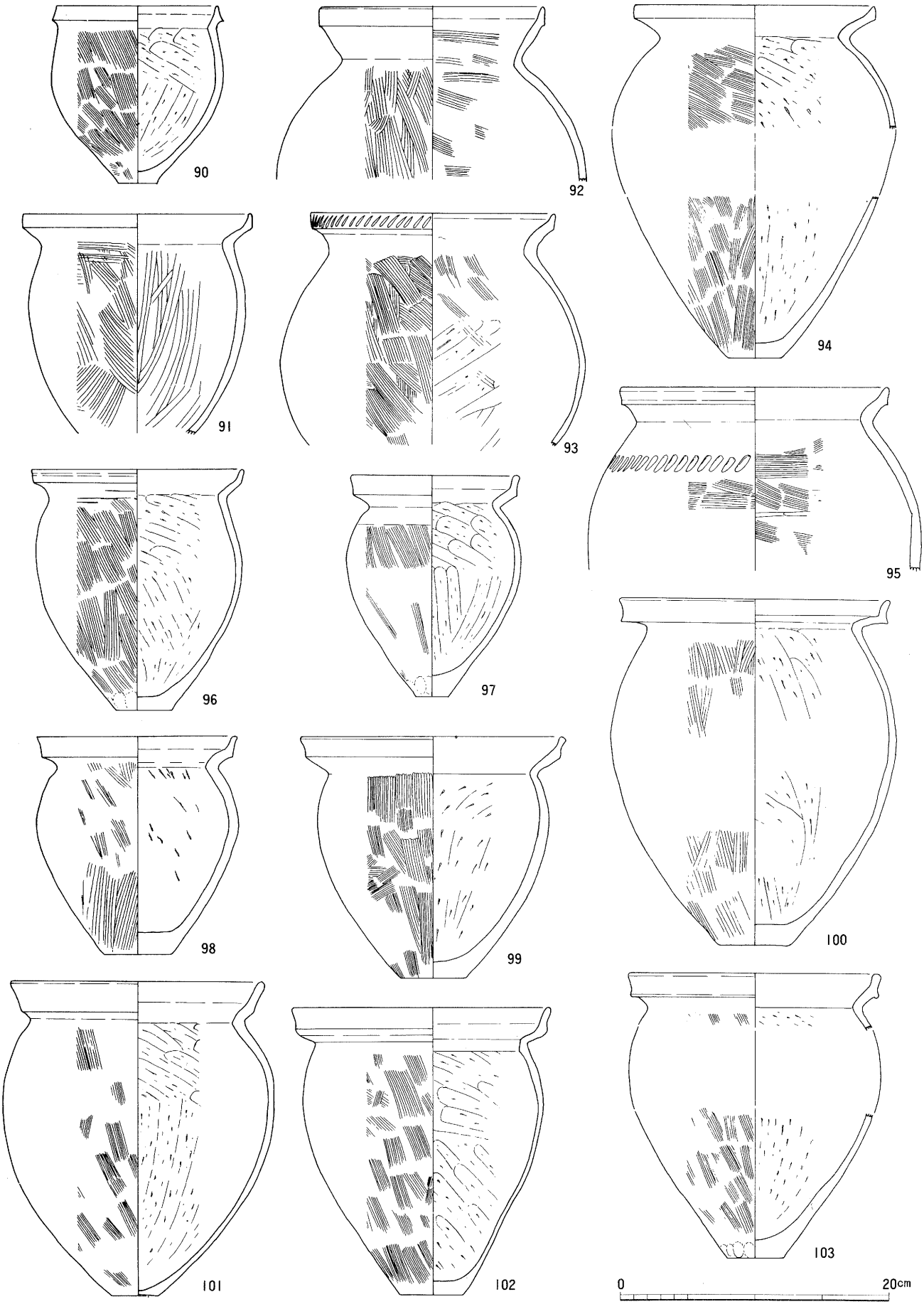
88

81

102

89

96



図版39　江上A遺跡　SD01